

令和 7 年

全国一級河川の水質現況 詳細版

令和 8 年 7 月

国土交通省水管理・国土保全局河川環境課

目 次

第一章 河川水質の概要～水質改善の取組と成果～	1
第二章 河川の水質現況	
1. 水質汚濁に関する環境基準項目	3
(1) 水質調査地点	3
(2) 人の健康の保護に関する環境基準項目	4
1) 健康項目とは	4
2) 環境基準項目の調査状況と基準値超過地点	4
(3) 生活環境の保全に関する環境基準項目	7
1) 生活環境項目とは	7
2) 環境基準の満足状況	9
3) 調査地点のランク別水質状況	19
4) 都市河川・湖沼の水質状況の経年変化	25
5) 水生生物の保全	29
2. 微量化学物質（ダイオキシン類）調査	31
(1) 微量化学物質調査とは	31
1) 微量化学物質調査実施の背景	31
2) 対象物質	31
3) 調査地点および調査頻度	32
(2) 調査結果	32
3. 水質汚濁に関するその他の項目	37
(1) 要監視項目	37
1) 要監視項目とは	37
2) 要監視項目の調査状況と指針値超過地点	37
4. 住民参加による水質調査	40
(1) 住民協働調査の目的	40
(2) 調査内容	40
(3) 実施水系、河川及び湖沼と地点数	42
(4) 参加者数	46
(5) 各調査の紹介	51
1) 水生生物による簡易水質調査（水生生物調査）	51
2) 今後の河川（湖沼）水質管理の指標（住民協働調査）	58
3) 身近な水環境の全国一斉調査	65

5. 水質事故等の状況	-----	67
（1）水質事故とは	-----	67
（2）水質事故の発生状況	-----	67
（3）水質汚濁防止連絡協議会	-----	70

第三章 河川の水環境改善のための事業及び施策

1. 水質浄化対策等	-----	71
2. 河川水量の回復	-----	71
3. 湖沼の水質保全	-----	71

参考資料 1 一級河川の流量状況	-----	74
参考資料 2 各種基準値（指針値）一覧※	-----	75
参考資料 3 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）	-----	87
参考資料 4 一級河川的全調査地点の水質	-----	92
参考資料 5 一級河川の水質状況図	-----	102
参考資料 6 ダイオキシン類の調査結果	-----	111
参考資料 7 「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧	-----	124
参考資料 8 水生生物調査結果図	-----	128
参考資料 9 主な水質項目の性質	-----	140

※令和8年3月時点

第一章 河川水質の概要～水質改善の取組と成果～

昭和30年代以降の高度成長期において急速な都市化・工業化が進み、これに伴って公害問題が顕在化するなど自然環境の悪化が急速に進行した。河川水質汚濁も急速に進む中、昭和33年から水質調査を開始した。

公害問題が顕在化してきた昭和40年代以降、全国の河川では水質汚濁の著しい進行で、「汚い、臭い、遊べない」といわれる河川が多かった。国土交通省が、河川を考える上で最も重要な要素のひとつである河川水質について、年単位（1月～12月）でのとりまとめを始めたのは昭和46年であった。その当時、一級河川の全調査地点の27％において、BOD平均値が5.0mg/ℓを超え、水質改善が急務であった。

そのような背景があり、昭和42年に公害対策基本法、昭和43年に水質汚濁防止法が制定される中、昭和44年からは河川浄化事業が開始され、昭和50年にはダム周辺環境整備事業が開始された。また昭和55年には河川環境管理基本計画が策定され、河川環境管理の基本的な考え方が確立されていった。環境基準は公害対策基本法に基づいて昭和46年に制定され、その後順次改正されている。

平成5年からは清流ルネッサンス21が開始され、平成9年には河川法が改正され、治水・利水・環境の総合的な河川整備が推進されるようになった。

以上のような環境改善の施策や排水規制、下水道整備、河川浄化事業等の推進により一級河川の水質は徐々に改善されている。令和7年には、サケやアユが生息できる環境の目安となるBOD75%値が3.0mg/ℓ以下である地点は、一級河川の調査地点全体の約94％を占めている。

例えば、昭和40年代の多摩川は水質悪化が進み、洗剤の泡が浮く汚濁した河川であった。その後、昭和50年代後半には、アユの遡上が確認されるまでに水質が改善され、近年では、大量のアユが毎年遡上するまでになっている。また、綾瀬川及び大和川は昭和40年代には都市化の進展に伴う水質汚濁が著しく、BOD75%値で30mg/ℓを超えていたが、水質改善の取組により確実に改善が図られ、特に大和川では、令和7年の代表地点のBOD75%値が1.5mg/ℓとなり、サケやアユが生息できる程度の水質になっている（図- 1）。

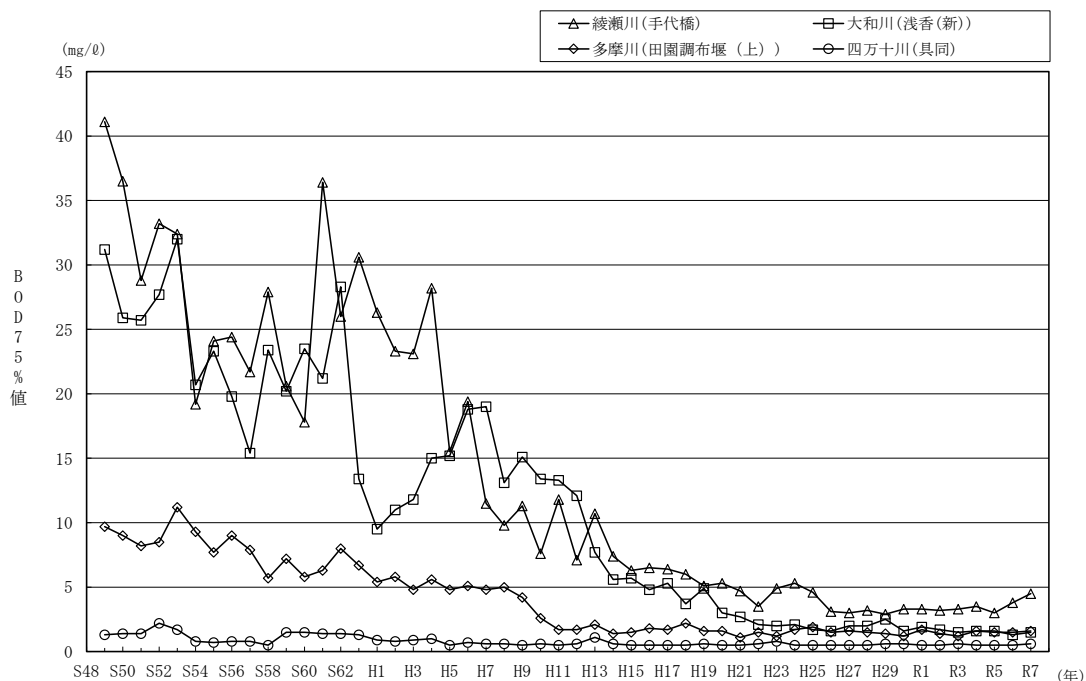


図- 1 代表地点におけるBOD75%値の経年変化

このように、昭和40年代以降の水質改善の取組の結果、汚濁の著しかった一級河川の水質は確実に改善され、BODによる汚濁状況の調査結果によると、ほとんど全ての河川で水質は良好なものとなってきているが、都市を流れる一級河川の中・下流域及び流入支川の一部等では依然としてBOD値が高い調査地点もみられており、引き続き、各調査地点の水質と置かれている状況を踏まえて、水環境改善施策を実施していくことが求められている。

一方、湖沼の水質については、これまでの水質改善の取組にも関わらず、閉鎖性水域のため滞留時間が長く内部生産等の影響を受けやすいため、CODの環境基準の満足率が低い。このような状況の中、平成17年6月に湖沼水質保全特別措置法の一部を改正する法律が公布された。この改正により、農地・市街地から流出する汚濁負荷対策の推進、排水規制の強化、「湖辺環境保護地区」の指定による水質浄化機能の確保を図ることとなり、水質改善のさらなる取組が進められている。

第二章 河川の水質現況

1. 水質汚濁に関する環境基準項目

(1) 水質調査地点

水質調査は、昭和33年に8水系54地点において開始され、その後調査地点を増やし今日に至っている。

令和7年における一級河川の水質調査は、湖沼を含む直轄管理区間（一部指定区間を含む）の109水系1,084地点において実施している。直轄管理区間の河川延長が約10,695km（令和7年4月現在）であることから、平均すると延長約10kmに1地点の割合で水質調査を実施したことになる。国土交通省では、これらの地点において定期的に水質調査を実施している。

本報告では、都道府県が観測している直轄管理区間内の16地点を含め1,100地点のデータを対象にとりまとめを行った。なお、水質調査のとりまとめにあたっては令和7年1月から令和7年12月の調査結果を使用しており、地方別の値のとりまとめは、北海道開発局及び各地方整備局の管轄区域を集計単位とした。令和7年の水質調査の総検体数は、252,731検体にのぼる。

(2) 人の健康の保護に関する環境基準項目

1) 健康項目とは

水質の環境基準には人の健康の保護に関する環境基準である健康項目と、生活環境の保全に関する環境基準である生活環境項目との2つがあり、環境基本法によって定められている。

健康項目については、全項目でそれぞれの水質項目に合った基準値が一律で設定されている。

人の健康の保護に関する環境基準項目は昭和46年にカドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、有機リンの8項目について設定され、その後昭和50年にPCBが追加され、平成5年には有機塩素系化合物や農薬等の15項目が追加される一方、有機リンは削除された。平成11年には硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素が追加となり、平成21年には1, 4 - ジオキサンが追加された。

参考資料- 9 に各水質項目の性質についてまとめた。

2) 環境基準項目の調査状況と基準値超過地点

①調査状況

「人の健康の保護に関する環境基準」（以下「健康項目」という。）は、環境基本法に基づき公共用水域に一律に適用されるものとして、27項目が定められている（参考資料2 参照）。

令和7年の調査結果について、表- 1に項目別の調査地点数及び調査検体数を示す。

令和7年は全国859地点（延べ15, 330地点）で調査を実施し、健康項目の総調査検体数は27, 379検体にのぼっている。また年平均値で環境基準値を超過した地点は4地点（延べ5地点）であり、1検体でも超過した地点は9地点（延べ11地点）であった。

したがって年平均値が環境基準値を超過しなかった地点の割合は99. 5%、1検体も超過しなかった地点の割合は99. 0%であった。

表- 1 健康項目の水質調査結果

項 目 名	調査地点数	調査検体数	超過地点数 (年平均値)	超過地点数 (1検体でも超過)
カ ド ミ ウ ム	619	1,238	—	—
全 シ ア ン	586	1,104	—	—
鉛	716	1,717	—	2
六 価 ク ロ ム	603	1,168	—	—
砒 素	708	1,669	3	4
総 水 銀	609	1,265	—	—
ア ル キ ル 水 銀	67	96	—	—
P C B	488	581	—	—
ジ ク ロ ロ メ タ ン	566	815	—	—
四 塩 化 炭 素	567	795	—	—
1, 2 - ジ ク ロ ロ エ タ ン	559	788	—	—
1, 1 - ジ ク ロ ロ エ チ レ ン	559	786	—	—
シス-1, 2 - ジ ク ロ ロ エ チ レ ン	559	784	—	—
1, 1, 1 - ト リ ク ロ ロ エ タ ン	566	793	—	—
1, 1, 2 - ト リ ク ロ ロ エ タ ン	559	786	—	—
ト リ ク ロ ロ エ チ レ ン	566	795	—	—
テ ト ラ ク ロ ロ エ チ レ ン	569	799	—	—
1, 3 - ジ ク ロ ロ プ ロ ペ ン	553	764	—	—
チ ウ ラ ム	562	738	—	—
シ マ ジ ン	562	739	—	—
チ オ ベ ン カ ル ブ	559	744	—	—
ベ ン ゼ ン	566	793	—	—
セ レ ン	572	812	—	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	716	3,741	—	1
ふ つ 素	596	1,064	1	1
ほ う 素	590	1,037	1	3
1, 4 - ジ オ キ サ ン	588	968	—	—
合 計	15,330(859)	27,379	5(4)	11(9)

※調査地点数及び超過地点数の()内の数値は実地点数を示す。

②超過地点

環境基準を満足できなかった地点は、砒素が3地点、ほう素が1地点、ふっ素が1地点であり、表- 2のとおりである。その他の調査地点においては環境基準を満足した。

環境基準を満足できなかった原因は、砒素は自然由来と底質の巻き上げ、ふっ素、ほう素はともに自然由来と推定される。

表- 2 健康項目の環境基準を満足できなかった地点

○砒素（環境基準値 0.01mg/ℓ）

地方名	水系河川名	地点名	原因	最大値	平均値
東北	北上川水系小鬼ヶ瀬川	天子森	自然由来	0.021	0.012
東北	北上川水系江合川	大深沢	自然由来	0.030	0.021
関東	利根川水系渡良瀬川	渡良瀬貯水池	底質の巻き上げ	0.026	0.014

○ほう素（環境基準値 1mg/ℓ）

地方名	水系河川名	地点名	原因	最大値	平均値
東北	北上川水系江合川	大深沢	自然由来	1.25	1.04

○ふっ素（環境基準値 0.8mg/ℓ）

地方名	水系河川名	地点名	原因	最大値	平均値
東北	雄物川水系玉川	玉川ダム	自然由来	2.1	1.36

(3) 生活環境の保全に関する環境基準項目

1) 生活環境項目とは

生活環境項目については、河川、湖沼、海域の各公共用水域について、水道、水産、工業用水、農業用水などの利用目的に応じて設けられた水域類型ごとに基準値が定められており、各水域への類型の設定は都道府県知事が行うこととなっている。

生活環境の保全に関する環境基準項目は当初河川については、pH、BOD、SS、D₀、大腸菌群数が、湖沼についてはpH、COD、SS、D₀、大腸菌群数が、海域についてはpH、COD、D₀、大腸菌群数、n-ヘキサン抽出物質が設定された。その後、昭和57年に湖沼について、平成5年に海域について、窒素及びリンが設定された。なお、令和4年4月より大腸菌群数に替わって、より精度の高い大腸菌数が設定された。参考資料-9に各水質項目の性質についてまとめた。

また、平成15年11月に環境省より「水質汚濁に係る環境基準についての一部を改正する件」が告示された。これにより、生活環境の保全に関する環境基準に、公共用水域における水生生物及びその生息又は生育環境を保全する観点から全亜鉛が追加され、その基準値が設定された。基準値は魚類のえら呼吸や魚類のエサとなる水生生物（ヒラタカゲロウ等）の生息への影響を考慮して設定されたものである。河川、湖沼については、いずれも基準値は0.03mg/ℓ以下である（参考資料2参照）。

その後、平成24年8月にノニルフェノール、平成25年3月には直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩が項目として追加された。

ここでは、生活環境の保全に関する環境基準の項目について、河川の場合は水質汚濁の代表指標であるBODの75%値^{注1}、湖沼及び海域の場合は水質汚濁の代表指標であるCODの75%値及び総窒素、総リンの年間平均値によって整理した。各々の環境基準値については巻末掲載の参考資料2に示した。

^{注1} BOD及びCODにおける環境基準の達成状況は、公共用水域が通常の状態(河川にあつては低水流量以上の流量)にあるときの測定値によって判断することとなっている。しかし、低水流量時の水質の把握が非常に困難であるため、BOD及びCODについては測定された年度のデータのうち、75%以上のデータが基準値を達成することをもって評価することとしたものである。例えば、月一回の測定の場合、日平均値を水質の良いものから12個並べたとき、水質の良い方から9番目が75%値となる。この値が基準値に適合することをもって、当該測定地点において環境基準を達成しているとみなすこととされている。

「2) 環境基準の満足状況」において、河川とは湖沼を除く地点であり、湖沼とは天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖を示す。ただし、人工湖であっても水域類型が河川として指定されている場合には、河川とみなす。

「3) 調査地点のランク別水質状況」においては、水域類型が河川として指定されているダム貯水池については湖沼に準じて扱うこととする。

2) 環境基準の満足状況^{注2}

①環境基準の類型指定状況

環境基準の類型指定は、全国の一級河川109水系全てについて行われている。

令和7年は2地点が廃止された。(表- 3参照)。

表- 3 類型指定見直し地点及び新たに類型指定された地点の一覧

地点	種別	令和6年	令和7年
大住橋 (加古川水系・加古川)	廃止	河川B	—
嘴崎橋 (揖保川水系・揖保川)	廃止	河川A	—

^{注2} 環境基準の満足状況

本報告は、国土交通省が河川管理者の立場から実施した全国一級河川の水質調査結果(令和7年1月～令和7年12月)をとりまとめたものである。

本報告で「満足」とする表現を用いている理由は、水質汚濁防止法に基づき年度毎に公共用水域の水質の汚濁状況を環境基準との比較で評価する場合の「達成」とする表現と区別するためである。

②調査地点の環境基準の満足状況

令和7年における類型指定区間内の調査地点は全国で990地点（河川887地点、湖沼101地点、海域2地点）となっている。

これらの調査地点における環境基準を満足した地点の割合を表- 4に示す。

令和7年の環境基準を満足した地点の割合は、河川は令和6年より3ポイント低い94%、湖沼は令和6年と同じ42%であった。全体では令和6年より2ポイント低い89%であった。

表- 4 河川、湖沼、海域別環境基準を満足した地点数及び割合

	令和6年			令和7年		
	調査地点数	満足した地点数	割合	調査地点数	満足した地点数	割合
河 川	889	863	97%	887	837	94%
湖 沼	101	42	42%	101	42	42%
海 域	2	2	100%	2	2	100%
全 体	992	907	91%	990	881	89%

これらの調査地点について、BODまたはCODの環境基準を満足した地点の割合の経年変化を、年間総流出量の合計の経年変化及び低水流量の合計の経年変化と比較したものが図- 2(1)、図- 2(2)である。

環境基準を満足した地点の割合は、年間総流出量の合計と同様な傾向の変動を示しつつ、経年的にみると増加の傾向を示している。

また、環境基準の満足率が低下すると年間総流出量及び低水流量の合計も低下する傾向が見られる。

第二章 河川の水質現況

1. 水質汚濁に関する環境基準項目

(3) 生活環境の保全に関する環境基準項目

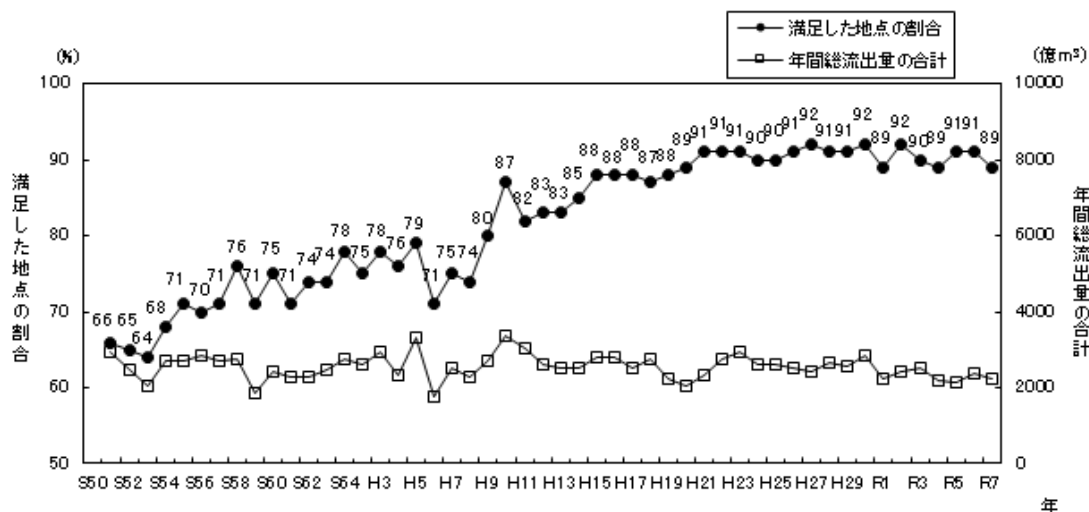


図- 2(1) 一級河川(湖沼及び海域も含む。)において環境基準を満足した地点の割合と年間総流出量*の合計の経年変化 (全国)

※年間総流出量は、原則として各水系内に設置されている観測所のうち最下流に位置する地点の値とする。

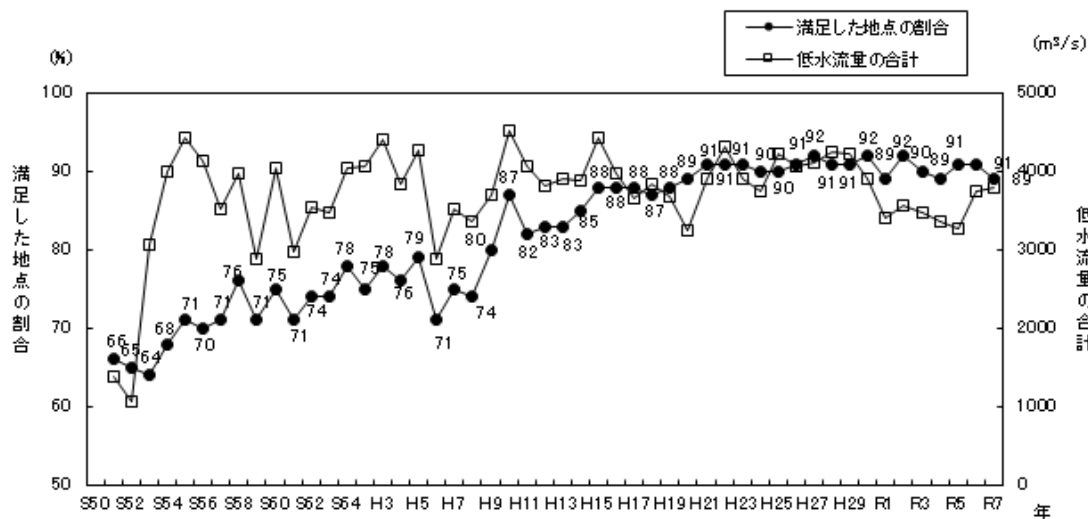


図- 2(2) 一級河川(湖沼及び海域も含む。)において環境基準を満足した地点の割合と低水流量*の合計の経年変化 (全国)

※低水流量は、原則として各水系内に設置されている観測所のうち最下流に位置する地点の値とする。

③類型別の環境基準の満足状況

令和7年における類型指定区間内の調査地点990地点のうち、環境基準を満足した地点の類型別割合を、河川及び湖沼についてそれぞれ図- 3(1)、図- 3(2)に示す。

河川における環境基準^{注3}を満足した地点の割合は、令和6年と比べてAA類型とA類型とB類型とC類型は減少し、そのほかの類型は同じであり、全体としては3ポイント低い94%であった。D類型、E類型については、全ての調査地点で環境基準を満足していた。

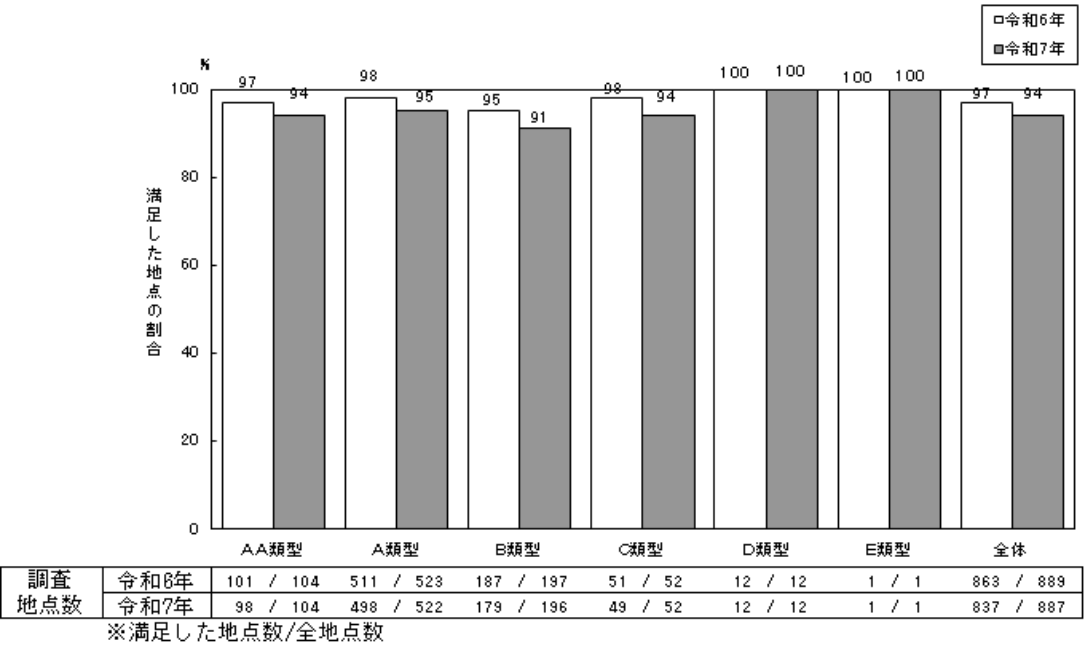


図- 3(1) 一級河川における環境基準を満足した地点の類型別割合
(河川)

^{注3} 河川における環境基準

A A類型 : BOD 1mg/ℓ以下
A類型 : BOD 2mg/ℓ以下
B類型 : BOD 3mg/ℓ以下
C類型 : BOD 5mg/ℓ以下
D類型 : BOD 8mg/ℓ以下
E類型 : BOD 10mg/ℓ以下

また、湖沼における環境基準^{注4}を満足した地点の割合は、令和6年と比べてA類型とB類型は同じであり、全体としては令和6年と同じ42%であった。AA類型については、前年に引き続き全ての地点で環境基準を満足できなかった。

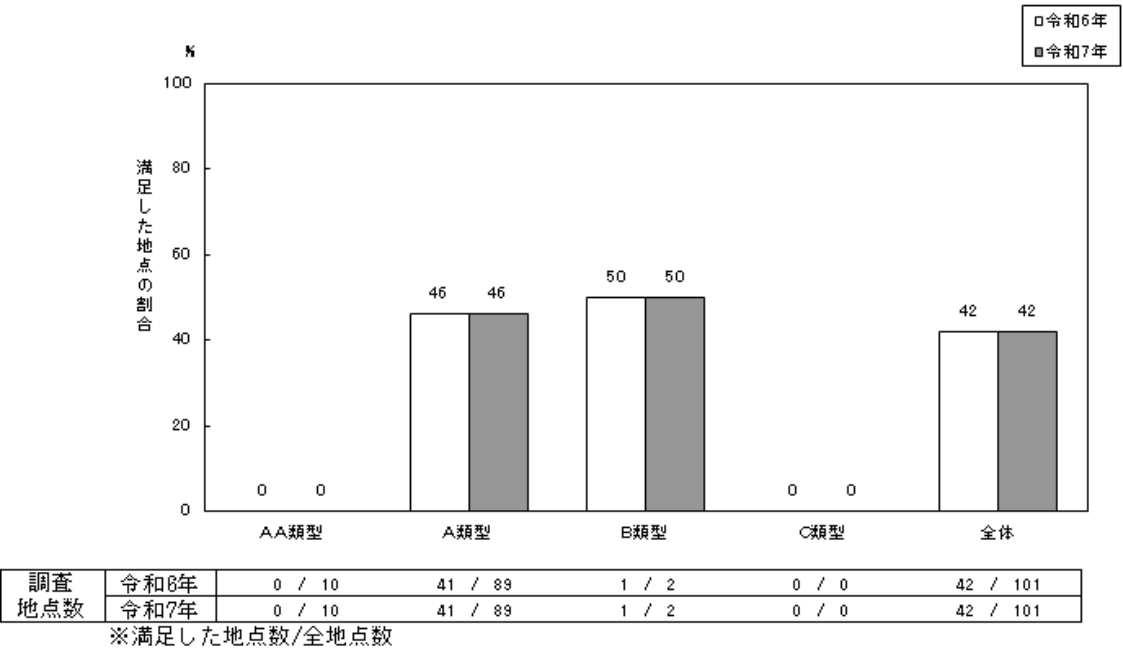


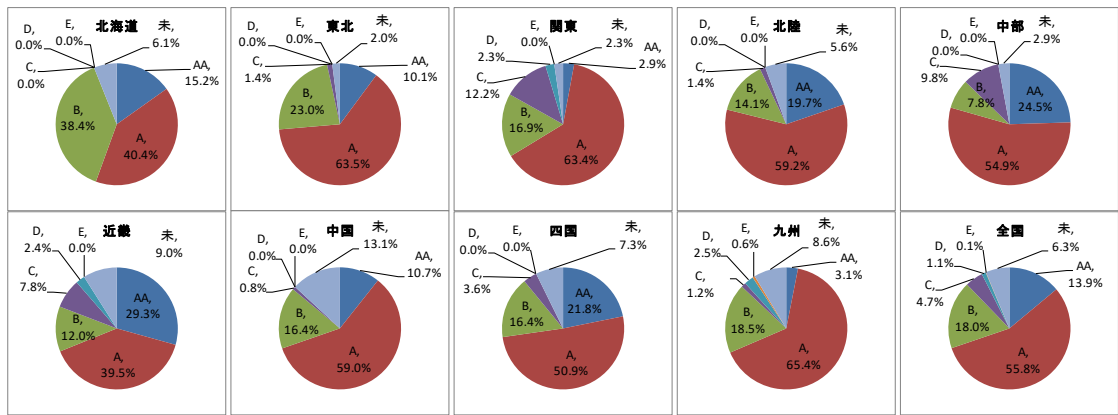
図- 3(2) 一級河川における環境基準を満足した地点の類型別割合
(湖沼)

^{注4} 湖沼における環境基準

A A類型 : COD 1mg/ℓ以下
A類型 : COD 3mg/ℓ以下
B類型 : COD 5mg/ℓ以下
C類型 : COD 8mg/ℓ以下

④地方別の環境基準の満足状況

各地方の類型指定割合と環境基準を満足した地点の地方別割合を図- 4に示す。前年との比較では、全体としては令和6年より2ポイント低い89%であった。



※BOD観測を行わない2地点（北上川水系北上川船田橋(1)、北上川水系赤川富士見橋）は含まない
※割合は小数点第二位以下を四捨五入している

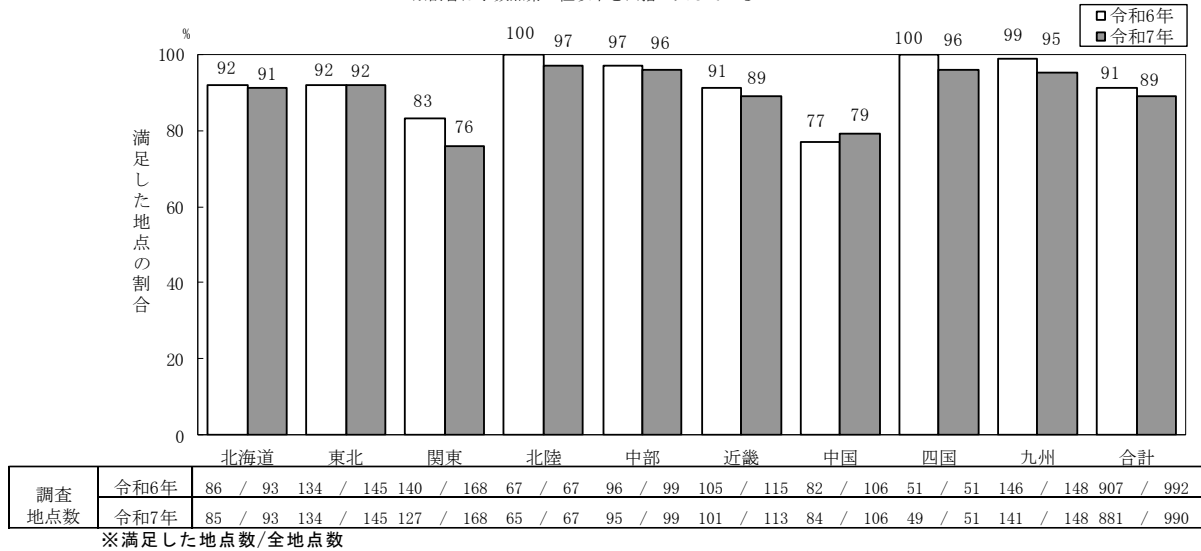


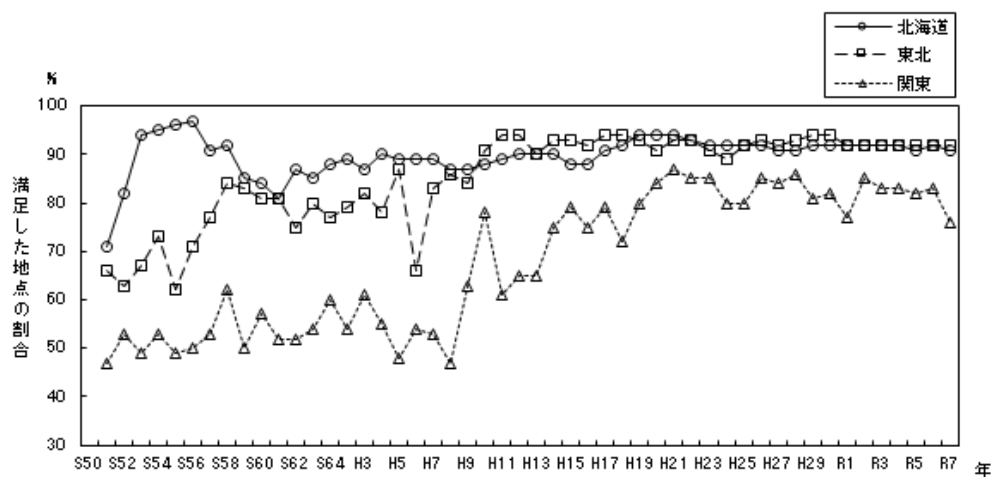
図- 4 一級河川（湖沼及び海域を含む。）における
環境基準を満足した地点の地方別割合

環境基準を満足した地点の地方別割合の経年変化を図- 5に示す。いずれの地方も経年的には概ね横ばいの傾向を示している。

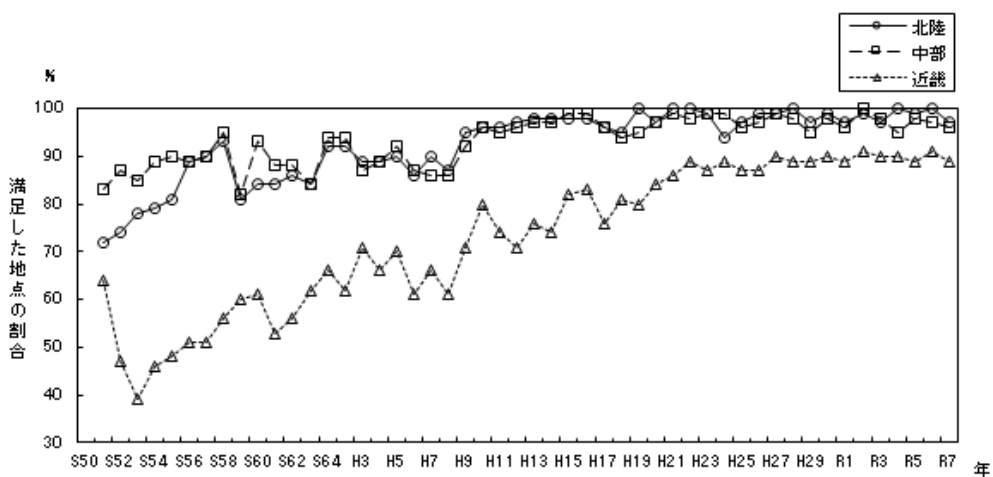
第二章 河川の水質現況

1. 水質汚濁に関する環境基準項目

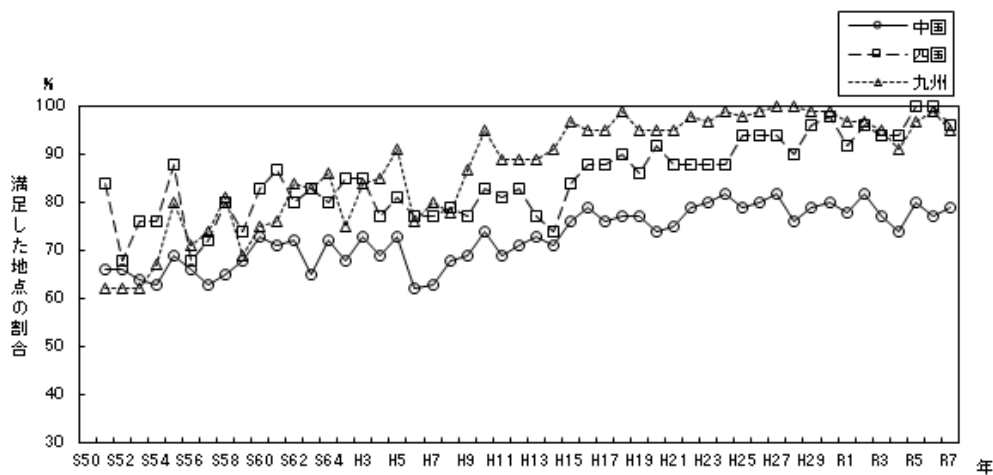
(3) 生活環境の保全に関する環境基準項目



(a) 北海道・東北・関東



(b) 北陸・中部・近畿



(c) 中国・四国・九州

図- 5 一級河川（湖沼及び海域を含む。）における環境基準を満足した地点の地方別割合の経年変化

⑤水系別の環境基準の満足状況

水系別の環境基準の満足状況をみると、全ての調査地点が環境基準を満足した水系数は、表- 5に示すとおり、109水系中80水系であり全体の約73%にあたる。なお、水系毎の環境基準を満足した地点の割合を参考資料3に示す。

また、全ての調査地点が環境基準を満足した水系数の経年変化を図- 6に示す。令和7年は前年の水系数より7水系減少した。

表- 5 全ての調査地点が環境基準を満足した水系数とその割合

地方名	水系数	全ての調査地点が環境基準を満足した水系数とその割合 (%)			
		令和6年		令和7年	
		水系数	割合	水系数	割合
北海道	13	11	(85)	11	(85)
東北	12	8	(67)	8	(67)
関東	8	5	(63)	4	(50)
北陸	12	12	(100)	10	(83)
中部	13	10	(77)	9	(69)
近畿	10	9	(90)	8	(80)
中国	13	6	(46)	8	(62)
四国	8	8	(100)	6	(75)
九州	20	18	(90)	16	(80)
全国	109	87	(80)	80	(73)

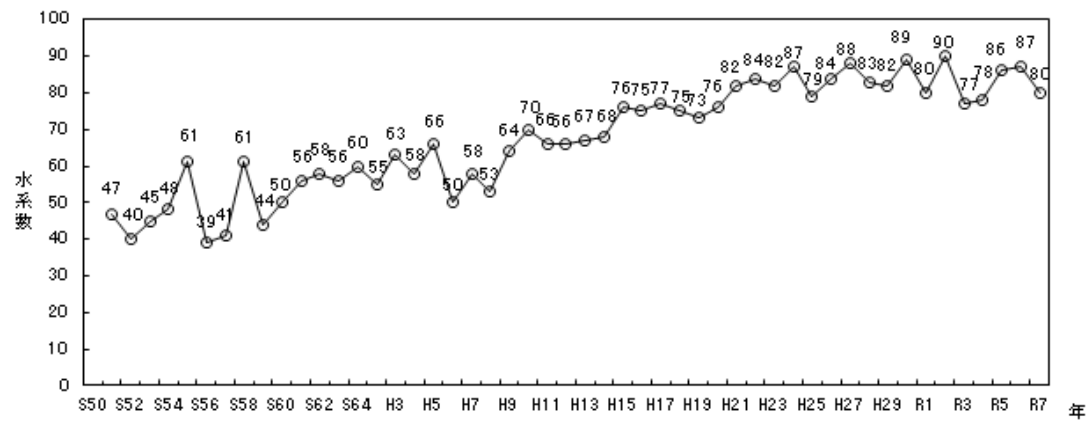


図- 6 全ての調査地点が環境基準を満足した水系数の経年変化(全国)

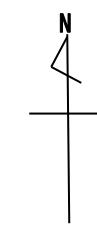
⑥調査地点の類型指定状況と水質状況

一級河川の全調査地点のうち主要な地点について、各調査地点の環境基準の類型指定状況及びBOD75%値（またはCOD75%値）のランク別の水質状況を図- 7に示す。全国的にみると大都市部を流れる一部の河川や湖沼を除き、概ね良好な水質が確保されていることがわかる。

なお、全調査地点の類型指定、令和7年のBOD（COD）平均値及び75%値は、「参考資料4 一級河川の全調査地点の水質」に示す。

類型	河川(BOD)	湖沼(COD)
AA	1mg/L以下	1mg/L以下
A	2mg/L以下	3mg/L以下
B	3mg/L以下	5mg/L以下
C	5mg/L以下	8mg/L以下
D	8mg/L以下	
E	10mg/L以下	
-	類型未指定	

- 内の色はBOD75%値のランクを指す。
- 内の色はCOD75%値のランクを指す。
- 及び□内の記号は、環境基準の類型である。
- 及び□は環境基準を満足していない地点である。



-18-

3) 調査地点のランク別水質状況

①河川

全調査地点のうち、河川（湖沼等を除く。以下「河川」という。）におけるBODを観測した884地点^{注5}について、BOD75%値のランク別割合を図- 8に示す。

河川におけるBOD75%値のランク別割合は、1.0mg/ℓ以下が57.2%、1.1～2.0mg/ℓが30.4%と大きな割合を占める。

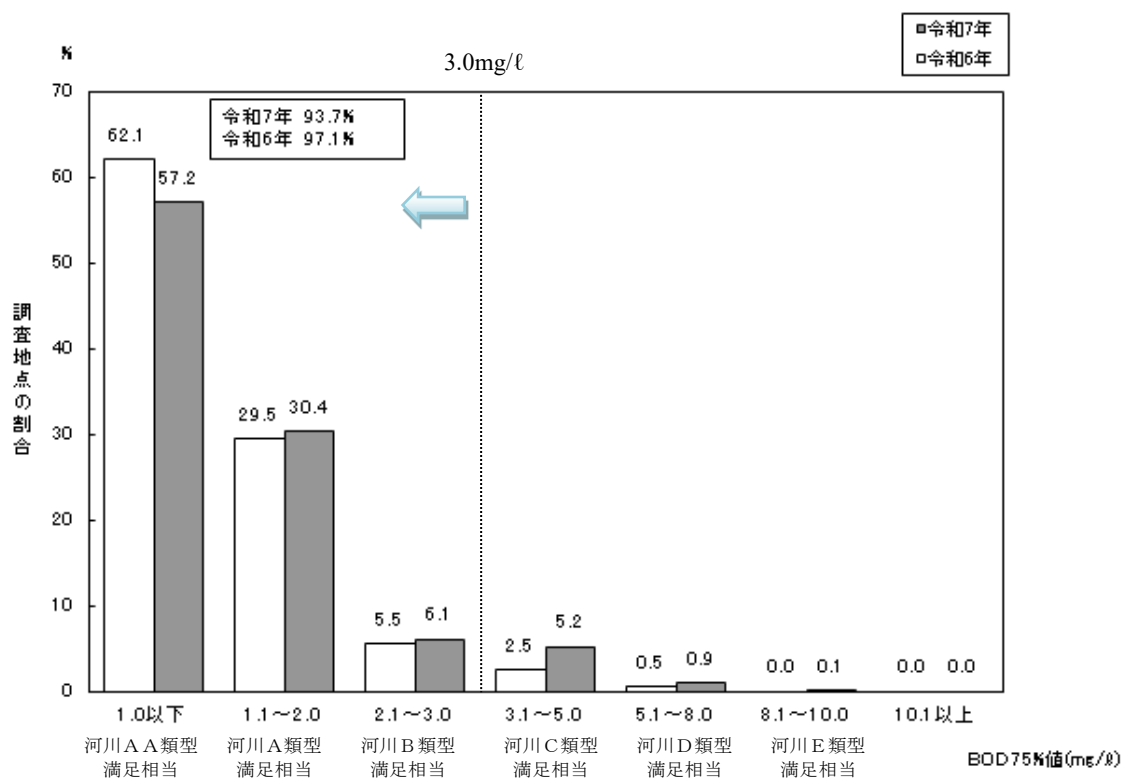


図- 8 BOD75%値ランク別割合（河川）

^{注5} 河川の調査地点としては886地点であるが、BOD観測を行わない調査地点が2地点（北上川水系北上川船田橋(1)、北上川水系赤川富士見橋）ある。

②湖沼

湖沼、海域及びダム貯水池（以下「湖沼等」という。）における調査地点214地点について、COD75%値及び総窒素、総リン^{注6}平均値のランク別割合をそれぞれ図- 9(1)～図- 9(3)に示す。

湖沼等におけるCOD75%値のランク別割合は、1.1～3.0mg/ℓの割合が60.7%と最も大きい。

総窒素平均値のランク別割合は、0.21～0.40mg/ℓの割合が37.4%と最も大きい。

総リン平均値のランク別割合は、0.011～0.030mg/ℓの割合が37.4%と最も大きく、次いで0.006～0.010mg/ℓの割合が30.8%となっている。

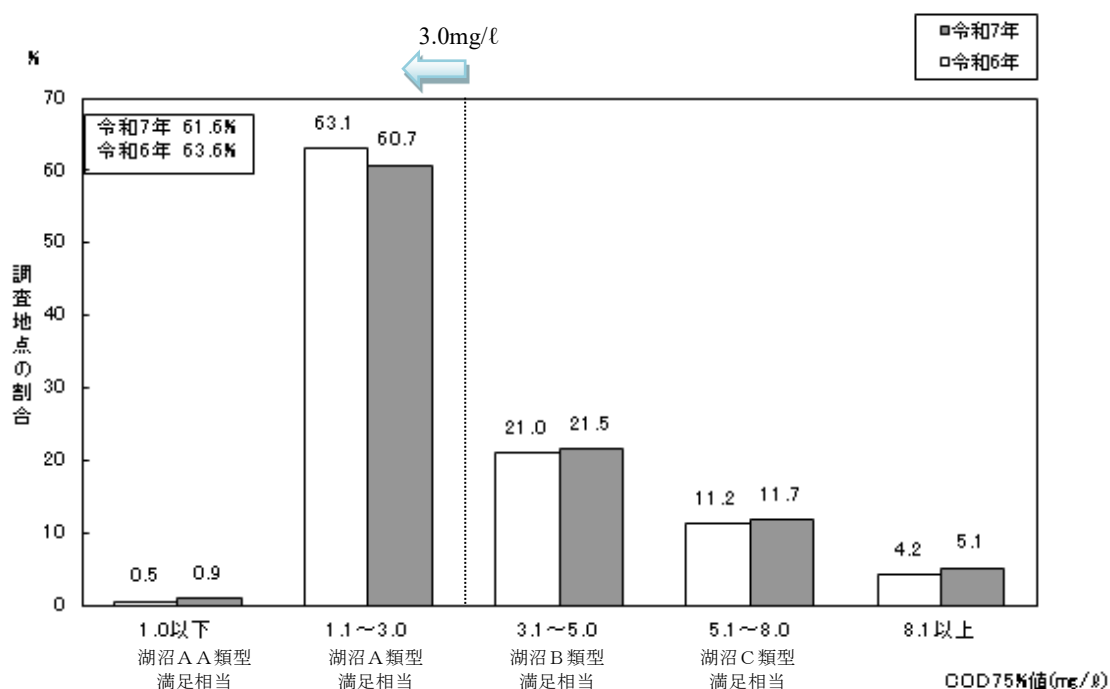


図- 9(1) COD75%値ランク別割合（湖沼等）

^{注6} 湖沼等の閉鎖性水域においては、総窒素及び総リンは、富栄養化現象の原因物質となる。

第二章 河川の水質現況

1.水質汚濁に関する環境基準項目

(3) 生活環境の保全に関する環境基準項目

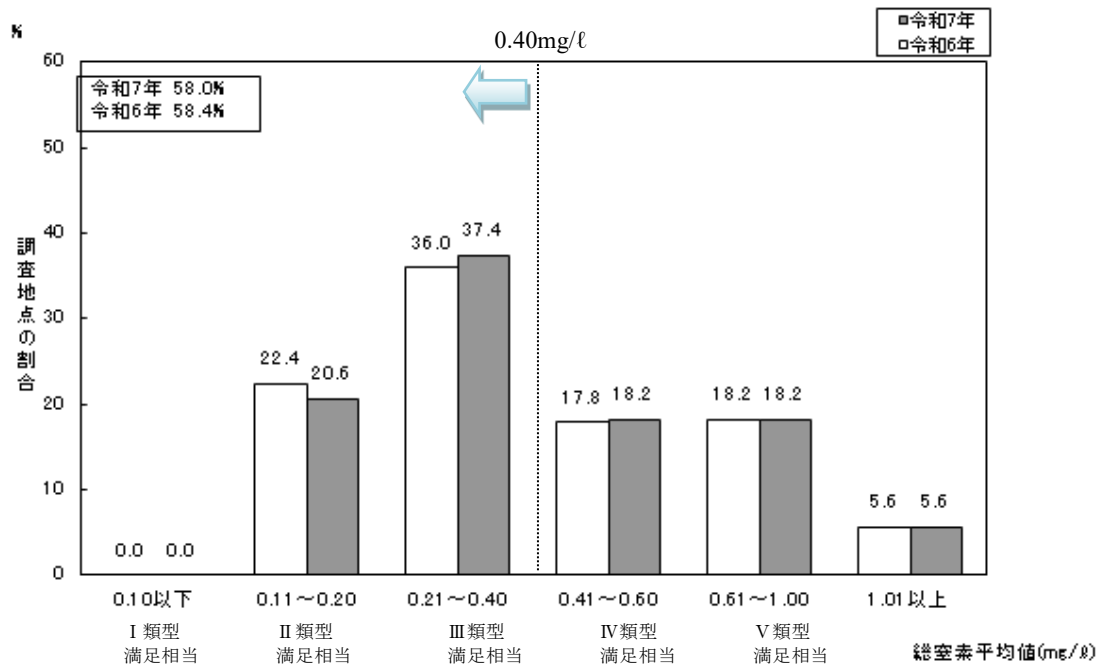


図- 9(2) 総窒素平均値ランク別割合 (湖沼等)

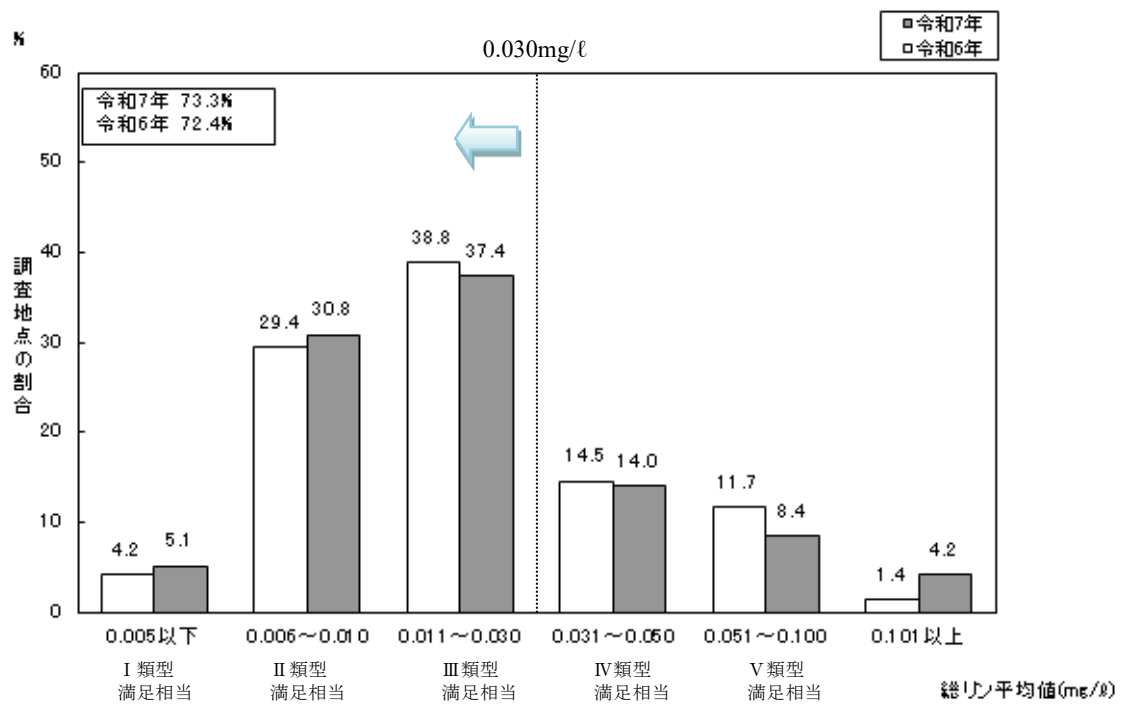


図- 9(3) 総リン平均値ランク別割合 (湖沼等)

第二章 河川の水質現況

1.水質汚濁に関する環境基準項目

(3) 生活環境の保全に関する環境基準項目

河川のBOD75%値及び総窒素、総リン平均値のランク別割合のここ10年間の経年変化を、それぞれ図- 10(1)～図- 10(3)に、湖沼等のCOD75%値及び総窒素、総リン平均値のランク別割合の経年変化を同様にそれぞれ図- 11(1)～図- 11(3)に示す。

第二章 河川の水質現況

1. 水質汚濁に関する環境基準項目

(3) 生活環境の保全に関する環境基準項目

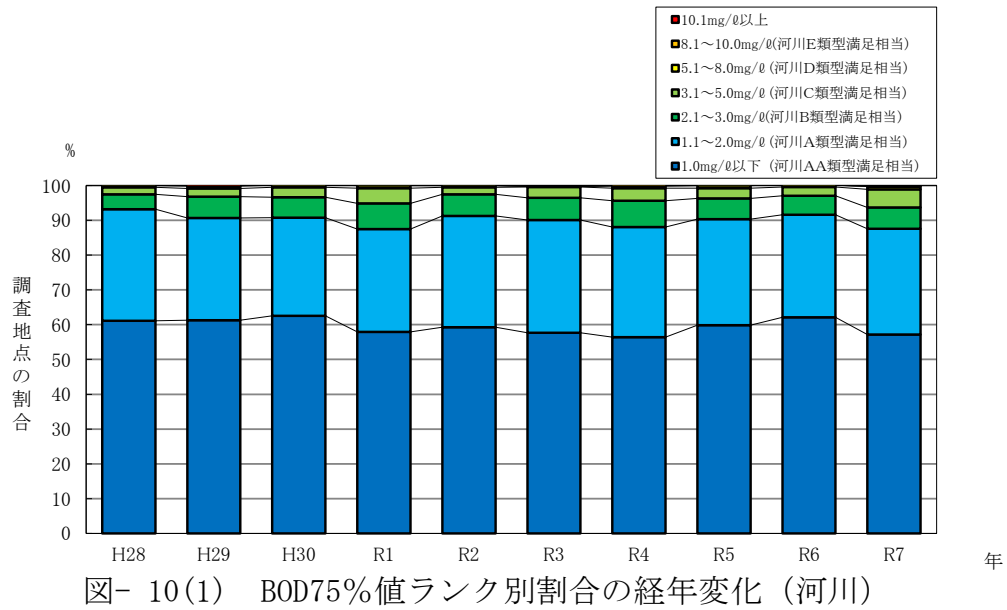


図- 10(1) BOD75%値ランク別割合の経年変化 (河川)

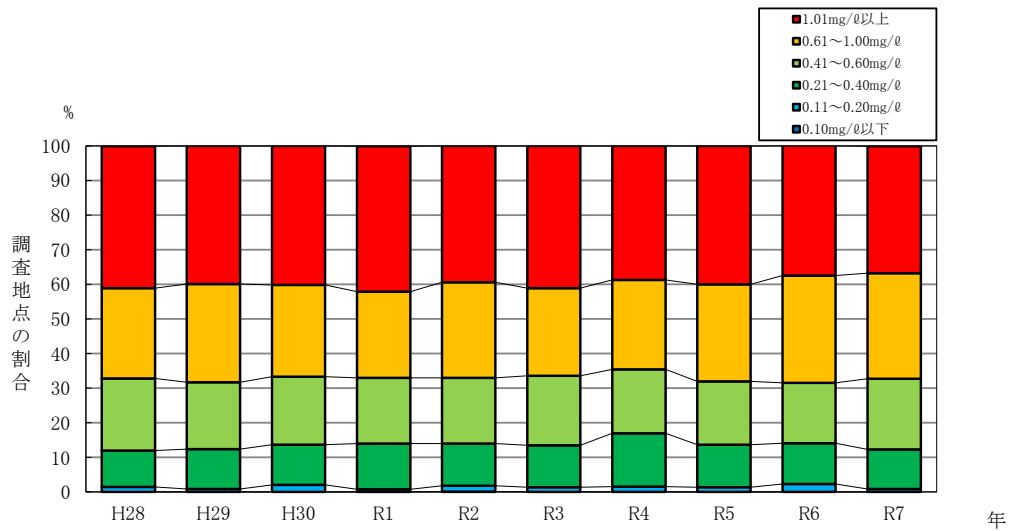


図- 10(2) 総窒素平均値ランク別割合の経年変化 (河川)

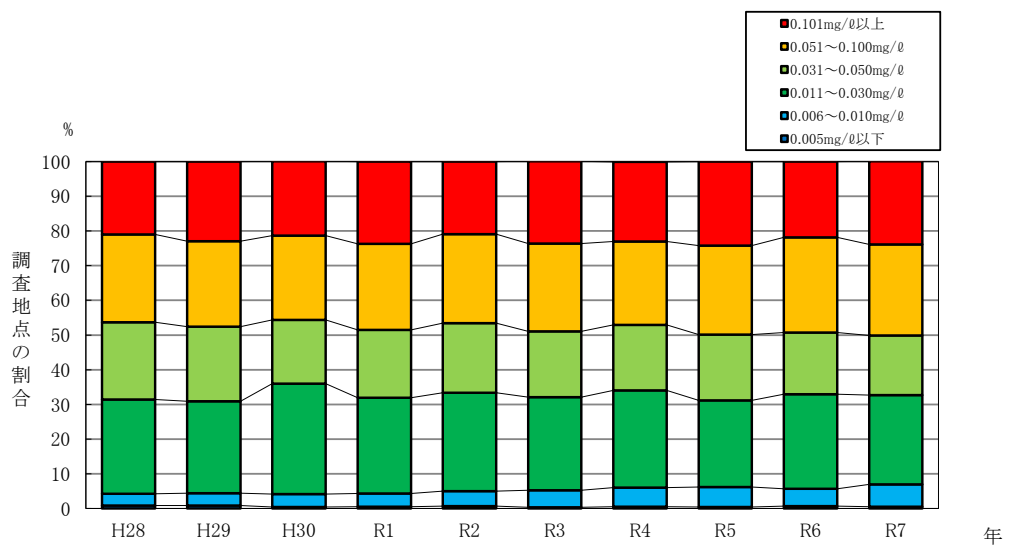
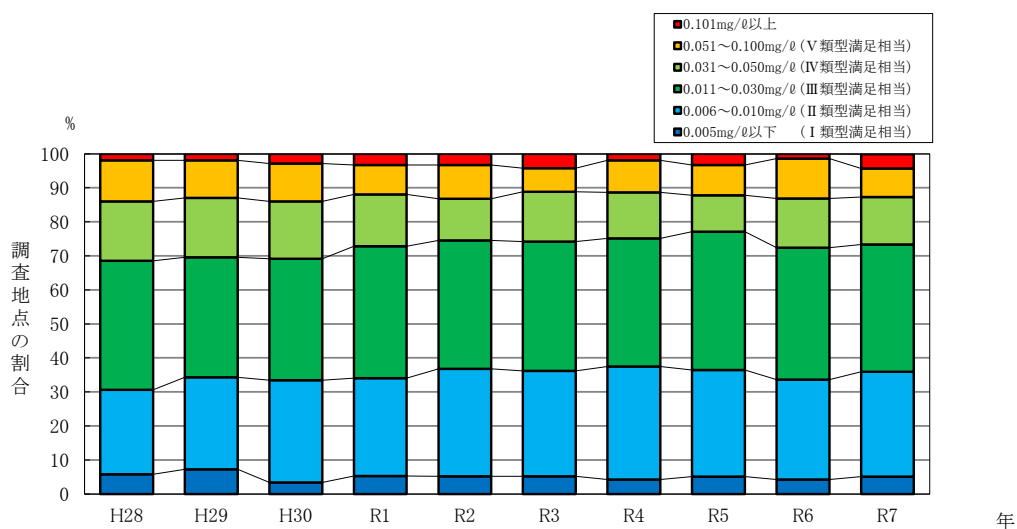
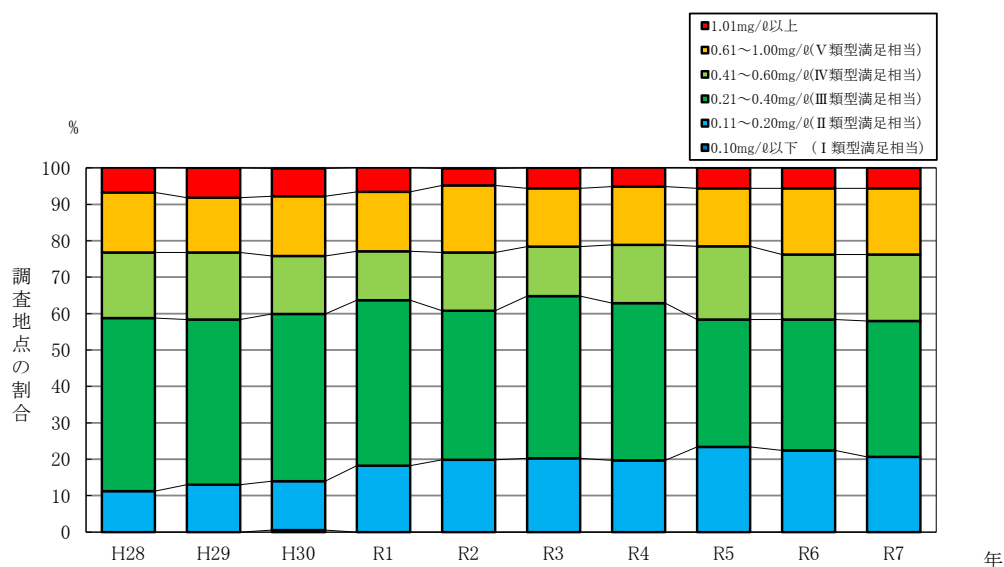
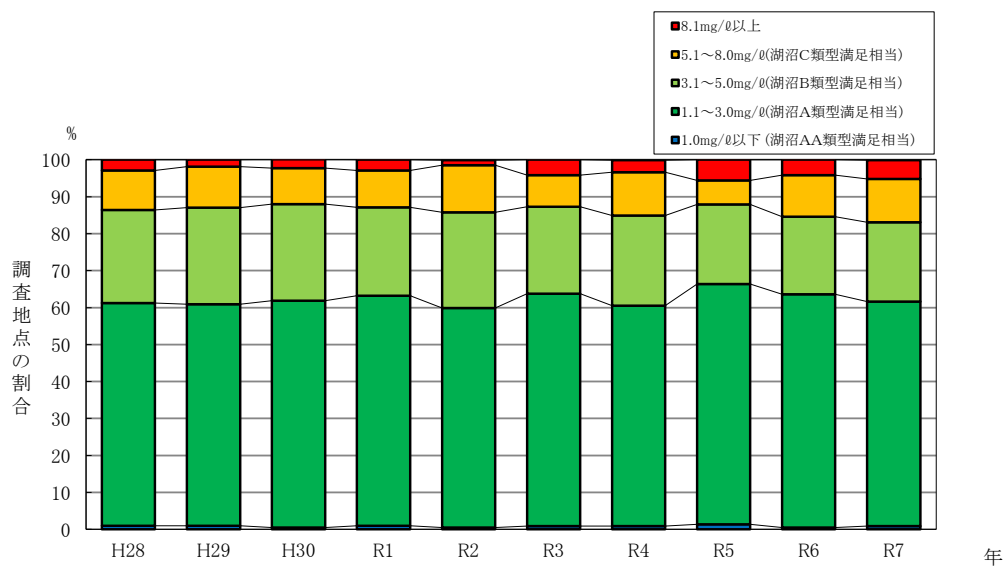


図- 10(3) 総リン平均値ランク別割合の経年変化 (河川)

第二章 河川の水質現況

1.水質汚濁に関する環境基準項目

(3) 生活環境の保全に関する環境基準項目



4) 都市河川・湖沼の水質状況の経年変化

①主要な都市河川

図- 12に主な都市河川のBOD75%値について経年変化図を示した。

都市河川の水質は、かつて汚濁が著しかったが、近年かなり改善されてきている。令和7年のBOD75%値は、多摩川（田園調布堰（上））で1.6mg/ℓ、大和川（浅香新取水口）で1.5mg/ℓ、鶴見川（大綱橋）で4.2mg/ℓ、綾瀬川（手代橋）で4.5mg/ℓとなっている。

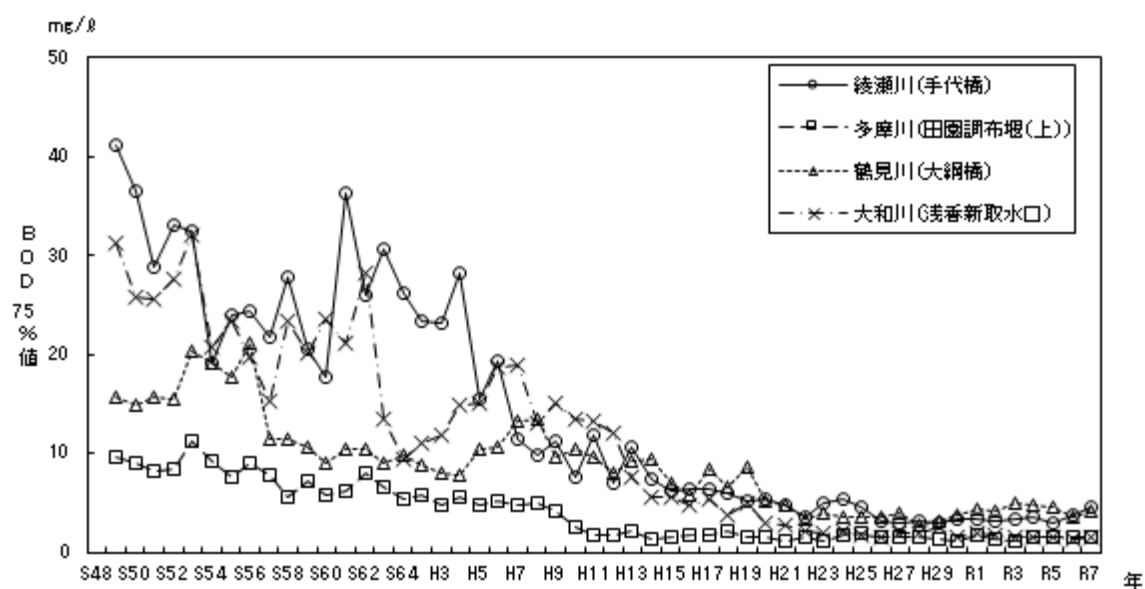


図- 12 都市河川の代表地点におけるBOD75%値の経年変化

②主要な湖沼

霞ヶ浦、琵琶湖、中海、宍道湖といった主要湖沼のCOD75%値及び総窒素、総リン平均値の経年変化を図- 13(1)～図- 13(5)に示す。

主要湖沼におけるCOD、総窒素（T-N）、総リン（T-P）の環境基準は表- 6に示すとおりであり、図中に参考としてそれぞれの環境基準値を1本の実線で併記している。

主要湖沼は、環境基準を満足した地点の割合が小さい。

表- 6 主要湖沼の類型と環境基準

ア. COD（化学的酸素要求量）

水系名	水域名	該当類型	環境基準（COD）
利根川	霞ヶ浦（全域） 北浦（全域（鰯川を含む）） 常陸利根川（全域）	A	3mg/ℓ
淀川	琵琶湖(1)（琵琶湖大橋より北側） 琵琶湖(2)（琵琶湖大橋より南側）	AA	1mg/ℓ
斐伊川	中海（中海及境水道） 宍道湖（大橋川を含む）	A	3mg/ℓ

イ. 窒素及びリン

水系名	水域名	該当類型	環境基準
利根川	霞ヶ浦（全域） 北浦（全域（鰯川を含む）） 常陸利根川（全域）	Ⅲ	総窒素：0.4mg/ℓ 総リン：0.03mg/ℓ
淀川	琵琶湖(1)（琵琶湖大橋より北側） 琵琶湖(2)（琵琶湖大橋より南側）	Ⅱ	総窒素：0.2mg/ℓ 総リン：0.01mg/ℓ
斐伊川	中海（中海及境水道） 宍道湖（大橋川を含む）	Ⅲ	総窒素：0.4mg/ℓ 総リン：0.03mg/ℓ

霞ヶ浦の湖心地点では、CODは長期的に減少傾向、総窒素は減少傾向であったが近年は上昇している。総リンは平成14年をピークに減少傾向である。

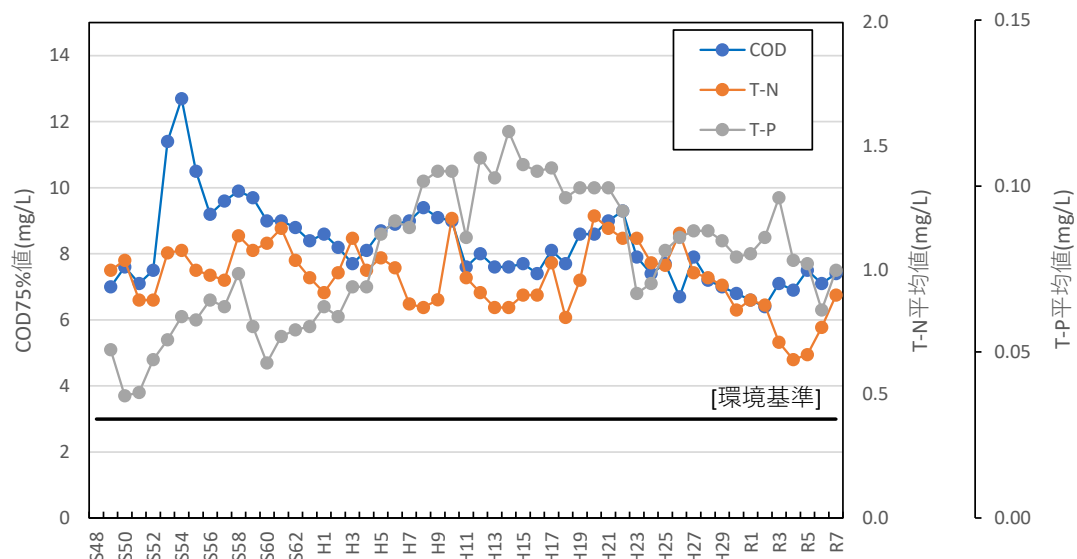


図- 13(1) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化
霞ヶ浦 湖心（湖沼A, III）

琵琶湖の北湖安曇川沖中央地点では、CODは増加傾向を示していたが、平成19年以降はほぼ横ばい傾向を示している。総窒素については、減少傾向にあり近年は環境基準を満足している。総リンは環境基準を満足している。

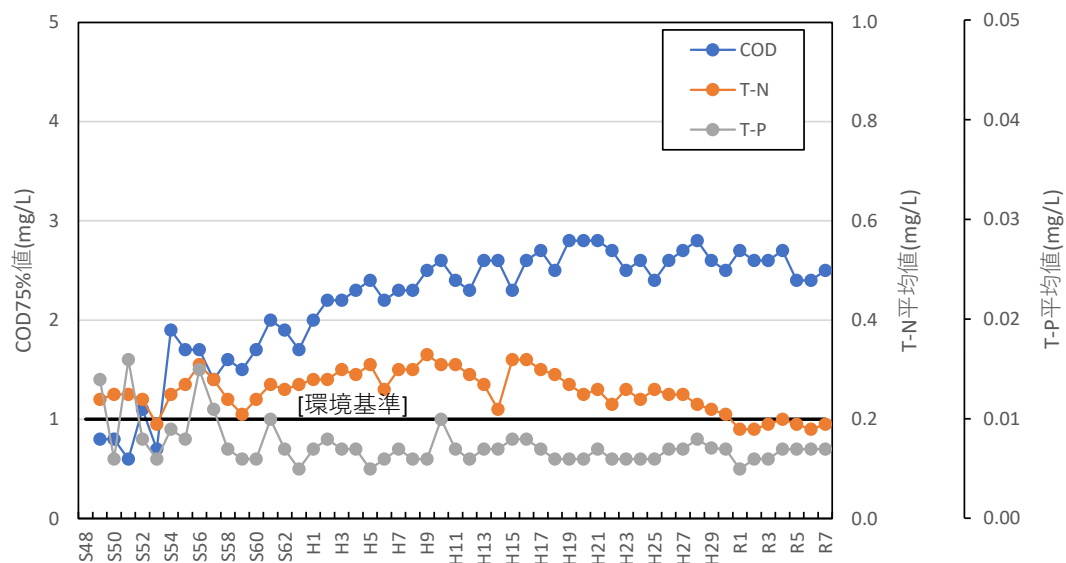


図- 13(2) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化
琵琶湖（北湖） 安曇川沖中央（湖沼AA, II）

琵琶湖の南湖大宮川沖中央地点では、CODは長期的にはほぼ横ばいの傾向を示している。

総窒素及び総リンは一時的に大きな値を示す年はあるが、長期的には概ね減少傾向がみられる。

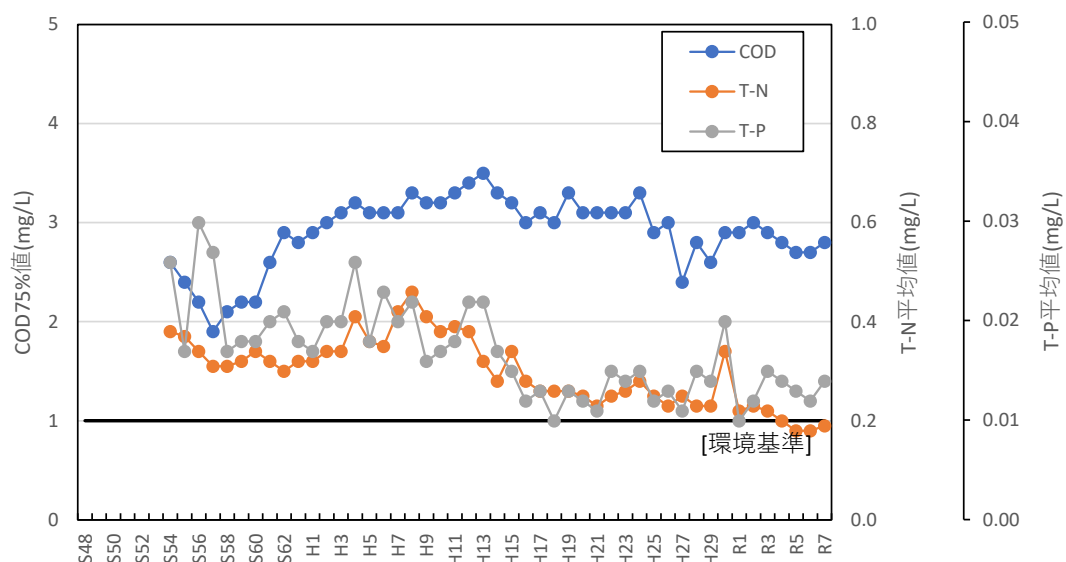


図- 13(3) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化
琵琶湖（南湖） 大宮川沖中央（湖沼AA, II）

中海の湖心地点では、COD及び総リンについては変動はあるものの、長期的には概ね横ばい傾向を示している。総窒素は長期的に減少傾向がみられ、近年は環境基準を満足している。

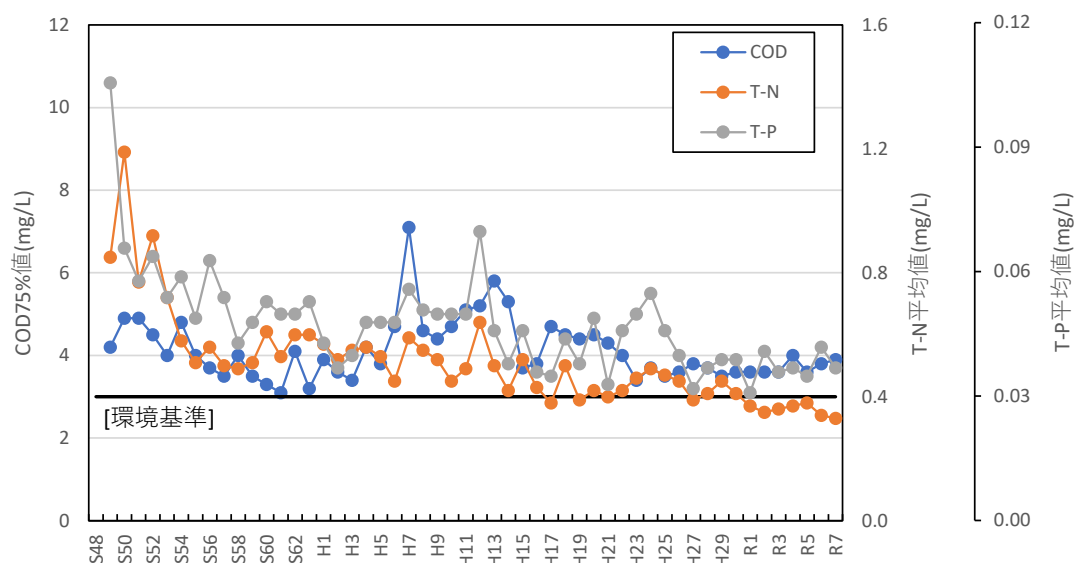


図- 13(4) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化
中海 湖心（湖沼A, III）

宍道湖のNo.3湖心地点では、CODは長期的にやや増加傾向がみられる。総窒素については、変動はあるものの長期的にはやや減少傾向にある。総リンについては、変動はあるものの長期的には概ね横ばい傾向を示している。

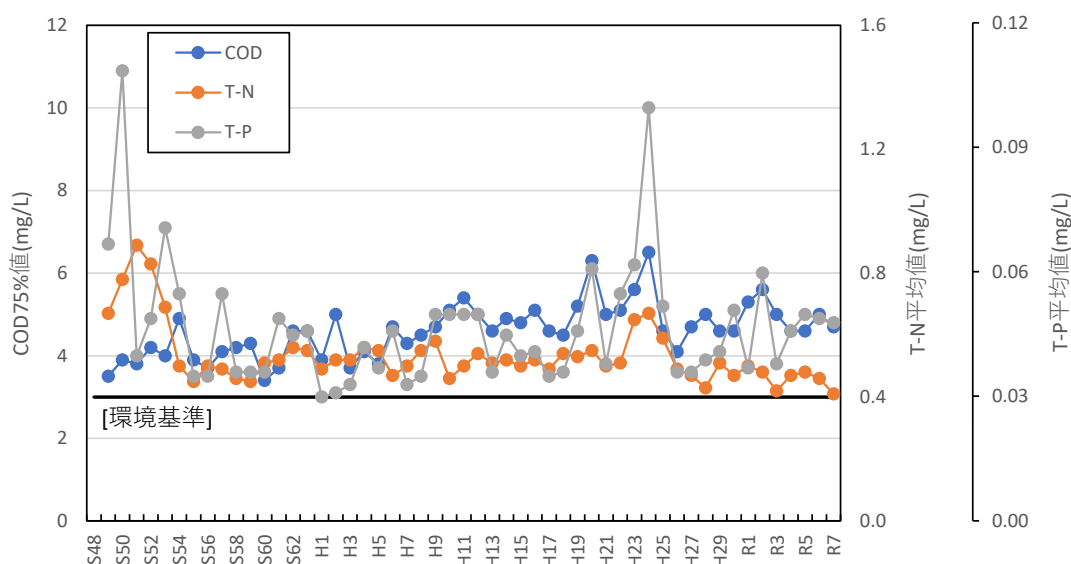


図- 13(5) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化
宍道湖 No. 3 湖心（湖沼A, III）

5) 水生生物の保全

5-1) 全亜鉛

令和7年は全国797地点（河川646地点、湖沼等151地点）で調査を行った。

表- 7に全調査地点の全亜鉛の年間平均値についてランク別割合を示す。

表- 7 全亜鉛のランク別割合

区分	地点数	割合
0.01mg/ℓ以下	707	89%
0.02mg/ℓ以下	64	8%
0.03mg/ℓ以下	21	3%
0.03mg/ℓより大きい	5	1%

※割合は小数点以下を四捨五入している。

5-2) ノニルフェノール

令和7年は全国584地点（河川462地点、湖沼等122地点）で調査を行った。

表- 8に全調査地点のノニルフェノールの年間平均値についてランク別割合を示す。

表- 8 ノニルフェノールのランク別割合

区分	地点数	割合
0.0006mg/ℓ以下（生物特A）	584	100%
0.001mg/ℓ以下（生物A）	0	0%
0.002mg/ℓ以下（生物特B、生物B）	0	0%
0.002mg/ℓより大きい	0	0%

※割合は小数点以下を四捨五入している。

5－3) 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩

令和7年は全国569地点（河川451地点、湖沼等118地点）で調査を行った。

表－9に全調査地点の直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩の年間平均値についてランク別割合を示す。

表－9 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩のランク別割合

区分	地点数	割合
0.02mg/ℓ以下（生物特A）	569	100%
0.03mg/ℓ以下（生物A）	0	0%
0.04mg/ℓ以下（生物特B）	0	0%
0.05mg/ℓ以下（生物B）	0	0%
0.05mg/ℓより大きい	0	0%

※割合は小数点以下を四捨五入している。

2. 微量化学物質（ダイオキシン類）調査

(1) 微量化学物質調査とは

1) 微量化学物質調査実施の背景

国土交通省では、「ダイオキシン類対策特別措置法」で定義されているダイオキシン類について平成11年度から全国一級水系で継続的に調査を実施している。

ダイオキシン類について、平成15年度に、それまでの調査を基に、監視地点、監視頻度、精度管理等の考え方を取りまとめた「河川、湖沼等におけるダイオキシン類常時監視マニュアル（案）」を作成し、以降はこのマニュアルに基づき調査を実施している（令和5年6月改訂）。

2) 対象物質

「ダイオキシン類対策特別措置法」で定義されているダイオキシン類であるポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）、ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン（PCDD）、及びコプラナーポリ塩化ビフェニル（Co-PCB）の3種類の化合物群について調査を行った。図-14に示すように、これらの化合物群は、いずれもベンゼン環を2つ有する化合物で、ベンゼン環に置換した塩素原子の数や位置の違いによって複数の同族体や異性体が存在する。また、環境中の存在量は微量であるが、毒性が強く、焼却、農薬等の製造、パルプの塩素漂白などで非意図的に生成し、残留性が高い物質である。

異性体ごとに毒性が異なるため、世界保健機関（WHO）によって提案されたTEF（毒性等価係数）を用い、各化合物の濃度をTEQ（毒性等量）で示したものを合計して、毒性を評価した。また、複数回測定した地点においては、水質は各回のTEQ合計値を平均し、底質は各回のTEQ合計値の最高値を抽出して、毒性を評価した。なお、平成20年4月にダイオキシン類対策特別措置法施行規則が改正され、排出基準に係るTEFがWHO-1998 TEFからWHO-2006 TEFに変更されたため、平成20年度以降の調査結果はWHO-2006 TEFを使用している。

各化合物の濃度の分析値を確定するに当たっては、学識経験者等の意見を踏まえて測定値の精度について検討を行った。

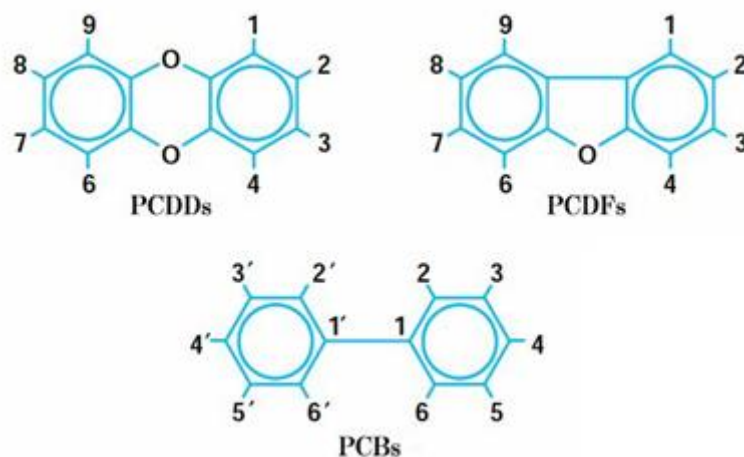


図- 14 ダイオキシン類の構造図

3) 調査地点および調査頻度

基準監視地点については、全国の一級水系における、順流最下流の環境基準点（順流最下流に環境基準点がない場合は最下流の環境基準点）に加えて、国土交通省が直轄管理している湖沼の代表地点などを選定している。補助監視地点については、基準監視地点を補完するため、ダイオキシン類濃度が比較的高濃度となる可能性がある地点を選定している。

また、基準監視地点又は補助監視地点において、過去に環境基準を超えた地点を重点監視状態にある地点（以下、重点監視地点という。）としている。なお、重点監視地点において、環境基準を2年間の調査において常に下回った場合は、一般の監視地点に戻している。

監視頻度については、基準監視地点（一般）は年1回、補助監視地点（一般）は3年毎に1回、重点監視地点は年2回又は4回（年2回の調査で2回とも環境基準を超えた場合）とし、調査を実施している。

表- 10 ダイオキシン類の環境基準

地点	環境基準
水質	1pg-TEQ/ℓ
底質	150pg-TEQ/g

(2) 調査結果

令和7年度の調査結果について以下に記載した。なお、本調査結果は(独)水資源機構による調査結果を含む。

全地点の調査結果については参考資料6に掲載した。

i) 基準監視地点（一般）

基準監視地点（一般）では、令和7年度調査で、水質126地点、底質130地点で調査を実施した。調査の結果、水質で6地点が環境基準を超えた。令和8年度調査では、令和7年度で環境基準を超過しなかった重点監視地点2地点を合わせて、計8地点を水質に係る重点監視地点として調査を行うこととする。

ii) 補助監視地点（一般）

補助監視地点（一般）では、令和7年度調査で、水質31地点、底質26地点で調査を実施した。調査の結果、水質で6地点が環境基準を超えた。よって、令和8年度調査では、令和7年度で要監視濃度を超過しなかった重点監視地点2地点を合わせて、計8地点を水質に係る重点監視地点として調査を行うこととする。

iii) 重点監視地点

令和7年度調査では、表- 11に示すとおり、水質13地点が重点監視地点となっており、年2回又は4回の調査を実施した。この内、水質については8地点が環境基準を超えた。

また、過去に環境基準を超える値が観測されたものの、2年間の調査において環境基準を常に下回り、令和8年度より重点監視状態を解除することとなった地点は1地点あり、新たに環境基準を超えた地点は4地点あった。

よって、令和8年度調査では、表- 12に示すとおり、計16地点を水質に係る重点監視地点として調査を行うこととする。

表- 11 令和7年度ダイオキシン類に関する実態調査結果まとめ

		調査地点数		環境基準超過地点数	
		水質	底質	水質	底質
基準監視地点	(一般)	126	130	4	0
	(重点)	4	0	2	0
	計	130	130	6	0
補助監視地点	(一般)	31	26	0	0
	(重点)	9	0	6	0
	計	40	26	6	0
合計		170	156	12	0
重点監視地点		13	0	8	0

表- 12 令和8年度の重点監視地点

種別	基準監視地点		補助監視地点		計	
	水質	底質	水質	底質	水質	底質
引き続き重点監視状態とする地点数（重点監視地点）	4	0	8	0	12	0
新たに重点監視状態とする地点数（重点監視地点）	4	0	0	0	4	0
重点監視状態を解除する地点数（一般地点）	0	0	1	0	1	0
令和8年度の重点監視地点数	8	0	8	0	16	0

令和7年度のダイオキシン類（水質・底質）に関する実態調査地点の全国分布図を図-15～図-16に示す。

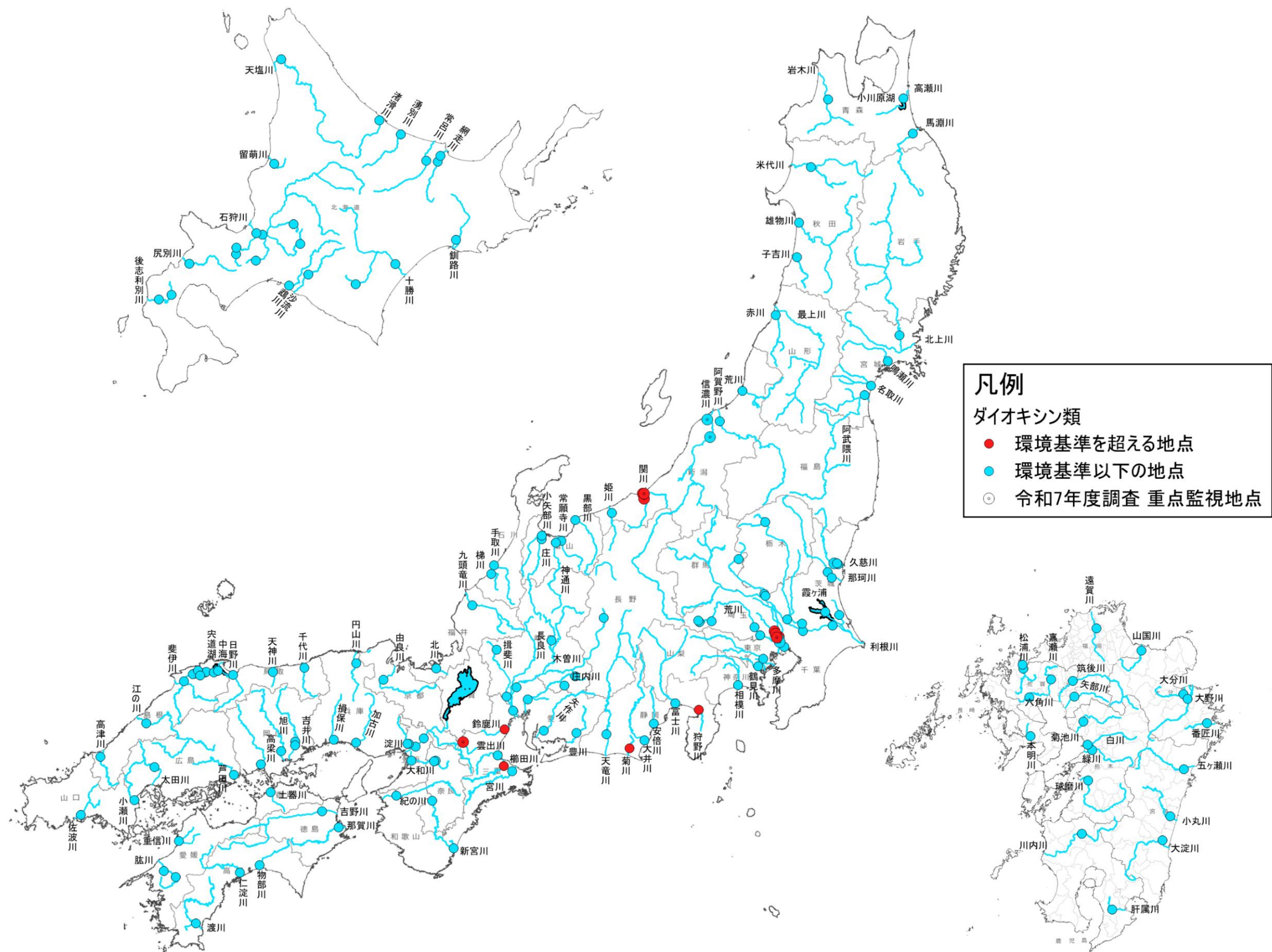


図- 15 令和7年度ダイオキシン類調査に関する実態調査地点の全国分布図（水質）

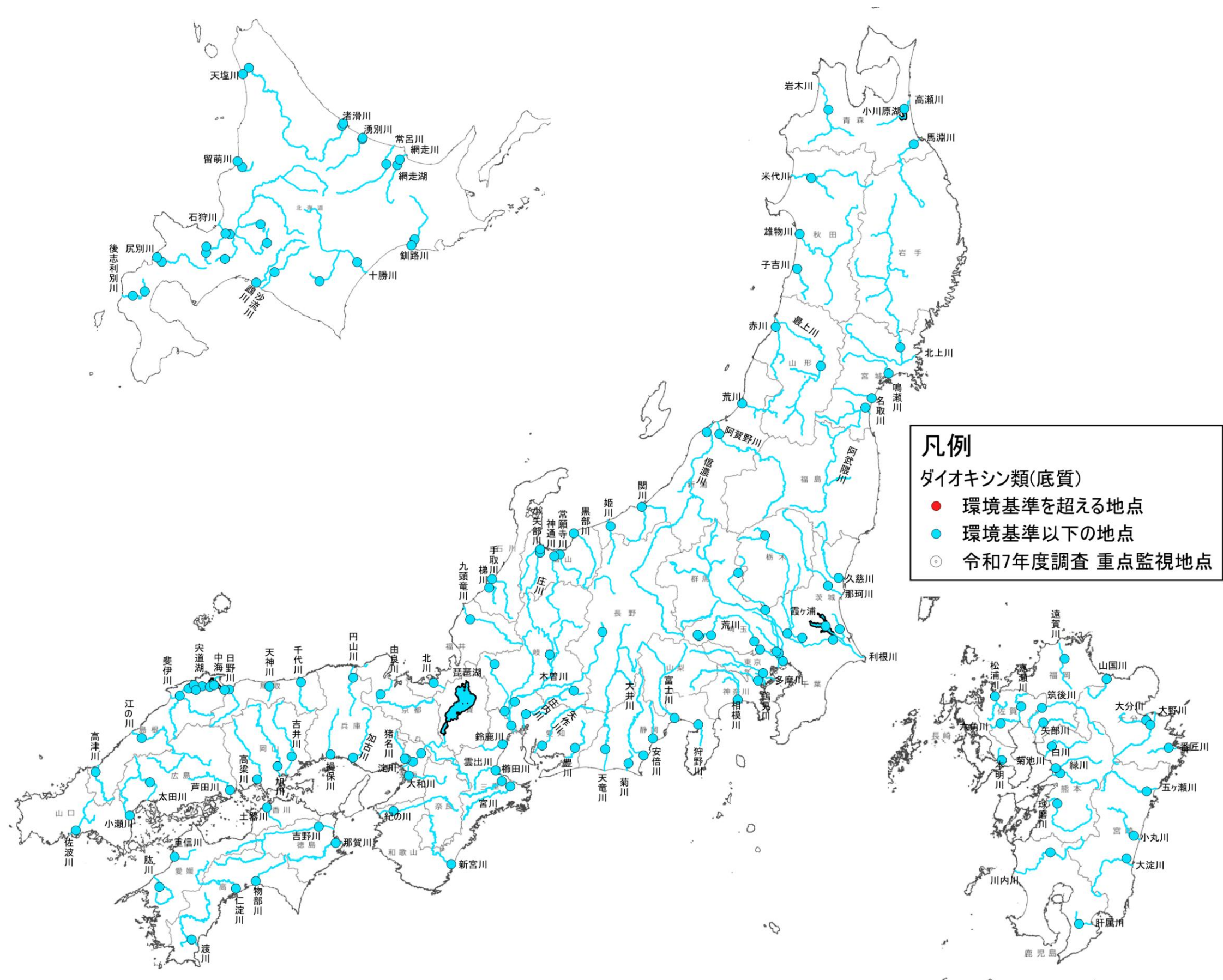


図- 16 令和7年度ダイオキシン類調査に関する実態調査地点の全国分布図（底質）

3. 水質汚濁に関するその他の項目

(1) 要監視項目

1) 要監視項目とは

「要監視項目」とは、人の健康の保護に関連する物質及び水生生物の保全に関連する物質ではあるが、公共用水域等における検出状況等からみて、現時点では直ちに環境基準項目とせず、引き続き知見の集積に努めるべきと判断されるものであり、平成5年に設定された（環境庁水質保全局長通知）。人の健康の保護に係る項目は令和6年12月31日時点で27項目、水生生物の保全に係る項目は6項目となっており、各項目について指針値が設定されている（参考資料2参照）。

2) 要監視項目の調査状況と指針値超過地点

2-1) 人の健康の保護に係る項目

① 調査状況

令和7年の調査結果について、表- 13に項目別の調査地点数及び調査検体数を示す。

令和7年は全国3,192地点で調査を実施し、要監視項目の総調査検体数は4,945検体である。

表- 13 人の健康の保護に係る要監視項目の水質調査結果

項 目 名	調査地点数	調査検体数	超過地点数 (年平均値)	超過地点数 (1検体でも超 過)
イソキサチオン	105	144	—	—
ダイアジノン	106	143	—	—
フェニトロチオン (ME P)	122	159	—	—
イソプロチオラン	146	204	—	—
オキシ銅 (有機銅)	105	142	—	—
クロロタロニル (T P N)	105	142	—	—
プロピザミド	105	145	—	—
E P N	109	149	—	—
ジクロロボス (DD V P)	104	141	—	—
フェノブカルブ (B P M C)	132	190	—	—
イプロベンホス (I B P)	100	137	—	—
クロルニトロフェン (C N P)	85	122	—	—
クロロホルム	166	228	—	—
トランス-1, 2-ジクロロエチレン	84	121	—	—
1, 2-ジクロロプロパン	86	123	—	—
p-ジクロロベンゼン	92	130	—	—
トルエン	117	162	—	—
キシレン	100	139	—	—
フタル酸ジエチルヘキシル	120	166	—	—
ニッケル	214	299	—	—
モリブデン	126	157	—	—
アンチモン	149	197	—	—
塩化ビニルモノマー	84	92	—	—
エピクロロヒドリン	81	107	—	2
全マンガン	156	826	—	6
ウラン	84	107	—	—
ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) 及びペルフルオロオクタン酸 (PFOA)	209	273	—	—
合計	3, 192 (396)	4, 945	0 (0)	6 (6)

※調査地点数及び超過地点数の()内の数値は実地点数を示す。

② 超過地点

指針値を上回った地点はなかった。

2－2) 水生生物の保全に係る項目

① 調査状況

令和7年の調査結果について、表- 14に項目別の調査地点数及び調査検体数を示す。

令和7年は全国929地点で調査を実施し、要監視項目の総調査検体数は1, 073検体である。

表- 14 水生生物の保全に係る要監視項目の水質調査結果

項 目 名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
クロロホルム	169	228	—
フェノール	88	96	—
ホルムアルデヒド	106	114	—
4- <i>t</i> -オクチルフェノール	188	210	—
アニリン	192	214	—
2, 4-ジクロロフェノール	189	211	—
合計	929	1, 073	—

② 超過地点

令和7年の調査結果では、全ての調査地点で指針値を下回っていた。

4. 住民参加による水質調査

(1) 住民協働調査の目的

水辺の魅力を高め、良好な河川環境を維持していくためには、市民参加による河川環境の整備と保全を進めていくことが重要である。

住民との協働による水質調査は、住民が測定に参加でき、かつ、分かりやすい水質項目を住民と協働して調査することによって、水質調査活動を通じた住民の川に対する意識の向上（情報提供を含む）、河川水質の情報収集、住民の主体的な行動を引き出すことなどにより、川の改善を目指すことをねらいとした調査である。

(2) 調査内容

「住民参加による水質調査」は、主に表- 15に示す取り組みや調査の一環として、古くから全国で数多く実施されている。

これら調査は、子どもに向けた啓発・学習ツールとしても利用されており、調査の定着や多様化も見られている。

調査では、水辺に来る人々に理解できる分かりやすい指標項目で、水質調査に容易に参加でき、その調査結果が評価できるような水質項目として、主に表- 15に示す調査項目が利用されている。

これら項目は、「河川（湖沼）水質管理の指標（案）」における「住民との協働による測定項目」として、啓発・学習に効果的な水質項目及び水質に関連する重要な項目としても紹介されている。

表- 15 住民との協働による水質調査の主な種類と測定項目

調査の種類	概要	主な測定項目
①河川愛護活動・イベントの一環として実施	・河川愛護月間などの行事や地元が開催するイベントにおいて実施。 ・自治体、漁業関係者等と河川管理者の連携のもと川遊びや稚魚放流、防災体験などの多様な体験メニューの一つとして水質調査を実施。	簡易水質調査（パックテスト等） 水生生物による水質の簡易調査など
②出前講座・環境学習・防災学習の一環として実施	・教育委員会や学校と河川管理者の連携のもと学校の授業において水質調査を実施。 ・河川協力団体や教育関係者等が主体となって、子供の夏休みの自由研究向けに企画・実施するケースもある。	簡易水質調査（パックテスト等） 水生生物による水質の簡易調査 水温、流速、川底の石の大きさなど
③今後の河川水質管理の指標（住民協働調査）として実施	・国土交通省では、平成 17 年から、水質調査の一部を住民と河川管理者の協働により実施。 ・感覚的な水質指標による調査（ごみの量や水の臭いなどを実際に体感することで測定し、評価する）を取り入れた調査を実施。	感覚的な水質指標による調査 ・ごみの量 ・透視度 ・川底の感触 ・水の臭い 水生生物による水質の簡易調査
④水生生物による簡易水質調査として実施	・水生生物は、水の汚れ（水質汚濁）の長期的・複合的な状況を反映しているので、これらの生物の種類や数を調べることで、おおまかな河川の水質を知る調査。 ・国土交通省と環境省では、昭和 59 年度から小中高生や一般の方の参加を得て全国にて継続的に実施している。	水生生物による水質の簡易調査
⑤その他	・平成 16 年から実施している「身近な水環境の全国一斉調査」では、市民団体等が協働で全国の河川や水辺など身近な水環境の水質をパック方式により一斉に調査し、公表している。 ・地域の特性やニーズに応じて、地域独自の調査（測定）項目や評価方法（点数付けなど）を設定し、調査を行うケースもある。	（地域独自の測定項目を設定）

(3) 実施水系、河川及び湖沼と地点数

令和7年の河川における調査実施状況を表- 16に示す。

各地整局・開発局が企画・協力や参加等に関わった調査として報告のあった住民との協働調査を集計整理しているが、多くの水系（84水系）で調査を実施しており、調査地点数は、268地点である。

種類ごとでは、「河川愛護活動・イベントの一環として実施」が9地点、「出前講座・環境学習・防災学習の一環として実地」が93地点、今後の河川水質管理の指標（住民協働調査）として実地」が59地点、「水生生物の簡易水質調査として実地」が113地点、「その他」（身近な水環境全国一斉調査※）、自然再生事業の活動、ミズベリング・かわまちづくり、治水・防災に関するイベント時、その他として実施）が2地点である。

※「身近な水環境の全国一斉調査」については、市民主体の調査も含め、p 65に詳細を示す。

表- 16 調査を実施した水系数と地点数

地整局 開発局	水系数	河川愛護活動・イベントの一環として実施		出前講座・環境学習・防災学習の一環として実施		今後の河川水質管理の指標（住民協働調査）として実施	
		水系数	地点数	水系数	地点数	水系数	地点数
北海道	13	0	0	5	11	12	22
東北	12	0	0	2	2	0	0
関東	8	0	0	1	2	2	8
北陸	12	0	0	5	9	4	9
中部	13	0	0	3	7	0	0
近畿	10	1	3	2	7	1	4
中国	13	2	2	3	27	0	0
四国	8	4	4	2	3	0	0
九州	20	0	0	8	25	8	16
全国	109	7	9	31	93	27	59

地整局 開発局	水系数	水生生物の簡易水質測定調査として実施		その他		全体 （R7年住民参加による水質調査）	
		水系数	地点数	水系数	地点数	水系数	地点数
北海道	13	3	9	0	0	12	39
東北	12	3	5	0	0	5	7
関東	8	4	5	0	0	5	15
北陸	12	1	1	0	0	9	19
中部	13	5	15	0	0	8	22
近畿	10	9	21	1	2	10	36
中国	13	6	20	0	0	9	49
四国	8	4	12	0	0	8	18
九州	20	6	25	0	0	18	63
全国	109	41	113	1	2	84	268

令和7年の湖沼における調査実施状況を表- 17に示す。

全国で住民との協働調査を実施された調査地点数は、5湖沼、6地点である。

種類ごとでは、「河川愛護活動・イベントの一環として実地」が0地点、「出前講座・環境学習・防災学習の一環として実地」が4地点、「今後の河川水質管理の指標（住民協働調査）として実地」が1地点、「水生生物の簡易水質調査として実地」が1地点、「その他」（身近な水環境全国一斉調査、自然再生事業の活動、ミズベリング・かわまちづくり、治水・防災に関するイベント時、その他として実地）が0地点である。

表- 17 調査を実施した湖沼数と地点数

地整局 開発局	水系数	河川愛護活動・イベントの一環として実施		出前講座・環境学習・防災学習の一環として実施		今後の河川水質管理の指標（住民協働調査）として実施	
		湖沼数	地点数	湖沼数	地点数	湖沼数	地点数
北海道	13	0	0	0	0	1	1
東北	12	0	0	0	0	0	0
関東	8	0	0	0	0	0	0
北陸	12	0	0	0	0	0	0
中部	13	0	0	0	0	0	0
近畿	10	0	0	0	0	0	0
中国	13	0	0	2	3	0	0
四国	8	0	0	0	0	0	0
九州	20	0	0	1	1	0	0
全国	109	0	0	3	4	1	1

地整局 開発局	水系数	水生生物の簡易水質測定調査として実施		その他		全体 （R7年住民参加による水質調査）	
		湖沼数	地点数	湖沼数	地点数	湖沼数	地点数
北海道	13	0	0	0	0	1	1
東北	12	0	0	0	0	0	0
関東	8	0	0	0	0	0	0
北陸	12	0	0	0	0	0	0
中部	13	0	0	0	0	0	0
近畿	10	0	0	0	0	0	0
中国	13	0	0	0	0	2	3
四国	8	1	1	0	0	1	1
九州	20	0	0	0	0	1	1
全国	109	1	1	0	0	5	6

令和7年 河川における住民参加による水質調査実施地点

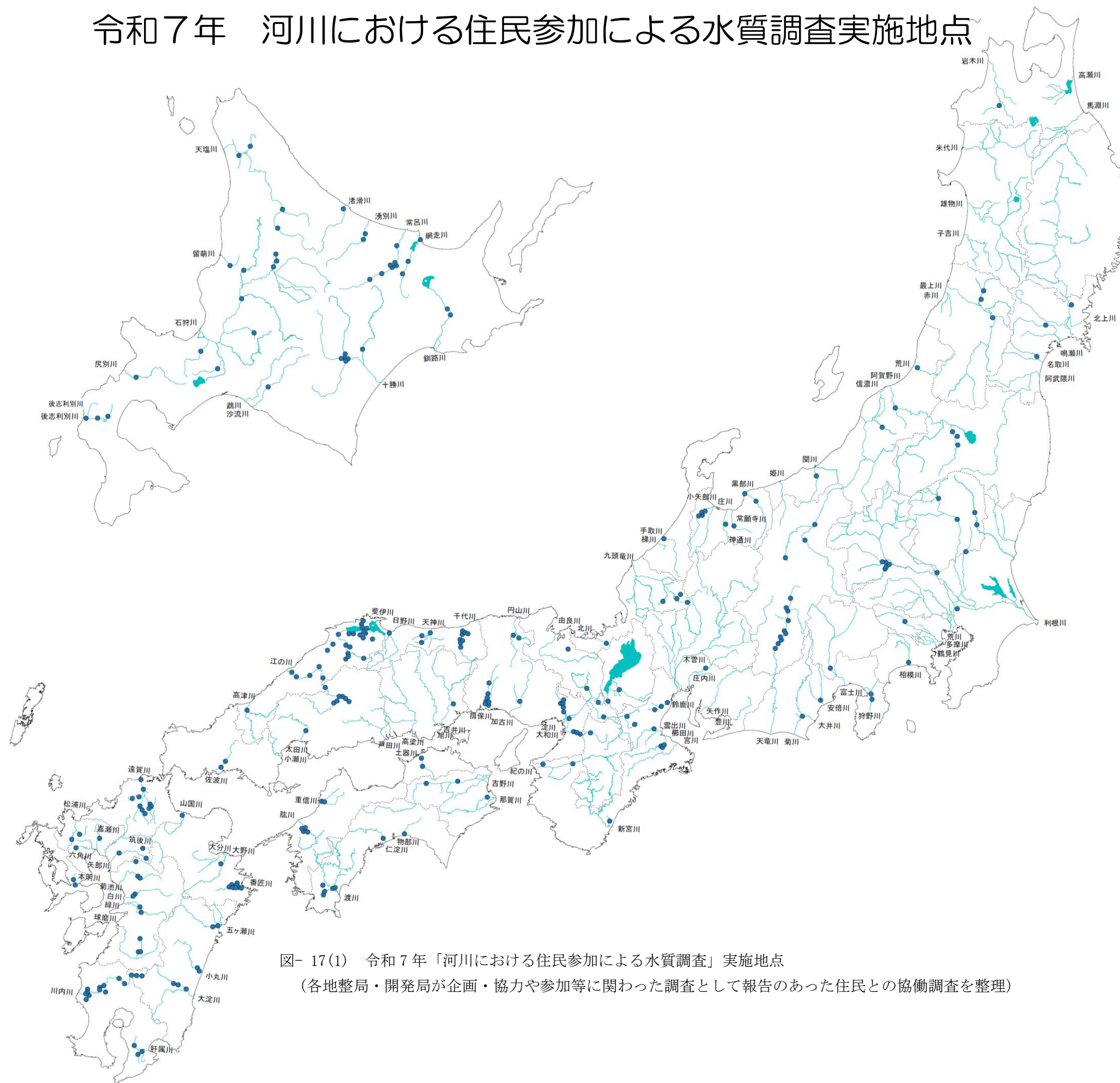


図- 17(1) 令和7年「河川における住民参加による水質調査」実施地点
(各地整局・開発局が企画・協力や参加等に関わった調査として報告のあった住民との協働調査を整理)

令和7年 湖沼における住民参加による水質調査実施地点

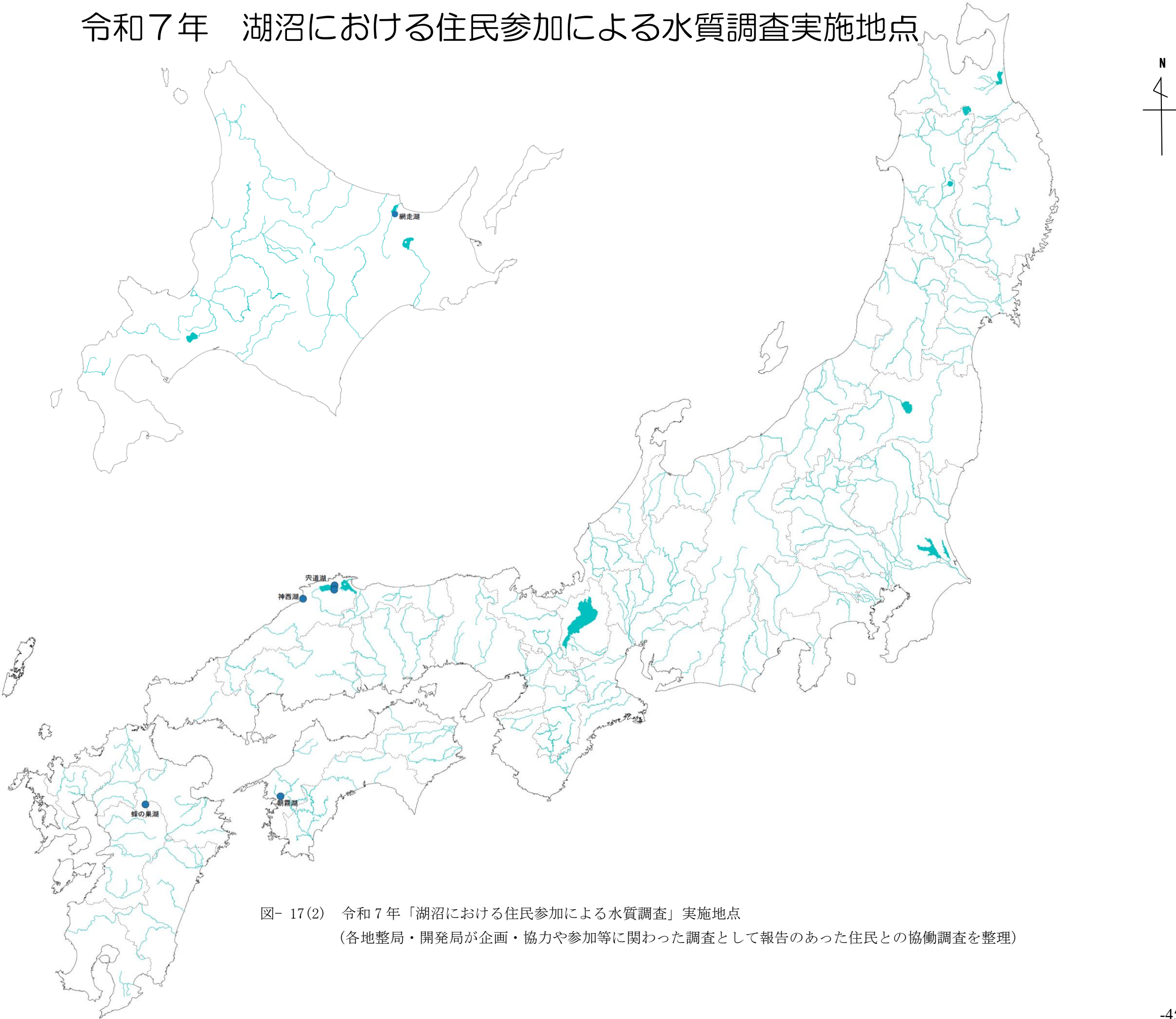


図- 17(2) 令和7年「湖沼における住民参加による水質調査」実施地点
(各地整局・開発局が企画・協力や参加等に関わった調査として報告のあった住民との協働調査を整理)

(4) 参加者数

令和7年の河川における住民参加による水質調査は、全体で大人2,009人、子供11,009人、合計13,018人の住民の参加を得て実施した。どの地方でも子供(15歳以下)の割合が多かった(図- 18)。また、「出前講座・環境学・防災学習の一環として実施」の調査の参加者数が最も多く、次いで「水生生物の簡易水質測定調査として実施」が多かった(図- 19)。

【住民参加による水質調査】

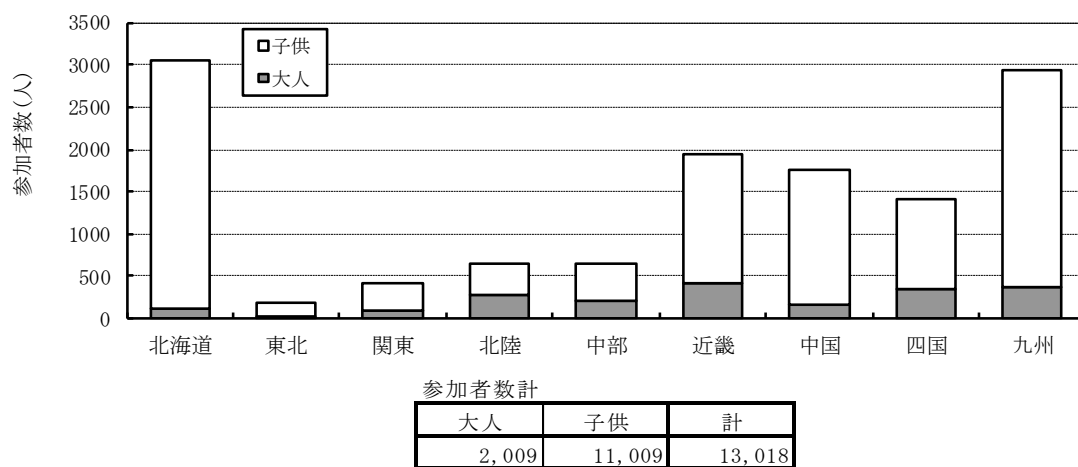


図- 18 調査に参加した住民の数（大人、子供別）（延べ人数）※

※例えば、1人が2つの地点を調査した場合は、2人として集計している。

【調査の種類別】

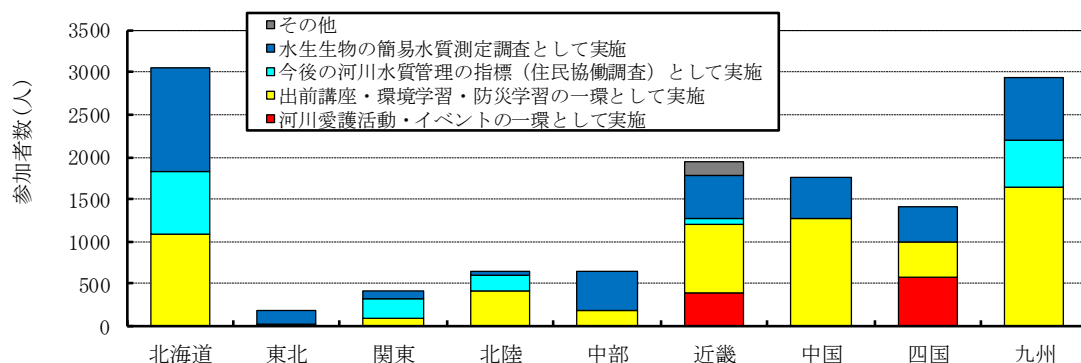


図- 19 調査に参加した住民の数（調査の種類別）（延べ人数）

※例えば、1人が2つの地点を調査した場合は、2人として集計している。

このうち、住民参加が多かった地点は、表- 18のとおりである。

表- 18 参加者数が特に多かった調査地点（上位 5 地点）

順位	都道府県	河川名（水系名）/調査地点	参加者数
1	北海道	札内川(十勝川水系)/札内橋下流	792
2	大阪府	大和川(大和川水系)/河内橋	388
3	香川県	土器川(土器川水系)/平成大橋	382
4	兵庫県	猪名川(淀川水系)/池田床固下流	225
5	北海道	常呂川(常呂川水系)/若松橋	223
5	北海道	常呂川(常呂川水系)/叶橋下流左岸	223
5	北海道	常呂川(常呂川水系)/林友橋	223

※表中の参加者数は、年間通した延べ人数。年間に複数回の調査を実施した調査地点がある。
また、同一団体が複数箇所調査を実施した調査地点がある。

調査の種類ごとで、参加者が多かった地点は、表- 19のとおりである。

表- 19 参加者数が最も多かった調査地点（調査の種類別）

【河川愛護活動・イベントの一環として実施】

順位	都道府県	河川名（水系名）/調査地点	参加者数
1	香川県	土器川(土器川水系)/平成大橋	382
2	兵庫県	猪名川(淀川水系)/桑津橋	170
3	徳島県	那賀川(那賀川水系)/羽ノ浦町明見地先	157
4	兵庫県	猪名川(淀川水系)/池田床固下流	127
5	兵庫県	猪名川(淀川水系)/こんにやく橋	91

【出前講座・環境学習・防災学習の一環として実施】

順位	都道府県	河川名（水系名）/調査地点	参加者数
1	大阪府	大和川(大和川水系)/河内橋	388
2	北海道	常呂川(常呂川水系)/叶橋下流左岸	223
3	北海道	常呂川(常呂川水系)/林友橋	223
4	愛媛県	重信川(重信川水系)/出合橋	219
5	福岡県	犬鳴川(遠賀川水系)/西鞍の丘総合運動公園	200

【今後の河川水質管理の指標（住民協働調査）として実施】

順位	都道府県	河川名（水系名）/調査地点	参加者数
1	北海道	常呂川(常呂川水系)/若松橋	223
2	大分県	山国川(山国川水系)/下宮永	140
3	北海道	空知川(石狩川水系)/空知大橋下流	104
4	群馬県	烏川(利根川水系)/岩倉橋	75
5	鹿児島県	高城川(川内川水系)/川祭り会場	54
5	鹿児島県	川内川(川内川水系)/天大橋下	54

【水生生物の簡易水質測定調査として実施】

順位	都道府県	河川名（水系名）/調査地点	参加者数
1	北海道	札内川(十勝川水系)/札内橋下流	792
2	福岡県	矢部川(矢部川水系)/船小屋	146
3	高知県	四万十川(渡川水系)/具同	102
4	北海道	十勝川(十勝川水系)/十勝大橋	85
5	愛媛県	肱川(肱川水系)/五郎大橋上流	84

【その他】

順位	都道府県	河川名（水系名）/調査地点	参加者数
1	三重県	木津川(淀川水系)/稲広橋	140
2	三重県	服部川(淀川水系)/服部橋	12

※表中の参加者数は、年間通した延べ人数。年間に複数回の調査を実施した調査地点がある。
また、同一団体が複数箇所調査を実施した調査地点がある。

令和7年の湖沼における住民参加による水質調査は、全体で大人52人、子供154人、合計206人の住民の参加を得て実施した。大部分の地方で子供(15歳以下)の割合が多かった(図- 20)。また、「出前講座・環境学・防災学習の一環として実施」の調査の参加者数が多かった(図- 21)。

【住民参加による水質調査】

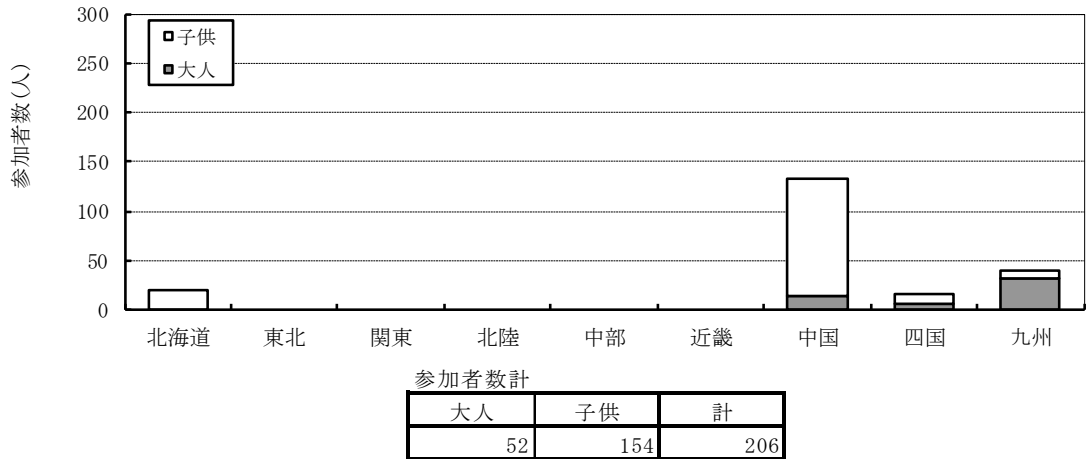


図- 20 調査に参加した住民の数（大人、子供別）（延べ人数）※

※例えば、1人が2つの地点を調査した場合は、2人として集計している。

【調査の種類別】

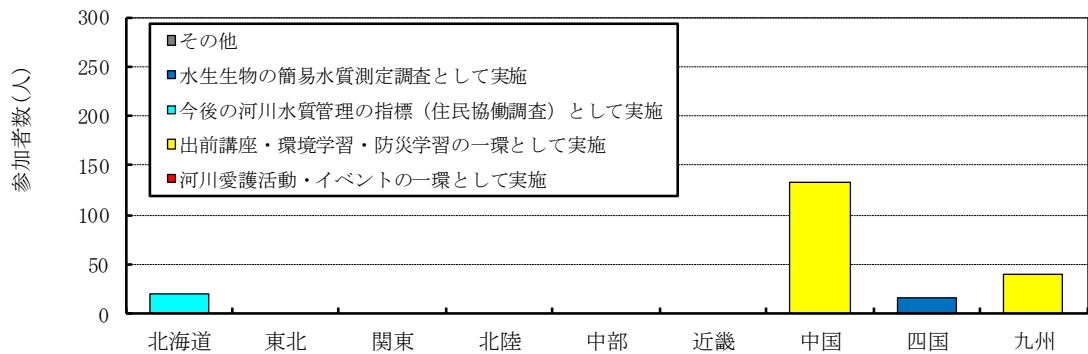


図- 21 調査に参加した住民の数（調査の種類別）（延べ人数）

※例えば、1人が2つの地点を調査した場合は、2人として集計している。

このうち、住民参加が多かった地点は、表- 20のとおりである。

表- 20 参加者数が特に多かった調査地点（上位 5 地点）

順位	都道府県	湖沼名（水系名）/調査地点	参加者数
1	島根県	宍道湖(斐伊川水系)/宍道湖大橋北詰	61
2	島根県	神西湖(斐伊川水系)/神西湖湖畔広場	52
3	大分県	蜂の巣湖(筑後川水系)/蜂の巣公園	39
4	北海道	網走湖(網走川水系)/女満別キャンプ場	19
5	島根県	宍道湖(斐伊川水系)/嫁が島付近	19

※表中の参加者数は、年間通した延べ人数。年間に複数回の調査を実施した調査地点がある。

調査の種類ごとで、参加者が多かった地点は、表- 21のとおりである。

「河川愛護活動・イベントの一環として実施」及び「その他」の住民参加調査の実施は無かった。

表- 21 参加者数が最も多かった調査地点（調査の種類別）

【出前講座・環境学習・防災学習の一環として実施】

順位	都道府県	湖沼名（水系名）/調査地点	参加者数
1	島根県	宍道湖(斐伊川水系)/宍道湖大橋北詰	61
2	島根県	神西湖(斐伊川水系)/神西湖湖畔広場	52
3	大分県	蜂の巣湖(筑後川水系)/蜂の巣公園	39
4	島根県	宍道湖(斐伊川水系)/嫁が島付近	19

【今後の河川水質管理の指標（住民協働調査）として実施】

順位	都道府県	湖沼名（水系名）/調査地点	参加者数
1	北海道	網走湖(網走川水系)/女満別キャンプ場	19

【水生生物の簡易水質測定調査として実施】

順位	都道府県	湖沼名（水系名）/調査地点	参加者数
1	愛媛県	朝霧湖(肱川水系)/明間流入部	16

※表中の参加者数は、年間通した延べ人数。年間に複数回の調査を実施した調査地点がある。

（５）各調査の紹介

１）水生生物による簡易水質調査（水生生物調査）

①水生生物調査とは

サワガニ、カワゲラ等の河川に生息する水生生物は、水質汚濁の長期的・複合的な影響を反映していると考えられており、これらを指標とした水質の簡易調査は、誰でも調査に参加できるという利点を持っている。

水生生物調査における水質階級は、有機物の少ない河川に人間活動の影響で有機物を多量に含む排水が混入した時、河川の環境や生息する生物がどのように変化するかという視点から行われてきた研究を基礎としており、各水質階級を判断するための指標生物を設定している。指標生物は以下の点を考慮して設定されており、現在は表- 22に示したような生物が指標生物となっている。

【指標生物選定基準】

- ①全国的に見つけることができ、ある程度の数がいて、夏の期間は必ずいる種であること
- ②誰にでも見つけることができ、似ている種が少なく、区別が簡単であること
- ③水の汚れ（有機物濃度）に対しては生息する幅が狭い生物であること
- ④水深の浅いところ（水深30cm以下）に生息している生物であること

表- 22 指標生物

I. きれいな水の生物	II. ややきれいな水の生物
カワゲラ類 ナガレトビケラ類 ヤマトビケラ類 ヒラタカゲロウ類 ヘビトンボ ブユ類 アミカ類 ナミウズムシ サワガニ ヨコエビ類	コガタシマトビケラ類 オオシマトビケラ ヒラタドロムシ類 ゲンジボタル コオニヤンマ カワニナ類 ○ヤマトシジミ ○イシマキガイ
III. きたない水の生物	IV. とてもきたない水の生物
ミズムシ ミズカマキリ シマイシビル タニシ類 ○イソコツブムシ類 ○ニホンドロソコエビ	ユスリカ類 チョウバエ類 エラミミズ サカマキガイ アメリカザリガニ

※○は汽水域の生物である。

※平成24年からは指標生物の一部が変更されている。

国土交通省では、表- 22に示す水生生物を指標^{注7}として、全国の一級河川において、小学生、中学生、高校生及び一般市民等の参加を得て、昭和59年度から継続して水生生物による水質の簡易調査を実施している。

②調査結果

令和7年の調査は、全国の一級河川及び湖沼のうち92水系208河川（4湖沼）、338地点において、小学生・中学生・高校生の参加が得やすいよう夏休みを中心に、主に6～11月に実施した。過去5年間の参加人数及び調査地点数を図- 22に示す。近年はコロナ感染症の影響のある令和2年に大きく減少し、令和3年以降は徐々に回復傾向にあるが、令和7年はやや減少した。

（参加団体）	308団体（参考資料7参照）		
（参加人員）	12,685人		
小・中学生	8,357人		（65.9%）
その他の学校	878人		（6.9%）
その他	3,450人		（27.2%）

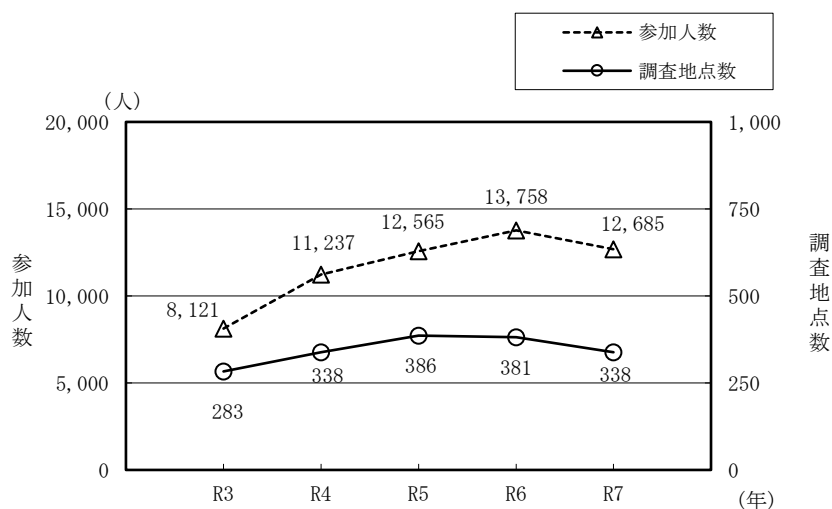


図- 22 水生生物調査参加人数及び調査地点数の推移（一級河川）

^{注7} 水生生物の指標に関して、平成11年に、建設省（現国土交通省）と環境庁（現環境省）で指標となる生物の種類や集計方法といった調査方法の見直しを行った。国土交通省と環境省が連携して、平成11年から新しい調査方法に基づいて調査を行っている。また平成24年からは指標生物の一部が変更されている。

令和7年の調査結果を表- 23に示す。きれいな水と判定された地点割合は67%であった。きれいな水と判定された地点割合は1ポイント増加し、ややきれいな水と判定された地点割合は1ポイント減少した。

表- 23 水生生物による水質調査結果（判定別割合）

判定内容	地点割合（%）	
	令和6年	令和7年
きれいな水	66	67
ややきれいな水	29	28
きたない水	3	2
とてもきたない	1	1
判定不能	1	2

※四捨五入の関係で、合計が100にならないことがある。

※判定不能：指標生物が見つからなかった場合など

地方別の水質調査結果判定別割合を図- 23(1)、図- 23(2)に示す。

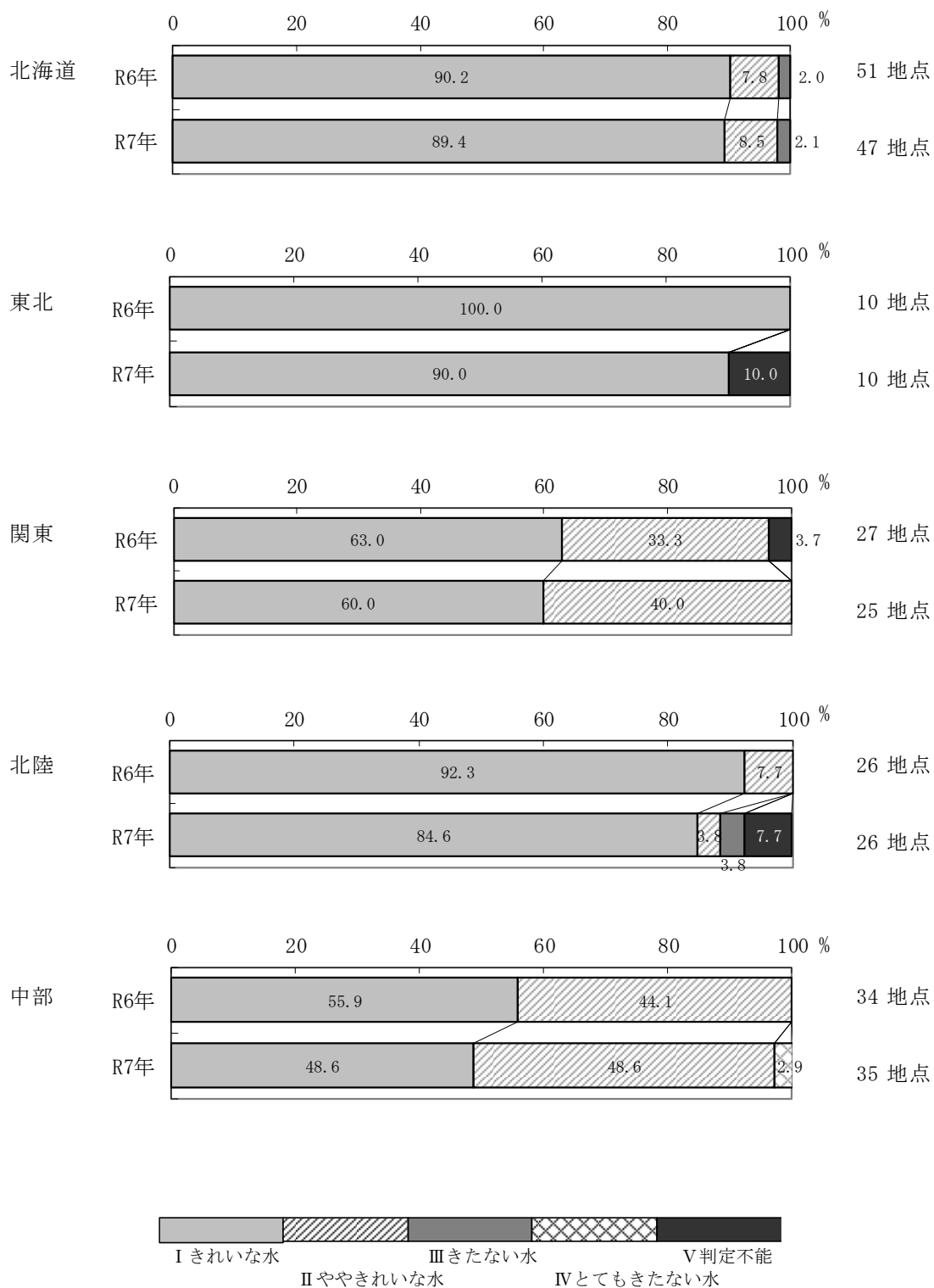


図- 23(1) 水生生物による水質調査結果（地点割合）

※地方別の値のとりまとめは、開発局及び各地方整備局の管内を集計単位とした。

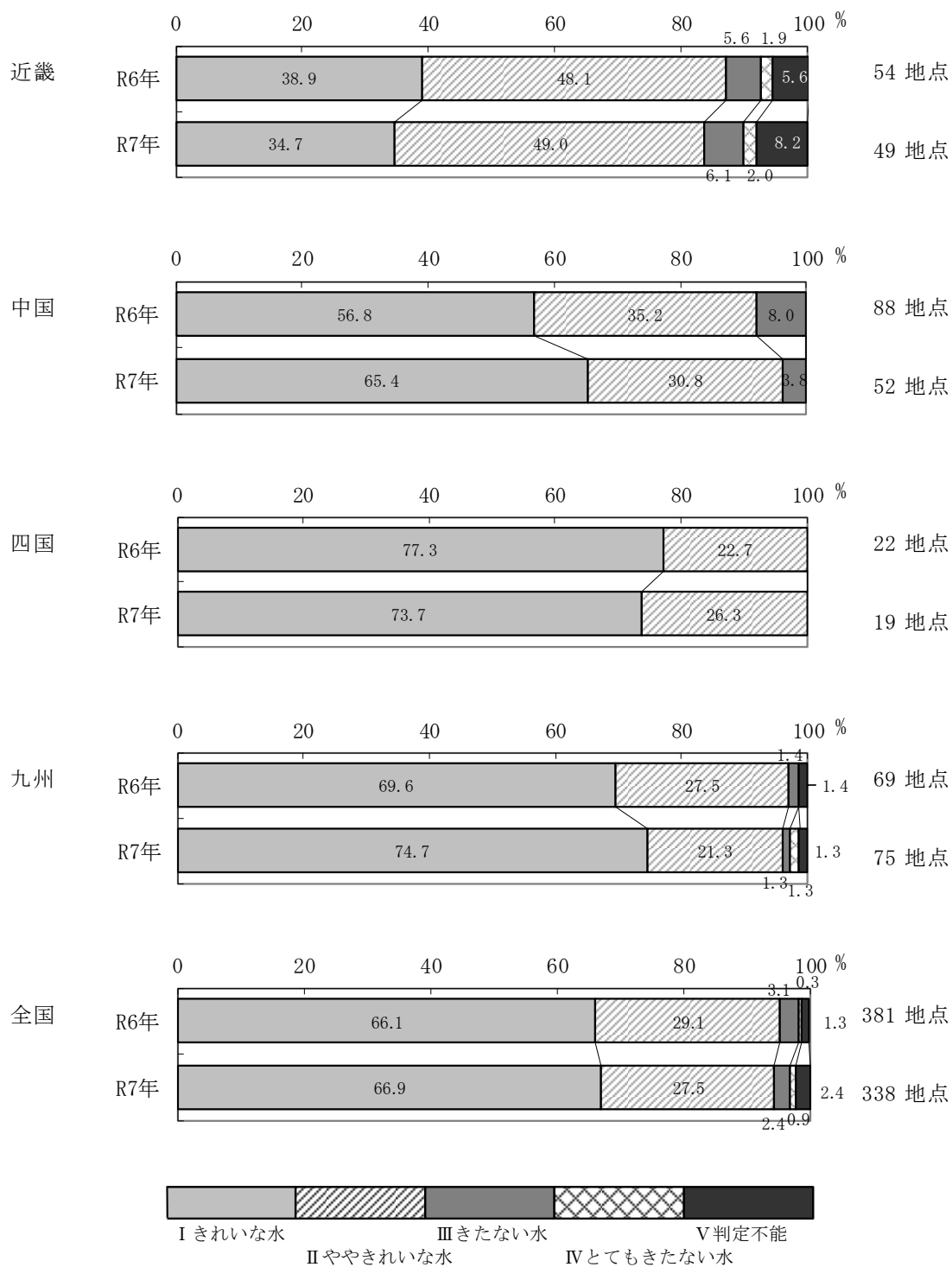


図- 23(2) 水生生物による水質調査結果（地点割合）

※地方別の値のとりまとめは、開発局及び各地方整備局の管内を集計単位とした。

また、水生生物における全地点の水質調査結果を図- 24に示す。

③調査の紹介

小学生による水生生物調査（最上川水系丹生川）

夏休みを前に、小学生による水生生物調査を実施しました。
丹生川にはどんな生き物がいるのか、川底や石の裏側にくっついてる生き物を捕まえて水質を調査しました。採集した水生生物は、きれいな水に生息するナミウズムシやヒラタカゲロウ類・カワゲラ類・ブユ類、ナガレトビケラ類が多く見つかりました。



参加した小学生からは、たくさんの感想をいただきました。

- 「いろいろな生物がいることがわかった。」
- 「バックテストで調べるのが楽しかった。」
- 「きれいな川ときたない川では生物が違うことに驚いた。」

調査のようすは、事務局が発行している広報誌でも紹介しています。



【担当部署】
東北地方整備局 新庄河川事務所

2) 今後の河川（湖沼）水質管理の指標（住民協働調査）

①河川（湖沼）水質管理の指標とは

国土交通省では、河川水質管理において、住民や利水者の河川水質・河川環境に対して多様化するニーズに応えるため、平成17年3月に「今後の河川水質管理の指標について（案）」を発表した。この「河川水質管理の指標」（今後の河川水質管理の指標）は、住民との協働による測定項目及び河川等管理者による測定項目からなり、平成17年度に全国規模で住民と協働で行う調査を試行し、平成18年より全ての一級河川を対象に本格的に実施している。

湖沼についても、平成22年3月に「今後の湖沼水質管理の指標について（案）」をとりまとめ、これに基づく調査が、同年より全国の湖沼を対象に実施されている。

さらに、令和6年8月には、「ふれあい」や「生態系保全」の観点から新たに設定された環境基準項目や基準値等の指標（案）への反映、及び住民との協働による水質調査の継続・充実を意図した指標（案）と利用方法の改良（簡素化）を行い、新たに「今後の河川（湖沼）水質管理の指標及び調査（案）【改定版】」としてとりまとめている。

今後の河川（湖沼）水質管理の指標（案）では、人と河川のふれあいや生態系への関心など、多様な視点で河川が捉えられるようになってきている現在の状況を鑑み、河川をBODだけでなく、以下の4つの視点で評価できるように検討されている。

○「人と河川の豊かなふれあいの確保」

水質に関係する分かりやすい指標(ごみの量、透視度、川底の感触、水の臭い、ふん便性大腸菌群数)により評価

○「豊かな生態系の確保」

水生生物の生息・生育・繁殖に関する指標(呼吸に支障が無いこと、毒性が無いこと、生物が生息していること)により評価

○「利用しやすい水質の確保」

上水利用・農業用水・工業用水・水産用水の利用に関する指標(トリハロメタン生成能、2-MIB、ジオスミン、NH₄-N)により評価

○「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」

下流部の富栄養化や閉鎖性水域(ダム・湖沼・湾)の富栄養化への影響に関する指標(T-N、T-P)により評価

②指標（案）の利用方法

指標（案）は、「住民との協働による測定項目」と「河川等管理者による測定項目」に分類して示し、各指標（案）を用いた水質評価が可能となるよう評価レベルを設定している。

これは環境基準の評価方法と同様、指標項目の測定結果を数段階に区分し（評価レベルの設定）、それぞれA、B、C等のランク付けによる評価を行うものである。評価レベル（案）を以下に示す^{注8}。（評価レベル（案）の設定根拠等の詳細は、「今後の河川（湖沼）水質管理の指標及び調査（案）」参照。）

■「河川等管理者による測定項目」の評価レベル（案）

○ふん便性大腸菌群数（人と河川の豊かなふれあいの確保）

川の水に触れることに対する安全性や誤飲に対する安全性を評価する際には、水浴場の水質判定基準に基づき、下記の評価レベル（案）での判定が考えられる。

【河川、湖沼共通】

ランク	説明	評価レベル
		ふん便性大腸菌群数 (個/100mL)
A	顔を川の水につけやすい	100 以下
B	川の中に入って遊びやすい	1000 以下
C	川の中には入れない	1000 を超えるもの

※「水浴場の水質判定基準（環境省）」に基づき、評価レベルを設定している。

※環境基準では、令和4年4月より、衛生的な安全性を示す指標について、「大腸菌群数」から「大腸菌」に見直しが行われている（水浴利用の基準値は300CFU/100mL以下（90%値））。

※このため、「水浴場の水質判定基準」の見直しについても今後の動向に留意する必要がある。

^{注8} 一般的に滞留水域の水質と滞留水域に流入する河川の水質は異なり、現状の知見では下流域への影響を与える河川水質濃度を評価することは困難であることから、「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」の視点では、評価項目や評価レベルは定めていない。

○D0、NH₄-N （豊かな生態系の確保） 【河川】

ランク	説明	評価項目と評価レベル		
		全国共通項目		地域特性項目
		D0(mg/L)	NH ₄ -N(mg/L)	水生生物の生息※)
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	・スコア法にて評価 ・ランクは地域独自に設定
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2.0以下	
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	

※) 水生生物の生息は流れのある瀬で調査を実施する。そのため、水生生物の生息はダム貯水池、湖沼、堰の湛水域には適用しない。

※) スコア法は各水系・河川での実施事例が少ないことから、ランク区分は地域独自に設定する。

【湖沼】

ランク	説明	評価項目と評価レベル			
		全国共通項目			地域特性項目
		底層D0 ^{※1} (mg/L)	NH ₄ -N ^{※2} (mg/L)	生物の生息 ^{※3} (各湖沼で設定)	当該湖沼・地点の特性や地域住民のニーズに応じて独自に設定
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	独自の評価レベル	・住民と共に独自に設定 ・文献等から設定
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	独自の評価レベル	
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2.0以下	独自の評価レベル	
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	独自の評価レベル	

※1) 底層D0の評価では、環境基準における底層D0の基準値（下表）も参照すること。

類型	水生生物が生息・再生産する場の適応性	底層D0基準値
生物1	生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域	4.0mg/L以上
生物2	生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が生息できる場を保全・再生する水域または再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域	3.0mg/L以上
生物3	生息段階において貧酸素耐性の高い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域、再生産段階において貧酸素耐性の高い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域又は無生物域を解消する水域	2.0mg/L以上

※2) 底層D0と同一の調査地点(採水位置)で測定すること。

※3) 生物の生息は全国共通で調査を実施するが、全国一律に指標種を選定することは相応しくないため、湖沼独自に指標種及び評価レベルを設定すること（「今後の河川（湖沼）水質管理の指標及び調査（案）（変更版）」参考資料(p82～）に、独自の指標および評価レベルの設定について考え方や設定例が示されている）。

○トリハロメタン生成能、大腸菌数、2-MIB、ジオスミン、NH₄-N
(利用しやすい水質の確保)
【河川、湖沼共通】

ランク	説明	評価項目と評価レベル				
		安全性		快適性		維持管理性
		トリハロメタン 生成能 (μ g/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)	2-MIB (ng/L)	ジオスミン (ng/L)	NH ₄ -N (mg/L)
A	より利用しやすい	100以下	100以下	5以下	10以下	0.1以下
B	利用しやすい		300以下	20以下	20以下	0.3以下
C	利用するためには高度な 処理が必要	100を超えるもの	1,000以下	20を超えるもの	20を超えるもの	0.3を超えるもの

■「住民との協働による測定項目」の評価レベル（案）

啓発や学習目的で、測定結果を評価する際の評価レベル（案）を示す。
これら評価は、環境基準等の評価とは異なり、定性的な評価方法である。

評価結果は調査地点の指標項目ごとのよい点、悪い点の評価や複数地点
の評価結果の比較等の目安として使用する。

○ごみの量、透視度、川底の感触、水の臭い（人と河川の豊かなふれあいの確保）

この評価方法は、啓発・学習用に水の快適性を評価する方法であり、衛
生的安全性（触れる、誤飲の安全性）を評価していないことに注意する必
要がある。

第二章 河川の水質現況
4. 住民参加による水質調査

【河川】

ランク	説明 ※5	評価項目と評価レベル※1)				
		全国共通項目				地域特性項目
		ごみの量	透視度 (cm)	川底の感触※3) 4)	水のおい	当該河川・地点の特性や 地域住民のニーズに応じ て独自に設定
A	川の水が快適である	川の中や水際に ごみは見あたらない または、ごみはある が全く気にならない	100以上※2)	快適である	不快でない	・住民と共に独自に設定 ・文献等から設定
B	川の水に不快感がない	川の中や水際に ごみは目につくが、 我慢できる	70以上	不快感がない		
C	川の水が不快である	川の中や水際に ごみがあって 不快である	30以上	不快である	水に鼻を近づけ ると不快な臭いを感じ る	
D	川の水に魅力がなく、 川に近づきにくい	川の中や水際に ごみがあって とても不快である	30未満		水に鼻を近づけ るととても不快な臭 いを感じる	

※1) 評価レベルについては、河川の状態や住民の感じ方によって異なるため、住民による感覚調査等を実施し、設定することが望ましい。
 ※2) 実際には100cmを超える水質レベルを設定すべきであり、今後の測定方法の開発が望まれる。
 ※3) 川底の感触とは、河床の礫に付着した有機物や藻類によるヌルヌル感を対象とする。
 そのため、川底の感触は、ダム貯水池、湖沼、堰の湛水域には適用しない。
 ※4) 感触の「不快感」については、各々以下のイメージである
 A：素足で入りたいと感じる B：履物があれば入りたいと感じる C：履物をはいても入りたくない
 ※5) この評価方法は、啓発・学習用に水の快適性を評価する方法であり、衛生的安全性（触れる、誤飲の安全性）を評価
 していないことに注意すること。

【湖沼】

ランク	説明	評価項目と評価レベル※1)					
		全国共通項目				地域特性項目	
		ごみの量	透視度 (cm)	湖底の感触※2) , 3)	水におおい	アオコ発生	
A	水が快適である	湖沼の中や水際に ごみは見あたらない または、ごみはあるが 全く気にならない	50以上	快適である	不快でない	アオコは確認でき ない	当該湖沼・地点の特性 や地域住民のニーズ に応じて独自に設定
B	水に不快感がない	湖沼の中や水際に ごみは目につくが、 我慢できる	25以上	不快感が無い		肉眼では水面にア オコが確認できな いが、水をくんで 肉眼でよく見ると 確認できる	
C	水が不快である	湖沼の中や水際に ごみがあって 不快である	25未満	不快である	水に鼻を近づけ て不快なおい を感じる	アオコがうっすら と筋状に発生して いて、水面にわず かに散らばり肉眼 で確認できる	
D	湖沼の水に魅力が なく、湖沼に近づ きにくい	湖沼の中や水際に ごみがあって とても不快である			水に鼻を近づけ てとても不快な においを感じる	アオコが湖面や湖 岸の表面を広く覆 い、かたまりもで きている	

※1) 評価レベルについては、湖沼の状態や住民の感じ方によって異なるため、住民による感覚調査等を実施し、設定することが望ましい。
 ※2) 水の中に入れない地点（水と直接ふれあう利用を重視しない地点）では実施しない。
 ※3) 感触の「不快感」については、各々以下のイメージである
 A：素足で入りたいと感じる B：履物をはけば入りたいと感じる C：履物をはいても入りたくない
 ※4) この評価方法は、啓発・学習用に水の快適性を評価する方法であり、衛生的安全性（触れる、誤飲の安全性）
 を評価していないことに注意すること。

○簡易D0、簡易NH₄-N、水生生物の生息（豊かな生態系の確保）

この評価方法は、「豊かな生態系の確保」の観点から、啓発・学習用に河川水質を評価する方法であり、簡易的な測定方法を用いることから測定精度が劣るため、測定値は参考値として扱う必要がある。

【河川】

ランク	説明	評価項目と評価レベル			
		全国共通項目			地域特性項目
		簡易 D0 (mg/L)	簡易 NH ₄ -N (mg/L)	水生生物の生息*)	当該河川・地点の特性や 地域住民のニーズに応じて 独自に設定
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	I. きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビゲラ等	・住民と共に独自に設定 ・文献等から設定
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	II. 少しきたない水 ・ゴガシマトビゲラ ・オオシマトビゲラ等	
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2.0以下	III. きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ等	
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	IV. 大変きたない水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ等	

*) 水生生物の生息は流れのある瀬で調査を実施する。そのため、水生生物の生息はダム貯水池、湖沼、堰の湛水域には適用しない。

*) 簡易D0、簡易NH₄-Nは、測定精度が劣るため、測定値は参考値として扱う必要がある。

【湖沼】

ランク	説明	評価項目と評価レベル			
		全国共通項目			地域特性項目
		簡易D0※1※2 (mg/L)	簡易NH ₄ -N※1※2 (mg/L)	生物の生息※3 (各湖沼で設定)	当該湖沼・地点の特性や 地域住民のニーズに応じて 独自に設定
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	独自の評価レベル	・住民と共に独自に設定 ・文献等から設定
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	独自の評価レベル	
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2.0以下	独自の評価レベル	
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	独自の評価レベル	

※1) 可能であれば底層の湖沼水の測定が望ましい（基本的に住民による採水が困難であることから、住民協働調査時は、河川管理者が採水し住民に提供する）。

※2) 簡易D0、簡易NH₄-Nは、測定精度が劣るため、測定値は参考値として扱う必要がある。

※3) 生物の生息は全国共通で調査を実施するが、全国一律に指標種を選定することは相応しくないため、湖沼独自に指標種及び評価レベルを設定すること（「今後の河川（湖沼）水質管理の指標及び調査（案）（変更版）」参考資料(p82～）に、独自の指標および評価レベルの設定について考え方や設定例が示されている）。

③調査の紹介

総合学習で「フィールド授業」を開催（球磨川水系川辺川）

小学校の児童の皆さんと、川辺川の支流の白木谷川の水生生物や水質を学ぶ「川辺川アカデミア特別授業」を相良村廻地区で開催しました。子供たちは、川の風景・生きもの・水質を学び、川で遊ぶ際の注意点について説明を受けたあと、透視度計などを用いた水質検査や川に入って生き物の採取・観察を行いました。



➤ 地図を使って川と周りの土地利用を学ぶ（左）

➤ 若手職員による川の安全の丁寧な指導（右）



➤ 水生生物調査（左）

➤ 透視度計やパックテストを用いた簡易水質検査（右）

参加した小学生に、授業の感想をアンケートしました。
「とても勉強になった」、「とても楽しかった」との感想も多くいただきました。また、先生に、今後の連携授業の可能性・改善点についてお聞きしました。

●小学生の感想

サワガニはきれいな水の中で生きている。

- 川辺川の水は、日本一きれいなことを初めて知りました。
- 水のきれいさの実験で色が変わったこと。
- 生き物と森が川辺川をきれいにしていることを知った。（アンケートより）

●先生の声、今後の連携授業の可能性・改善点

- 人と自然、人と川の関わりについてもっと知りたいから。
- 生き物の住みか作り、してみたかった。（アンケートより）

小学生からいただいたお手紙

川辺川で水生生物の調べと水質の調べを
学んでくれてありがとうございます。
ぼくは、あみで生き物をつかまふときは、
川がながれているとき、川のほとりに生えている
草や木に近づくと、水質の調べが
できるようになることが分
りました。

川辺川で水生生物の調べと水質の
調べを学んでくれてありがとうございます。
ぼくは、あみで生き物をつかまふときは、
川がながれているとき、川のほとりに生えている
草や木に近づくと、水質の調べが
できるようになることが分
りました。それから川
辺川に遊びに来たい
です。

「川辺川アカデミア特別授業」
のようすは、事務所のウェブサ
イトでも紹介しています。

【担当部署】
九州地方整備局 川辺川ダム砂防事務所

3) 身近な水環境の全国一斉調査

①身近な水環境の全国一斉調査

河川や水辺など身近な水環境の保全や再生に関する市民の意識が高まる中、1980年代半ばから、市民や学校の子供たちによる身近な川の一斉調査が多摩川・荒川の流域や霞ヶ浦・琵琶湖の流域など全国各地で行われてきた。しかし、当初は調査の方法、項目の不統一、測定精度が保証されないなどの問題点があり、市民調査の有効活用は難しい状況であった。

統一的な調査マニュアルが作成され、これに基づいた一斉調査として「身近な水環境の全国一斉調査」が実施されるようになったのは平成16年からであり、その後毎年、市民団体等が協働で全国の河川や水辺など身近な水環境の水質を一斉に調査し、「全国水環境マップ」としてとりまとめた結果を公表している。

本調査は6月の世界環境デーを中心に実施しており、様々な地点で水質調査を行うことで流域や全国の水環境の保全を考えるきっかけを作ることや、市民が継続的に調査を行うことで水環境の変化やその原因を明らかにすること、同時期に全国の河川で一斉に水質を測ることで全国の市民と連携の意識をもつことなどを目的としている。

①調査のまとめ

令和7年の調査の概要は以下のとおりである。

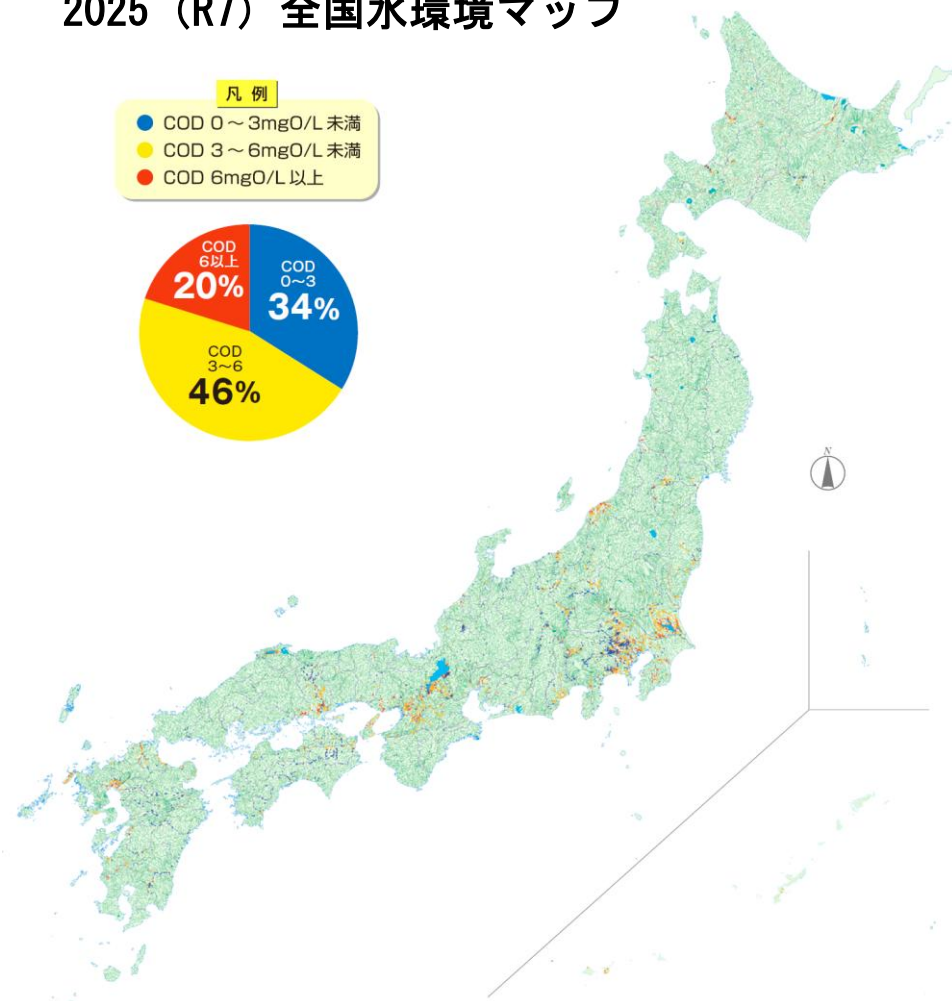
表- 24 身近な水環境の全国一斉調査の概要

	全国統一日に 実施された調査	国内で実施された 全ての調査	備考
調査日	令和7年6月8日(日) を中心に実施	令和7年5月15日 ～7月13日	—
参加団体数	281団体 (個人参加含む)	579団体	令和6年は 578団体
調査地点数	1,461地点	4,612地点	令和6年は 4,433地点

全国の水質調査の結果は、COD0～3mg/L未満の地点が約34%、3～6mg/L未満は約46%、6mg/L 以上は約20%という結果となった。なお、渇水等で採水できなかった地点は33地点あった。

令和7年の全国水環境マップ及び本調査が開始された平成16年の全国水環境マップを図- 25に示す。

2025 (R7) 全国水環境マップ



2004 (H16) 全国水環境マップ

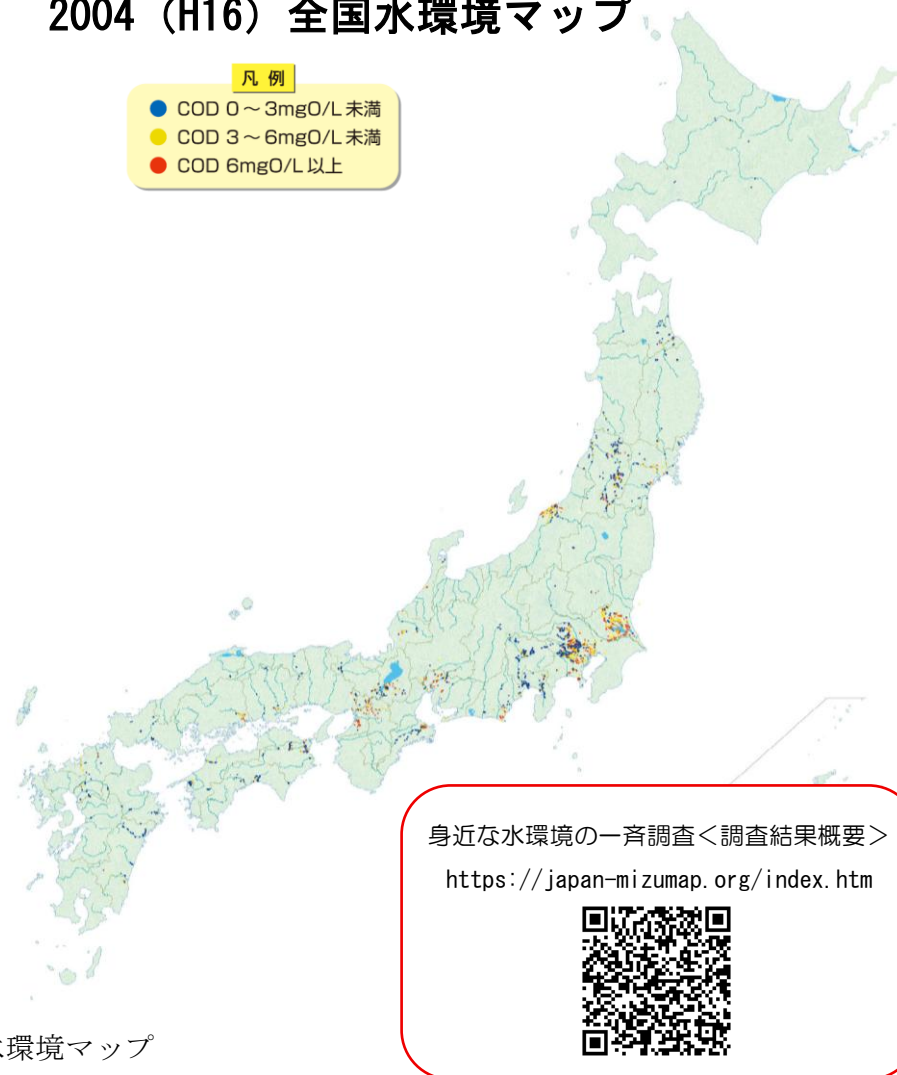


図- 25 全国水環境マップ

5. 水質事故等の状況

(1) 水質事故とは

水質事故とは、河川への廃棄物の不法投棄、工場等における機器等の破損や人為的な誤操作に起因する油類や化学物質の流出による事故のことを指す。

油類や化学物質が流出することで、魚など多くの水生生物が死に、水道用水の河川から取水ができなくなるなど、大きな被害をもたらすことがあり、河川における水質事故は、河川管理上重要な課題となっている。

(2) 水質事故の発生状況

過去10か年の水質事故発生件数の経年変化を図- 26に示す。令和7年1月～令和7年12月に一級水系で発生した水質事故は636件であり、令和6年より約44件増加した。令和7年は1週間に約12件の頻度で水質事故が発生したことになる。

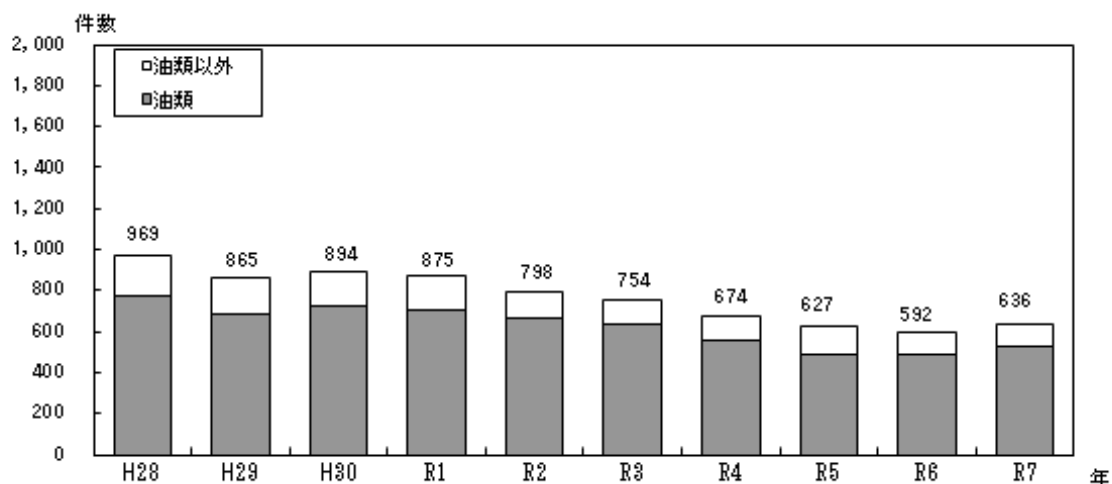


図- 26 一級河川における水質事故発生件数の経年変化

また、上水道の取水停止を伴った水質事故は7件発生した。上水道の取水停止を伴う事故発生件数の推移を図- 27に示す。

上水道の取水停止を伴わない水質事故の発生件数については近年減少傾向である。一方、上水道の取水停止を伴った水質事故の発生件数は、平成30年に5件で最小となった後増加し、令和3年にピークを迎え14件となっている。

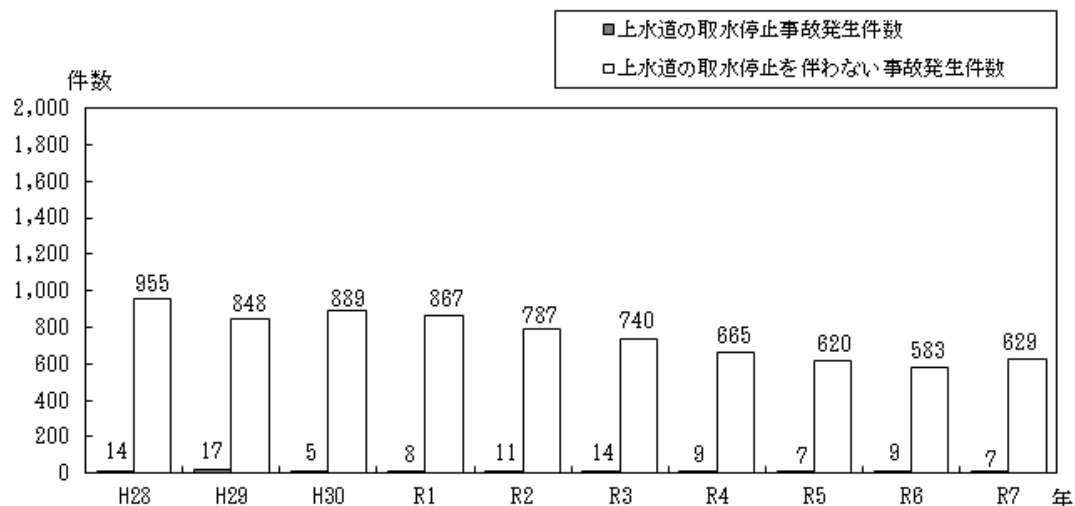


図- 27 水質事故発生件数と上水道の取水停止事故発生件数の推移

事故の内容を原因物質別にみると、図- 28に示すように油類の流出が全体の約84%と最も多い。

なお、自然現象による魚の斃死等は、水質事故発生件数に含めていないが、令和7年には16件発生しており、令和6年の17件より1件減少した。

水質事故の原因物質による分類

- ①油類…………… 重油、軽油、ガソリン等の流出
- ②化学物質…………… シアン、有機溶剤、農薬等の流出
- ③油類、化学物質以外…… 土砂、糞尿等の流出
- ④その他…………… 自然現象ではなく、魚の浮上死等が確認され、原因物質が特定できなかったもの及びコイヘルペス

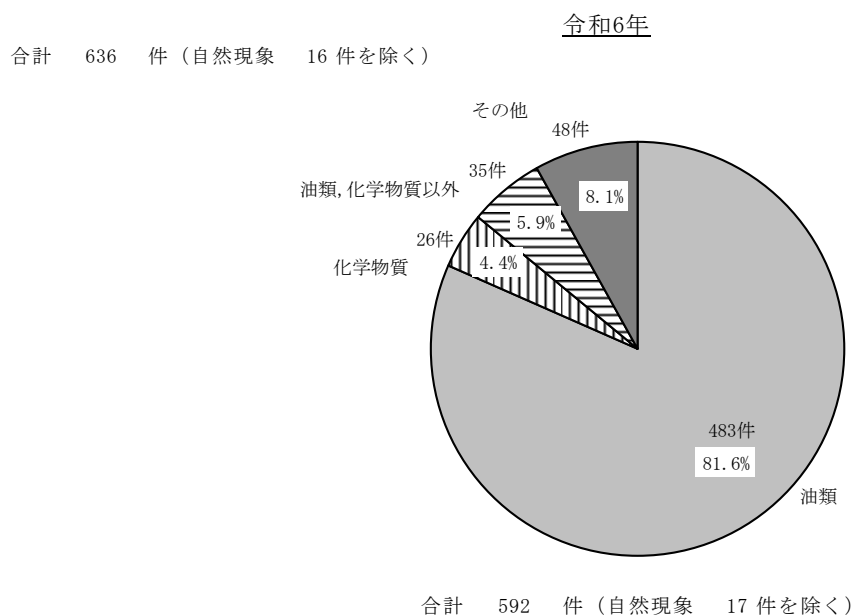
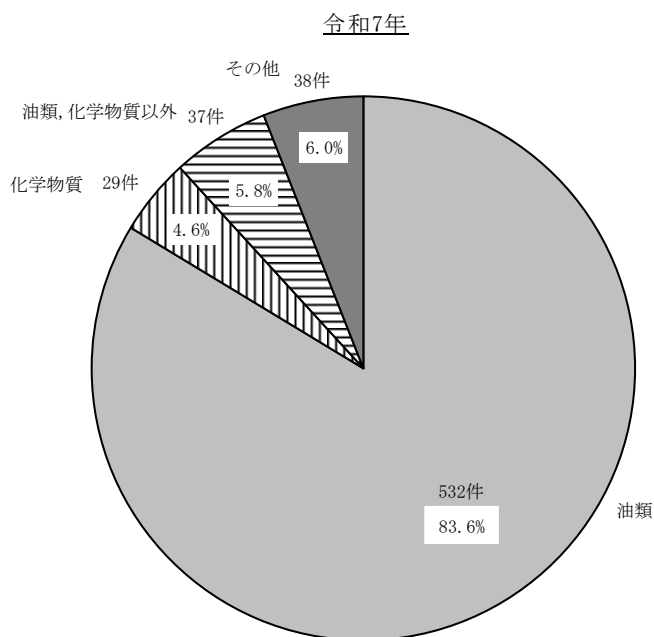


図- 28 原因物質別水質事故発生件数

※自然現象とは渇水が原因の酸欠による魚の斃死等、人間の活動が直接の原因でないものとする。

(3) 水質汚濁防止連絡協議会

水質事故対策に関しては、それぞれの河川で関係機関が相互に情報の交換を行うとともに、緊急事態が発生した場合に即応できるように、連絡体制を確立しておくことが極めて重要である。

全国の一級河川109水系においては、河川管理者と関係行政機関により構成される「水質汚濁防止連絡協議会」を設立し、水質事故対策訓練の実施、水質事故時における情報の収集・伝達、緊急措置等に関する協力体制の確保等を行っている。

第三章 河川の水環境改善のための事業及び施策

国土交通省は、一級河川の水質調査に着手した昭和 33 年に、最初の河川水質浄化対策となる隅田川の汚泥浚渫事業を実施し、また昭和 34 年には同じく隅田川で浄化用水導入事業に着手した。昭和 44 年度には、都市河川を対象とする「都市河川環境整備事業」制度を創設し、昭和 49 年度からは対象河川を全国に拡大した「河川環境整備事業」により、河川の水環境改善を図ってきた。

ダムにおいては、貯水池への土砂流入防止や富栄養化対策を実施するダム貯水池水質保全対策等を実施している。

平成 17 年度からは、上流ダムにおける環境整備と河川における環境整備を連携することにより水系として総合的に整備を行う「総合水系環境整備事業」を創設し、水環境改善等を各水系において水系一貫で実施している。

1. 水質浄化対策等

水環境の悪化が著しい全国の河川等においては、地方公共団体、河川管理者、下水道管理者等の関係機関が連携し、河川における水質浄化や下水道等の生活排水対策などの水質改善の取組を実施している。

河川における水質浄化対策としては、水量が少なく汚濁した河川に対して清浄な河川水や下水の高度処理水を導入する「浄化導水」、河床・湖底に堆積した底泥からの悪臭や栄養塩類の溶出を防ぐ「浚渫」や「覆砂」、植生帯を整備し生態系の持つ自然浄化機能を活用する「植生浄化」などを「総合水系環境整備事業」（国管理河川）等により実施している。

また、水質汚濁の著しいダム貯水池においても、富栄養化や濁水等の防止・軽減を図るため、ばっ気施設の設置等による水質対策を実施している。

さらに、水環境の悪化が激しい河川等においては、「水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンス）」等により、河川管理者や下水道管理者、地方公共団体や地域住民等を含めた流域の関係者が一体となって水質改善の取組を進めている。

2. 河川水量の回復

良好な河川環境を保全するには、豊かな河川水量の確保が必要である。このため、河川整備基本方針等において動植物の生息・生育環境、景観、水質等を踏まえた必要流量を定め、この確保に努めているほか、水力発電所のダム等の下流の減水区間における清流回復の取組を進めている。また、ダム下流の河川環境を保全・改善するため、洪水調節に支障を及ぼさない範囲で洪水調節容量の一部を有効に活用するダムの弾力的管理及び弾力的管理試験を行っている。さらに、平常時の自然流量が減少した都市内河川では、下水処理場の処理水の送水等により、河川流量の回復に取り組んでいる。

3. 湖沼の水質保全

湖沼は滞留時間が長く、流入した汚濁物質が堆積しやすいこと、汚濁原因が多種多様であることから、多様な水質汚濁対策を総合的に実施する必要があるため、湖沼の水質の保全を図り、国民の健康で文化的な生活環境を確保することを目的に、「湖沼水質保全特別措置法」（昭和 59 年法

律第 61 号) が制定された。

また、平成 17 年 6 月には、法施行後 20 年以上が経過してもなお湖沼の水質改善が停滞していることを踏まえ、より一層の水質改善を図るため、湖沼水質保全特別措置法が改正された。この改正により、「流出水対策地区」の指定による農地・市街地から流出する汚濁負荷対策の推進、排水規制の強化、「湖辺環境保護地区」の指定による水質浄化機能の確保等が図られることとなった。本法律に基づき、国は湖沼水質保全基本方針を定めるとともに、総合的な水質保全施策を講ずるべき「指定湖沼」を定め、都道府県は当該指定湖沼について「湖沼水質保全計画」を定めることとされている。湖沼水質保全計画の策定状況を表- 25 に示す。

表- 25 湖沼水質保全計画の策定状況一覧（令和 8 年 3 月現在）

湖沼名	指定年月 [施行]	計画名	計画策定年月	目標年度
八郎湖	平成 19 年 12 月	八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第 4 期）	令和 8 年 3 月	令和 16 年度
釜房ダム貯水池	昭和 62 年 10 月	釜房ダム貯水池湖沼水質保全計画（第 7 期）	令和 5 年 3 月	令和 13 年度
霞ヶ浦	昭和 60 年 12 月	霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画（第 8 期）	令和 4 年 3 月	令和 7 年度
印旛沼	昭和 60 年 12 月	印旛沼に係る湖沼水質保全計画（第 8 期）	令和 4 年 3 月	令和 7 年度
手賀沼	昭和 60 年 12 月	手賀沼に係る湖沼水質保全計画（第 8 期）	令和 4 年 3 月	令和 7 年度
諏訪湖	昭和 61 年 11 月	諏訪湖に係る第 8 期湖沼水質保全計画	令和 5 年 3 月	令和 8 年度
野尻湖	平成 6 年 10 月	野尻湖に係る水質保全計画（第 7 期）	令和 7 年 3 月	令和 10 年度
琵琶湖	昭和 60 年 12 月	第 8 期琵琶湖に係る湖沼水質保全計画	令和 4 年 3 月	令和 7 年度
中海	平成元年 2 月	中海に係る湖沼水質保全計画（第 8 期）	令和 7 年 3 月	令和 10 年度
宍道湖	平成元年 2 月	宍道湖に係る湖沼水質保全計画（第 8 期）	令和 7 年 3 月	令和 10 年度
児島湖	昭和 60 年 12 月	児島湖に係る第 8 期湖沼水質保全計画	令和 4 年 3 月	令和 7 年度

参 考 資 料

参考資料 1	一級河川の流量状況	-----	74
参考資料 2	各種基準値（指針値）一覧※	-----	75
参考資料 3	環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）	--	87
参考資料 4	一級河川の全調査地点の水質	-----	92
参考資料 5	一級河川の水質状況図	-----	102
参考資料 6	ダイオキシン類の調査結果	-----	111
参考資料 7	「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧	-----	124
参考資料 8	水生生物調査結果図	-----	128
参考資料 9	主な水質項目の性質	-----	140

※令和8年3月時点

参考資料 1 一級河川の流量状況

	令和7年 (A)	令和6年 (B)	最近10か年 平均 (C)	令和7年の傾向	
				(A)/(B) × 100%	(A)/(C) × 100%
基準地点における 年間総流出量の合計 (億m ³)	2,243	2,384	2,437	94	92
北海道	473.36	356.19	414.61	133	114
東北	522.73	496.71	494.91	105	106
関東	99.31	154.88	155.00	64	64
北陸	516.49	428.81	395.82	120	130
中部	156.85	265.66	244.14	59	64
近畿	55.85	102.51	110.51	54	51
中国	167.60	209.23	193.65	80	87
四国	75.92	130.62	146.38	58	52
九州	174.62	239.05	281.71	73	62
基準地点における 低水流量の合計 (m ³ /s)	3,788	3,757	3,733	101	101

- 備考 1. 国土交通省で実施している流量観測結果に基づく。
2. 低水流量：一年を通じて275日はこれを下らない流量。
3. 令和7年の年間総流出量及び低水流量の合計値は速報値である。
4. 最近10か年平均値は平成27年から令和6年の平均値である。
5. 参考資料で地方別の値のとりまとめは、開発局及び各地方整備局の管内を
集計単位とした。

参考資料 2 (1) 人の健康の保護に関する環境基準
環境基準項目及び基準値

項 目 名	基準値	備 考
カドミウム	0.003 mg/ℓ以下	1. 基準値は年間平均値とする。 ただし全シアンに係る基準値については最高値とする。
全シアン	検出されないこと	
鉛	0.01 mg/ℓ以下	
六価クロム	0.02 mg/ℓ以下	
砒素	0.01 mg/ℓ以下	2. 「検出されないこと」とは定められた測定方法により測定した場合において、その結果が定量限界を下回ることをいう。
総水銀	0.0005 mg/ℓ以下	
アルキル水銀	検出されないこと	
P C B	検出されないこと	
ジクロロメタン	0.02 mg/ℓ以下	3. 海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。
四塩化炭素	0.002 mg/ℓ以下	
1, 2-ジクロロエタン	0.004 mg/ℓ以下	
1, 1-ジクロロエチレン	0.1 mg/ℓ以下	
シス-1, 2-ジクロロエチレン	0.04 mg/ℓ以下	4. 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。
1, 1, 1-トリクロロエタン	1 mg/ℓ以下	
1, 1, 2-トリクロロエタン	0.006 mg/ℓ以下	
トリクロロエチレン	0.01 mg/ℓ以下	
テトラクロロエチレン	0.01 mg/ℓ以下	
1, 3-ジクロロプロペン	0.002 mg/ℓ以下	
チウラム	0.006 mg/ℓ以下	
シマジン	0.003 mg/ℓ以下	
チオベンカルブ	0.02 mg/ℓ以下	
ベンゼン	0.01 mg/ℓ以下	
セレン	0.01 mg/ℓ以下	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10 mg/ℓ以下	
ふっ素	0.8 mg/ℓ以下	
ほう素	1 mg/ℓ以下	
1, 4-ジオキサン	0.05 mg/ℓ以下	
		平成21年11月追加

参考資料 2 (2) 生活環境の保全に関する環境基準 (1/8)

河川（湖沼を除く。）：生物化学的酸素要求量（BOD）

項目 類型	利用目的の適応性	基準値				
		水素イオン 濃度 (PH)	生物化学的酸素 要求量 (BOD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌数
AA	水道 1 級、自然環境保全及び A 以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	20CFU/ 100ml以下
A	水道 2 級、水産 1 級、水浴及び B 以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	300CFU/ 100ml以下
B	水道 3 級、水産 2 級及び C 以下 の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	1,000CFU/ 100ml以下
C	水産 3 級、工業用水 1 級及び D 以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/ℓ 以下	50mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	—
D	工業用水 2 級、農業用水及び E の欄に掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/ℓ 以下	100mg/ℓ 以下	2mg/ℓ 以上	—
E	工業用水 3 級、環境保全	6.0以上 8.5以下	10mg/ℓ 以下	ごみ等の浮遊が認 められないこと。	2mg/ℓ 以上	—

※赤枠は全国水質現況取りまとめにおいて対象とする項目

備 考 1. 基準値は日間平均値とする。ただし、大腸菌数に係る基準値については、90%
水質値（年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順に並べた際の
0.9×n 番目（n は日間平均値のデータ数）のデータ値（0.9×n が整数でない場
合は端数を切り上げた整数番目の値をとる。）とする（湖沼、海域もこれに準ず
る。）。)

- (注) 1. 自然環境保全： 自然探勝等の環境保全
2. 水 道 1 級： ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
- 水 道 2 級： 沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
- 水 道 3 級： 前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
3. 水 産 1 級： ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産 2 級
及び水産 3 級の水産生物用
- 水 産 2 級： サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産 3
級の水産生物用
- 水 産 3 級： コイ、フナ等、β－中腐水性水域の水産生物用
4. 工業用水 1 級： 沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
- 工業用水 2 級： 薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
- 工業用水 3 級： 特殊の浄水操作を行うもの
5. 環 境 保 全： 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を
生じない限度

参考資料 2 (2) 生活環境の保全に関する環境基準 (2/8)

河川（湖沼を除く。）：全亜鉛、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値		
		全亜鉛	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	ノニルフェノール
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ以下	0.03mg/ℓ以下	0.001mg/ℓ以下
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ以下	0.02mg/ℓ以下	0.0006mg/ℓ以下
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ以下	0.05mg/ℓ以下	0.002mg/ℓ以下
生物特B	生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ以下	0.04mg/ℓ以下	0.002mg/ℓ以下

備考 1. 基準値は、年間平均値とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）

参考資料 2 (2) 生活環境の保全に関する環境基準 (3/8)

湖沼（天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖）：化学的酸素要求量（COD）

項目 類型	利用目的の適応性	基準値				
		水素イオン 濃度 (PH)	化学的酸素要求量 (COD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌数
AA	水道1級、水産1級、自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/ℓ 以下	1mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	20CFU/ 100ml以下
A	水道2、3級、水産2級、水浴及びB以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	300CFU/ 100ml以下
B	水産3級、工業用水1級、農業用水及びCの欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/ℓ 以下	15mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	—
C	工業用水2級、環境保全	6.0以上 8.5以下	8mg/ℓ 以下	ごみ等の浮遊が認められないこと。	2mg/ℓ 以上	—

※赤枠は全国水質現況取りまとめにおいて対象とする項目

- (注) 1. 自然環境保全： 自然探勝等の環境保全
2. 水道 1級： ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
水道2、3級： 沈殿ろ過等による通常の浄水操作、又は、前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
3. 水産 1級： ヒメマス等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
水産 2級： サケ科魚類及びアユ等貧栄養湖型の水域の水産生物並びに水産3級の水産生物用
水産 3級： コイ、フナ等富栄養化型の水域の水産生物用
4. 工業用水1級： 沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
工業用水2級： 薬品注入等による高度の浄水操作、又は、特殊な浄水操作を行うもの
5. 環境保全： 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

参考資料 2 (2) 生活環境の保全に関する環境基準 (4/8)

湖沼（天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖）：全窒素、全リン

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基準値	
		全窒素	全リン
I	自然環境保全及び II以下の欄に掲げるもの	0.1mg/ℓ 以下	0.005mg/ℓ 以下
II	水道1、2、3級(特殊なものを除く) 水産1種 水浴及びIII以下の欄に掲げるもの	0.2mg/ℓ 以下	0.01mg/ℓ 以下
III	水道3級（特殊なもの）及び IV以下の欄に掲げるもの	0.4mg/ℓ 以下	0.03mg/ℓ 以下
IV	水産2種及び Vの欄に掲げるもの	0.6mg/ℓ 以下	0.05mg/ℓ 以下
V	水産3種 工業用水 農業用水 環境保全	1mg/ℓ 以下	0.1mg/ℓ 以下

- 備 考 1. 基準値は、年間平均値とする。
2. 水域類型の指定は、湖沼植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある湖沼について行うものとし、全窒素の項目の基準値は、全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼について適用する。
3. 農業用水については、全リンの項目の基準値は適用しない。

- (注) 1. 自然環境保全： 自然探勝等の環境保全
2. 水 道 1級： ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
- 水 道 2級： 沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
- 水 道 3級： 前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの（「特殊なもの」とは、臭気物質の除去が可能な特殊な浄水操作を行うものをいう。）
3. 水 産 1種： サケ科魚類及びアユ等の水産生物並びに水産2種及び水産3種の水産生物用
- 水 産 2種： ワカサギ等の水産生物用及び水産3種の水産生物用
- 水 産 3種： コイ、フナ等の水産生物用
4. 環 境 保 全： 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

参考資料 2 (2) 生活環境の保全に関する環境基準 (5/8)

湖沼（天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖）：全亜鉛、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩、ノニルフェノール

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値		
		全亜鉛	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	ノニルフェノール
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ以下	0.03mg/ℓ以下	0.001mg/ℓ以下
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ以下	0.02mg/ℓ以下	0.0006mg/ℓ以下
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ以下	0.05mg/ℓ以下	0.002mg/ℓ以下
生物特B	生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ以下	0.04mg/ℓ以下	0.002mg/ℓ以下

参考資料 2 (2) 生活環境の保全に関する環境基準 (6/8)
海域：化学的酸素要求量 (COD)

項目 類型	利用目的の適応性	基準値				
		水素イオン 濃度 (PH)	化学的酸素要求量 (COD)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌数	n—ヘキサン 抽出物質 (油分等)
A	水道1級、水浴、自然環境保全及びB 以下の欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	2mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	20CFU/ 100ml以下	検出されな いこと。
B	水産2級、工業用水及びC の欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	3mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	—	検出されな いこと。
C	環境保全	7.0以上 8.3以下	8mg/ℓ 以下	2mg/ℓ 以上	—	—

※赤枠は全国水質現況取りまとめにおいて対象とする項目

- (注) 1. 自然環境保全： 自然探勝等の環境保全
2. 水 産 1級： マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及
び水産2級の水産生物用
- 水 産 2級： ボラ、ノリ等の水産生物用
3. 環 境 保 全： 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）
において不快感を生じない限度

参考資料 2 (2) 生活環境の保全に関する環境基準 (7/8)

海域：全窒素、全リン

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基準値	
		全窒素	全リン
I	自然環境保全及びⅡ以下の欄に掲げるもの （水産2種及び3種を除く）	0.2mg/ℓ 以下	0.02mg/ℓ 以下
Ⅱ	水産1種 水浴及びⅢ以下の欄に掲げるもの（水産2 種および3種を除く。）	0.3mg/ℓ 以下	0.03mg/ℓ 以下
Ⅲ	水産2種及びⅣの欄に掲げるもの（水産3種 を除く。）	0.6mg/ℓ 以下	0.05mg/ℓ 以下
Ⅳ	水産3種 工業用水 生物生息環境保全	1mg/ℓ 以下	0.09mg/ℓ 以下

- 備 考 1. 基準値は、年間平均値とする。
2. 水域類型の指定は、海洋植物プランクトンの著しい増殖を生ずる恐れのある海域に
ついて行うものとする。

- (注) 1. 自然環境保全： 自然探勝等の環境保全
2. 水 産 1 種： 底生魚介類を含めたような水産生物がバランス良く、かつ
安定して漁獲される
水 産 2 種： 一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多
獲される
水 産 3 種： 汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される
3. 生物生息環境保全： 年間を通して底生生物が生息できる限度

参考資料 2 (2) 生活環境の保全に関する環境基準 (8/8)

海域：全亜鉛、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩、ノニルフェノール

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値		
		全亜鉛	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	ノニルフェノール
生物A	水生生物の生息する水域	0.02mg/ℓ以下	0.01mg/ℓ以下	0.001mg/ℓ以下
生物特A	生物Aの水域のうち、水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.01mg/ℓ以下	0.006mg/ℓ以下	0.0007mg/ℓ以下

参考資料 2 (3) 人の健康の保護に係る要監視項目及び指針値

項 目 名	指 針 値	備 考
イソキサチオン	0.008 mg/ℓ以下	
ダイアジノン	0.005 mg/ℓ以下	
フェニトロチオン (ME P)	0.003 mg/ℓ以下	
イソプロチオラン	0.04 mg/ℓ以下	
オキシ銅 (有機銅)	0.04 mg/ℓ以下	
クロタロニル (T P N)	0.05 mg/ℓ以下	
プロピザミド	0.008 mg/ℓ以下	
E P N	0.006 mg/ℓ以下	
ジクロロボス (DD V P)	0.008 mg/ℓ以下	
フェノブカルブ (B P M C)	0.03 mg/ℓ以下	
イプロベンホス (I B P)	0.008 mg/ℓ以下	
クロルニトロフェン (C N P)	—	
クロロホルム	0.06 mg/ℓ以下	
トランス-1, 2-ジクロロエチレン	0.04 mg/ℓ以下	
1, 2-ジクロロプロパン	0.06 mg/ℓ以下	
p-ジクロロベンゼン	0.2 mg/ℓ以下	
トルエン	0.6 mg/ℓ以下	
キシレン	0.4 mg/ℓ以下	
フタル酸ジエチルヘキシル	0.06 mg/ℓ以下	
ニッケル	—	
モリブデン	0.07 mg/ℓ以下	
アンチモン	0.02 mg/ℓ以下	
塩化ビニルモノマー	0.002 mg/ℓ以下	平成16年3月追加
エピクロロヒドリン	0.0004 mg/ℓ以下	
全マンガン	0.2 mg/ℓ以下	〃
ウラン	0.002 mg/ℓ以下	〃
ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	0.00005mg/ℓ以下※	〃
及びペルフルオロオクタン酸 (PFOA)		令和2年5月追加

※PFOS及びPFOAの合計値とする。

参考資料 2 (4) 水生生物の保全に係る要監視項目及び指針値

項目	水域	類型	指針値
クロロホルム	河川及び湖沼	生物 A	0.7mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.006mg/ℓ 以下
		生物 B	3mg/ℓ 以下
		生物特 B	3mg/ℓ 以下
	海域	生物 A	0.8mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.8mg/ℓ 以下
フェノール	河川及び湖沼	生物 A	0.05mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.01mg/ℓ 以下
		生物 B	0.08mg/ℓ 以下
		生物特 B	0.01mg/ℓ 以下
	海域	生物 A	2mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.2mg/ℓ 以下
ホルムアルデヒド	河川及び湖沼	生物 A	1mg/ℓ 以下
		生物特 A	1mg/ℓ 以下
		生物 B	1mg/ℓ 以下
		生物特 B	1mg/ℓ 以下
	海域	生物 A	0.3mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.03mg/ℓ 以下
4-tert-オクチルフェノール	河川及び湖沼	生物 A	0.001mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.0007mg/ℓ 以下
		生物 B	0.004mg/ℓ 以下
		生物特 B	0.003mg/ℓ 以下
	海域	生物 A	0.0009mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.0004mg/ℓ 以下
アニリン	河川及び湖沼	生物 A	0.02mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.02mg/ℓ 以下
		生物 B	0.02mg/ℓ 以下
		生物特 B	0.02mg/ℓ 以下
	海域	生物 A	0.1mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.1mg/ℓ 以下
2,4-ジクロロフェノール	河川及び湖沼	生物 A	0.03mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.003mg/ℓ 以下
		生物 B	0.03mg/ℓ 以下
		生物特 B	0.02mg/ℓ 以下
	海域	生物 A	0.02mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.01mg/ℓ 以下

参考資料 2 (5) ダイオキシン類の環境基準値

地点	環境基準値
水質	1.0pg-TEQ/ℓ
底質	150pg-TEQ/g

参考資料 3 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）(1/5)

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度 %	満 足 度
						20 40 60 80 (%)
北海道	天塩川	令和6年	8	8	100	
		令和7年	8	8	100	
	留萌川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	3	100	
	石狩川	令和6年	36	33	92	
		令和7年	36	32	89	
	尻別川	令和6年	2	2	100	
		令和7年	2	2	100	
	後志利別川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	4	100	
	鹉川	令和6年	2	2	100	
		令和7年	2	2	100	
	沙流川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	4	100	
	十勝川	令和6年	12	12	100	
		令和7年	12	12	100	
	釧路川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	4	100	
	網走川	令和6年	8	4	50	
		令和7年	8	4	50	
	常呂川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	5	5	100	
	湧別川	令和6年	2	2	100	
		令和7年	2	2	100	
	渚滑川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	3	100	
東北	阿武隈川	令和6年	14	14	100	
		令和7年	14	14	100	
	名取川	令和6年	8	7	88	
		令和7年	8	7	88	
	鳴瀬川	令和6年	7	7	100	
		令和7年	7	7	100	
	北上川	令和6年	49	47	96	
		令和7年	49	46	94	
	馬淵川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	3	100	
	高瀬川	令和6年	6	0	0	
		令和7年	6	0	0	
	岩木川	令和6年	17	15	88	
		令和7年	17	16	94	
	米代川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	5	5	100	
	雄物川	令和6年	11	11	100	
		令和7年	11	11	100	
	子吉川	令和6年	2	2	100	
		令和7年	2	2	100	
	最上川	令和6年	19	19	100	
		令和7年	19	19	100	
	赤川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	4	100	

参考資料 3 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）(2/5)

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度 %	満 足 度
						20 40 60 80 (%)
関東	荒川	令和6年	17	16	94	
		令和7年	17	13	76	
	利根川	令和6年	94	68	72	
		令和7年	94	61	65	
	那珂川	令和6年	10	9	90	
		令和7年	10	10	100	
	久慈川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	5	5	100	
	多摩川	令和6年	17	17	100	
		令和7年	17	15	88	
	鶴見川	令和6年	8	8	100	
		令和7年	8	8	100	
北陸	相模川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	3	100	
	富士川	令和6年	14	14	100	
		令和7年	14	12	86	
	荒川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	4	100	
	阿賀野川	令和6年	10	10	100	
		令和7年	10	9	90	
	信濃川	令和6年	24	24	100	
		令和7年	24	23	96	
	関川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	4	100	
	姫川	令和6年	2	2	100	
		令和7年	2	2	100	
	黒部川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	4	100	
	常願寺川	令和6年	2	2	100	
		令和7年	2	2	100	
	神通川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	5	5	100	
	庄川	令和6年	2	2	100	
		令和7年	2	2	100	
	小矢部川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	3	100	
	手取川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	4	100	
	梯川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	3	100	

参考資料 3 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）(3/5)

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度 %	満 足 度
						20 40 60 80 (%)
中部	狩野川	令和6年	7	7	100	
		令和7年	7	7	100	
	安倍川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	3	100	
	大井川	令和6年	4	3	75	
		令和7年	4	3	75	
	菊川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	5	4	80	
	天竜川	令和6年	14	13	93	
		令和7年	14	14	100	
	豊川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	5	4	80	
	矢作川	令和6年	6	5	83	
		令和7年	6	5	83	
	庄内川	令和6年	9	9	100	
		令和7年	9	9	100	
	木曽川	令和6年	30	30	100	
		令和7年	30	30	100	
	鈴鹿川	令和6年	7	7	100	
		令和7年	7	7	100	
	雲出川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	3	100	
	櫛田川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	3	100	
	宮川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	3	100	
近畿	新宮川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	5	5	100	
	紀の川	令和6年	11	11	100	
		令和7年	11	11	100	
	大和川	令和6年	14	14	100	
		令和7年	14	14	100	
	淀川	令和6年	54	44	81	
		令和7年	54	43	80	
	加古川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	4	4	100	
	揖保川	令和6年	6	6	100	
		令和7年	5	5	100	
	円山川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	3	75	
	由良川	令和6年	6	6	100	
		令和7年	6	6	100	
	北川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	3	100	
	九頭竜川	令和6年	7	7	100	
		令和7年	7	7	100	

参考資料 3 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）(4/5)

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度 %	満 足 度
						20 40 60 80 (%)
中国	吉井川	令和6年	7	6	86	
		令和7年	7	6	86	
	旭川	令和6年	6	5	83	
		令和7年	6	5	83	
	高梁川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	5	5	100	
	芦田川	令和6年	10	5	50	
		令和7年	10	5	50	
	太田川	令和6年	16	15	94	
		令和7年	16	16	100	
	小瀬川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	4	100	
	佐波川	令和6年	6	5	83	
		令和7年	6	6	100	
	高津川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	4	100	
	江の川	令和6年	14	13	93	
		令和7年	14	13	93	
	斐伊川	令和6年	20	6	30	
		令和7年	20	6	30	
	日野川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	4	100	
	天神川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	4	100	
	千代川	令和6年	6	6	100	
		令和7年	6	6	100	
四国	吉野川	令和6年	12	12	100	
		令和7年	12	12	100	
	那賀川	令和6年	6	6	100	
		令和7年	6	6	100	
	物部川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	3	100	
	仁淀川	令和6年	7	7	100	
		令和7年	7	6	86	
	渡川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	5	5	100	
	肱川	令和6年	8	8	100	
		令和7年	8	8	100	
	重信川	令和6年	7	7	100	
		令和7年	7	7	100	
	土器川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	2	67	

参考資料 3 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）(5/5)

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度 %	満 足 度
						20 40 60 80 (%)
九州	遠賀川	令和6年	14	13	93	
		令和7年	14	12	86	
	山国川	令和6年	6	6	100	
		令和7年	6	6	100	
	大分川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	5	5	100	
	大野川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	3	75	
	番匠川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	4	100	
	五ヶ瀬川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	5	5	100	
	小丸川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	3	100	
	大淀川	令和6年	13	12	92	
		令和7年	13	13	100	
	肝属川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	5	3	60	
	川内川	令和6年	9	9	100	
		令和7年	9	9	100	
	球磨川	令和6年	13	13	100	
		令和7年	13	13	100	
	緑川	令和6年	8	8	100	
		令和7年	8	8	100	
	白川	令和6年	3	3	100	
		令和7年	3	3	100	
	菊池川	令和6年	8	8	100	
		令和7年	8	8	100	
	矢部川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	5	3	60	
	筑後川	令和6年	18	18	100	
		令和7年	18	18	100	
	嘉瀬川	令和6年	5	5	100	
		令和7年	5	5	100	
	六角川	令和6年	7	7	100	
		令和7年	7	7	100	
	本明川	令和6年	4	4	100	
		令和7年	4	4	100	
	松浦川	令和6年	9	9	100	
		令和7年	9	9	100	

参考資料 4

一級河川の全調査地点の水質

参考資料 4 (1) 一級河川の全調査地点の水質 (BOD調査地点) (1/8)

地方	水系名	河川名	地点名	BOD (mg/ℓ)					
				令和7年					
				類型	平均値	75%値	※1	※2	※3
北	天塩川	天塩川	円山	B	0.5	<0.5		7	○
	天塩川	天塩川	岩屋内ダム	AA	0.6	0.7		1	○
	天塩川	天塩川	中士別橋	A	0.6	0.5		3	
	天塩川	天塩川	中川	B	0.6	0.5	○	6	○
	天塩川	天塩川	朝日橋	AA	0.5	<0.5		2	
	天塩川	天塩川	美深橋	B	0.6	0.7		5	○
	天塩川	天塩川	名寄大橋	B	0.7	0.7		4	○
	天塩川	名寄川	真熱別頭首工	A	0.6	0.6		8	○
	天塩川	サンル川	サンルダム	未	0.6	0.6		99	-
	留萌川	チバベリ川	留萌ダム	未	1.5	1.4		12	-
	留萌川	留萌川	16線橋	A	0.8	1.0		10	○
	留萌川	留萌川	橋橋	AA	0.6	0.6		9	○
	留萌川	留萌川	留萌橋	B	1.1	1.5	○	11	
	石狩川	オサラッペ川	治水橋	A	0.7	0.7		26	○
	石狩川	茨戸川	生振3線北側地先	B	2.4	3.3		48	
	石狩川	茨戸川	生振大橋	B	3.6	4.6		46	
	石狩川	茨戸川	梅川合流前	B	4.5	5.2		47	
	石狩川	雨竜川	茜橋	B	0.7	0.6		28	○
	石狩川	雨竜川	竜水橋	A	0.6	0.6		27	○
	石狩川	幾春別川	桂沢ダム	A	1.0	1.1		34	○
	石狩川	幾春別川	新川橋	B	0.7	0.9		36	
	石狩川	幾春別川	清松橋	A	0.6	0.7		35	○
	石狩川	牛朱別川	功橋	A	0.7	0.8		21	
	石狩川	牛朱別川	緑橋	B	0.8	0.9		22	○
	石狩川	漁川	漁川ダム	未	0.8	1.0		40	-
	石狩川	空知川	下金山橋	AA	0.6	0.8		30	○
	石狩川	空知川	金山ダム	AA	0.7	1.0		29	○
	石狩川	空知川	空知大橋	B	0.7	0.9		33	○
	石狩川	空知川	泰山橋	A	0.7	0.8		32	
	石狩川	空知川	滝里ダム	A	1.3	1.8		31	○
	石狩川	小樽内川	定山溪ダム	未	0.6	0.5		44	-
	石狩川	石狩川	伊納大橋	B	1.3	1.3		15	○
	石狩川	石狩川	永山橋	A	0.5	<0.5		14	○
	石狩川	石狩川	砂川大橋	B	0.9	1.2		17	○
	石狩川	石狩川	石狩河口橋	B	0.9	0.8		20	○
	石狩川	石狩川	石狩大橋	B	0.8	1.0	○	19	
	石狩川	石狩川	大雪ダム	AA	0.6	0.7		13	
	石狩川	石狩川	奈井江大橋	B	0.8	0.8		18	
	石狩川	石狩川	納内橋	B	1.4	1.7	○	16	
	石狩川	千歳川	新江別橋	A	1.9	2.1		39	
	石狩川	千歳川	日の出橋	A	0.5	0.5		96	○
	石狩川	忠別川	忠別ダム	A	0.5	0.5		23	
	石狩川	忠別川	東神楽橋	A	0.5	0.5		24	○
	石狩川	当別川	19線橋	A	0.8	1.0		45	○
	石狩川	美瑛川	美瑛緑橋	未	<0.5	<0.5		25	-
	石狩川	豊平川	中沼	B	1.3	1.5		43	
	石狩川	豊平川	豊水大橋	B	0.5	<0.5		42	○
	石狩川	豊平川	豊平峡ダム	A	<0.5	<0.5		41	○
	石狩川	豊平川	幌平橋	B	<0.5	<0.5		97	○
	石狩川	夕張川	江別大橋	B	0.9	1.1		38	
	石狩川	夕張川	馬追橋	A	0.8	0.9		37	○
	石狩川	夕張川	夕張ニューバロダム	AA	0.6	0.5		98	○
海	尻別川	尻別川	初田橋	A	0.6	<0.5		50	○
	尻別川	尻別川	名駒	A	0.5	0.5	○	49	○
	後志利別川	後志利別川	兜野橋	B	0.5	0.5		54	
	後志利別川	後志利別川	今金橋	A	0.5	<0.5	○	53	○
	後志利別川	後志利別川	住吉	AA	0.5	0.5		52	○
	後志利別川	後志利別川	美利河ダム	AA	0.6	0.8		51	
	鵒川	鵒川	穂別橋	A	0.6	0.5		55	
	鵒川	鵒川	鵒川橋	A	0.7	0.5	○	56	
	沙流川	沙流川	沙流川橋	B	0.6	0.5	○	60	○
	沙流川	沙流川	長知内橋	A	0.5	0.5		57	○
	沙流川	沙流川	二風谷ダム	B	0.6	<0.5		58	○
	沙流川	沙流川	平取	B	0.5	0.5		59	○
道	十勝川	猿別川	止岩橋	A	0.6	0.7		71	○
	十勝川	下頃辺川	吉野	B	0.9	1.1		72	○
	十勝川	札内川	札内橋	A	0.5	<0.5		69	○
	十勝川	札内川	札内川ダム	AA	<0.5	<0.5		67	○
	十勝川	札内川	南帯橋	AA	<0.5	<0.5		68	○
	十勝川	十勝川	共栄橋	AA	0.5	<0.5		62	○
	十勝川	十勝川	佐幌川合流前	A	0.5	<0.5		63	○
	十勝川	十勝川	十勝ダム	AA	0.5	<0.5		61	○
	十勝川	十勝川	十勝大橋	B	1.3	1.4		64	○
	十勝川	十勝川	千代田堰堤	B	1.1	1.1		65	○
	十勝川	十勝川	茂岩橋	B	0.8	0.9	○	66	○
	十勝川	途別川	千住橋	A	1.3	1.6		70	○
	釧路川	釧路川	瀬文平橋	AA	0.5	<0.5		74	○
	釧路川	釧路川	摩周大橋	AA	<0.5	<0.5		73	○
	釧路川	新釧路川	愛国浄水場取水口	A	0.9	1.0		75	○
	釧路川	新釧路川	新川橋	B	0.8	1.0		76	○
	網走川	美幌川	美幌橋	B	0.6	0.6		84	○
	網走川	網走川	治水橋	B	1.0	1.1		78	○
	網走川	網走川	大正橋	A	0.6	0.6	○	77	○
	網走川	網走川	網走橋	B	1.9	2.2		83	○
	常呂川	常呂川	金比羅橋	A	0.7	0.9		86	○
	常呂川	常呂川	鹿ノ子ダム	A	1.0	1.2		85	○
	常呂川	常呂川	若松橋	B	1.0	1.1		87	○
	常呂川	常呂川	上川沿	B	1.3	1.6		89	○
	常呂川	常呂川	志志橋	B	1.5	1.9	○	88	○
	常呂川	無加川	常盤橋	未	0.7	0.8		90	-
	湧別川	湧別川	遠軽橋	A	0.6	<0.5		91	○
	湧別川	湧別川	中湧別橋	A	0.6	0.7	○	92	○
	渚滑川	渚滑川	ウツツ橋	A	0.5	<0.5		94	○
	渚滑川	渚滑川	渚滑橋	B	0.5	<0.5		95	○
	渚滑川	渚滑川	新記念橋	A	0.5	<0.5		93	○
東	阿武隈川	阿武隈川	阿久津	B	1.1	1.4		3	○
	阿武隈川	阿武隈川	丸森	B	1.5	1.6		10	○
	阿武隈川	阿武隈川	岩沼	A	1.0	1.1	○	11	
	阿武隈川	阿武隈川	高田橋	B	2.3	2.6		4	○
	阿武隈川	阿武隈川	黒岩	B	1.8	2.0	○	5	○
	阿武隈川	阿武隈川	須賀川	B	1.1	1.2		1	○
	阿武隈川	阿武隈川	伏黒	B	1.2	1.4		8	○
	阿武隈川	阿武隈川	舟場	B	1.1	1.3		9	○
	阿武隈川	荒川	荒川橋	A	0.5	<0.5		6	○
	阿武隈川	荒川	信夫橋	A	0.5	<0.5		7	○
	阿武隈川	釈迦堂川	下宿	B	1.1	1.2		2	○
	阿武隈川	摺上川	摺上川ダム	A	0.6	0.6		13	○
	阿武隈川	大滝根川	三春ダム	A	0.9	1.2		12	○
	名取川	広瀬川	三橋	B	0.9	1.0	○	19	○
	名取川	前川	北向橋	AA	0.6	0.5		14	○
	名取川	太郎川	いもくぼ橋	AA	0.6	0.5		16	○
	名取川	北川	北川橋	AA	0.6	0.6		15	○
	名取川	名取川	名取橋	B	1.2	1.3		18	○
	名取川	名取川	関上大橋	B	0.9	0.9		20	○
	名取川	筑川	名取川合流前	C	1.2	1.3		17	○
	鳴瀬川	吉田川	鹿島台	B	1.8	1.9		26	○
	鳴瀬川	吉田川	落合	B	1.7	1.8		25	○
	鳴瀬川	善川	善川橋	B	1.5	1.7		24	○
	鳴瀬川	鳴瀬川	下中ノ目	A	1.0	1.2		22	○
	鳴瀬川	鳴瀬川	三本木	A	1.0	1.1		21	○
	鳴瀬川	鳴瀬川	小野	B	1.2	1.2	○	27	○
	鳴瀬川	鳴瀬川	南郷	A	1.1	1.4		23	○
	北上川	猿ヶ石川	安野橋	A	1.0	1.3		37	○
	北上川	猿ヶ石川	落合橋	A	0.7	0.8		35	○
	北上川	猿ヶ石川	谷内	A	0.6	0.7	○	140	○
	北上川	旧北上川	鹿又	B	1.1	1.1		64	○
	北上川	旧北上川	門脇	B	0.8	0.9		65	○
	北上川	旧北上川	和瀬	A	1.0	1.2		63	○

※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として

「図-7 令和7年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。

※2) 表示している数字は、「参考資料5 一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。

※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、一印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。

※ 報告下限値を0.5mg/ℓとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。

※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。

※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料 4

一級河川の全調査地点の水質

参考資料 4 (1) 一級河川の全調査地点の水質 (BOD調査地点) (2/8)

地方	水系名	河川名	地点名	BOD (mg/ℓ)					
				令和7年					
				類型	平均値	75%値	※1	※2	※3
東	北上川	江合川	荒雄	B	0.9	1.0		61	○
	北上川	江合川	轟	AA	0.6	0.8		59	○
	北上川	江合川	大深沢	AA	0.6	<0.5		60	○
	北上川	江合川	短台	B	1.0	1.1		62	○
	北上川	砂鉄川	門崎橋	A	0.7	0.8		52	
	北上川	雫石川	東北本線鉄橋	A	0.7	0.8		32	○
	北上川	雫石川	御所ダム下流	A	0.6	0.7	○	136	○
	北上川	雫石川	春木場	A	0.5	0.5	○	138	○
	北上川	葛根田川	葛根田	A	0.5	<0.5	○	139	○
	北上川	南川	南川	A	0.5	0.5	○	137	○
	北上川	小鬼ヶ瀬川	天子森	未	0.5	<0.5		42	-
	北上川	小友川	小友橋	A	0.6	0.6		36	○
	北上川	前川	前川	AA	0.5	<0.5		45	○
	北上川	胆沢川	下嵐江	AA	0.5	0.5		47	○
	北上川	胆沢川	再巡橋	A	0.8	0.9		46	○
	北上川	胆沢川	望み大橋	A	0.5	<0.5		148	○
	北上川	胆沢川	胆沢ダム貯水池	A	0.6	0.7		66	○
	北上川	尿前川	尿前橋	未	0.5	<0.5		149	-
	北上川	中津川	御厩橋	A	0.6	0.6		31	○
	北上川	磐井川	狐禅寺橋	C	1.4	1.9		50	○
	北上川	磐井川	上の橋	A	0.6	0.8		49	○
	北上川	北上川	金ヶ崎橋	A	1.0	1.1		44	○
	北上川	北上川	狐禅寺	A	1.2	1.3	○	51	○
	北上川	北上川	珊瑚橋	A	1.1	1.2		40	○
	北上川	北上川	四十四田ダム下流	A	0.8	0.8		30	○
	北上川	北上川	紫波橋	A	0.9	1.0	○	34	○
	北上川	北上川	昭和橋	A	1.0	1.1		39	○
	北上川	北上川	船田橋 (2)	A	0.6	0.7		29	○
	北上川	北上川	大泉	A	0.9	1.1		55	○
	北上川	北上川	朝日橋	A	1.0	1.3		38	○
	北上川	北上川	登米	A	0.8	1.0		56	○
	北上川	北上川	藤橋	A	0.9	0.9		48	○
	北上川	北上川	南大橋	A	0.6	0.6		33	○
	北上川	北上川	飯野川	A	1.1	1.2		57	○
	北上川	北上川	飯野川橋	A	1.6	2.1		58	○
	北上川	北上川	北上川橋	A	1.1	1.4		54	○
	北上川	北上川	北上大橋	A	1.1	1.4		53	○
	北上川	北上川	和賀川	A	0.8	0.9		43	○
	北上川	和賀川	山室橋	AA	0.7	0.6		41	○
	北上川	和賀川	切留	AA	0.5	<0.5	○	141	○
北	馬淵川	馬淵川	櫛引橋	A	0.8	0.9		67	○
	馬淵川	馬淵川	尻内橋	B	0.8	0.8	○	68	○
	馬淵川	馬淵川	大橋	B	0.8	0.9		69	○
	岩木川	岩木川	安東橋	A	0.6	0.7		71	○
	岩木川	岩木川	乾橋	A	1.4	1.8	○	77	○
	岩木川	岩木川	三好橋	A	1.3	1.5		78	○
	岩木川	岩木川	山田川河口	B	1.9	2.5		83	○
	岩木川	岩木川	十三湖大橋	B	0.8	0.8		81	○
	岩木川	岩木川	十三湖中央	B	1.9	2.7		82	○
	岩木川	岩木川	上岩木橋	A	0.7	0.8		70	○
	岩木川	岩木川	神田橋	A	1.1	1.3		79	○
	岩木川	岩木川	鳥谷川河口	B	1.1	1.1		84	○
	岩木川	岩木川	津軽大橋	B	1.1	1.1		80	○
	岩木川	岩木川	鶴寿橋	A	1.5	1.8		76	○
	岩木川	岩木川	幡龍橋	A	1.2	1.5		75	○
	岩木川	浅瀬石川	朝日橋	A	0.6	0.7		72	○
	岩木川	平川	平川橋	A	0.7	0.7		74	○
	岩木川	平川	豊平橋	A	0.7	0.7		73	○
	米代川	小又川	森吉山ダム	未	0.6	0.6		90	-
	米代川	米代川	十二所	B	0.6	0.5		85	○
	米代川	米代川	新真中橋 (真中橋)	B	0.7	0.8		86	○
	米代川	米代川	鷹巣	B	0.8	0.9		87	○
	米代川	米代川	ニッ井	B	0.7	0.8	○	88	○
	米代川	米代川	能代	B	0.6	0.6		89	○
東	雄物川	横手川	藤木上橋	B	1.1	1.2		95	○
	雄物川	皆瀬川	岩崎橋	A	0.6	0.6		93	○
	雄物川	玉川	玉川ダム	AA	0.5	<0.5		101	○
	雄物川	玉川	玉川橋	A	0.6	0.5		98	○
	雄物川	玉川	長野	A	0.5	<0.5		97	○
	雄物川	成瀬川	真人橋	AA	0.5	<0.5		92	○
	雄物川	雄物川	岳見橋	A	0.7	0.7		99	○
	雄物川	雄物川	酒時橋	A	0.6	0.5		91	○
	雄物川	雄物川	大曲橋	A	0.8	0.9		96	○
	雄物川	雄物川	椿川	A	0.6	0.6	○	100	○
	雄物川	雄物川	雄物川橋	A	0.6	0.7		94	○
	子吉川	子吉川	宮内	A	0.6	0.7		102	○
	子吉川	子吉川	本荘大橋	B	0.7	0.9	○	103	○
	最上川	寒河江川	中村	AA	0.6	0.7		105	○
	最上川	最上川	基点橋	A	0.7	0.8		144	○
	最上川	最上川	谷地橋	A	0.7	0.9		143	○
	最上川	最上川	糠野日	A	1.1	1.7		104	○
	最上川	最上川	高屋	A	0.7	0.8	○	110	○
	最上川	最上川	砂越	A	0.8	0.9		113	○
	最上川	最上川	長井橋	A	0.9	1.0		142	○
	最上川	最上川	堀内	A	1.8	2.0		107	○
	最上川	最上川	両羽橋	A	0.8	0.8		114	○
	最上川	鮭川	戸沢橋	A	0.7	0.7		109	○
	最上川	鮭川	八千代橋	AA	0.6	0.6		108	○
	最上川	須川	落合橋	B	1.2	1.3		145	○
	最上川	相沢川	宝永橋	A	0.7	0.7		112	○
	最上川	村山野川	舟戸橋	A	0.7	0.7		146	○
	最上川	丹生川	丹生川大橋	A	0.8	1.0		106	○
	最上川	置賜白川	白川ダム	A	0.7	0.9		115	○
	最上川	置賜野川	長井ダム	A	0.7	0.8		116	○
	最上川	立谷沢川	東雲橋	A	0.5	<0.5		111	○
	赤川	赤川	蛾眉橋 (横山)	A	0.7	0.9		118	○
	赤川	赤川	新川橋 (浜中)	A	0.7	0.8	○	119	○
	赤川	赤川	東橋	A	0.5	<0.5		117	○
	赤川	梵字川	月山ダム	A	0.8	1.0		120	○
関	久慈川	久慈川	柳橋	A	1.2	1.0	○	5	○
	久慈川	久慈川	山方	A	1.0	0.8		1	○
	久慈川	久慈川	富岡橋	A	1.0	1.1		2	○
	久慈川	山田川	東橋	A	1.6	1.7		3	○
	久慈川	里川	新落合橋	A	1.3	1.6		4	○
	那珂川	桜川	駅南小橋	C	3.9	4.7		13	○
	那珂川	桜川	搦手橋	C	4.9	4.9		14	○
	那珂川	藤井川	上合橋	A	1.1	1.1		12	○
	那珂川	那珂川	下国井	A	0.9	1.0	○	9	○
	那珂川	那珂川	海門橋	A	1.2	1.3		11	○
	那珂川	那珂川	勝田橋	A	1.3	1.7		10	○
	那珂川	那珂川	新那珂橋	A	1.0	1.2		6	○
	那珂川	那珂川	川堀	A	0.9	1.0		7	○
	那珂川	那珂川	野口	A	0.8	1.0		8	○
	那珂川	澗沼川	澗沼橋	B	1.8	2.2		15	○
	利根川	綾瀬川	手代橋	C	3.6	4.5		51	○
	利根川	綾瀬川	内匠橋	C	2.7	1.8		52	○
	利根川	綾瀬川	槐戸橋	C	3.6	5.2		50	○
	利根川	烏川	岩倉橋	B	1.6	1.7		79	○
	利根川	烏川	岩鼻	B	1.7	1.9		78	○
	利根川	烏川	高松	B	1.8	1.9		77	○
	利根川	横利根川	八筋川	未	2.8	3.4		34	-
	利根川	旗川	旗川末流	B	1.4	1.8		57	○
	利根川	鬼怒川	鬼怒川橋	A	0.7	0.7		61	○
	利根川	鬼怒川	上平橋	A	0.6	0.5		60	○
	利根川	鬼怒川	川治第一発電所前	AA	0.7	0.7		75	○
	利根川	鬼怒川	新川島橋	A	0.9	1.0	○	63	○
	利根川	鬼怒川	大道泉橋	A	0.8	0.9		62	○
	利根川	鬼怒川	滝下橋	A	1.4	1.6		66	○

※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として

「図-7 令和7年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。

※2) 表示している数字は、「参考資料5 一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。

※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、一印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。

※ 報告下限値を0.5mg/ℓとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。

※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。

※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料 4

一級河川の全調査地点の水質

参考資料 4 (1) 一級河川の全調査地点の水質 (BOD調査地点) (3/8)

BOD (mg/ℓ)										BOD (mg/ℓ)									
地方	水系名	河川名	地点名	令和7年					地方	水系名	河川名	地点名	令和7年						
				類型	平均値	75%値	※1	※2					※3	類型	平均値	75%値	※1	※2	※3
関東	利根川	鬼怒川	平方	A	1.2	1.7		64	○	関東	荒川	荒川(指定)	正喜橋	A	1.0	1.2		82	○
	利根川	鬼怒川	豊水橋	A	1.1	1.7		65	○		荒川	高麗川	高麗川大橋	A	0.7	0.8		91	○
	利根川	江戸川	関宿橋	A	1.2	1.4		35	○		荒川	小畔川	とげ橋	B	2.3	2.8		169	○
	利根川	江戸川	江戸川水門上	B	2.0	2.4		41	○		荒川	中津川	滝沢ダム	未	0.8	0.8		165	-
	利根川	江戸川	市川橋	B	1.5	1.9		40	○		荒川	都幾川	東松山橋	A	1.1	1.1		92	○
	利根川	江戸川	新葛飾橋	A	1.5	2.0	○	38	○		荒川	入間川	入間大橋	A	3.3	4.2		89	○
	利根川	江戸川	野田橋	A	1.3	2.0		36	○		荒川	入間川	落合橋(入)	A	1.4	2.0		88	○
	利根川	江戸川	矢切浄水場取水口	A	1.3	1.7		39	○		多摩川	浅川	高幡橋	A	0.9	1.0		108	○
	利根川	江戸川	流山橋	A	1.5	2.2		37	○		多摩川	浅川	鶴巻橋	A	1.2	0.5		112	○
	利根川	江戸川	東西線鉄橋下	C	4.4	3.9		42	○		多摩川	多摩川	永田橋	A	0.6	<0.5		96	○
	利根川	秋山川	秋山川末流	C	2.2	3.0		59	○		多摩川	多摩川	関戸橋	B	1.1	1.2		100	○
	利根川	小貝川	黒子橋	A	2.1	2.5		69	○		多摩川	多摩川	新二子橋	B	1.3	1.7		111	○
	利根川	小貝川	三谷橋	A	1.5	1.4		67	○		多摩川	多摩川	是政橋	B	1.0	1.3		101	○
	利根川	小貝川	川又橋	A	3.6	5.0		71	○		多摩川	多摩川	多摩水道橋	B	2.0	2.0		103	○
	利根川	小貝川	中郷	A	1.7	1.8		33	○		多摩川	多摩川	多摩川原橋	B	1.8	2.3		102	○
	利根川	小貝川	文巻橋	A	2.1	3.4		72	○		多摩川	多摩川	大師橋	B	2.5	3.2		107	○
	利根川	小貝川	豊原橋	A	2.7	3.7		70	○		多摩川	多摩川	調布橋	A	0.6	0.6		97	○
	利根川	小貝川	養蚕橋	A	1.8	3.1		68	○		多摩川	多摩川	田園調布堰	B	1.4	1.6	○	105	○
	利根川	神流川	神流川橋	A	0.9	1.1		81	○		多摩川	多摩川	二子橋	B	1.7	1.5		104	○
	利根川	神流川	藤武橋	A	0.9	1.0		80	○		多摩川	多摩川	日野橋	B	1.0	1.2		99	○
	利根川	男鹿川	五十里ダム	AA	1.3	1.8		161	○		多摩川	多摩川	拝島橋	A	0.6	0.7		98	○
	利根川	男鹿川	男鹿川末流	AA	0.6	0.6		76	○		多摩川	多摩川	六郷橋	B	3.4	3.7		106	○
	利根川	中川	高砂橋	C	4.7	4.7		49	○		多摩川	大栗川	報恩橋	A	1.0	1.1		109	○
	利根川	中川	潮止橋	C	4.4	5.7		47	○		多摩川	野川	兵庫橋	D	1.8	1.7		110	○
	利根川	中川	八条橋	C	3.0	3.5		46	○		鶴見川	早淵川	峰の大橋	C	1.4	1.9		170	○
	利根川	中川	飯塚橋	C	4.7	5.6	○	48	○		鶴見川	大熊川	大竹橋	D	1.3	1.4		117	○
	利根川	中川	弥生橋	C	2.7	2.8		45	○		鶴見川	鳥山川	又口橋	D	1.0	1.2		118	○
	利根川	渡良瀬川	三国橋	B	2.6	2.9		23	○		鶴見川	鶴見川	亀の子橋	D	4.1	5.1		113	○
	利根川	渡良瀬川	新開橋	B	2.4	2.8		22	○		鶴見川	鶴見川	大綱橋	C	3.4	4.2	○	114	○
	利根川	渡良瀬川	赤岩用水取水口	A	0.9	1.1		53	○		鶴見川	鶴見川	末吉橋	C	2.2	2.5		115	○
	利根川	渡良瀬川	中橋	A	1.0	1.2		55	○		鶴見川	鶴見川	臨港鶴見川橋	C	2.1	2.0		116	○
	利根川	渡良瀬川	渡良瀬大橋	B	1.8	1.9		56	○		鶴見川	矢上川	矢上川橋	C	2.1	2.2		119	○
	利根川	渡良瀬川	薬鹿橋	A	1.0	1.1		54	○		相模川	相模川	神川橋	B	0.9	1.0		166	○
	利根川	湯西川	貯水池(湯西川ダム)	AA	0.9	1.0		168	○		相模川	相模川	馬入橋	B	1.3	1.4	○	120	○
	利根川	巴波川	巴波橋	B	4.1	4.5		24	○		富士川	塩川	塩川橋	未	0.9	1.2		134	-
	利根川	矢場川	矢場川水門	C	2.8	4.5		58	○		富士川	釜無川	三郡西橋	A	1.4	2.2		125	○
	利根川	利根運河	運河(合流前)	B	7.2	8.8		44	○		富士川	釜無川	信玄橋	A	1.0	1.3		126	○
	利根川	利根運河	運河橋	B	4.9	5.9		43	○		富士川	釜無川	船山橋	AA	0.8	0.9		127	○
	利根川	利根川	河口堰	A	2.3	3.0		31	○		富士川	重川	重川橋	B	1.2	1.5		133	○
	利根川	利根川	芽吹橋	A	2.2	2.9		21	○		富士川	笛吹川	鶴飼橋	A	1.0	1.1		130	○
利根川	利根川	岩本	A	0.8	0.8		73	○	富士川	笛吹川	亀甲橋	A	0.7	0.8		131	○		
利根川	利根川	金江津	A	1.5	1.6		29	○	富士川	笛吹川	三郡東橋	A	1.1	1.4		128	○		
利根川	利根川	栗橋	A	1.8	2.3	○	20	○	富士川	笛吹川	桃林橋	A	1.8	2.2		129	○		
利根川	利根川	群馬大橋	A	0.7	0.9		74	○	富士川	日川	日川橋	A	0.8	0.9		132	○		
利根川	利根川	坂東大橋	A	1.5	1.7		16	○	富士川	富士川	南部	A	0.8	0.8		123	○		
利根川	利根川	取手	A	1.4	1.3		26	○	富士川	富士川	富山橋	A	1.1	1.3		171	○		
利根川	利根川	上武大橋	A	1.3	1.4		17	○	富士川	富士川	富士橋	A	1.6	1.8		124	○		
利根川	利根川	須賀	A	1.5	1.9		28	○	富士川	富士川	富士川橋	A	0.8	1.0	○	121	○		
利根川	利根川	木下	A	1.4	1.4		172	○	富士川	富士川	北松野	A	0.7	0.7		122	○		
利根川	利根川	水郷大橋(佐原)	A	1.8	1.8		30	○	北陸	荒川	横川	横川ダム湖心	未	1.7	1.9		6	-	
利根川	利根川	銚子大橋	A	1.5	1.6		32	○		荒川	荒川	旭橋	AA	0.6	0.8		4	○	
利根川	利根川	刀水橋	A	1.5	1.7		18	○		荒川	荒川	温泉橋	AA	0.7	0.7		1	○	
利根川	利根川	布川	A	1.3	1.5		27	○		荒川	荒川	荒川橋	AA	0.6	0.7		3	○	
利根川	利根川	利根大堰	A	1.5	1.6		19	○		荒川	荒川	荒川取水堰	AA	0.6	0.7	○	2	-	
荒川	浦山川	浦山ダム	未	0.6	0.6		135	-		荒川	大石川	大石ダムダムサイト	未	0.7	0.8		5	-	
荒川	越辺川	落合橋(越)	B	4.3	5.4		90	○		阿賀野川	阿賀川	宮古橋	A	1.0	1.2		9	○	
荒川	荒川	開平橋	A	1.4	1.9		85	○		阿賀野川	阿賀川	山科	A	1.4	1.7		11	○	
荒川	荒川	葛西橋	C	2.8	3.6		95	○		阿賀野川	阿賀川	馬越橋	A	0.7	0.8		7	○	
荒川	荒川	久下橋	A	1.8	1.5		83	○		阿賀野川	阿賀野川	横雲橋	A	0.8	0.8	○	13	○	
荒川	荒川	御成橋	A	1.4	1.5		84	○		阿賀野川	阿賀野川	松浜橋	A	0.9	0.9		14	○	
荒川	荒川	笹目橋	C	4.8	4.9		93	○		阿賀野川	阿賀野川	馬下橋	A	0.7	0.8		12	○	
荒川	荒川	治水橋	A	1.6	1.9	○	86	○		阿賀野川	早出川	羽下大橋	AA	0.8	1.1		15	○	
荒川	荒川	秋ヶ瀬堰(上)	A	2.0	3.2		87	○		阿賀野川	湯川	新湯川橋	B	1.5	1.8		8	○	
荒川	荒川	堀切橋	C	3.4	4.0		94	○		阿賀野川	日橋川	南大橋	A	0.9	0.9		10	○	

※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として

「図-7 令和7年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。

※2) 表示している数字は、「参考資料5 一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。

※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、一印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。

※ 報告下限値を0.5mg/ℓとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。

※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。

※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料 4 (1) 一級河川の全調査地点の水質 (BOD調査地点) (4/8)

地方	水系名	河川名	地点名	BOD (mg/l)							
				令和7年	平均値	75%値	※1	※2	※3		
北	信濃川	関屋分水路	堀割橋	未	0.9	1.2	41	-			
	信濃川	魚野川	小出橋	A	0.6	0.6	29	○			
	信濃川	魚野川	川口橋	A	0.7	0.7	30	○			
	信濃川	高瀬川	大町ダムサイト	AA	1.0	1.1	52				
	信濃川	犀川	小市橋	A	0.8	0.9	23	○			
	信濃川	犀川	田沢橋	A	1.3	1.5	21	○			
	信濃川	犀川	睦橋	A	1.3	1.5	22	○			
	信濃川	犀川	俵橋	A	0.9	0.9	19	○			
	信濃川	三国川	三国川ダム貯水池湖心	未	0.7	0.8	31	-			
	信濃川	信濃川	旭橋	A	0.7	0.7	32	○			
	信濃川	信濃川	河口	A	1.0	0.9	40	○			
	信濃川	信濃川	魚沼橋	A	1.1	1.3	28	○			
	信濃川	信濃川	十日町橋	A	1.0	1.1	27	○			
	信濃川	信濃川	庄瀬橋	A	0.9	1.0	37	○			
	信濃川	信濃川	瑞雲橋	A	0.8	0.9	36	○			
	信濃川	信濃川	長生橋	A	1.0	1.1	33	○			
	信濃川	信濃川	平成大橋	A	1.1	1.3	38	○			
	信濃川	信濃川	与板橋	A	0.9	1.0	34	○			
	信濃川	信濃川	萬代橋	A	1.1	1.3	39	○			
	信濃川	千曲川	屋島橋	A	1.5	1.8	24	○			
	信濃川	千曲川	生田	A	1.6	1.6	17	○			
	信濃川	千曲川	千曲橋	A	1.8	1.8	18	○			
	信濃川	千曲川	大関橋	A	1.4	1.5	26	○			
	信濃川	千曲川	立ヶ花橋	A	1.3	1.7	25	○			
	信濃川	大河津分水路	渡部橋	A	1.3	1.6	35	○			
	信濃川	奈良井川	島橋	A	1.5	1.7	20	○			
	関川	関川	稲田橋	B	0.9	0.9	42	○			
	関川	関川	春日山橋	B	0.9	0.9	43	○			
	関川	関川	直江津橋	B	1.0	1.0	44	○			
	関川	保倉川	古城橋	B	1.5	1.8	45	○			
	姫川	姫川	山本	AA	0.6	0.7	46	○			
	姫川	姫川	姫川大橋	AA	0.6	0.7	47	○			
	黒部川	黒部川	愛本橋	AA	0.9	0.7	49	○			
	黒部川	黒部川	宇奈月	AA	0.5	<0.5	48	○			
	黒部川	黒部川	下黒部橋	AA	0.6	0.7	50	○			
	黒部川	黒部川	湖内橋	AA	0.6	0.6	51	○			
	常願寺川	常願寺川	今川橋	A	0.6	0.7	54	○			
	常願寺川	常願寺川	常願寺橋	AA	0.6	0.7	53	○			
	神通川	井田川	高田橋	B	2.0	1.4	57	○			
	神通川	井田川	落合橋	A	0.6	0.6	56	○			
	神通川	熊野川	八幡橋	A	0.8	1.0	55	○			
	神通川	神通川	神通大橋	A	0.7	0.8	58	○			
	神通川	神通川	萩浦橋	B	0.7	0.7	59	○			
	庄川	庄川	大門大橋	A	0.6	0.6	61	○			
	庄川	庄川	雄神橋	AA	0.6	0.6	60	○			
	小矢部川	小矢部川	河口	C	1.1	1.3	64	○			
	小矢部川	小矢部川	国条橋	A	1.0	1.2	62	○			
	小矢部川	小矢部川	城光寺橋	B	0.9	1.1	63	○			
	手取川	手取川	手取川ダム湖心	A	0.6	0.8	68	○			
	手取川	手取川	辰口橋	A	0.6	0.6	66	○			
	手取川	手取川	白山合口堰堤	A	0.7	0.8	65	○			
	手取川	手取川	美川大橋	B	0.7	0.7	67	○			
	梯川	梯川	鴨浦橋	A	0.6	0.5	69	○			
	梯川	梯川	石田橋	B	0.8	0.9	71	○			
	梯川	梯川	能美大橋	A	0.7	1.0	70	○			
中部	狩野川	黄瀬川	黄瀬川橋	未	1.6	1.8	6	-			
	狩野川	柿田川	柿田橋	未	<0.5	<0.5	8	-			
	狩野川	狩野川	黒瀬橋	AA	0.7	0.7	4	○			
	狩野川	狩野川	千歳橋	AA	0.5	<0.5	2	○			
	狩野川	狩野川	大仁橋	AA	0.5	<0.5	1	○			
	狩野川	狩野川	徳倉橋	AA	0.7	0.8	3	○			
	狩野川	大場川	塚本橋	A	0.9	1.1	5	○			
	狩野川	来光川	蛇ヶ橋	AA	0.7	1.0	7	○			
	安倍川	安倍川	安倍川橋	AA	0.6	<0.5	10	○			
中部	安倍川	安倍川	曙橋	AA	0.5	<0.5	9	○			
	安倍川	蘆科川	牧ヶ谷橋	AA	0.5	<0.5	11	○			
	大井川	大井川	神座	AA	<0.5	<0.5	13	○			
	大井川	大井川	谷口橋	A	2.1	1.9	14	○			
	大井川	大井川	長島ダム 貯水池基準点	AA	0.9	1.2	12	○			
	大井川	大井川	富士見橋	A	1.2	1.3	15	○			
	菊川	菊川	加茂橋	A	0.9	0.9	16	○			
	菊川	菊川	高田橋	A	1.8	2.0	17	○			
	菊川	菊川	国安橋	A	1.3	1.5	18	○			
	菊川	牛瀬川	鹿島橋	B	1.7	1.8	19	○			
	菊川	牛瀬川	堂山橋	B	2.6	3.6	20	○			
	天竜川	三峰川	美和ダム貯水池	A	0.9	1.1	32	○			
	天竜川	三峰川	竜東橋	A	1.1	1.1	33	○			
	天竜川	小波川	小波ダム貯水池	AA	0.9	1.0	34	○			
	天竜川	大入川	新豊根ダム貯水池	未	1.0	1.1	35	-			
	天竜川	天竜川	つつじ橋	A	1.5	1.7	26	○			
	天竜川	天竜川	掛塚橋	AA	0.7	0.7	31	○			
	天竜川	天竜川	吉瀬ダム	A	1.6	1.7	23	○			
	天竜川	天竜川	宮ヶ瀬橋	A	1.5	1.8	24	○			
	天竜川	天竜川	鹿島橋	AA	0.6	0.7	30	○			
	天竜川	天竜川	秋葉ダム	AA	0.8	0.9	29	○			
	天竜川	天竜川	新植橋	B	2.1	2.4	21	○			
	天竜川	天竜川	中央橋	B	1.9	2.0	22	○			
	天竜川	天竜川	天竜橋	A	1.4	1.9	25	○			
	天竜川	天竜川	南宮橋	A	1.3	1.4	27	○			
	豊川	豊川	吉田大橋	A	1.9	2.0	39	○			
	豊川	豊川	江島橋	A	0.9	0.7	37	○			
	豊川	豊川	石田	A	0.6	0.6	36	○			
	豊川	豊川	当古橋	A	0.9	0.8	38	○			
	豊川	豊川放水路	小坂井大橋	B	2.7	3.8	40	○			
	矢作川	矢作川	岩津天神橋	A	1.1	1.3	43	○			
	矢作川	矢作川	中畑橋	A	1.1	1.6	46	○			
	矢作川	矢作川	米津大橋	A	1.1	1.3	45	○			
	矢作川	矢作川	明治用水頭首工	A	1.0	1.1	42	○			
	矢作川	矢作川	木戸	A	1.1	1.3	44	○			
	矢作川	矢作川	矢作ダム 貯水池	AA	1.1	1.5	41	○			
	庄内川	小里川	小里川ダム 貯水池基準点	B	1.2	1.5	55	○			
	庄内川	庄内川	庄内新川橋	C	1.6	1.8	53	○			
	庄内川	庄内川	城瀬橋	A	0.9	0.9	49	○			
	庄内川	庄内川	水分橋	C	2.8	3.4	51	○			
	庄内川	庄内川	多治見橋	B	1.1	1.2	47	○			
	庄内川	庄内川	大留橋	C	1.3	1.6	50	○			
	庄内川	庄内川	天ヶ橋	B	1.0	1.0	48	○			
	庄内川	庄内川	枇杷島橋	C	3.8	4.5	52	○			
	庄内川	矢田川	天神橋	C	2.9	3.1	54	○			
	木曽川	阿木川	阿木川ダム	A	0.8	1.0	63	○			
	木曽川	伊自良川	練船橋	A	0.6	0.6	72	○			
	木曽川	伊自良川	竹橋	C	1.5	2.1	73	○			
	木曽川	杭瀬川	高瀬橋	A	1.1	1.2	83	○			
	木曽川	根尾川	山口	AA	0.5	<0.5	80	○			
	木曽川	新境川	米野	C	1.4	1.7	65	○			
	木曽川	水門川	二水橋	C	3.1	3.4	84	○			
	木曽川	多度川	上之郷	A	1.3	1.4	85	○			
	木曽川	長良川	伊勢大橋	A	1.0	1.3	71	○			
	木曽川	長良川	鏡島大橋	A	0.7	0.7	67	○			
	木曽川	長良川	長良大橋	A	0.7	0.8	68	○			
	木曽川	長良川	東海大橋	A	0.7	0.7	70	○			
	木曽川	長良川	南濃大橋	A	0.6	0.6	69	○			
	木曽川	長良川	藍川橋	A	0.6	0.6	66	○			
	木曽川	馬瀬川	岩屋ダム	AA	0.7	0.7	64	○			
	木曽川	牧田川	横曽根橋	A	0.7	0.6	81	○			
	木曽川	牧田川	池辺	C	1.3	1.5	82	○			
	木曽川	木曽川	横満蔵	A	1.3	1.4	62	○			
	木曽川	木曽川	丸山ダム貯水池	A	0.8	0.9	57	○			

※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 令和7年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
 ※2) 表示している数字は、「参考資料5 一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
 ※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、一印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。
 ※ 報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。
 ※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。
 ※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料 4

一級河川の全調査地点の水質

参考資料 4 (1) 一級河川の全調査地点の水質 (BOD調査地点) (5/8)

地方	水系名	河川名	地点名	BOD (mg/ℓ)					
				令和7年					
				類型	平均値	75%値	※1	※2	※3
中部	木曽川	木曽川	大山橋	A	0.9	1.0		58	○
	木曽川	木曽川	東海大橋	A	0.8	1.0		61	○
	木曽川	木曽川	濃尾大橋	A	0.8	0.9	○	60	○
	木曽川	木曽川	木曽川橋	A	0.9	0.9		59	○
	木曽川	揖斐川	伊勢大橋	A	1.3	1.2		79	○
	木曽川	揖斐川	岡島橋	AA	0.6	0.6	○	76	○
	木曽川	揖斐川	鷺田橋	AA	0.6	0.7		77	○
	木曽川	揖斐川	福岡大橋	A	0.9	0.8		78	○
	鈴鹿川	安楽川	和泉橋	AA	0.6	0.6		92	○
	鈴鹿川	内部川	河原田橋	A	0.9	0.9		91	○
	鈴鹿川	鈴鹿川	鶴進橋	AA	0.5	<0.5		86	○
	鈴鹿川	鈴鹿川	高岡橋	A	0.7	0.6	○	89	○
	鈴鹿川	鈴鹿川	小倉橋	A	0.8	0.7		90	○
	鈴鹿川	鈴鹿川	庄野橋	A	0.8	1.0		88	○
	鈴鹿川	鈴鹿川	鈴国橋	AA	0.6	<0.5		87	○
	雲出川	雲出川	雲出橋	A	1.1	1.3		94	○
	雲出川	雲出川	大仰橋	A	0.7	0.7		93	○
	雲出川	中村川	小川橋	AA	0.6	0.7		95	○
	櫛田川	櫛田川	櫛田橋	A	0.6	<0.5		98	○
	櫛田川	櫛田川	両郡橋	A	0.5	0.5		97	○
	櫛田川	櫛田川	松阪東大橋	A	0.6	<0.5		99	○
	櫛田川	蓮川	蓮ダム貯水池基準点	未	0.9	1.1		96	-
	宮川	宮川	岩出	AA	<0.5	<0.5		100	○
	宮川	宮川	度会橋	A	0.5	<0.5		101	○
	宮川	勢田川	勢田大橋	C	2.4	2.8		102	○
近畿	新宮川	熊野川	熊野川河口	A	0.6	<0.5		3	○
	新宮川	熊野川	熊野大橋	A	0.5	<0.5	○	1	○
	新宮川	市田川	市田川河口	D	1.7	1.9		2	○
	新宮川	川原樋川	川原樋川取水口	AA	0.5	<0.5		167	○
	紀の川	紀の川	岸上橋	A	0.7	0.7		7	○
	紀の川	紀の川	紀の川大橋	A	0.8	0.8		13	○
	紀の川	紀の川	御蔵橋	A	0.6	0.7		5	○
	紀の川	紀の川	三谷橋	A	0.6	0.5		8	○
	紀の川	紀の川	新六ヶ井堰	A	1.0	1.1		12	○
	紀の川	紀の川	船戸	A	0.8	0.9	○	11	○
	紀の川	紀の川	大川橋	A	0.6	0.6		4	○
	紀の川	紀の川	藤崎井堰	A	0.7	0.8		9	○
	紀の川	紀の川	恋野橋	A	0.6	0.6		6	○
	紀の川	貴志川	高島橋	A	0.7	0.6		10	○
	大和川	佐保川	井筒橋	C	2.9	3.2		15	○
	大和川	佐保川	額田部高橋	C	3.4	4.1		27	○
	大和川	佐保川	郡界橋	C	2.7	2.9		28	○
	大和川	初瀬川	上吐田	C	4.7	5.0		16	○
	大和川	石川	石川橋	A	0.9	1.0		23	○
	大和川	曾我川	小柳橋	C	0.9	1.0		18	○
	大和川	曾我川	保橋	C	2.3	2.1		19	○
	大和川	大和川	遠里小野橋	D	1.6	1.7		26	○
	大和川	大和川	河内橋	C	1.8	2.2		24	○
	大和川	大和川	御幸大橋	C	3.1	3.7		20	○
	大和川	大和川	国豊橋	C	1.9	2.0		22	○
	大和川	大和川	浅香新取水口	C	1.5	1.5	○	25	○
	大和川	大和川	太子橋	C	3.8	4.9		17	○
	大和川	大和川	藤井	C	2.4	2.7		21	○
	淀川	一庫大路次川	一庫ダム	未	1.0	1.1		72	-
	淀川	宇治川	隠元橋	A	0.9	1.1		35	○
	淀川	宇治川	宇治橋	A	0.8	0.9		34	○
	淀川	宇治川	宇治川御幸橋	B	1.0	1.3	○	40	○
	淀川	宇治川	宇治川大橋	B	0.9	1.0		39	○
	淀川	宇治川	観月橋	B	0.8	0.8		37	○
	淀川	宇治川	大橋橋 (不々瀬ダム湖)	A	0.9	0.9		33	○
	淀川	宇陀川	安部田	未	0.7	0.7		49	-
	淀川	宇陀川	高倉橋	A	0.8	0.9		55	○
	淀川	宇陀川	室生路橋	A	0.7	0.6		57	○
	淀川	宇陀川	辻堂橋	A	0.8	0.7		56	○
近畿	淀川	芥川	鷺打橋	A	0.9	0.9		71	○
	淀川	桂川	羽束師橋	A	0.9	0.9		65	○
	淀川	桂川	久世橋	A	0.6	0.6		64	○
	淀川	桂川	宮前橋	A	0.9	1.0	○	66	○
	淀川	桂川	西大橋	A	0.7	0.8		63	○
	淀川	桂川	紀本池基準点 (日新ダム)	A	0.9	1.0		61	○
	淀川	桂川	渡月橋	A	0.6	0.7		62	○
	淀川	最明寺川	最明寺川流末	未	1.4	0.9		75	-
	淀川	山科川	中野橋	未	2.1	1.8		36	-
	淀川	瀬田川	洗堰下	A	1.2	1.4		29	○
	淀川	瀬田川	唐橋流心	A	0.6	0.7		30	○
	淀川	青蓮寺川	青蓮寺ダム湖	未	0.8	0.9		47	-
	淀川	藻川	中園橋	B	1.1	1.3		81	○
	淀川	駄六川	駄六川流末	未	1.4	1.3		78	-
	淀川	猪名川	銀橋	A	0.7	0.8		73	○
	淀川	猪名川	軍行橋	A	0.8	0.9	○	76	○
	淀川	猪名川	呉服橋	A	0.7	1.0		74	○
	淀川	猪名川	猪名川橋	D	0.8	0.7		79	○
	淀川	猪名川	利倉	D	2.5	2.6		80	○
	淀川	東高瀬川	三栖橋	未	1.1	1.2		38	-
	淀川	内川	内川流末	未	1.1	1.2		77	-
	淀川	服部川	伊賀上野橋	A	1.3	1.5		43	○
	淀川	名張川	家野橋	A	0.9	1.0		51	○
	淀川	名張川	高山ダム下流	未	1.1	1.1		54	-
	淀川	名張川	高山ダム湖	未	1.4	1.5		53	-
	淀川	名張川	新夏見橋	A	0.6	0.6		48	○
	淀川	名張川	比奈知ダム湖	A	0.8	0.8		52	○
	淀川	名張川	名張	A	0.8	0.8		50	○
	淀川	木津川	加茂恭仁大橋	A	0.9	1.0		58	○
	淀川	木津川	岩倉橋	A	1.3	1.6		44	○
	淀川	木津川	玉水橋	A	0.8	0.8		59	○
	淀川	木津川	笹瀬橋	A	1.2	1.6		46	○
	淀川	木津川	大野木橋	A	0.9	1.0		41	○
	淀川	木津川	長田橋	A	1.2	1.5		42	○
	淀川	木津川	島ヶ原大橋	A	1.3	1.7		45	○
	淀川	木津川	木津川御幸橋	A	0.7	0.9	○	60	○
	淀川	野洲川	石部	A	0.8	0.7		31	○
	淀川	野洲川	服部	A	0.7	0.8		32	○
	淀川	淀川	菅原城北大橋	B	1.2	1.3		69	○
	淀川	淀川	鳥飼大橋中央	B	1.0	1.1		68	○
	淀川	淀川	伝法大橋	C	4.3	4.8		70	○
	淀川	淀川	枚方大橋中央	B	1.0	1.1	○	67	○
	加古川	加古川	国包	B	2.0	2.3	○	83	○
	加古川	加古川	相生橋	B	1.9	1.9		85	○
	加古川	加古川	池尻	B	2.4	2.2		84	○
	加古川	加古川	板波	B	1.1	1.2		82	○
	加古川	東条川	古川橋	未	1.5	1.7		86	-
	加古川	万願寺川	西脇橋	未	1.8	1.4		87	-
	揖保川	揖保川	曲里	A	0.5	<0.5		88	○
	揖保川	揖保川	山崎	A	0.7	0.8		89	○
	揖保川	揖保川	上川原	B	0.7	0.7		91	○
	揖保川	揖保川	本町橋	B	1.0	0.5		92	○
	揖保川	揖保川	龍野	A	0.6	0.7	○	90	○
	揖保川	林田川	構	未	1.0	1.2		93	-
	九頭竜川	九頭竜川	九頭竜ダム湖	AA	0.6	0.7		94	○
	九頭竜川	九頭竜川	九頭竜川河口	B	1.1	0.5		101	○
	九頭竜川	九頭竜川	高屋橋	A	0.6	0.6		97	○
	九頭竜川	九頭竜川	中角	A	0.6	0.6	○	96	○
	九頭竜川	九頭竜川	新布施田	B	0.8	0.8		100	○
	九頭竜川	真名川	真名川ダム湖	未	0.7	0.9		95	-
	九頭竜川	日野川	深谷	B	1.0	1.3		98	○
	九頭竜川	日野川	日光橋	B	1.3	1.2		99	○
	北川	北川	高塚	A	0.5	0.5	○	103	○
	北川	北川	上中橋	A	0.5	0.5		102	○

※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として

「図-7 令和7年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。

※2) 表示している数字は、「参考資料5 一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。

※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、一印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。

※ 報告下限値を0.5mg/ℓとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。

※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。

※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料 4

一級河川の全調査地点の水質

参考資料 4 (1) 一級河川の全調査地点の水質 (BOD調査地点) (6/8)

地方	水系名	河川名	地点名	BOD (mg/ℓ)					
				令和7年					
				類型	平均値	75%値	※1	※2	※3
近畿	北川	北川	西津橋	A	0.6	<0.5		104	○
	由良川	土師川	土師橋	A	0.6	0.8		105	○
	由良川	由良川	以久田橋	A	0.7	0.7		106	○
	由良川	由良川	音無瀬橋	A	0.6	0.7		107	○
	由良川	由良川	波美橋	A	0.6	0.7	○	109	○
	由良川	由良川	管巻橋	A	0.5	0.5		108	○
	由良川	由良川	由良川橋	A	0.6	0.6		110	○
	円山川	円山川	結和橋	B	1.7	1.6		114	○
	円山川	円山川	港大橋	B	2.1	3.2		115	○
	円山川	円山川	府市場	A	0.7	0.8		111	○
	円山川	円山川	立野	B	1.2	0.8	○	113	○
	円山川	出石川	弘原	未	0.7	0.8		112	-
	千代川	袋川	秋里	未	1.2	1.6		8	-
	千代川	袋川	浜坂	未	1.4	1.4		12	-
	千代川	千代川	稲常	AA	0.6	0.7		3	○
中国	千代川	千代川	賀露	A	0.8	0.8		6	○
	千代川	千代川	源太橋	AA	0.6	0.6		4	○
	千代川	千代川	行徳	A	0.7	0.8	○	5	○
	千代川	千代川	佐貫	AA	0.6	0.5		2	○
	千代川	千代川	用瀬	AA	0.6	0.5		1	○
	千代川	袋川	宮ノ下	未	0.8	0.9		10	-
	千代川	袋川	谷	未	0.8	0.9		9	-
	千代川	袋川	中郷橋	未	1.8	2.3		7	-
	千代川	袋川	美保橋	未	1.1	0.9		11	-
	天神川	国府川	美保橋	未	0.5	<0.5		20	-
	天神川	小鴨川	河原町	未	0.5	<0.5		18	-
	天神川	小鴨川	関金	未	0.5	<0.5		17	-
	天神川	小鴨川	巖城	未	0.5	<0.5		19	-
	天神川	天神川	今泉	AA	<0.5	<0.5		13	○
	天神川	天神川	小田	A	<0.5	<0.5	○	15	○
	天神川	天神川	大原	AA	<0.5	<0.5		14	○
	天神川	天神川	田後	A	0.5	<0.5		16	○
	日野川	印賀川	菅沼ダム	未	1.5	1.3		27	-
	日野川	日野川	皆生	A	0.7	0.7		24	○
	日野川	日野川	溝口	AA	0.5	0.5		21	○
	日野川	日野川	車尾	A	0.6	0.6	○	23	○
	日野川	日野川	八幡	AA	0.6	0.6		22	○
	日野川	法勝寺川	福市	未	0.7	0.7		26	-
	日野川	法勝寺川	法勝寺	未	0.7	0.7		25	-
	斐伊川	神戸川	志津見ダムダムサイト	未	1.0	1.2		33	-
	斐伊川	神戸川	神戸川河口	A	0.6	0.8		32	○
	斐伊川	神戸川	馬木	A	0.5	0.6		31	○
	斐伊川	斐伊川	大津	AA	0.6	0.6	○	29	○
	斐伊川	斐伊川	尾原ダムダムサイト	未	1.0	1.3		30	-
	斐伊川	斐伊川	里熊	AA	0.6	0.6		28	○
	江の川	江の川	栗屋	A	0.7	0.7		35	○
	江の川	江の川	吉田	A	0.9	0.9		34	○
	江の川	江の川	江川橋	A	0.6	0.5		46	○
	江の川	江の川	桜江大橋	A	0.6	0.5		44	○
	江の川	江の川	三国橋	A	0.8	0.8	○	37	○
	江の川	江の川	江の川	A	0.6	0.6		45	○
	江の川	江の川	川本大橋	A	0.6	0.6		43	○
	江の川	江の川	都賀大橋	A	0.6	0.6		42	○
	江の川	江の川	尾関山	A	0.9	0.9		36	○
	江の川	上下川	灰塚ダムサイト	A	1.4	1.4		39	○
	江の川	神野瀬川	神野瀬川	A	0.8	0.9		41	○
	江の川	西城川	三次	A	0.8	0.9		40	○
	江の川	馬洗川	南畑敷	A	0.9	1.1		38	○
	高津川	高津川	金地橋	AA	0.5	<0.5		48	○
	高津川	高津川	高角	A	0.5	<0.5		49	○
	高津川	高津川	高津大橋	A	0.5	0.5	○	50	○
	高津川	高津川	神田橋	AA	0.5	0.5		47	○
	佐波川	佐波川	掘	A	<0.5	<0.5		98	○
	佐波川	佐波川	佐波川大橋	B	0.7	0.8		102	○
中国	佐波川	佐波川	漆尾	A	0.7	0.7		99	○
	佐波川	佐波川	新橋	A	0.6	0.7	○	101	○
	佐波川	佐波川	真尾	A	0.6	<0.5		100	○
	小瀬川	小瀬川	小川津	AA	0.7	0.8		95	○
	小瀬川	小瀬川	大和橋	B	0.8	0.9		97	○
	小瀬川	小瀬川	両国橋	A	0.6	0.7	○	96	○
	太田川	旧太田川	舟入橋	A	0.7	0.7		92	○
	太田川	元安川	南大橋	A	0.5	0.5		93	○
	太田川	古川	東原	B	0.9	1.0		90	○
	太田川	根谷川	根の谷橋	B	0.6	0.7		88	○
	太田川	三篠川	深川橋	A	0.6	0.6		89	○
	太田川	太田川	旭橋	B	0.7	0.7		86	○
	太田川	太田川	加計	A	0.5	0.5		80	○
	太田川	太田川	玖村	A	<0.5	<0.5	○	84	○
	太田川	太田川	高山川下流	A	0.9	0.9		81	○
	太田川	太田川	柴木川下流	A	0.5	0.5		79	○
	太田川	太田川	壬辰橋	A	0.8	0.8		82	○
	太田川	太田川	太田川橋	A	0.6	0.6		83	○
	太田川	太田川	矢口川上流	A	0.6	0.7		85	○
	太田川	滝山川	滝山川河口	A	0.6	0.6		87	○
	太田川	天満川	昭和大橋	A	0.7	0.7		91	○
	芦田川	芦田川	久佐	A	1.2	1.7		69	○
	芦田川	芦田川	山手橋	A	2.7	2.8	○	74	○
	芦田川	芦田川	小水呑橋	B	3.0	4.1		75	○
	芦田川	芦田川	上戸手	A	1.4	1.7		72	○
	芦田川	芦田川	大渡橋	A	1.0	1.0		70	○
	芦田川	芦田川	中津原	A	1.7	1.8		73	○
	芦田川	芦田川	府中大橋	A	1.5	1.7		71	○
	芦田川	高屋川	横尾	B	3.1	4.2		78	○
	芦田川	高屋川	川北	A	2.9	3.1		77	○
	芦田川	砂川	中須	未	2.0	2.2		76	-
	高梁川	高梁川	霞橋	B	1.1	1.2	○	67	○
	高梁川	高梁川	笠井堰	B	0.6	0.7		66	○
	高梁川	高梁川	川辺橋	B	0.7	0.8		65	○
	高梁川	高梁川	湛井堰	A	0.6	0.6		64	○
	高梁川	小田川	福松橋	B	1.4	1.5		68	○
	旭川	旭川	旭川大橋	A	6.6	5.4		62	○
	旭川	旭川	乙井手堰	B	0.6	0.7		59	○
	旭川	旭川	合同堰	A	0.7	0.7		58	○
	旭川	旭川	桜橋	B	2.7	2.9	○	61	○
	旭川	旭川	相生橋	B	0.7	0.8		60	○
	旭川	百間川	清内橋	C	2.6	3.3		63	○
	吉井川	吉井川	永安橋	B	3.3	5.0		56	○
	吉井川	吉井川	鴨越堰	B	0.9	0.9		55	○
	吉井川	吉井川	弓削橋	B	0.6	0.8		53	○
	吉井川	吉井川	熊山橋	B	0.7	0.7	○	52	○
	吉井川	吉井川	備前大橋	B	0.9	0.9		54	○
	吉井川	吉井川	和気橋	B	0.8	0.9		51	○
	吉井川	金剛川	宮橋	A	0.8	0.8		57	○
四国	重信川	重信川	重信橋	AA	0.5	<0.5		4	○
	重信川	重信川	出合橋	A	1.0	1.2	○	2	○
	重信川	重信川	川口大橋	A	0.7	0.8		1	○
	重信川	重信川	中川原橋	A	1.0	1.2		3	○
	重信川	重信川	拝志大橋	AA	0.7	0.7		5	○
	重信川	石手川	市坪	B	1.6	1.8		6	○
	重信川	石手川	石手川ダム	AA	0.5	<0.5		7	○
	肱川	肱川	祇園大橋	A	0.7	0.7	○	10	○
	肱川	肱川	肱川橋	A	0.7	0.7		11	○
	肱川	肱川	大和橋	A	1.0	1.1		9	○
	肱川	肱川	長浜大橋	A	0.7	0.9		8	○
	肱川	肱川	野村ダム	A	1.3	1.3		13	○
	肱川	矢落川	新大橋	A	0.7	0.8		15	○
	肱川	矢落川	生々橋	A	1.3	1.4		14	○
	渡川	後川	後川橋	A	0.5	<0.5		18	○

※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として

「図-7 令和7年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。

※2) 表示している数字は、「参考資料5 一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。

※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、一印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。

※ 報告下限値を0.5mg/ℓとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。

※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。

※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料 4

一級河川の全調査地点の水質

参考資料 4 (1) 一級河川の全調査地点の水質 (BOD調査地点) (7/8)

地方	水系名	河川名	地点名	BOD (mg/ℓ)					
				令和7年					
				類型	平均値	75%値	※1	※2	※3
四国	渡川	四万十川	下田	AA	0.6	0.6		16	○
	渡川	四万十川	具同	AA	0.6	0.6	○	17	○
	渡川	中筋川	山路橋	B	0.8	1.0		19	○
	渡川	中筋川	中筋川ダム	B	0.8	0.9		20	○
	渡川	横瀬川	横瀬川ダム	未	0.6	0.8		55	-
	仁淀川	宇治川	音竹	C	1.4	1.9		27	○
	仁淀川	仁淀川	伊野	AA	<0.5	<0.5		24	○
	仁淀川	仁淀川	仁西	AA	<0.5	<0.5		21	○
	仁淀川	仁淀川	大渡ダム	AA	0.9	1.1		25	
	仁淀川	仁淀川	中島	AA	<0.5	<0.5		22	○
	仁淀川	仁淀川	八田堰	AA	<0.5	<0.5	○	23	○
	仁淀川	波介川	小野橋	B	1.3	1.7		26	○
	物部川	物部川	戸板島	A	0.6	0.7		29	○
	物部川	物部川	山田堰	A	0.8	0.9		30	○
	物部川	物部川	深瀬	A	0.6	0.7		28	○
	那賀川	桑野川	富岡新橋	B	0.9	1.1		36	○
	那賀川	桑野川	領家	B	0.8	1.0		35	○
	那賀川	那賀川	長安ロダム	AA	0.8	0.9		34	○
	那賀川	那賀川	那賀川橋	A	0.5	<0.5		33	○
	吉野川	鮎喰川	鮎喰	未	2.9	3.6		46	-
	吉野川	吉野川	高瀬橋	A	0.6	0.5		37	○
	吉野川	吉野川	池田ダム	A	0.5	<0.5		39	○
	吉野川	吉野川	脇町潜水橋	A	0.5	0.5		38	○
	吉野川	旧吉野川	牛屋島橋	A	0.6	0.6		42	○
	吉野川	旧吉野川	市場橋	A	0.5	0.5		43	○
	吉野川	旧吉野川	大津橋	B	0.6	0.8		41	○
	吉野川	穴吹川	穴吹	未	<0.5	<0.5		47	-
	吉野川	今切川	加賀須野橋	B	1.1	1.3		44	○
	吉野川	今切川	鯛浜堰上流	C	1.0	1.2		45	○
	吉野川	貞光川	貞光	未	<0.5	<0.5		48	-
	吉野川	銅山川	富郷ダム	AA	0.5	0.5		51	○
	土器川	土器川	丸亀橋	A	2.0	2.1	○	52	○
	土器川	土器川	常包橋	A	0.8	0.8		54	○
	土器川	土器川	祓川橋	A	0.5	0.5		53	○
九州	遠賀川	遠賀川	芦屋	B	1.4	1.8		5	○
	遠賀川	遠賀川	伊佐座	B	2.7	3.5		4	○
	遠賀川	遠賀川	川島	B	1.4	1.7		2	○
	遠賀川	遠賀川	鶴三緒	B	1.4	1.6		1	○
	遠賀川	遠賀川	日の出橋	B	1.6	1.9	○	3	○
	遠賀川	金辺川	高木橋	A	2.4	2.3		10	○
	遠賀川	犬鳴川	粥田橋	B	1.3	1.5		13	○
	遠賀川	犬鳴川	春日橋	B	1.1	1.3		12	○
	遠賀川	西川	島津橋	B	2.2	2.4		14	○
	遠賀川	中元寺川	皆添橋	B	1.9	2.2		11	○
	遠賀川	彦山川	今任橋	A	0.9	1.0		7	○
	遠賀川	彦山川	中島	B	1.9	2.0		9	○
	遠賀川	彦山川	楠橋	B	2.6	2.8		8	○
	遠賀川	穂波川	東町橋	B	1.3	1.6		6	○
	松浦川	厳木川	浦の川橋	A	0.8	0.9		139	○
	松浦川	厳木川	厳木ダムK-1	A	0.7	0.8		146	○
	松浦川	松浦川	久里橋	A	1.6	1.8	○	137	○
	松浦川	松浦川	舞鶴橋	A	0.9	0.8		138	○
	松浦川	松浦川	牟田部	A	0.9	0.9		136	○
	松浦川	松浦川	和田山橋	A	1.0	1.2		135	○
	松浦川	徳須恵川	徳須恵橋	A	1.0	1.1		140	○
	本明川	半造川	半造橋	未	2.2	2.3		145	-
	本明川	本明川	旭町	B	1.0	1.2	○	143	○
	本明川	本明川	鉄道橋	A	1.0	1.3		141	○
	本明川	本明川	天満公園前	B	1.1	1.3		142	○
	本明川	本明川	不知火	B	1.7	1.5		144	○
	六角川	牛津川	羽佐間堰	C	1.1	1.3		133	○
	六角川	牛津川	砥川大橋	D	2.3	2.4		134	○
	六角川	牛津川	道祖元橋	A	0.9	1.1		132	○
	六角川	六角川	佐ノ江橋	E	1.9	1.8	○	131	○
九州	六角川	六角川	新橋	D	4.1	3.3		129	○
	六角川	六角川	潮見橋	A	1.7	1.9		128	○
	六角川	六角川	六角橋	D	1.5	1.6		130	○
	筑後川	玖珠川	小ヶ瀬	A	0.8	0.8		122	○
	筑後川	筑後川	荒瀬	A	1.0	1.2		117	○
	筑後川	筑後川	三隈大橋	A	0.8	1.0		115	○
	筑後川	筑後川	杖立	AA	0.5	0.5		111	○
	筑後川	筑後川	神代橋	A	1.2	1.2		119	○
	筑後川	筑後川	瀬ノ下	A	1.6	1.5	○	120	○
	筑後川	筑後川	川下	A	0.9	1.0		116	○
	筑後川	筑後川	大宮橋	A	0.9	1.0		114	○
	筑後川	筑後川	大山水辺プラザ	A	1.3	1.3		113	○
	筑後川	筑後川	片ノ瀬	A	1.1	1.3		118	○
	筑後川	筑後川	柚木	A	0.9	1.2		112	○
	筑後川	筑後川	六五郎橋	B	1.4	1.6		121	○
	筑後川	津江川	下笠ダムS-1	未	0.9	1.1		153	-
	筑後川	宝満川	酒井東橋	B	1.7	1.8		123	○
	筑後川	小石原川	小石原川ダムサイト	A	0.7	0.9		159	○
	矢部川	飯江川	古賀橋	A	1.9	2.2		109	○
	矢部川	飯江川	丁字橋	C	1.9	2.3		110	○
	矢部川	矢部川	浦島橋	B	1.8	2.1		108	○
	矢部川	矢部川	瀬高	A	2.2	2.2		107	○
	矢部川	矢部川	船小屋	A	0.7	0.7	○	106	○
	菊池川	岩野川	八幡	未	0.7	0.7		104	-
	菊池川	菊池川	広瀬	A	0.8	0.8		97	○
	菊池川	菊池川	高瀬	A	1.0	1.0		101	○
	菊池川	菊池川	山鹿	A	1.0	1.0		99	○
	菊池川	菊池川	中富	A	0.8	0.9		98	○
	菊池川	菊池川	白石	A	1.0	1.2		100	○
	菊池川	菊池川	合志川	A	1.7	1.8		103	○
	菊池川	菊池川	迫間川	A	0.7	0.7		102	○
	菊池川	菊池川	繁根木川	未	0.6	0.6		105	-
	白川	白川	小島橋	B	1.2	1.3	○	96	○
	白川	白川	小磯橋	B	1.1	1.1		94	○
	白川	白川	代継橋	B	1.2	1.3		95	○
	緑川	加勢川	大六橋	A	1.3	1.4		92	○
	緑川	御船川	五庵橋	A	0.6	0.6		91	○
	緑川	浜戸川	大曲	B	2.0	2.3		93	○
	緑川	緑川	上杉堰	A	1.4	1.5		89	○
	緑川	緑川	城南	A	1.0	1.0		88	○
	緑川	緑川	中甲橋	A	0.9	1.0		87	○
	緑川	緑川	平木橋	B	1.4	1.5		90	○
	球磨川	球磨川	横石	A	0.6	0.6	○	77	○
	球磨川	球磨川	金剛橋	A	0.8	0.9		79	○
	球磨川	球磨川	人吉	A	0.5	0.5		74	○
	球磨川	球磨川	西瀬橋	A	0.6	0.6		75	○
	球磨川	球磨川	多良木	A	<0.5	<0.5		73	○
	球磨川	球磨川	天狗橋	A	0.5	0.5		76	○
	球磨川	球磨川	萩原橋	A	0.6	0.6		78	○
	球磨川	球磨川	五木小川	未	0.5	<0.5		86	-
	球磨川	川辺川	五木	AA	<0.5	<0.5		83	○
	球磨川	川辺川	五木宮園	AA	<0.5	<0.5		81	○
	球磨川	川辺川	四浦	A	<0.5	<0.5		84	○
	球磨川	川辺川	神屋敷	AA	<0.5	<0.5		82	○
	球磨川	川辺川	柳瀬	A	0.6	<0.5		85	○
	球磨川	前川	前川橋	A	0.9	1.1		80	○
	川内川	羽月川	花北	未	0.9	1.0		72	-
	川内川	川内川	亀沢橋	A	0.9	1.0		65	○
	川内川	川内川	栗野	A	0.7	0.8		66	○
	川内川	川内川	小倉	A	1.2	1.2		71	○
	川内川	川内川	神子	A	0.8	0.9		68	○
	川内川	川内川	曾木大橋	A	0.7	0.8		67	○
	川内川	川内川	中郷	A	0.7	0.9	○	70	○
	川内川	川内川	斧瀬	A	0.8	1.0		69	○

※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として

「図-7 令和7年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。

※2) 表示している数字は、「参考資料5 一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。

※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、一印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。

※ 報告下限値を0.5mg/ℓとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。

※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。

※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料 4 (1) 一級河川の全調査地点の水質 (BOD調査地点) (8/8)

地方	水系名	河川名	地点名	BOD (mg/ℓ)						
				令和7年						
				類型	平均値	75%値	※1	※2	※3	
九州	肝属川	始良川	始良橋	未	0.8	0.9	62	-		
	肝属川	下谷川	田崎橋	未	1.0	0.9	61	-		
	肝属川	肝属川	河原田橋	B	1.8	2.5	58	○		
	肝属川	肝属川	第二有明橋	A	0.9	1.1	60	○		
	肝属川	肝属川	朝日橋	B	2.1	2.6	57	○		
	肝属川	肝属川	俣瀬	A	2.3	3.1	59			
	肝属川	串良川	串良橋	A	2.5	2.8	64			
	肝属川	高山川	新前田橋	未	0.6	<0.5	63	-		
	大淀川	綾北川	入野橋	A	0.6	0.6	51	○		
	大淀川	深年川	太田原橋	A	0.7	0.7	55			
	大淀川	大淀川	乙房橋	B	1.6	1.5	45	○		
	大淀川	大淀川	岳下橋	A	1.8	1.8	43			
	大淀川	大淀川	志比田橋	B	2.4	2.1	44	○		
	大淀川	大淀川	小戸之橋	A	0.6	0.7	49	○		
	大淀川	大淀川	相生橋	A	0.8	0.9	48	○		
	大淀川	大淀川	大ノ丸橋	A	0.7	0.8	47	○		
	大淀川	大淀川	樋渡橋	A	1.1	1.2	46			
	大淀川	年見川	宮丸橋	A	0.9	1.1	50	○		
	大淀川	八重川	番所橋	未	1.1	0.9	56	-		
	大淀川	本庄川	本庄橋	A	0.6	0.6	53	○		
	大淀川	本庄川	柳瀬橋	A	0.6	0.6	54			
	大淀川	本庄川 (観音川)	綾南川橋	A	0.6	0.5	52	○		
	小丸川	宮田川	宮田川水門	B	0.7	0.7	42			
	小丸川	小丸川	高城橋	AA	0.5	0.5	40	○		
	小丸川	小丸川	高鍋大橋	A	0.6	0.6	41			
	五ヶ瀬川	五ヶ瀬川	三輪	A	0.5	<0.5	35	○		
	五ヶ瀬川	五ヶ瀬川	松山橋	A	0.5	0.5	36	○		
	五ヶ瀬川	祝子川	中州合流点	A	0.8	0.8	38			
	五ヶ瀬川	大瀬川	大瀬橋	A	0.5	<0.5	37	○		
	五ヶ瀬川	北川	白石	A	0.7	0.8	39	○		
	番匠川	堅田川	茶屋ヶ鼻橋	A	0.8	0.9	34			
	番匠川	番匠川	水路橋	A	0.9	1.0	32	○		
	番匠川	番匠川	番匠橋	A	0.5	<0.5	31	○		
	番匠川	番匠川	番匠川河口	A	0.8	0.8	33	○		
	大野川	乙津川	海原橋	A	1.3	1.0	30	○		
	大野川	大野川	家島	A	1.0	0.7	29	○		
	大野川	大野川	鶴崎橋	A	3.3	4.2	28			
	大野川	大野川	白滝橋	A	0.6	0.6	27	○		
	大分川	七瀬川	光吉	A	0.6	<0.5	26			
	大分川	大分川	広瀬橋	B	0.8	1.0	24	○		
	大分川	大分川	府内大橋	A	0.7	0.7	23	○		
	大分川	大分川	弁天大橋	B	0.9	0.9	25	○		
	大分川	大分川	明礪橋	A	0.7	0.8	22	○		
	大分川	大分川	大分川ダム基準地点	未	0.8	0.8	155	-		
	大分川	大分川	大分川ダム補助地点	未	0.9	1.2	156	-		
	山国川	山移川	耶馬溪ダム (YI-1)	未	1.4	1.3	147	-		
	山国川	山国川	下宮永	A	1.0	0.9	18	○		
	山国川	山国川	下唐原	A	0.8	0.9	17	○		
	山国川	山国川	柿坂	A	0.6	0.6	15	○		
	山国川	山国川	山国橋	A	0.9	0.9	19	○		
	山国川	山国川	小祝	A	0.9	1.0	20	○		
	山国川	山国川	上曾木	A	0.6	0.6	16	○		
	山国川	中津川	北門橋	未	0.8	0.9	21	-		
	嘉瀬川	嘉瀬川	嘉瀬橋	A	0.9	1.0	126	○		
	嘉瀬川	嘉瀬川	官人橋	A	0.7	0.8	124	○		
	嘉瀬川	嘉瀬川	久保田橋	D	2.9	2.8	127	○		
	嘉瀬川	嘉瀬川	石井樋	A	0.6	0.6	125	○		
	嘉瀬川	嘉瀬川	嘉瀬川ダム (貯水池1)	A	1.2	1.4	160	○		
	松浦川	厳木川	観音橋	A	0.6	0.6	157	○		
	松浦川	厳木川	古川橋	A	0.5	<0.5	158	○		

- ※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 令和7年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
- ※2) 表示している数字は、「参考資料5 一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
- ※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、一印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。
- ※ 報告下限値を0.5mg/ℓとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。
- ※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。
- ※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料 4 (2) 一級河川的全調査地点の水質 (COD調査地点)

COD(mg/ℓ)										COD(mg/ℓ)										
水系名	河川名	地点名	類型	令和7年						地方	水系名	河川名	地点名	類型	令和7年					
				平均値	75%値	※1	※2	※3							平均値	75%値	※1	※2	※3	
網走川	網走湖	ST. 1 (流入口沖50m)	A	6.5	7.6		79			近	淀川	琵琶湖	三保ヶ崎沖	AA	3.1	3.2	118			
網走川	網走湖	ST. 2 (湖心)	A	7.3	8.1		80				淀川	琵琶湖	山田港沖	AA	3.8	3.6	123			
網走川	網走湖	ST. 3 (湖心方位30° 2500m)	A	7.9	8.2		81				淀川	琵琶湖	姉川沖	AA	2.2	2.4	159			
網走川	網走湖	ST. 4 (流出口沖100m)	A	7.4	7.8		82				淀川	琵琶湖	志那沖	AA	3.4	3.6	129			
阿武隈川	白石川	七ヶ宿ダム	A	2.5	2.7		121	○			淀川	琵琶湖	新杉江港沖	AA	4.5	5.1	132			
名取川	碓石川	釜房ダム	AA	2.8	2.9		122				淀川	琵琶湖	石寺沖	AA	2.2	2.2	150			
北上川	猿ヶ石川	田瀬ダム貯水池	A	2.9	3.8		125				淀川	琵琶湖	早崎港沖	AA	2.1	2.3	163			
北上川	江合川	鳴子ダム	AA	2.3	3.2		127				淀川	琵琶湖	大宮川沖	AA	2.7	2.8	127			
北上川	雫石川	御所ダム貯水池	A	1.8	2.0		124		○		淀川	琵琶湖	大宮川沖中央	AA	2.7	2.8	128	○		
北上川	北上川	四十四田ダム貯水池	A	2.2	2.2		123		○		淀川	琵琶湖	大溝沖	AA	2.3	2.5	148			
北上川	和賀川	湯田ダム貯水池	A	1.9	2.1		126		○	畿	淀川	琵琶湖	大溝沖中央	AA	2.1	2.1	149			
高瀬川	高瀬川	河口	A	4.5	5.6		133				淀川	琵琶湖	丹出川沖	AA	2.3	2.5	136			
高瀬川	高瀬川	高瀬橋	A	4.5	5.0		132				淀川	琵琶湖	丹出川沖中央	AA	2.4	2.5	137			
高瀬川	高瀬川	小川原湖 (No. A)	A	5.1	6.2		128				淀川	琵琶湖	知内川沖	AA	2.2	2.3	161			
高瀬川	高瀬川	小川原湖 (No. C)	A	18.0	21.0		129				淀川	琵琶湖	知内川沖中央	AA	2.2	2.3	162			
高瀬川	高瀬川	小川原湖 (No. G)	A	29.0	31.0	○	130				淀川	琵琶湖	長浜沖	AA	2.4	2.7	160			
高瀬川	高瀬川	小川原湖 (No. H)	A	24.0	25.0		131				淀川	琵琶湖	長命寺沖	AA	2.4	2.6	144			
岩木川	浅瀬石川	浅瀬石川ダム	A	2.8	3.3		134				淀川	琵琶湖	天野川沖	AA	2.3	2.4	156			
最上川	寒河江川	寒河江ダム	A	1.8	2.1		135		○		淀川	琵琶湖	唐崎沖	AA	3.1	3.1	124			
岩木川	岩木川	津軽ダム	A	2.0	2.5		150				淀川	琵琶湖	唐崎沖中央	AA	2.9	3.0	125			
利根川	霞ヶ浦	掛馬沖	A	7.4	7.6		143			中	斐伊川	中海	境水道中央部	A	2.6	2.9	122	○		
利根川	霞ヶ浦	牛込沖	A	7.2	7.1		145				斐伊川	穴道湖	穴道湖No. 1	A	4.5	5.0	103			
利根川	霞ヶ浦	玉造沖	A	7.6	7.8		142				斐伊川	穴道湖	穴道湖No. 3	A	4.5	4.7	104	○		
利根川	霞ヶ浦	湖心	A	7.2	7.4	○	146				斐伊川	穴道湖	穴道湖No. 5	A	4.6	4.8	105			
利根川	霞ヶ浦	高崎沖	A	7.9	8.5		141				斐伊川	大橋川	矢田	A	4.3	4.6	106			
利根川	霞ヶ浦	西の洲沖	A	7.2	7.0		147				斐伊川	中海	大橋川河口	A	4.4	4.9	107			
利根川	霞ヶ浦	麻生沖	A	7.8	8.0		148				斐伊川	中海	意東鼻沖	A	4.2	4.6	108			
利根川	霞ヶ浦	木原沖	A	7.2	7.3		144		○		斐伊川	中海	飯梨川河口	A	3.8	4.0	111			
利根川	鬼怒川	川治ダム	A	1.7	1.8		160				斐伊川	中海	安来港	A	4.3	4.4	112			
利根川	鬼怒川	川俣ダム	A	2.0	2.2		159		○	国	斐伊川	中海	羽入川河口	A	4.2	4.4	109			
利根川	手賀川	布佐下	B	8.7	9.1		140				斐伊川	中海	中海湖心	A	3.7	3.9	110	○		
利根川	常陸利根川	外浪逆浦	A	7.6	7.8		150				斐伊川	中海	長海町	A	3.8	4.0	115			
利根川	常陸利根川	息栖	A	7.7	8.2		151				斐伊川	中海	上宇部尾町	A	4.3	5.1	117			
利根川	常陸利根川	潮来	A	7.7	7.8		149				斐伊川	中海	米子湾中央部	A	5.1	5.3	113			
利根川	常陸利根川	波崎	A	8.1	8.4		152				斐伊川	中海	渡町地先	A	2.8	3.0	114		○	
利根川	神流川	下久保ダム	A	1.9	2.1		139		○		斐伊川	中海	本庄	A	3.9	4.4	116			
利根川	赤谷川	相俣ダムC (ダム湖)	A	1.8	2.1		157		○		江の川	江の川	土師ダム	A	3.2	3.5	118			
利根川	渡良瀬川	草木ダム	A	1.4	1.4		138		○		佐波川	島田川	島田川ダム	A	3.0	3.0	121		○	
利根川	渡良瀬川	渡良瀬貯水池	A	9.1	11.0		25				小瀬川	小瀬川	弥栄ダム	A	1.6	1.7	120		○	
利根川	楢俣川	奈良俣ダム	A	2.6	2.9		137		○	州	太田川	滝山川	温井ダム	A	2.0	2.1	94		○	
利根川	片品川	團原ダムB (ダム湖)	A	3.2	2.8		158				芦田川	芦田川	八田原ダム	A	3.0	3.3	119			
利根川	北浦	釜谷沖	A	8.3	8.3		154				鮎川	鮎川	鹿野川湖堰堤	B	2.8	3.1	12		○	
利根川	北浦	神宮橋	A	8.9	9.4		155				那賀川	那賀川	JR那賀川鉄橋	A	1.6	1.8	32		○	
利根川	北浦	武井沖	A	8.5	8.7		153				那賀川	那賀川	富岡水門	A	1.8	1.7	31		○	
利根川	利根川	須田貝ダム	A	2.3	2.5		162		○		吉野川	吉野川	早明浦ダム	A	1.2	1.3	40		○	
利根川	利根川	藤原ダムC (ダム湖)	A	2.0	2.0		156				吉野川	銅山川	新宮ダム	A	1.9	1.9	49		○	
利根川	利根川	矢木沢ダム	A	2.1	2.3		136		○		吉野川	銅山川	柳瀬ダム	A	1.5	1.6	50		○	
荒川	荒川	荒川調整池 (荒川貯水池 (彰南))	A	5.0	5.6		167				筑後川	佐田川	寺内ダムダムサイト	A	1.7	2.0	154		○	
荒川	二瀬ダム	湖心 (二瀬ダム)	A	1.7	1.7		163		○	九	筑後川	赤石川	大山ダムダムサイト	A	1.9	2.0	150		○	
相模川	中津川	ダムサイト (宮ヶ瀬ダム)	A	1.2	1.3		164		○		筑後川	筑後川	松原ダムM-1	A	1.9	2.1	151		○	
阿賀野川	大川ダム	大川ダム湖心	A	2.0	2.1		16		○		筑後川	筑後川	松原ダムM-3	A	1.8	2.1	152		○	
天竜川	天竜川	佐久間ダム	A	2.1	2.3		28		○		菊池川	迫間川	竜門ダム (ダム基準地点)	A	1.4	1.5	149		○	
木曽川	木曽川	味増川ダム	A	0.9	0.9		56		○		緑川	緑川	緑川ダムSt. 2	A	1.7	1.9	148		○	
木曽川	揖斐川	徳山ダム	A	2.5	2.8		74		○		川内川	川内川	鶴田ダム (St-I)	A	2.3	2.4	161		○	
木曽川	揖斐川	横山ダム 貯水池	A	1.3	1.4		75		○		川内川	川内川	鶴田ダム (St-III)	A	2.5	2.8	162		○	
新宮川	熊野川	猿谷ダム湖中央	A	1.8	2.0		116													
紀の川	紀の川	大滝ダム湖ダムサイト	A	1.4	1.6		14		○											
淀川	宇陀川	県営水道取水口付近	A	3.3	3.9		166													
淀川	宇陀川	室生ダム湖	A	3.1	3.4		165													
淀川	琵琶湖	ほうらい沖	AA	2.2	2.4		139													
淀川	琵琶湖	愛知川沖	AA	2.3	2.4		140													
淀川	琵琶湖	粟津沖中央	AA	2.4	2.5		147													
淀川	琵琶湖	安曇川沖	AA	3.0	3.2		117													
淀川	琵琶湖	安曇川沖中央	AA	2.2	2.4		151													
淀川	琵琶湖	伊佐々川沖	AA	2.4	2.5	○	126													
淀川	琵琶湖	外ヶ浜沖	AA	3.6	4.2		152													
淀川	琵琶湖	外ヶ浜沖中央	AA	2.3	2.5		154													
淀川	琵琶湖	吉川港沖	AA	2.3	2.5		155													
淀川	琵琶湖	堅田沖	AA	2.4	2.6		138													
淀川	琵琶湖	堅田沖中央	AA	2.5	2.7		133													
淀川	琵琶湖	今津沖	AA	2.6	2.8		134													
淀川	琵琶湖	今津沖中央	AA	2.2	2.4		157													
淀川	琵琶湖	今津沖中央	AA	2.3	2.4		158													

※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 令和7年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
※2) 表示している数字は、「参考資料5 一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。
※ 値は全層平均値である。
※ 報告下限値を0.5mg/ℓとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。
※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。
※ JR那賀川鉄橋及び富岡水門のみ海域類型である。他は全て湖沼類型である。

参考資料 4 (3) 一級河川の全調査地点の水質
(河川類型指定ダム貯水池のCOD値)

地方	水系名	河川名	地点名	COD (mg/ℓ)		
				類型	令和7年	
					平均値	75%値
北海道	天塩川	天塩川	岩尾内ダム	AA	1.7	1.8
	天塩川	サンル川	サンルダム	未	3.0	3.7
	留萌川	チバベリ川	留萌ダム	未	5.5	6.9
	石狩川	幾春別川	桂沢ダム	A	5.1	6.1
	石狩川	漁川	漁川ダム	未	1.7	2.0
	石狩川	空知川	金山ダム	AA	2.2	2.3
	石狩川	空知川	滝里ダム	A	4.2	5.1
	石狩川	小樽内川	定山渓ダム	未	1.9	2.1
	石狩川	石狩川	大雪ダム	AA	2.3	2.7
	石狩川	忠別川	忠別ダム	A	1.2	1.3
	石狩川	豊平川	豊平峡ダム	A	1.7	2.0
	石狩川	夕張川	夕張シューパロダム	AA	4.2	5.9
	後志利別川	後志利別川	美利河ダム	AA	1.7	2.1
	沙流川	沙流川	二風谷ダム	B	2.2	2.4
	十勝川	札内川	札内川ダム	AA	1.9	2.1
	十勝川	十勝川	十勝ダム	AA	2.4	2.6
	常呂川	常呂川	鹿ノ子ダム	A	3.9	4.4
東北	阿武隈川	摺上川	摺上川ダム	A	2.0	2.2
	阿武隈川	大滝根川	三春ダム	A	4.1	4.7
	北上川	胆沢川	胆沢ダム貯水池	A	1.6	1.6
	米代川	小又川	森吉山ダム	未	2.6	3.1
	雄物川	玉川	玉川ダム	AA	0.9	1.1
	最上川	置賜白川	白川ダム	A	1.8	2.1
	最上川	置賜野川	長井ダム	A	1.6	2.0
	赤川	梵字川	月山ダム	A	2.3	2.7
関東	利根川	男鹿川	五十里ダム	AA	2.3	2.5
	利根川	湯西川	貯水池(湯西川ダム)	AA	1.9	2.0
	荒川	浦山川	浦山ダム	未	1.3	1.4
	荒川	中津川	滝沢ダム	未	1.7	1.8
北陸	荒川	横川	横川ダム湖心	未	3.0	3.8
	荒川	大石川	大石ダムダムサイト	未	2.7	2.9
	信濃川	高瀬川	大町ダムダムサイト	AA	2.7	2.2
	信濃川	三国川	三国川ダム貯水池湖心	未	1.4	1.7
	黒部川	黒部川	湖面橋	AA	0.8	1.0
	手取川	手取川	手取川ダム湖心	A	1.7	2.1
中部	大井川	大井川	長島ダム 貯水池基準点	AA	1.2	1.3
	天竜川	三峰川	美和ダム貯水池	A	1.5	1.3
	天竜川	小渋川	小渋ダム貯水池	AA	1.6	1.9
	天竜川	大入川	新豊根ダム貯水池	未	1.8	2.0
	矢作川	矢作川	矢作ダム 貯水池	AA	1.9	2.3
	庄内川	小里川	小里川ダム 貯水池基準	B	3.6	3.8
	木曽川	阿木川	阿木川ダム	A	2.1	2.3
	木曽川	馬瀬川	岩屋ダム	AA	1.1	1.2
	木曽川	木曽川	丸山ダム貯水池	A	1.8	1.9
	櫛田川	蓮川	蓮ダム貯水池基準点	未	1.7	1.8
近畿	淀川	一庫大路次川	一庫ダム	未	2.8	2.8
	淀川	宇治川	大峰橋 (天ヶ瀬ダム湖)	A	2.9	3.0
	淀川	桂川	貯水池基準点 (日吉ダム)	A	1.9	2.1
	淀川	青蓮寺川	青蓮寺ダム湖	未	2.3	3.0
	淀川	名張川	高山ダム湖	未	3.6	4.0
	淀川	名張川	比奈知ダム湖	A	1.8	2.0
	九頭竜川	九頭竜川	九頭竜ダム湖	AA	1.4	1.5
	九頭竜川	真名川	真名川ダム湖	未	1.4	1.5
中国	日野川	印賀川	菅沢ダム	未	3.2	3.7
	斐伊川	神戸川	志津見ダムダムサイト	未	2.0	2.2
	斐伊川	斐伊川	尾原ダムダムサイト	未	7.6	8.8
	江の川	上下川	灰塚ダムサイト	A	4.3	4.7
四国	重信川	石手川	石手川ダム	AA	3.0	3.2
	肱川	肱川	野村ダム	A	2.8	3.2
	渡川	中筋川	中筋川ダム	B	2.8	3.6
	渡川	横瀬川	横瀬川ダム	未	2.3	3.0
	仁淀川	仁淀川	大渡ダム	AA	1.8	2.3
	那賀川	那賀川	長安ロダム	AA	1.2	1.5
	吉野川	吉野川	池田ダム	A	1.4	1.5
	吉野川	銅山川	富郷ダム	AA	1.2	1.2
九州	松浦川	厳木川	厳木ダムK-1	A	2.1	2.2
	筑後川	津江川	下釜ダムS-1	未	1.7	1.8
	筑後川	小石原川	小石原川ダムダムサイト	A	1.7	1.7
	大分川	大分川	大分川ダム基準地点	未	2.4	2.5
	大分川	大分川	大分川ダム補助地点	未	2.5	2.8
	山国川	山移川	耶馬溪ダム (YL-1)	未	4.4	5.2
	嘉瀬川	嘉瀬川	嘉瀬川ダム (貯水池1)	A	2.0	2.1

※ 環境省告示により、「貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖」は湖沼として類型指定されることとなっており、ダム貯水池であっても河川としての類型指定を受けている地点が存在する。本報告では、河川として類型指定されているダム湖については、BODで環境基準を満足しているかどうかを判断し、その他の整理については湖沼として判定・整理をしている。

※ 値は全層平均値である。

※ 報告下限値を0.5mg/ℓとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。

※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。

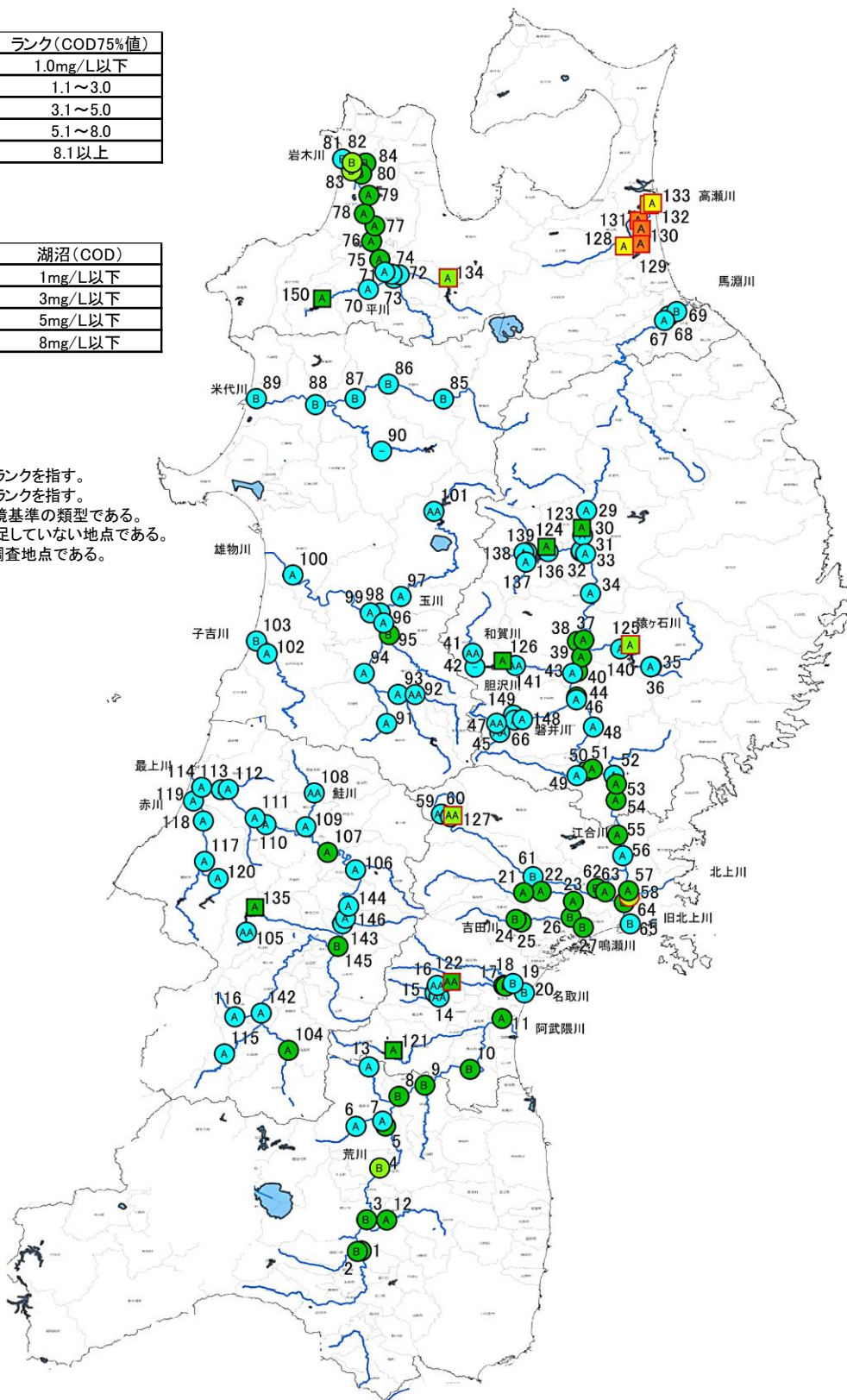


参考資料 5 (2) 令和7年一級河川の水質状況図 (東北)

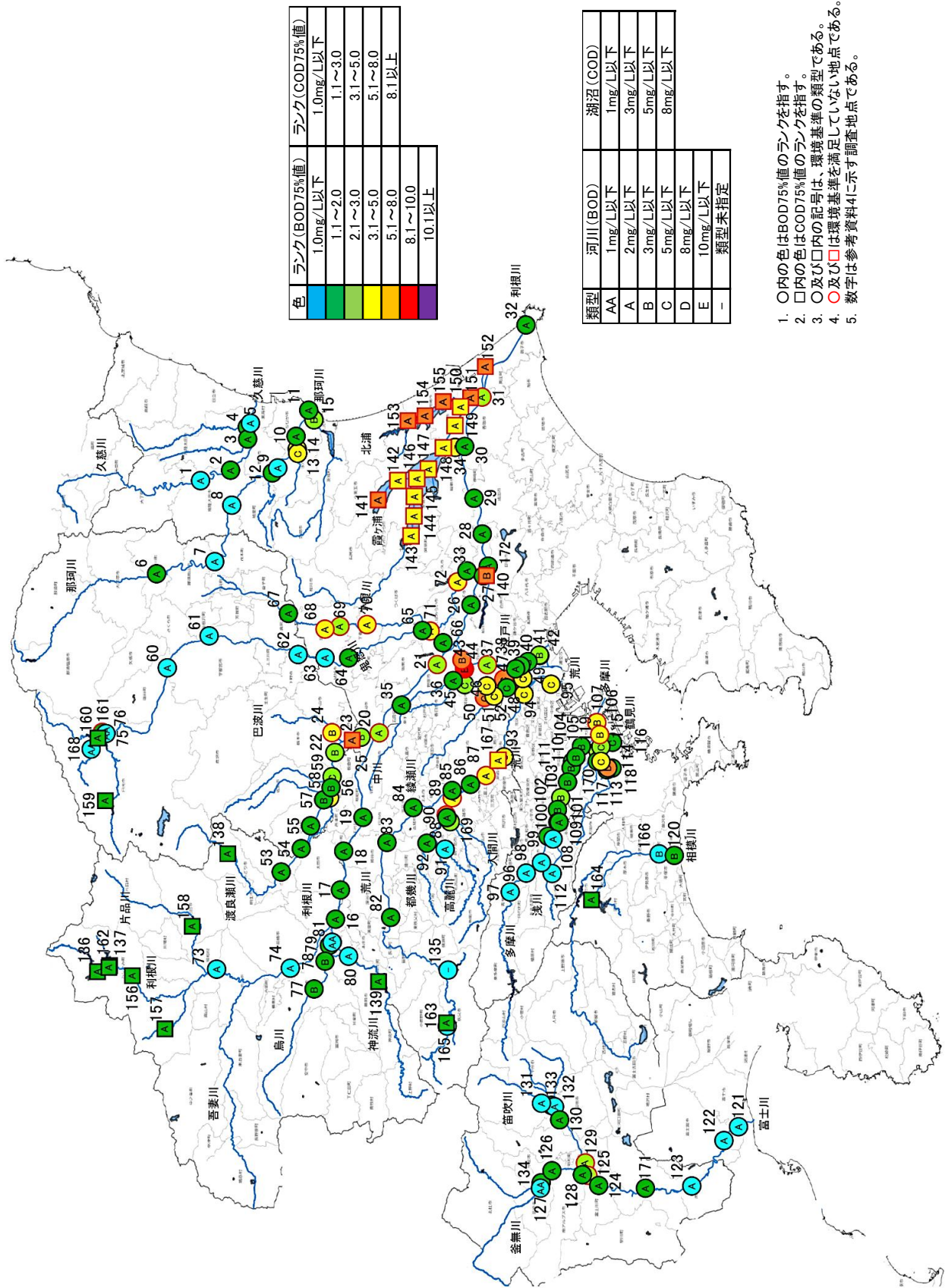
色	ランク(BOD75%値)	ランク(COD75%値)
青	1.0mg/L以下	1.0mg/L以下
緑	1.1～2.0	1.1～3.0
黄緑	2.1～3.0	3.1～5.0
黄	3.1～5.0	5.1～8.0
橙	5.1～8.0	8.1以上
赤	8.1～10.0	
紫	10.1以上	

類型	河川(BOD)	湖沼(COD)
AA	1mg/L以下	1mg/L以下
A	2mg/L以下	3mg/L以下
B	3mg/L以下	5mg/L以下
C	5mg/L以下	8mg/L以下
D	8mg/L以下	
E	10mg/L以下	
-	類型未指定	

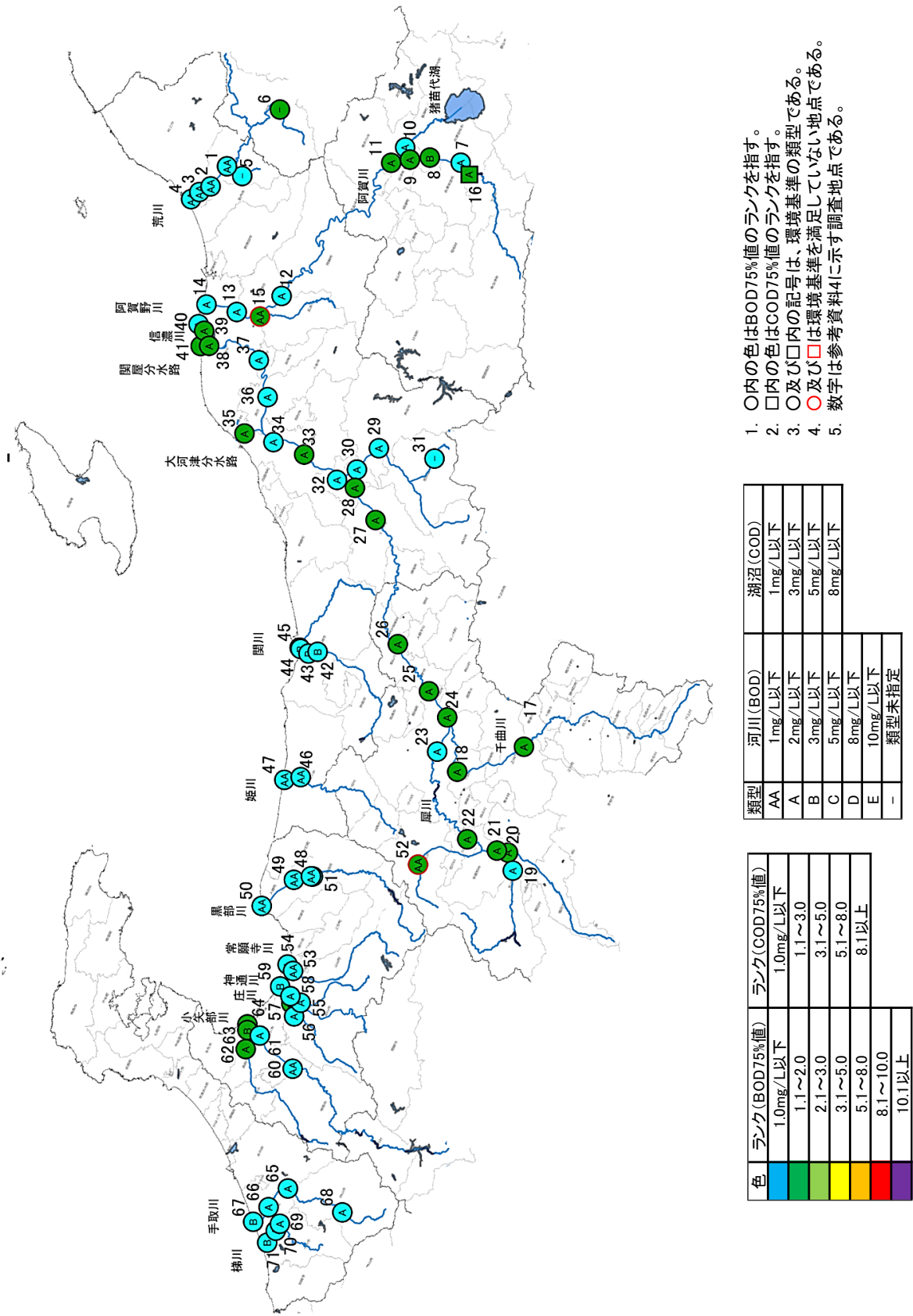
- 内の色はBOD75%値のランクを指す。
- 内の色はCOD75%値のランクを指す。
- 及び□内の記号は、環境基準の類型である。
- 及び□は環境基準を満足していない地点である。
- 数字は参考資料4に示す調査地点である。



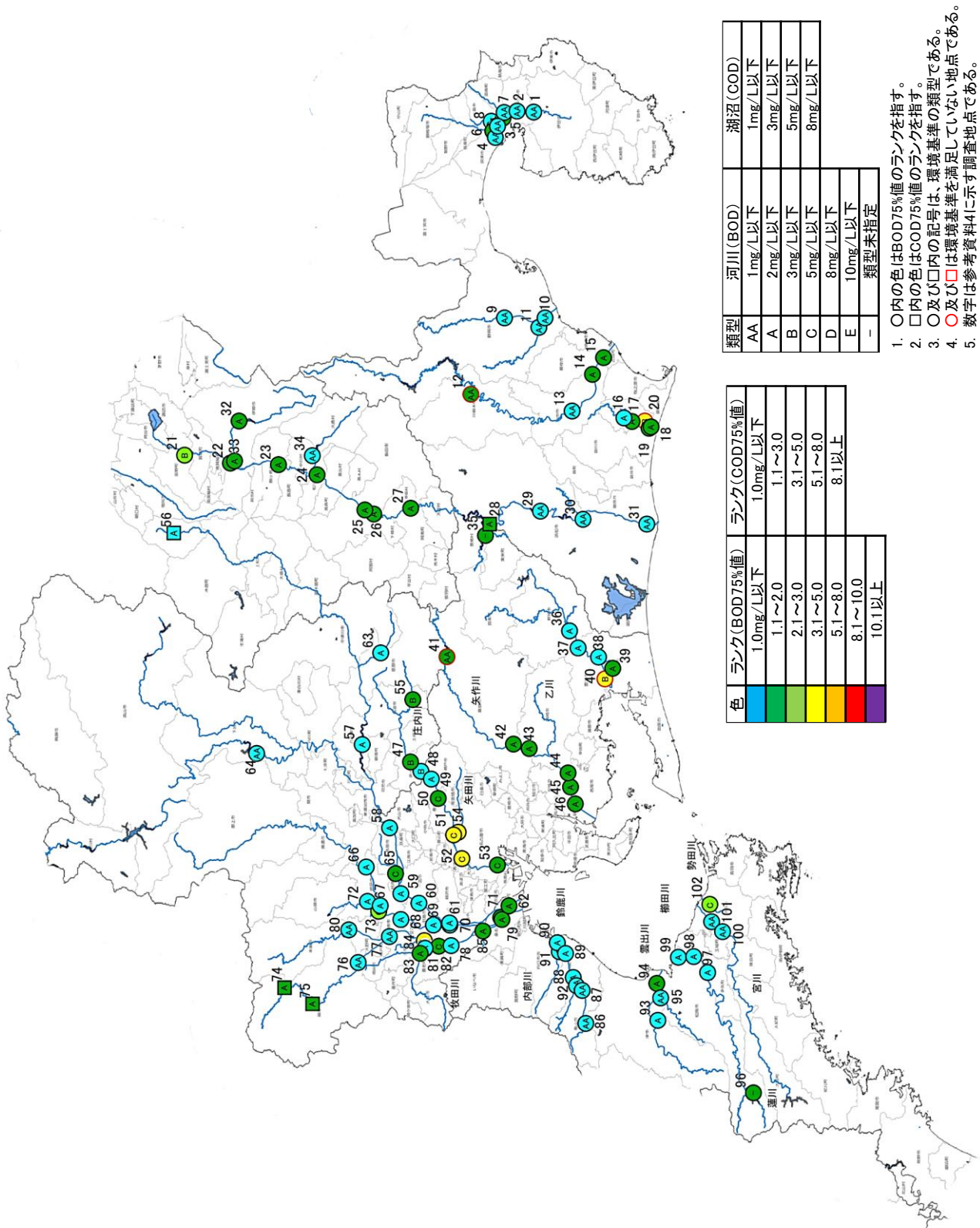
参考資料 5 (3) 令和7年一級河川の水質状況図 (関東)



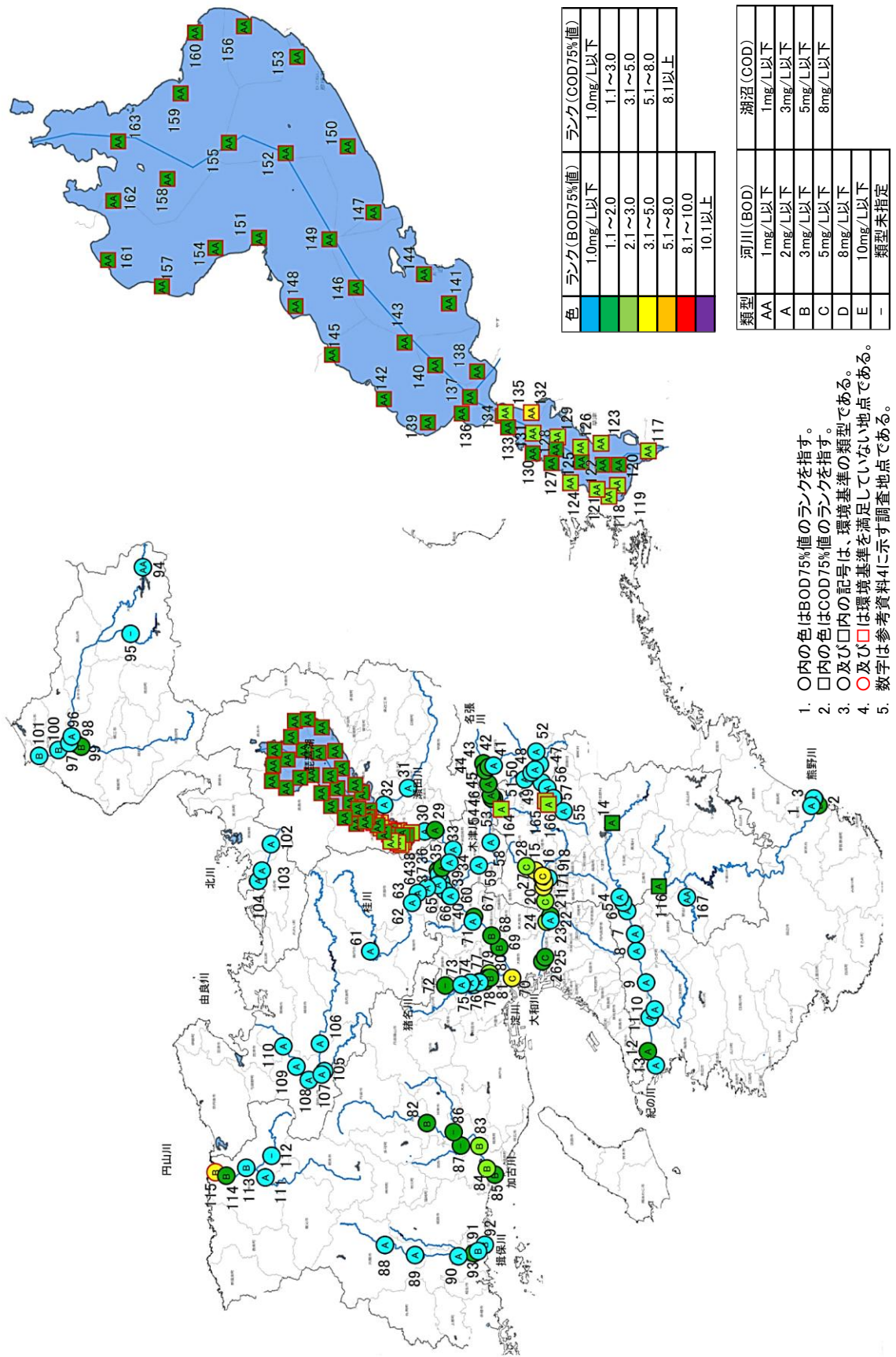
参考資料 5 (4) 令和7年一級河川の水質状況図（北陸）



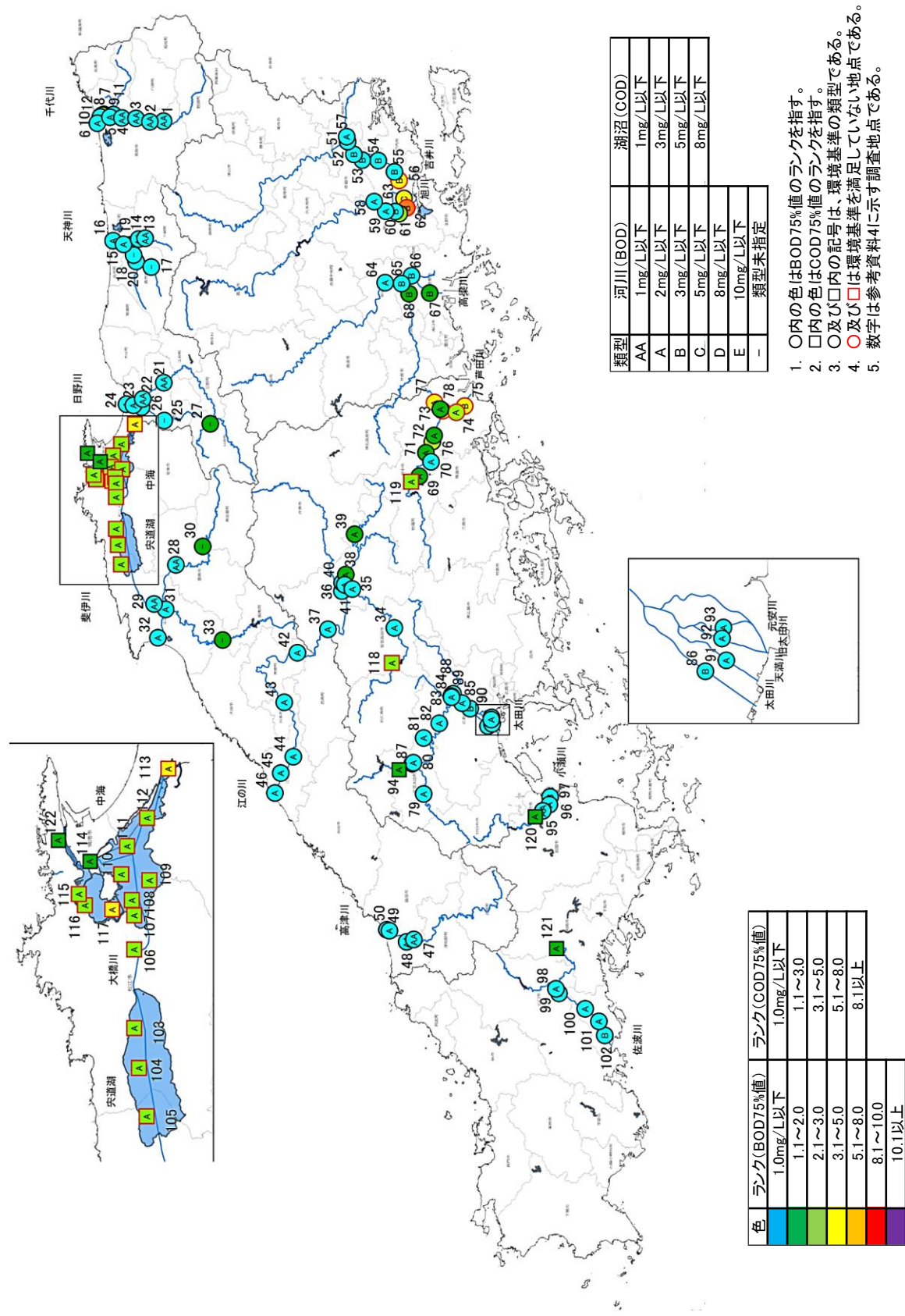
参考資料 5 (5) 令和7年一級河川の水質状況図 (中部)



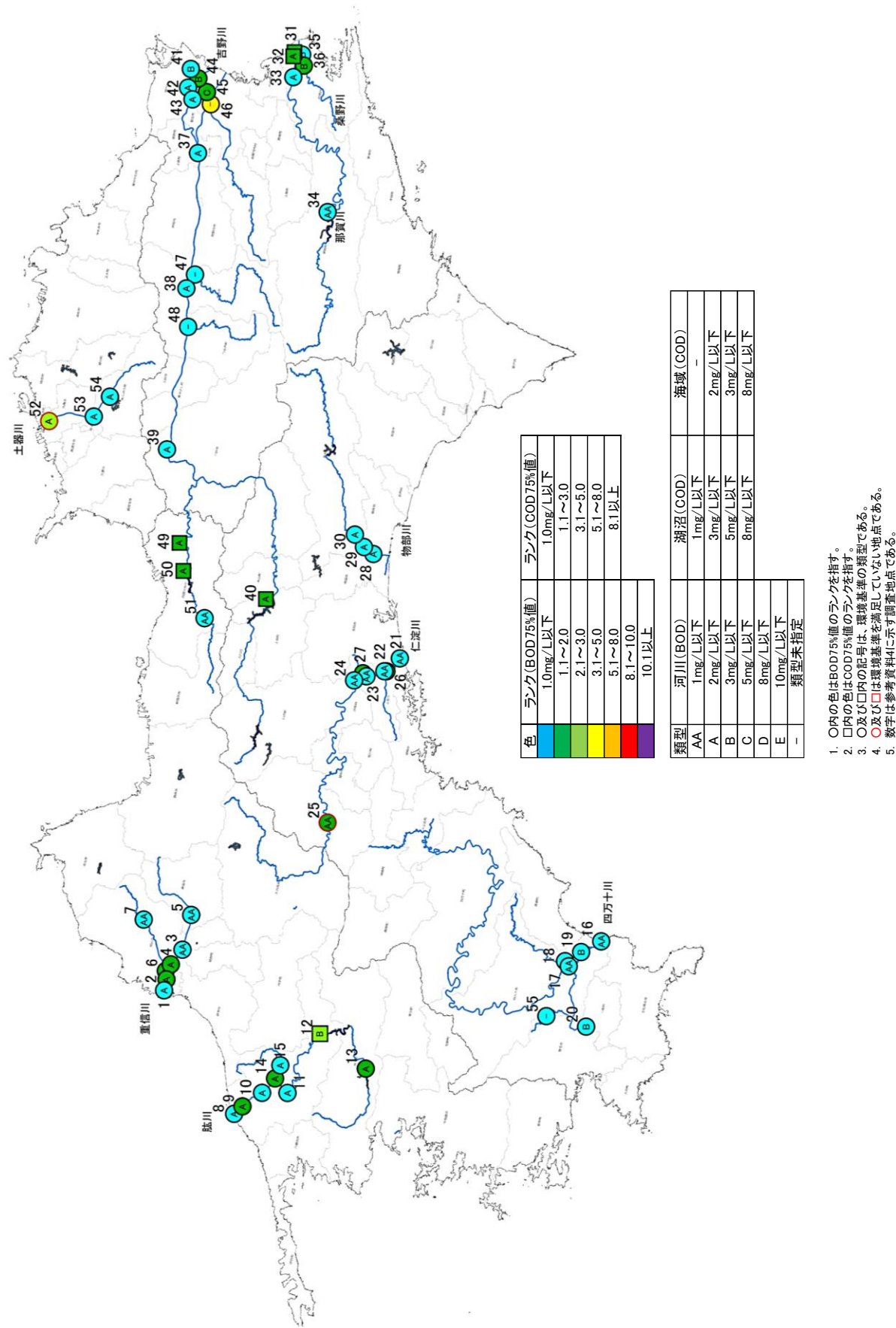
参考資料 5 (6) 令和7年一級河川の水質状況図 (近畿)



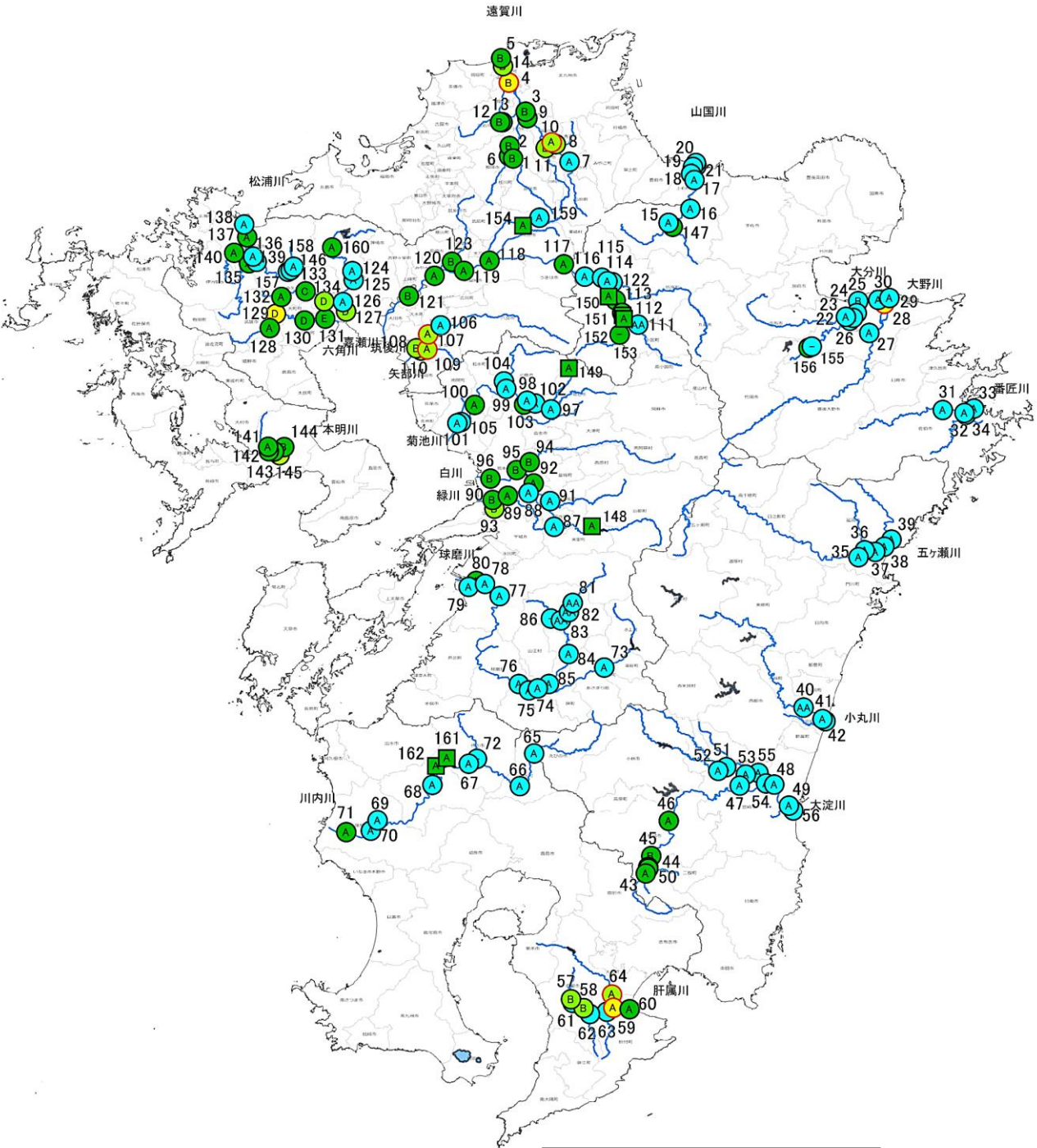
参考資料 5 (7) 令和7年一級河川の水質状況図 (中国)



参考資料 5 (8) 令和7年一級河川の水質状況図（四国）



参考資料5 (9) 令和7年一級河川の水質状況図 (九州)



色	ランク(BOD75%値)	ランク(COD75%値)
青	1.0mg/L以下	1.0mg/L以下
緑	1.1～2.0	1.1～3.0
黄	2.1～3.0	3.1～5.0
赤	3.1～5.0	5.1～8.0
紫	5.1～8.0	8.1以上
黒	8.1～10.0	
白	10.1以上	

類型	河川(BOD)	湖沼(COD)
AA	1mg/L以下	1mg/L以下
A	2mg/L以下	3mg/L以下
B	3mg/L以下	5mg/L以下
C	5mg/L以下	8mg/L以下
D	8mg/L以下	
E	10mg/L以下	
-	類型未指定	

- 内の色はBOD75%値のランクを指す。
- 内の色はCOD75%値のランクを指す。
- 及び□内の記号は、環境基準の類型である。
- 及び□は環境基準を満足していない地点である。
- 数字は参考資料4に示す調査地点である。

参考資料6 ダイオキシン類の調査結果

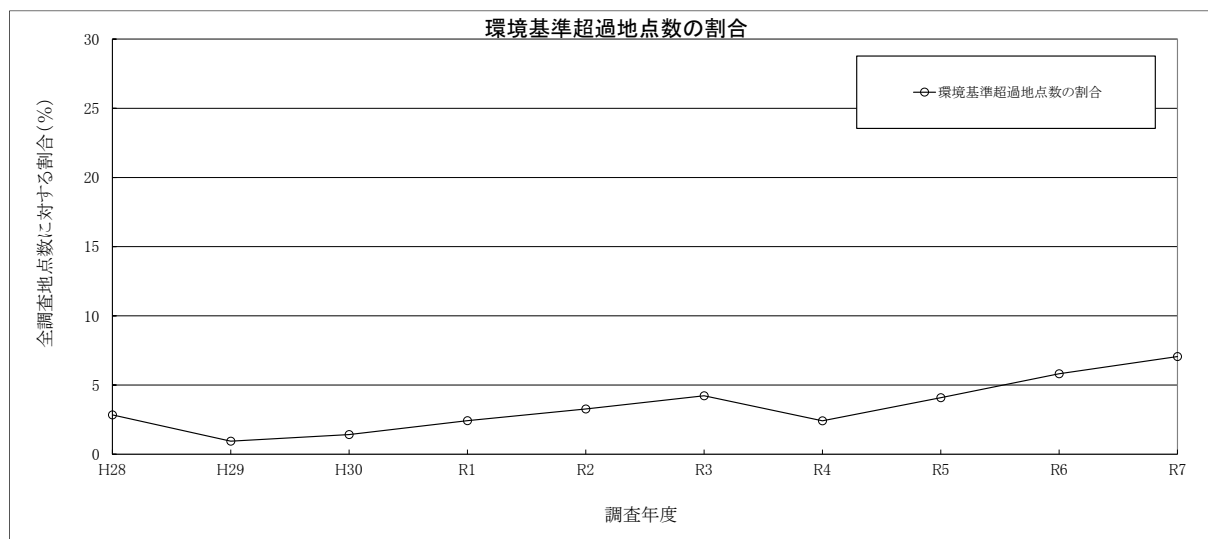


図 ダイオキシン類に関する全調査地点数のうち、
環境基準超過地点数の割合 (%) の推移 (水質)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
環境基準超過地点数	6	2	3	5	7	9	5	8	10	12
全調査地点数	211	212	212	206	214	213	207	196	172	170
環境基準超過地点数の割合 (%)	2.2%	0.9%	1.4%	2.4%	3.3%	4.2%	2.4%	4.1%	5.8%	7.1%

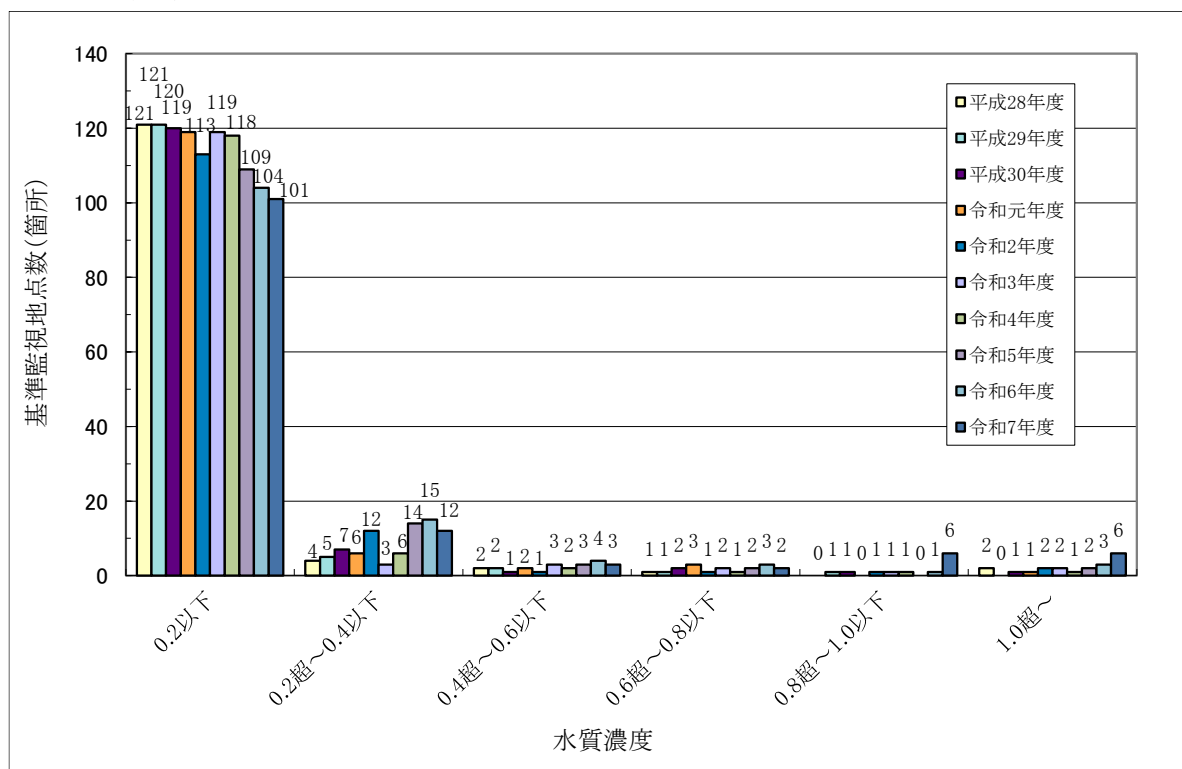


図 平成28年度～令和7年度水質ダイオキシン類調査（基準監視地点）
濃度ヒストグラム

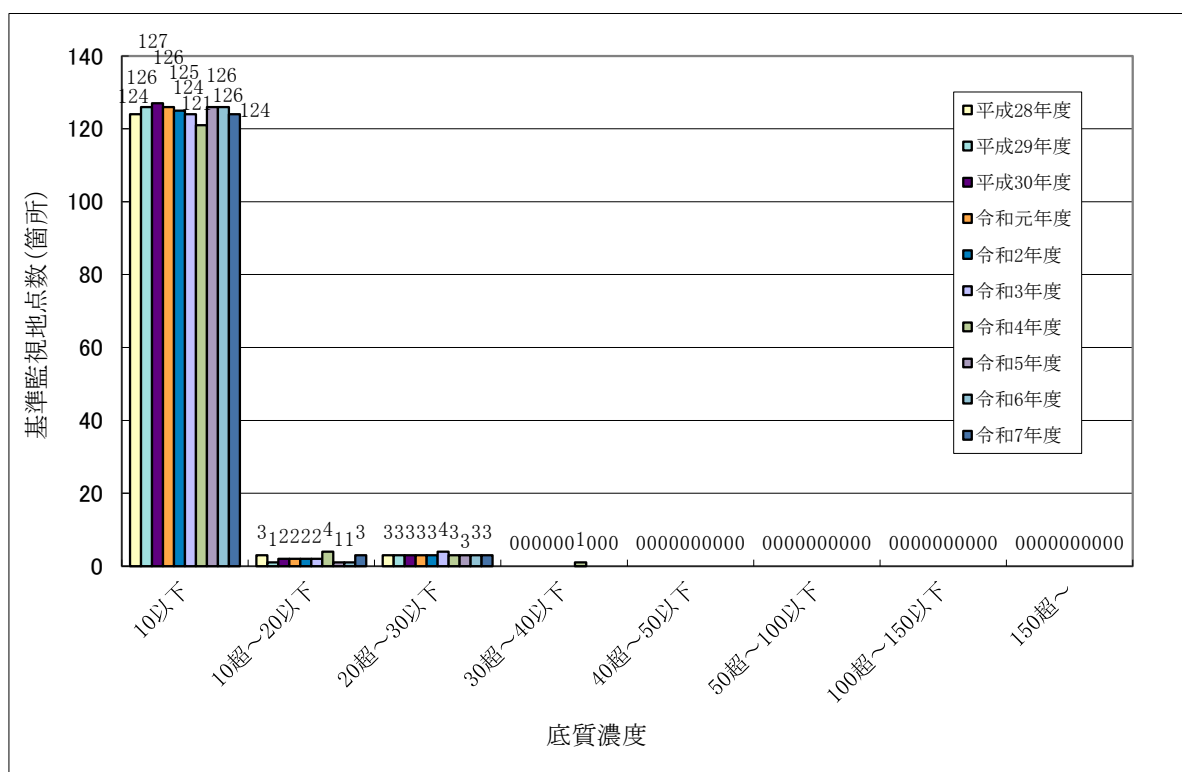


図 平成28年度～令和7年度底質ダイオキシン類調査（基準監視地点）
濃度ヒストグラム

表(1) 令和7年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（北海道）

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		ダイオキシン類（水質）※2				ダイオキシン類（底質）※2					
						基準 or 補助	重点監視地点※1	調査時期	PCDD+PCDF pg-TEQ/ℓ	Co-PCB pg-TEQ/ℓ	TOTAL※3 pg-TEQ/ℓ	評価値 （平均値） pg-TEQ/ℓ	PCDD+PCDF pg-TEQ/g	Co-PCB pg-TEQ/g	TOTAL※3 pg-TEQ/g	評価値 （最高値） pg-TEQ/g	
104	北海道	北海道	石狩川	幾春別川	桂沢ダム	補助			春期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.21	0.013	0.23	0.23
149	北海道	北海道	石狩川	夕張川	夕張シュ－パロダム	補助			春期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.28	0.024	0.31	0.31
105	北海道	北海道	石狩川	漁川	漁川ダム	補助			春期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.41	0.036	0.44	0.44
109	北海道	北海道	石狩川	石狩川	石狩大橋	基準			春期	0.23	0.0046	0.23	0.23	0.49	0.014	0.50	0.50
111	北海道	北海道	石狩川	豊平川	豊平峡ダム	補助			春期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.86	0.047	0.91	0.91
112	北海道	北海道	石狩川	小樽内川	定山溪ダム	補助			春期	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.6	0.13	1.8	1.8
113	北海道	北海道	石狩川	豊平川	中沼	基準			春期	0.063	0.0047	0.067	0.067	0.54	0.035	0.57	0.57
115	北海道	北海道	常呂川	常呂川	忠志橋	基準			春期	0.10	0.0047	0.11	0.11	1.5	0.035	1.5	1.5
117	北海道	北海道	尻別川	尻別川	名駒	基準			春期	0.066	0.0046	0.070	0.070	0.79	0.034	0.82	0.82
118	北海道	北海道	尻別川	尻別川	初田橋	補助			春期					1.3	0.068	1.4	1.4
119	北海道	北海道	後志利別川	後志利別川	美利河ダム	補助			春期	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.5	0.10	1.6	1.6
120	北海道	北海道	後志利別川	後志利別川	今金橋	基準			春期	0.069	0.0046	0.074	0.074	0.25	0.013	0.26	0.26
122	北海道	北海道	鶴川	鶴川	鶴川橋	基準			春期	0.097	0.0046	0.10	0.10	1.8	0.013	1.8	1.8
125	北海道	北海道	沙流川	沙流川	長知内橋	基準			春期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.25	0.013	0.26	0.26
128	北海道	北海道	十勝川	札内川	札内川ダム	補助			春期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.78	0.063	0.85	0.85
130	北海道	北海道	十勝川	十勝川	茂岩橋	基準			春期	0.066	0.0047	0.070	0.070	0.45	0.013	0.46	0.46
131	北海道	北海道	釧路川	釧路川	愛国浄水場取水口	基準			夏期	0.063	0.0046	0.067	0.067	0.20	0.013	0.21	0.21
132	北海道	北海道	釧路川	釧路川	新川橋	補助			夏期					0.20	0.014	0.21	0.21
133	北海道	北海道	網走川	網走川	治水橋	基準			春期	0.16	0.0047	0.16	0.16	1.2	0.014	1.3	1.3
134	北海道	北海道	網走川	網走湖	st. 2	基準			春期	0.063	0.0046	0.068	0.068	4.1	0.080	4.1	4.1
136	北海道	北海道	湧別川	湧別川	中湧別橋	基準			春期	0.064	0.0046	0.068	0.068	0.33	0.014	0.34	0.34
137	北海道	北海道	湧別川	湧別川	湧別大橋	補助			春期					0.21	0.013	0.22	0.22
138	北海道	北海道	渚滑川	渚滑川	ウツツ橋	基準			春期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.20	0.013	0.21	0.21
139	北海道	北海道	渚滑川	渚滑川	渚滑捕獲場	補助			春期					0.22	0.013	0.23	0.23
142	北海道	北海道	天塩川	天塩川	天塩大橋	基準			春期	0.075	0.0046	0.079	0.079	1.4	0.014	1.4	1.4
143	北海道	北海道	天塩川	天塩川	天塩河口	補助			春期					1.7	0.014	1.7	1.7
144	北海道	北海道	留萌川	留萌川	16線橋	基準			春期	0.075	0.0046	0.080	0.080	0.52	0.013	0.54	0.54
145	北海道	北海道	留萌川	留萌川	留萌橋	補助			春期					0.53	0.014	0.55	0.55

※1 過去に環境基準を超えてから、2年間の調査において常に下回らなかった地点。

※2 網掛けは環境基準を超過

※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表(2) 令和7年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（東北）

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点			ダイオキシン類（水質）※2				ダイオキシン類（底質）※2				
						基準 or 補助	重点監視地点※1		調査時期	PCDD+PCDF pg-TEQ/ℓ	Co-PCB pg-TEQ/ℓ	TOTAL※3 pg-TEQ/ℓ	評価値 （平均値） pg-TEQ/ℓ	PCDD+PCDF pg-TEQ/g	Co-PCB pg-TEQ/g	TOTAL※3 pg-TEQ/g	評価値 （最高値） pg-TEQ/g
							水質	底質									
201	東北	青森県	馬淵川	馬淵川	尻内橋	基準			秋期	0.068	0.0046	0.072	0.072	0.22	0.013	0.24	0.24
202	東北	青森県	岩木川	岩木川	乾橋	基準			秋期	0.074	0.0047	0.079	0.079	0.22	0.013	0.23	0.23
203	東北	青森県	高瀬川	小川原湖	小川原湖No. H	基準			秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	3.2	0.16	3.3	3.3
204	東北	秋田県	雄物川	雄物川	新屋	基準			秋期	0.074	0.0047	0.079	0.079	5.0	0.18	5.2	5.2
205	東北	秋田県	子吉川	子吉川	二十六木橋	基準			秋期	0.067	0.0046	0.072	0.072	2.0	0.046	2.1	2.1
206	東北	秋田県	米代川	米代川	二ツ井	基準			秋期	0.065	0.0046	0.069	0.069	0.29	0.014	0.31	0.31
207	東北	山形県	最上川	最上川	基点橋	基準			秋期	0.072	0.0047	0.077	0.077	0.52	0.036	0.55	0.55
208	東北	山形県	赤川	赤川	浜中	基準			秋期	0.071	0.0046	0.076	0.076	0.21	0.013	0.22	0.22
209	東北	宮城県	名取川	名取川	関上大橋	基準			秋期	0.079	0.0048	0.084	0.084	1.8	0.099	1.9	1.9
210	東北	宮城県	阿武隈川	阿武隈川	岩沼	基準			秋期	0.084	0.0047	0.089	0.089	1.3	0.046	1.3	1.3
211	東北	宮城県	北上川	北上川	登米	基準			秋期	0.066	0.0046	0.071	0.071	0.57	0.014	0.58	0.58
212	東北	宮城県	鳴瀬川	鳴瀬川	鳴瀬堰（小野）	基準			秋期	0.19	0.0047	0.19	0.19	0.30	0.013	0.31	0.31

※1 過去に環境基準を超えてから、2年間の調査において常に下回らなかった地点。

※2 網掛けは環境基準を超過

※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表(3) 令和7年度ダイオキシン類に関する実態調査結果 (関東 (1))

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類 (水質) ※2				ダイオキシン類 (底質) ※2			
						基準 or 補助	重点監視地点※1		PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL ※3	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL ※3	評価値 (最高値)
						水質	底質		pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	
301	関東	群馬県	利根川	渡良瀬川	草木ダム	補助		春期	0.063	0.0046	0.068	0.068	5.1	0.87	6.0	6.0
302	関東	茨城県・千葉県	利根川	利根川	布川(栄橋)	補助		春期	0.44	0.011	0.45	0.45				
303	関東	茨城県・千葉県	利根川	利根川	佐原(水郷大橋)	基準		春期	0.37	0.011	0.38	0.38	2.7	0.11	2.8	2.8
304	関東	栃木県・群馬県	利根川	渡良瀬川	渡良瀬貯水池	補助		春期	0.081	0.0046	0.086	0.086				
305	関東	茨城県・栃木県	利根川	渡良瀬川	三国橋	基準		春期	0.53	0.016	0.55	0.55	0.23	0.013	0.24	0.24
306	関東	栃木県	利根川	鬼怒川	川治ダム	補助		春期	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.9	0.14	2.1	2.1
307	関東	茨城県	利根川	鬼怒川	滝下橋	基準		春期	0.85	0.020	0.87	0.87	1.3	0.035	1.3	1.3
308	関東	茨城県	利根川	小貝川	文巻橋	基準		春期	0.87	0.011	0.88	0.88	0.24	0.013	0.25	0.25
309	関東	千葉県・東京都	利根川	江戸川	江戸川水門(上)	基準		春期	0.19	0.010	0.20	0.20	2.3	0.14	2.4	2.4
310	関東	埼玉県・東京都	利根川	中川	潮止橋	補助	○	春期	1.8	0.028	1.8	1.8				
								冬期	0.67	0.029	0.70					
311	関東	東京都	利根川	中川	飯塚橋	基準	○	春期	1.2	0.016	1.2	0.93	1.2	0.059	1.3	1.3
								冬期	0.62	0.034	0.65					
312	関東	東京都	利根川	中川	高砂橋	補助	○	春期	0.78	0.013	0.79	0.60				
								冬期	0.37	0.038	0.41					
313	関東	埼玉県	利根川	綾瀬川	槐戸橋	補助	○	春期	2.8	0.052	2.8	1.8				
								冬期	0.80	0.039	0.83					
314	関東	埼玉県	利根川	綾瀬川	手代橋	補助	○	春期	1.9	0.052	1.9	1.4				
								冬期	0.80	0.059	0.86					
315	関東	埼玉県・東京都	利根川	綾瀬川	内匠橋	基準	○	春期	2.4	0.041	2.4	1.4	2.5	0.19	2.7	2.7
								冬期	0.35	0.035	0.38					

※1 過去に環境基準を超えてから、2年間の調査において常に下回らなかった地点。

※2 網掛けは環境基準を超過

※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表(4) 令和7年度ダイオキシン類に関する実態調査結果 (関東 (2))

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	基準 or 補助		地点		ダイオキシン類 (水質) ※2				ダイオキシン類 (底質) ※2			
								重点監視地点※1		PCDD+PCDF pg-TEQ/ℓ	Co-PCB pg-TEQ/ℓ	TOTAL ※3 pg-TEQ/ℓ	評価値 (平均値) pg-TEQ/ℓ	PCDD+PCDF pg-TEQ/g	Co-PCB pg-TEQ/g	TOTAL ※3 pg-TEQ/g	評価値 (最高値) pg-TEQ/g
316	関東	茨城県	利根川	霞ヶ浦(西浦)	湖心	基準				0.13	0.0047	0.13	0.13	15	0.43	16	16
317	関東	茨城県	利根川	霞ヶ浦(北浦)	釜谷沖	基準				0.12	0.0046	0.12	0.12	20	0.31	21	21
318	関東	埼玉県	荒川	荒川	二瀬ダム	補助				0.062	0.0046	0.067	0.067	0.45	0.061	0.51	0.51
319	関東	埼玉県	荒川	荒川	浦山ダム	補助				0.062	0.0046	0.067	0.067	1.1	0.15	1.2	1.2
320	関東	埼玉県	荒川	中津川	滝沢ダム	補助				0.063	0.0046	0.067	0.067	0.51	0.074	0.58	0.58
321	関東	埼玉県	荒川	荒川	治水橋	基準				0.10	0.0048	0.11	0.11	1.4	0.088	1.5	1.5
322	関東	埼玉県	荒川	荒川	荒川調節池	補助				0.067	0.0047	0.071	0.071	8.1	0.67	8.7	8.7
323	関東	茨城県	久慈川	久慈川	神橋	基準				1.0	0.0048	1.0	1.0	4.8	0.091	4.8	4.8
324	関東	茨城県	久慈川	山田川	東橋	補助	○			1.3	0.0083	1.3	0.74				
325	関東	茨城県	久慈川	里川	新落合橋	補助				0.18	0.0047	0.18					
										1.3	0.0049	1.3	0.69				
326	関東	茨城県	那珂川	那珂川	下国井	基準				0.069	0.0047	0.073					
327	関東	茨城県	那珂川	桜川	鯉南小橋	補助				0.16	0.0047	0.17	0.17	1.1	0.045	1.2	1.2
328	関東	東京都・神奈川県	多摩川	多摩川	田園調布堰	基準				0.34	0.0048	0.35	0.35				
329	関東	神奈川県	鶴見川	鶴見川	龜の子橋	基準				0.074	0.0050	0.079	0.079	0.30	0.049	0.35	0.35
330	関東	神奈川県	相模川	相模川	馬入橋	基準				0.085	0.010	0.095	0.095	0.46	0.11	0.57	0.57
331	関東	静岡県	富士川	富士川	富士川橋	基準				0.19	0.0051	0.20	0.20	2.7	0.35	3.0	3.0
										0.084	0.0047	0.089	0.089	0.20	0.013	0.21	0.21

※1 過去に環境基準を超えてから、2年間の調査において常に下回らなかった地点。
※2 網掛けは環境基準を超過
※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表(5) 令和7年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（北陸）

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		ダイオキシン類（水質）※2				ダイオキシン類（底質）※2				
						基準 or 補助	重点監視地点※1	調査時期	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL※3	評価値 （平均値）	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL※3	評価値 （最高値）
									pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	
402	北陸	新潟県	荒川	荒川	旭橋下流	基準		春期	0.16	0.0046	0.17	0.17	0.67	0.045	0.71	0.71
412	北陸	新潟県	阿賀野川	阿賀野川	横雲橋	基準		春期	0.25	0.0047	0.26	0.26	0.20	0.013	0.21	0.21
422	北陸	新潟県	信濃川	信濃川	平成大橋	基準	○	春期	1.7	0.0047	1.7	0.97	0.54	0.014	0.55	0.55
								秋期	0.22	0.0047	0.23					
424	北陸	新潟県	信濃川	信濃川	庄瀬橋	補助	○	春期	1.4	0.0048	1.4	0.84				
								秋期	0.27	0.0047	0.28					
440	北陸	新潟県	関川	関川	直江津橋	基準	○	春期	2.3	0.0048	2.3	1.4	7.3	0.091	7.4	7.4
								秋期	0.49	0.0048	0.49					
442	北陸	新潟県	関川	関川	稲田橋	補助	○	春期	2.5	0.0048	2.5	1.5				
								秋期	0.50	0.0088	0.51					
444	北陸	新潟県	関川	保倉川	古城橋	補助	○	春期	4.1	0.0047	4.1	2.4				
								秋期	0.68	0.0047	0.69					
448	北陸	新潟県	姫川	姫川	山本（中山橋）	基準		春期	0.11	0.0046	0.11	0.11	0.20	0.013	0.21	0.21
450	北陸	富山県	黒部川	黒部川	下黒部橋	基準		春期	0.065	0.0046	0.070	0.070	0.20	0.013	0.21	0.21
462	北陸	富山県	常願寺川	常願寺川	常願寺橋	基準		春期	0.068	0.0047	0.072	0.072	0.19	0.013	0.21	0.21
468	北陸	富山県	神通川	神通川	神通大橋	基準		春期	0.083	0.0046	0.087	0.087	0.22	0.014	0.23	0.23
472	北陸	富山県	庄川	庄川	大門大橋	基準		春期	0.071	0.0046	0.076	0.076	0.59	0.034	0.62	0.62
476	北陸	富山県	小矢部川	小矢部川	城光寺橋	基準		春期	0.77	0.010	0.78	0.78	0.56	0.035	0.60	0.60
480	北陸	石川県	手取川	手取川	美川大橋	基準		春期	0.071	0.0046	0.076	0.076	0.20	0.013	0.21	0.21
486	北陸	石川県	梯川	梯川	石田橋	基準		春期	0.29	0.0047	0.30	0.30	2.0	0.055	2.1	2.1

※1 過去に環境基準を超えてから、2年間の調査において常に下回らなかった地点。

※2 網掛けは環境基準を超過

※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表(6) 令和7年度ダイオキシン類に関する実態調査結果 (中部)

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		ダイオキシン類 (水質) ※2				ダイオキシン類 (底質) ※2				評価値 (最高値)
						基準 or 補助	重点監視地点※1	調査時期	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL ※3	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL ※3	
501	中部	静岡県	狩野川	狩野川	徳倉橋	基準		春期	1.5	0.014	1.5	1.5	1.8	0.15	2.0	2.0
504	中部	静岡県	安倍川	安倍川	安倍川橋	基準		春期	0.068	0.0046	0.073	0.073	0.20	0.013	0.21	0.21
507	中部	静岡県	大井川	大井川	富士見橋	基準		春期	0.069	0.0047	0.074	0.074	0.20	0.013	0.21	0.21
509	中部	静岡県	菊川	菊川	高田橋	基準		春期	1.6	0.0047	1.6	1.6	0.66	0.014	0.67	0.67
513	中部	静岡県	天竜川	天竜川	鹿島橋	基準		春期	0.067	0.0046	0.072	0.072	0.20	0.013	0.22	0.22
519	中部	愛知県	豊川	豊川	江島橋	基準		春期	0.27	0.0046	0.27	0.27	0.21	0.013	0.22	0.22
524	中部	愛知県	矢作川	矢作川	米津大橋	基準		春期	0.30	0.0047	0.31	0.31	0.21	0.013	0.22	0.22
526	中部	岐阜県	庄内川	庄内川	小里川ダム	補助		春期	0.21	0.0047	0.21	0.21				
531	中部	愛知県	庄内川	庄内川	枇杷島橋	基準		春期	0.47	0.013	0.48	0.48	0.22	0.013	0.23	0.23
536	中部	愛知県	木曽川	木曽川	濃尾大橋	基準		春期	0.14	0.0047	0.15	0.15	0.22	0.013	0.23	0.23
544	中部	岐阜県	木曽川	揖斐川	福岡大橋	基準		春期	0.81	0.010	0.82	0.82	9.1	0.23	9.3	9.3
546	中部	三重県	木曽川	長良川	伊勢大橋	基準		春期	0.29	0.0050	0.30	0.30	0.97	0.11	1.1	1.1
548	中部	三重県	鈴鹿川	鈴鹿川	高岡橋	基準		春期	1.3	0.0047	1.3	1.3	0.23	0.013	0.25	0.25
551	中部	三重県	雲出川	雲出川	雲出橋	基準		春期	0.68	0.028	0.71	0.71	0.46	0.013	0.47	0.47
554	中部	三重県	櫛田川	櫛田川	度会橋	基準		春期	1.2	0.0046	1.2	1.2	0.56	0.013	0.58	0.58
556	中部	三重県	宮川	宮川	阿木川ダム	基準		春期	0.26	0.0046	0.26	0.26	0.23	0.013	0.24	0.24
557	中部	岐阜県	木曽川	阿木川	岩屋ダム	補助		秋期	0.088	0.0046	0.092	0.092	15	0.14	15	15
558	中部	岐阜県	木曽川	馬瀬川	岩屋ダム	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.2	0.083	1.3	1.3
559	中部	長野県	木曽川	木曽川	味増川ダム	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.46	0.052	0.51	0.51
560	中部	岐阜県	木曽川	揖斐川	徳山ダム	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	3.0	0.23	3.2	3.2

※1 過去に環境基準を超えてから、2年間の調査において常に下回らなかった地点。

※2 網掛けは環境基準を超過

※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表(7) 令和7年度ダイオキシン類に関する実態調査結果 (近畿)

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点			ダイオキシン類 (水質) ※2				ダイオキシン類 (底質) ※2				
						基準 or 補助	重点監視地点※1		調査時期	PCDD+PCDF pg-TEQ/ℓ	Co-PCB pg-TEQ/ℓ	TOTAL ※3 pg-TEQ/ℓ	評価値 (平均値) pg-TEQ/ℓ	PCDD+PCDF pg-TEQ/g	Co-PCB pg-TEQ/g	TOTAL ※3 pg-TEQ/g	評価値 (最高値) pg-TEQ/g
							水質	底質									
602	近畿	和歌山・三重県	新宮川	熊野川	熊野大橋	基準		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.22	0.014	0.23	0.23	
603	近畿	奈良県	新宮川	熊野川	猿谷ダム湖中央	補助		秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067					
606	近畿	和歌山	紀の川	紀の川	船戸	基準		秋期	0.080	0.0047	0.084	0.084	0.32	0.014	0.34	0.34	
608	近畿	奈良県	大和川	大和川	上判田	補助		夏期	0.60	0.028	0.63	0.63					
609	近畿	奈良県	大和川	大和川	太子橋	補助		夏期	0.36	0.014	0.37	0.37					
614	近畿	大阪府	大和川	大和川	遠里小野橋 中	基準		夏期	0.32	0.016	0.33	0.33	0.25	0.014	0.26	0.26	
616	近畿	三重県	淀川	木津川	岩倉橋	補助	○	春期	3.7	0.0048	3.8	2.2					
								夏期	0.56	0.0047	0.56						
625	近畿	大阪府	淀川	淀川	枚方大橋中央	基準		夏期	0.16	0.013	0.17	0.17	0.21	0.013	0.22	0.22	
626	近畿	大阪府	淀川	淀川	菅原城北大橋	基準		夏期	0.12	0.0096	0.13	0.13	10	0.90	11	11	
630	近畿	大阪府	淀川	猪名川	利倉	基準		夏期	0.14	0.013	0.16	0.16	0.35	0.093	0.44	0.44	
631	近畿	兵庫県	淀川	瀬川	中国橋	基準		夏期	0.14	0.030	0.17	0.17	0.32	0.072	0.39	0.39	
633	近畿	兵庫県	加古川	加古川	池尻 (加古川橋)	基準		夏期	0.24	0.0048	0.24	0.24	0.36	0.013	0.37	0.37	
635	近畿	兵庫県	揖保川	揖保川	上川原 (王子橋)	基準		春期	0.066	0.0047	0.071	0.071	1.1	0.24	1.3	1.3	
637	近畿	兵庫県	円山川	円山川	立野	基準		夏期	0.068	0.0047	0.073	0.073	0.21	0.013	0.22	0.22	
640	近畿	京都府	由良川	由良川	波美橋	基準		夏期	0.079	0.0047	0.084	0.084	0.49	0.034	0.53	0.53	
642	近畿	福井県	北川	北川	高塚	基準		春期	0.31	0.0047	0.32	0.32	0.26	0.016	0.27	0.27	
645	近畿	福井県	九頭竜川	九頭竜川	中角	基準		春期	0.19	0.0047	0.19	0.19	0.20	0.013	0.22	0.22	

※1 過去に環境基準を超えてから、2年間の調査において常に下回らなかった地点。

※2 網掛けは環境基準を超過

※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表(8) 令和7年度ダイオキシン類に関する実態調査結果 (中国)

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		ダイオキシン類 (水質) ※2				ダイオキシン類 (底質) ※2				評価値 (最高値)
						基準 or 補助	重点監視地点※1	調査時期	PCDD+PCDF pg-TEQ/ℓ	Co-PCB pg-TEQ/ℓ	TOTAL ※3 pg-TEQ/ℓ	評価値 (平均値) pg-TEQ/ℓ	PCDD+PCDF pg-TEQ/g	Co-PCB pg-TEQ/g	TOTAL ※3 pg-TEQ/g	
水質	底質															

701	中国	鳥取県	千代川	千代川	行徳	基準		夏期	0.18	0.0047	0.19	0.19	0.59	0.034	0.62	0.62
702	中国	鳥取県	天神川	天神川	小田	基準		夏期	0.10	0.0047	0.11	0.11	0.21	0.013	0.23	0.23
703	中国	鳥取県	日野川	日野川	車尾	基準		夏期	0.072	0.0046	0.076	0.076	0.21	0.013	0.22	0.22
704	中国	鳥根県	斐伊川	斐伊川	大津	基準		夏期	0.071	0.0046	0.076	0.076	0.54	0.013	0.55	0.55
705	中国	鳥根県	斐伊川	矢道湖	N0. 5	補助		夏期	0.074	0.0047	0.078	0.078	15	0.36	15	15
706	中国	鳥根県	斐伊川	矢道湖	N0. 3	基準		夏期	0.067	0.0047	0.071	0.071	22	0.75	23	23
707	中国	鳥根県	斐伊川	矢道湖	N0. 1	補助		夏期	0.068	0.0046	0.073	0.073				
708	中国	鳥根県	斐伊川	矢道湖	斐伊川河口	基準		夏期	0.079	0.0046	0.083	0.083	1.8	0.034	1.8	1.8
709	中国	鳥根県	斐伊川	矢道湖	松江温泉沖	基準		夏期	0.069	0.0047	0.073	0.073	0.93	0.057	0.99	0.99
710	中国	鳥根県	斐伊川	矢道湖	秋鹿沖	基準		夏期	0.078	0.0047	0.082	0.082	7.0	0.23	7.2	7.2
711	中国	鳥根県	斐伊川	矢道湖	玉湯町泉源沖	基準		夏期	0.069	0.0046	0.073	0.073	12	0.35	13	13
712	中国	鳥根県	斐伊川	中海	大橋川河口	補助		夏期	0.080	0.0048	0.084	0.084	13	0.45	13	13
713	中国	鳥根県	斐伊川	中海	中海湖心	基準		夏期	0.067	0.0047	0.072	0.072	22	0.57	22	22
714	中国	鳥根県	斐伊川	中海	米子湾中央部	補助		夏期					10	0.24	11	11
715	中国	鳥根県	江の川	江の川	桜江大橋	基準		夏期	0.073	0.0046	0.078	0.078	0.23	0.013	0.25	0.25
716	中国	鳥根県	高津川	高津川	金地橋	基準		夏期	0.064	0.0046	0.069	0.069	0.24	0.014	0.25	0.25
717	中国	岡山県	吉井川	吉井川	熊山橋	基準		夏期	0.093	0.0046	0.098	0.098	0.23	0.013	0.24	0.24
718	中国	岡山県	吉井川	吉井川	坂根堰	補助		夏期	0.12	0.0046	0.12	0.12				
719	中国	岡山県	旭川	旭川	乙井手堰	基準		夏期	0.087	0.0047	0.092	0.092	0.21	0.013	0.23	0.23
720	中国	岡山県	高梁川	高梁川	霞橋	基準		夏期	0.11	0.0047	0.11	0.11	3.8	0.30	4.1	4.1
721	中国	広島県	芦田川	芦田川	小水呑橋	基準		夏期	0.50	0.021	0.52	0.52	1.2	0.065	1.3	1.3
722	中国	広島県	太田川	太田川	壬辰橋	基準		夏期	0.070	0.0047	0.075	0.075	0.20	0.013	0.21	0.21
723	中国	広島県・山口県	小瀬川	小瀬川	両国橋	基準		夏期	0.076	0.0047	0.080	0.080	0.22	0.013	0.23	0.23
724	中国	山口県	佐波川	佐波川	新橋	基準		夏期	0.12	0.0047	0.12	0.12	0.22	0.013	0.23	0.23

※1 過去に環境基準を超えてから、2年間の調査において常に下回らなかった地点。

※2 網掛けは環境基準を超過

※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表(9) 令和7年度ダイオキシン類に関する実態調査結果 (四国)

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類 (水質) ※2				ダイオキシン類 (底質) ※2			
						基準 or 補助	重点監視地点 ※1		PCDD+PCDF pg-TEQ/ℓ	Co-PCB pg-TEQ/ℓ	TOTAL ※3 pg-TEQ/ℓ	評価値 (平均値) pg-TEQ/ℓ	PCDD+PCDF pg-TEQ/g	Co-PCB pg-TEQ/g	TOTAL ※3 pg-TEQ/g	評価値 (最高値) pg-TEQ/g
							水質	底質								
801	四国	愛媛県	重信川	重信川	出合橋	基準			0.073	0.0047	0.078	0.078	0.21	0.014	0.22	0.22
802	四国	徳島県	吉野川	吉野川	高瀬橋	基準			0.067	0.0046	0.072	0.072	0.22	0.014	0.23	0.23
803	四国	徳島県	那賀川	那賀川	那賀川橋	基準			0.065	0.0046	0.070	0.070	0.20	0.013	0.21	0.21
804	四国	高知県	物部川	物部川	深淵	基準			0.066	0.0046	0.071	0.071	0.21	0.014	0.22	0.22
805	四国	高知県	仁淀川	仁淀川	中島	基準			0.067	0.0046	0.071	0.071	0.20	0.013	0.21	0.21
806	四国	高知県	渡川	四万十川	具同	基準			0.064	0.0046	0.069	0.069	0.25	0.013	0.26	0.26
807	四国	愛媛県	肱川	肱川	肱川橋下流	基準			0.068	0.0046	0.072	0.072	0.20	0.013	0.22	0.22
808	四国	愛媛県	肱川	肱川	鹿野川ダム	補助			0.077	0.0046	0.082	0.082				
809	四国	香川県	土器川	土器川	丸龜橋	基準			0.35	0.0083	0.36	0.36	0.94	0.034	0.97	0.97

※1 過去に環境基準を超えてから、2年間の調査において常に下回らなかった地点。

※2 網掛けは環境基準を超過

※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表(10) 令和7年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（九州）

No.	整備局名	都道府県名	河川名	調査地点名	地点		ダイオキシン類（水質）※2				ダイオキシン類（底質）※2				
					基準 or 補助	重点監視地点※1	調査時期	PCDD+PCDF pg-TEQ/ℓ	Co-PCB pg-TEQ/ℓ	TOTAL※3 pg-TEQ/ℓ	評価値 （平均値） pg-TEQ/ℓ	PCDD+PCDF pg-TEQ/g	Co-PCB pg-TEQ/g	TOTAL※3 pg-TEQ/g	評価値 （最高値） pg-TEQ/g
901	九州	福岡県・佐賀県	筑後川	瀬ノ下	基準		秋期	0.13	0.0049	0.13	0.13	4.4	0.14	4.6	4.6
902	九州	福岡県	遠賀川	日の出橋	基準		秋期	0.10	0.0049	0.11	0.11	0.27	0.014	0.28	0.28
904	九州	福岡県・大分県	山国川	下唐原	基準		秋期	0.067	0.0047	0.072	0.072	0.79	0.023	0.82	0.82
906	九州	大分県	大分川	府内大橋	基準		秋期	0.076	0.0048	0.080	0.080	0.28	0.013	0.29	0.29
908	九州	大分県	大野川	白滝橋	基準		秋期	0.076	0.0048	0.080	0.080	0.21	0.013	0.23	0.23
909	九州	大分県	番匠川	番匠橋	基準		秋期	0.063	0.0048	0.068	0.068	0.21	0.013	0.22	0.22
910	九州	宮崎県	五ヶ瀬川	三輪	基準		秋期	0.063	0.0048	0.068	0.068	0.21	0.014	0.23	0.23
911	九州	宮崎県	小丸川	高城橋	基準		秋期	0.062	0.0050	0.067	0.067	0.20	0.013	0.21	0.21
912	九州	宮崎県	大淀川	相生橋	基準		秋期	0.068	0.0050	0.073	0.073	0.21	0.013	0.22	0.22
913	九州	鹿児島県	肝属川	河原田橋	基準		秋期	0.064	0.0048	0.069	0.069	0.28	0.014	0.30	0.30
914	九州	鹿児島県	川内川	曾木大橋	基準		秋期	0.082	0.0049	0.087	0.087	1.7	0.014	1.8	1.8
915	九州	熊本県	球磨川	横石	基準		秋期	0.064	0.0048	0.069	0.069	0.20	0.013	0.22	0.22
916	九州	熊本県	緑川	上杉堰	基準		秋期	0.069	0.0048	0.074	0.074	0.26	0.014	0.27	0.27
917	九州	熊本県	白川	小島橋	基準		秋期	0.075	0.0050	0.080	0.080	1.5	0.062	1.6	1.6
918	九州	熊本県	菊池川	白石	基準		秋期	0.10	0.0048	0.10	0.10	1.3	0.034	1.4	1.4
919	九州	福岡県	矢部川	船小屋	基準		秋期	0.071	0.0049	0.076	0.076	0.21	0.014	0.23	0.23
920	九州	佐賀県	嘉瀬川	官人橋	基準		秋期	0.083	0.0047	0.087	0.087	0.21	0.013	0.22	0.22
922	九州	佐賀県	六角川	潮見橋	基準		秋期	0.092	0.0048	0.097	0.097	3.1	0.057	3.1	3.1
923	九州	佐賀県	松浦川	久里橋	基準		秋期	0.085	0.0048	0.090	0.090	6.4	0.20	6.6	6.6
924	九州	佐賀県	松浦川	舞鶴橋	補助		秋期	0.087	0.0048	0.092	0.092				
925	九州	長崎県	本明川	旭町	基準		秋期	0.12	0.0048	0.12	0.12	5.3	0.016	5.3	5.3

※1 過去に環境基準を超えてから、2年間の調査において常に下回らなかった地点。

※2 網掛けは環境基準を超過

※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表 令和7年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（地点数一覧）

		水質	底質
基準監視地点	調査地点数（一般）	126	130
	調査地点数（重点）	4	0
	環境基準超過地点数（一般）	4	0
	環境基準超過地点数（重点）	2	0
補助監視地点	調査地点数（一般）	31	26
	調査地点数（重点）	9	0
	環境基準超過地点数（一般）	0	0
	環境基準超過地点数（重点）	6	0

参考資料 7 「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧 (1/4)

北海道開発局管内 (83団体)	
北海道	札幌市立南小学校 恵庭市立恵庭中学校 三笠市立岡山小学校 岩見沢市立第二小学校 深川市立多度志小学校 新十津川小学校 北海道滝川高等学校 鷹栖町立北野小学校 蘭越小学校 蘭越高等学校 北松山小学校 今金小学校 種川小学校 日高小学校 帯広市立北栄小学校 帯広市立帯広小学校 帯広第八中学校 帯広市児童会館 学校連携応募学生1 児童クラブマントル 学校連携応募学生2 帯広市立啓北小学校 帯広市立緑ヶ丘小学校 学校連携応募学生3 学校連携応募学生4 東児童保育センター 帯広市立川西中学校 帯広市立清川中学校 青葉児童保育センター 帯広市立帯広第七中学校 上美生地区山村留学協議会 柏児童保育センター 育児ネットめむろ 十勝きずなの森・空 帯広市社会福祉協議会 学校連携応募学生5 光南児童保育センター 学校連携応募学生6 十勝きずなの森・星 学校連携応募学生7 学校連携応募学生8 学校連携応募学生9 十勝きずなの森・森 十勝きずなの森・SUN 帯広市立明和小学校 帯広市立柏小学校 学校連携応募学生10 学校連携応募学生12 幕別町立幕別小学校 学校連携応募学生14 学校連携応募学生16 学校連携応募学生17 学校連携応募学生18 学校連携応募学生19 学校連携応募学生20 音更町立緑陽台小学校 音更町立木野東小学校 池田町立池田中学校 標茶町立虹別中学校 標茶町内小学校 釧路湿原川レンジャー 網走市西小学校 網走市立潮見小学校 網走市立中央小学校 船橋津別青少年交流事業※ 北見市立常呂小学校 北見市立南小学校 北見市立小泉小学校 北海道北見北斗高校 北見市立北光小学校 北見市立三輪小学校 北見市立上東相内小学校 湧別町立ゆうべつ学園 湧別町立上湧別学園 士別市立博物館士別ふるさと体験広場 名寄北国博物館小さな自然観察クラブ 名寄西小学校 幌延小学校 問寒別小学校 天塩小学校 潮静小学校 緑丘小学校 あばしり学講座

※船橋津別青少年交流事業：船橋市（千葉県）・津別町（北海道）

東北地方整備局管内 (9団体)	
青森県	弘前市立大成小学校
宮城県	特定非営利活動法人放課後こどもクラブBremen 加美町立西小野田小学校 仙台市立八木山中学校
山形県	大石田小学校 神室産業高校 大石田北小学校 鮭川小学校 真室川小学校

関東地方整備局管内 (18団体)	
栃木県	氏家中学校 物部中学校 鬼怒川小学校 那須烏山市立烏山中学校 栃木県立馬頭高校
群馬県	藤岡市立小野中学校 高崎市立新町第一小学校 玉村町立南中学校 高崎商科大学 藤岡市立藤岡北中学校
埼玉県	上里町立賀美小学校
東京都	福生市 NPO 法人自然環境アカデミー 福生水辺の楽校・多摩川サポーターズ
神奈川県	NPO法人暮らし・つながる森里川海 日本さかな専門学校 桂川・相模川流域協議会
山梨県	南部町立栄小学校

参考資料 7 「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧 (2/4)

北陸地方整備局管内 (20団体)	
福島県	笈川小学校 勝常小学校 高田小学校 城北小学校 鶴城小学校 門田小学校
新潟県	平林小学校 五泉市立愛宕小学校 三条市立飯田小学校 上越市立稲田小学校 上越市立三郷小学校
富山県	くろべ水の少年団 釜ヶ淵小学校 常願寺川の清流と桜を愛する会 熊野小学校 小矢部川に学ぶ会
石川県	川北町教育委員会
長野県	長野市立柳町中学校 千曲市立戸倉上山田中学校 安曇野市立豊科北中学校

中部地方整備局管内 (10団体)	
長野県	中川村公民館 三峰川みらい会議
愛知県	土岐川庄内川サポートセンター
三重県	イオン鈴鹿チアーズクラブ 三重県立飯野高等学校 三重県立四日市農芸高等学校 三重県立久居農林高等学校 松阪市立射和小学校 多気町立相可小学校 三重県立相可高等学校

近畿地方整備局管内 (39団体)	
福井県	大野市内の小学校 大野市立和泉小 (保護者含む) 電源開発 (株)
愛知県	岩倉市の小学校 (保護者含む)
三重県	上野生涯学習推進会議
滋賀県	TANAKAMI子ども環境クラブ 守山南中学校
京都府	上林小中一貫校 上林川を守る会 京都府中丹東保健所 綾部市
大阪府	大阪府立咲くやこの花中学校 高槻市立第六中学校 大阪市立新北野中学校 富田林市立富田林小学校 富田林市立向陽台小学校 藤井寺市立藤井寺西小学校 富田林市立川西小学校 堺市立登美丘西小学校 大阪市立瓜破西小学校 八尾市立大正小学校
兵庫県	川西小学校 けやき坂小学校 東谷小学校 府中小学校 福住小学校 加東市立東条学園小中学校 たつの市立揖保小学校 たつのエコクラブ たつの市立越部小学校 宍粟市立河東小学校 たつの市立半田小学校 たつの市立誉田小学校 林田川水生生物セミナー
奈良県	三郷町立三郷北小学校
和歌山県	有功東小学校 高野口小学校 近畿大学附属新宮高等学校・中学校スーパーサイエンス部 河川水辺の国勢調査アドバイザー

参考資料 7

「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧

参考資料 7 「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧 (3/4)

中国地方整備局管内 (50団体)	
鳥取県	江山学園 倉田小学校 河原第一小学校 散岐小学校 用瀬小学校 日進小学校 宮ノ下小学校 鳥取ろう学校 郡家東小学校 久米小学校 鴨川中学校科学部 関金小学校 河北小学校 日吉津小学校
島根県	横田公民館、横田小学校 出雲市立北陽小学校 松江市立城北小学校 松江市立母衣小学校 松江市立忌部小学校 雲南市立寺領小学校 松江市立宍道小学校 松江市立来待小学校 松江市立鹿島東小学校 松江市立朝酌小学校 安来市立広瀬小学校 雲南市立三刀屋小学校 松江市立八雲小学校 松江市立出雲郷小学校 松江市大庭小学校 出雲市立須佐小学校 出雲西高等学校インターアクトクラブ 出雲市立神戸川小学校 雲南市立田井小学校 西益田小学校 郷田小学校 桜江中学校 川本中学校 邑智中学校 大和中学校 口羽小学校 出雲市立湖陵小学校 NPOしまね体験活動支援センター 島根大学附属小学校
広島県	三次市立八次小学校 三次市立みらさか小学校 三次市立十日市小学校 三次市立青河小学校 三次市立川地小学校 三次市立和田小学校 口田中学校

四国地方整備局管内 (18団体)	
徳島県	三好市役所産業観光部ジオパーク推進室 大野小学校 なっ！とくしまスクール
愛媛県	さくら小学校 岡田小学校 椿中学校 新谷小学校 菅田小学校 喜多小学校 久米小学校
高知県	具同小学校 中村南小学校 竹島小学校 中筋小学校 平田小学校 三原小学校 山奈小学校 土佐市立高石小学校

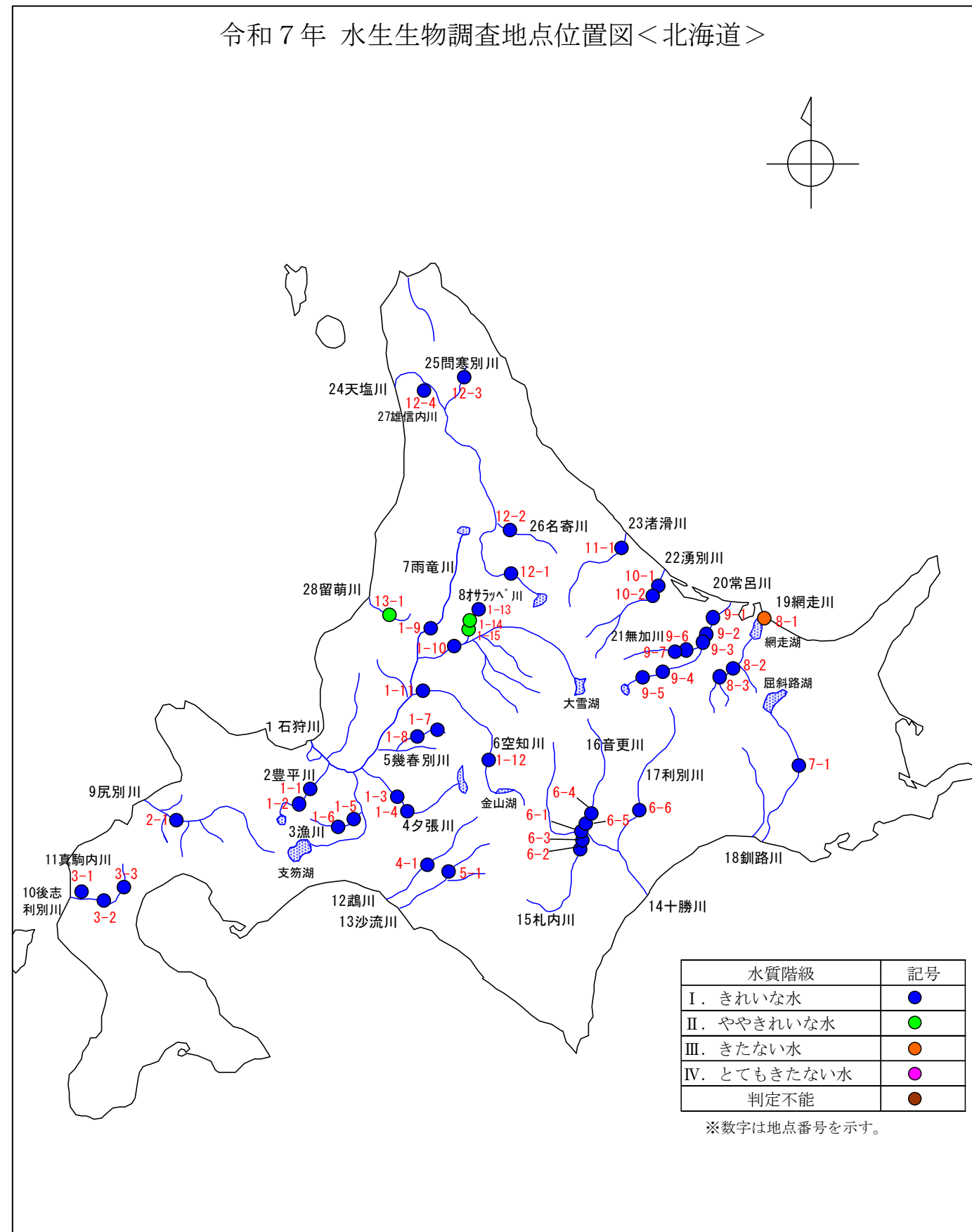
参考資料 7

「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧

参考資料 7 「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧 (4/4)

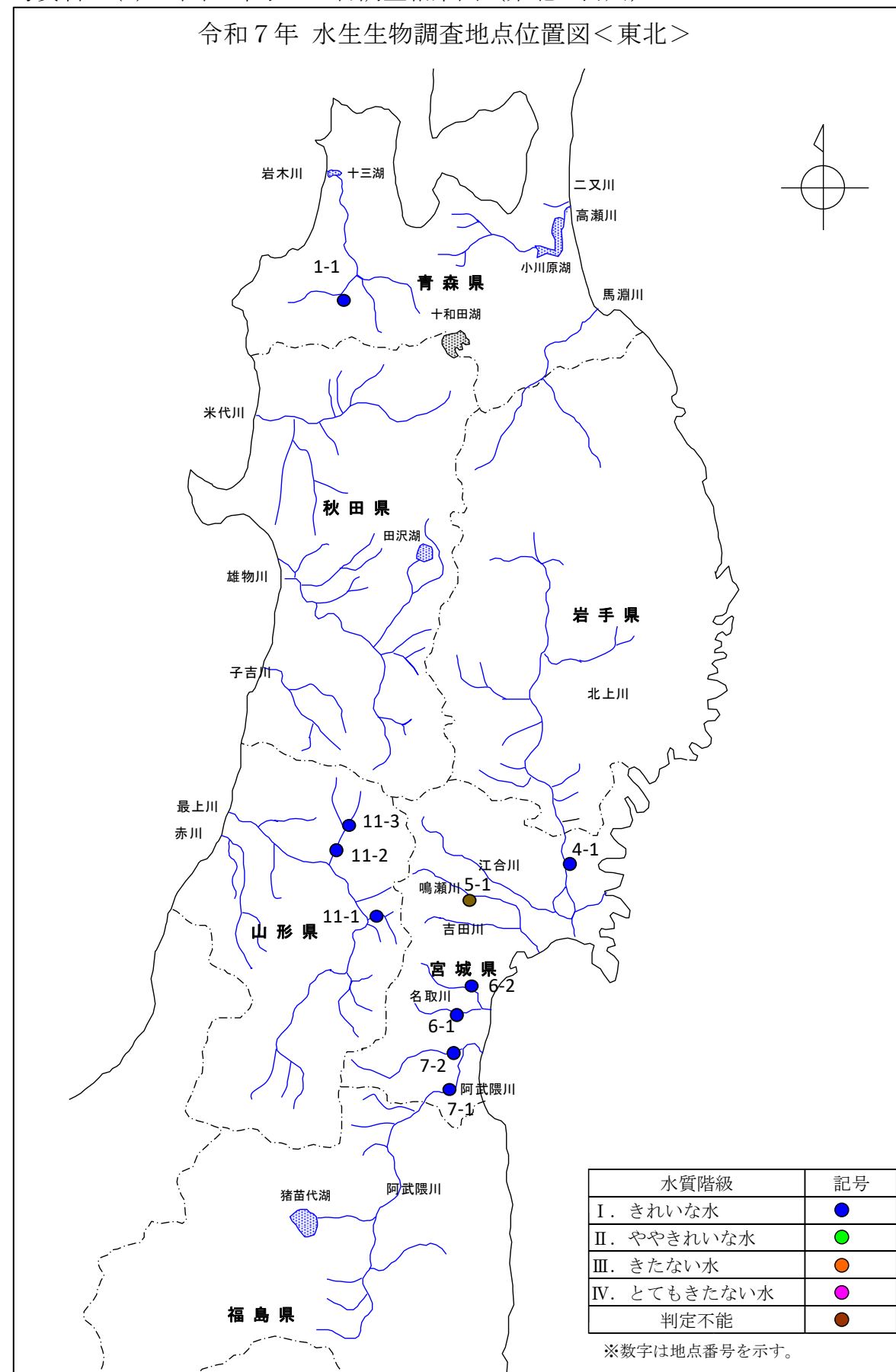
九州地方整備局管内 (61団体)	
福岡県	エフコープ 笹尾川水辺の楽校運営協議会 くきのうみ小学校 芦屋東小学校 立岩小学校 稲築東義務教育学校 猪位金学園 糸田小学校 後藤寺小学校 下山田小学校 田川ふるさと川づくり交流会 光陵小学校 大藪小学校 高田小学校 星野小学校 瀬高小学校
佐賀県	さが水ものがたり館 山内東小学校 大町ひじり学園 武雄中学校
長崎県	諫早小学校 諫早市立本野小学校
熊本県	人吉球磨地域理科教諭 相良北小学校 相良南小学校 相良中学校 白川わくわくランド 株式会社同仁グローカル 菊池市七城公民館 菊池川自然塾 菊池川とその支流を美しくする関係団体連絡協議会
大分県	鶴居小学校 豊田小学校 大分市立上野ヶ丘中学校 本匠中学校 本匠小学校 昭和中学校 明治小学校
宮崎県	延岡小学校 九州医療科学大学 森永小学校 小戸小学校 綾小学校 木城学園 えびの市立上江小学校 えびの市立飯野小学校 えびの市立真幸小学校 えびの市立加久藤小学校
鹿児島県	おおすみ自然環境フォーラム 始良川河川愛護会 高山中学校 川内川をつくり見守る会 鹿児島県立鶴翔高等学校 ベンきょうしつモンシェリハウス 薩摩川内市立祁答院小学校 湧水町立轟小学校 薩摩川内市立育英小学校 学校法人川島学園れいめい中学校 北薩広域公園 さつま町役場 曾木児童クラブ

参考資料 8 (1) 令和7年水生生物調査結果図（北海道・河川）

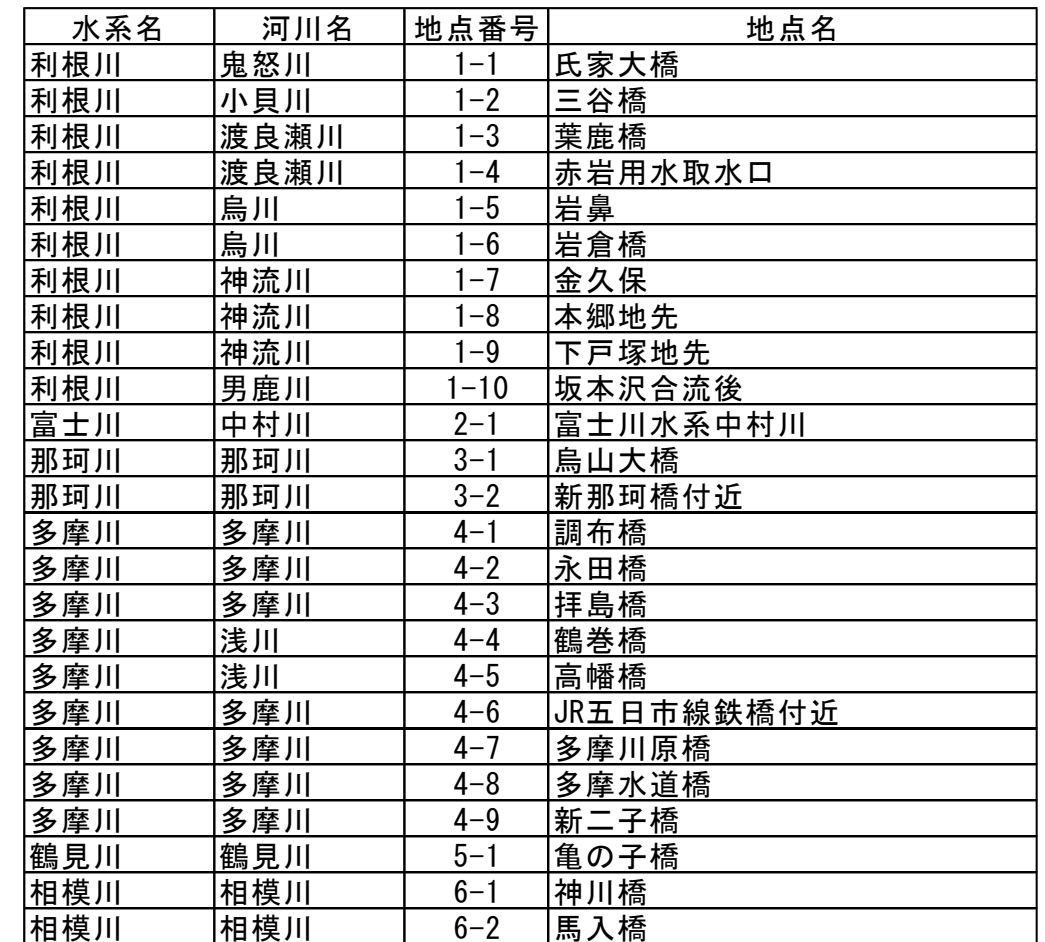


水系名	河川名	地点番号	地点名
石狩川	豊平川	1-1	幌平橋下流
石狩川	豊平川	1-2	真駒内川合流点下流
石狩川	夕張川	1-3	長栗大橋下流
石狩川	夕張川	1-4	長沼頭首工下流
石狩川	漁川	1-5	中島橋下流
石狩川	漁川	1-6	日の出橋上流
石狩川	幾春別川	1-7	桂春橋下流
石狩川	幾春別川	1-8	市来知頭首工下流
石狩川	雨竜川	1-9	沼田大橋下流
石狩川	石狩川	1-10	納内橋上流
石狩川	空知川	1-11	空知大橋下流
石狩川	空知川	1-12	布部大橋上流
石狩川	オサラッペ川	1-13	高島橋
石狩川	オサラッペ川	1-14	四季の里
石狩川	オサラッペ川	1-15	鷹栖橋
尻別川	尻別川	2-1	豊国橋下流（ランラン公園地先）
後志利別川	真駒内川	3-1	サケ公園
後志利別川	後志利別川	3-2	田代橋上流
後志利別川	後志利別川	3-3	新花石橋
鷲川	鷲川	4-1	穂別橋
沙流川	沙流川	5-1	長知内橋
十勝川	十勝川	6-1	十勝大橋
十勝川	札内川	6-2	札内橋
十勝川	札内川	6-3	札内橋下流
十勝川	音更川	6-4	音更川水辺の楽校
十勝川	音更川	6-5	宝来橋上流
十勝川	利別川	6-6	高島橋下流
釧路川	釧路川	7-1	十文字樋門上流
網走川	網走川	8-1	エコーセンター
網走川	網走川	8-2	大正橋
網走川	網走川	8-3	達姫橋
常呂川	常呂川	9-1	隈川合流地点
常呂川	常呂川	9-2	見晴大橋付近
常呂川	常呂川	9-3	若松橋
常呂川	常呂川	9-4	叶橋下流左岸
常呂川	常呂川	9-5	林友橋
常呂川	無加川	9-6	無加川橋付近
常呂川	無加川	9-7	豊大橋付近
湧別川	湧別川	10-1	開盛頭首工下流地点
湧別川	湧別川	10-2	遠軽橋
渚滑川	渚滑川	11-1	ウツツ橋
天塩川	天塩川	12-1	土別橋上流
天塩川	名寄川	12-2	日進橋上流
天塩川	問寒別川	12-3	問寒別川KP8.6付近
天塩川	雄信内川	12-4	雄信内川KP2.0付近
留萌川	留萌川	13-1	幌糠水辺の楽校

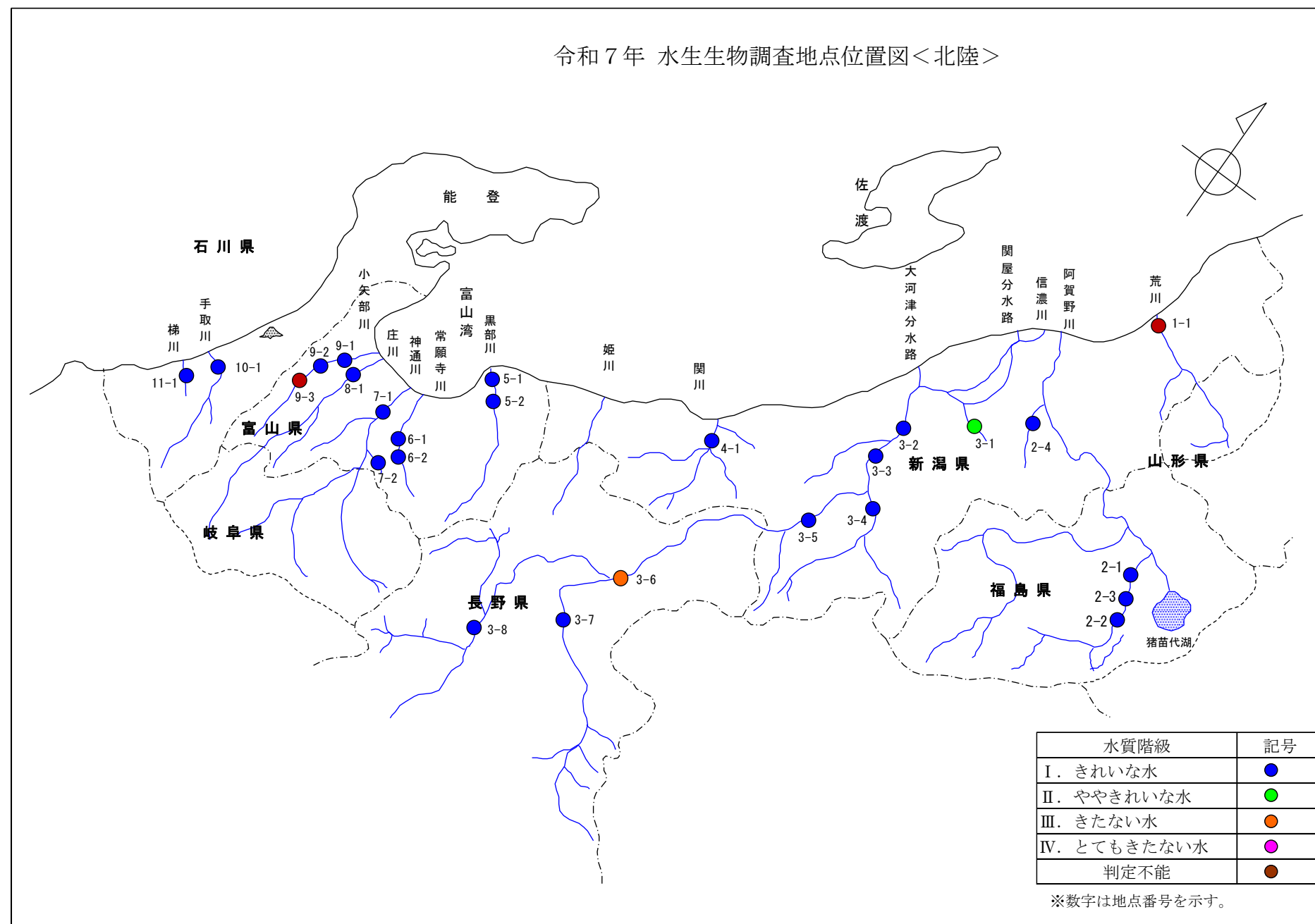
参考資料 8 (2) 令和7年水生生物調査結果図 (東北・河川)



水系名	河川名	地点番号	地点名
岩木川	岩木川	1-1	弘前水辺プラザ
北上川	大関川（県管理区間）	4-1	三滝堂ふれあい公園
鳴瀬川	鳴瀬川	5-1	下伊場野水辺の楽校
名取川	名取川	6-1	名取橋
名取川	広瀬川	6-2	広瀬橋
阿武隈川	阿武隈川	7-1	丸森橋
阿武隈川	白石川	7-2	白幡橋
最上川	丹生川	11-1	すいか橋
最上川	泉田川	11-2	鮭川と泉田川の合流点
最上川	金山川	11-3	安久土橋

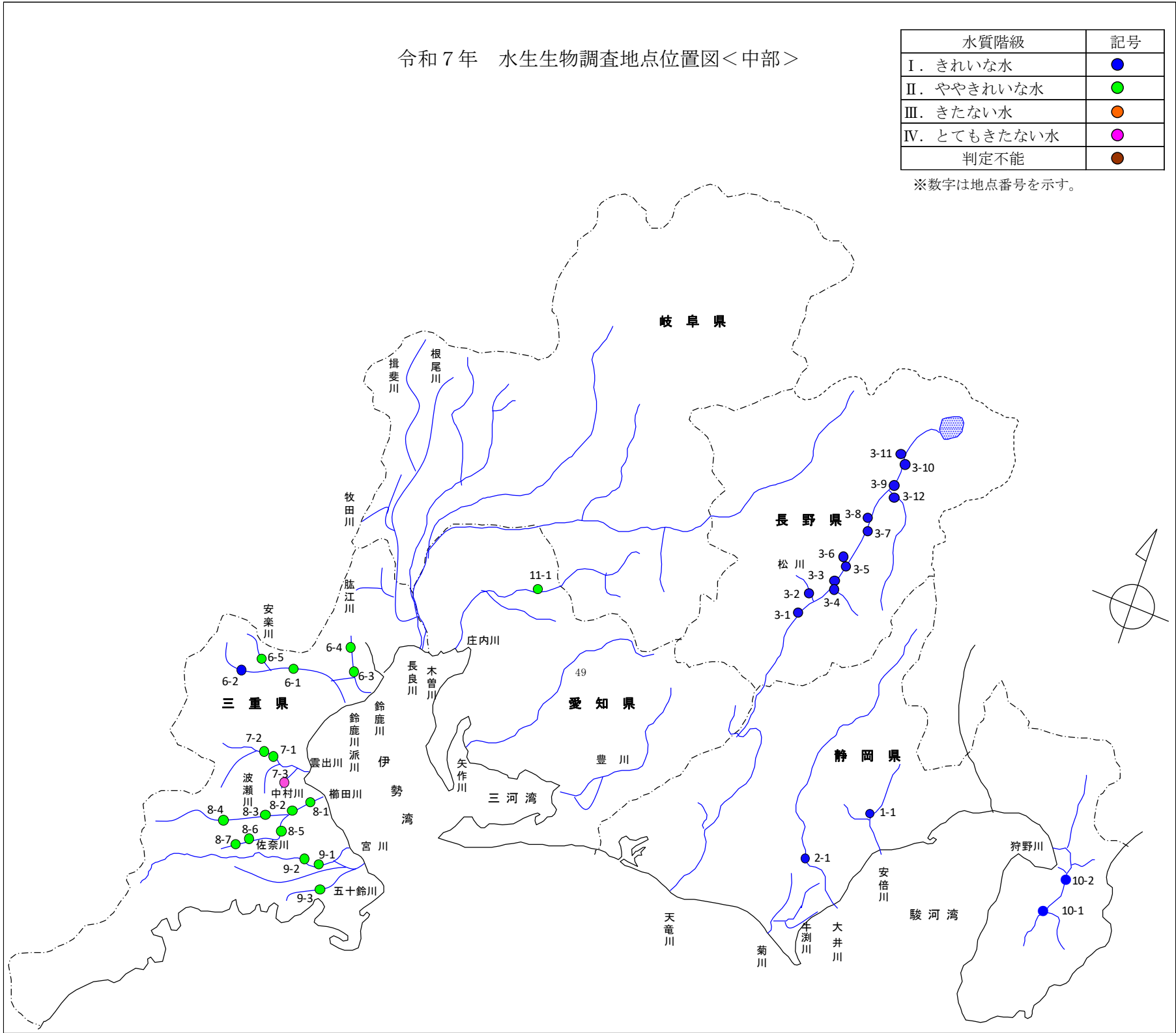


参考資料 8 (4) 令和7年水生生物調査結果図 (北陸・河川)



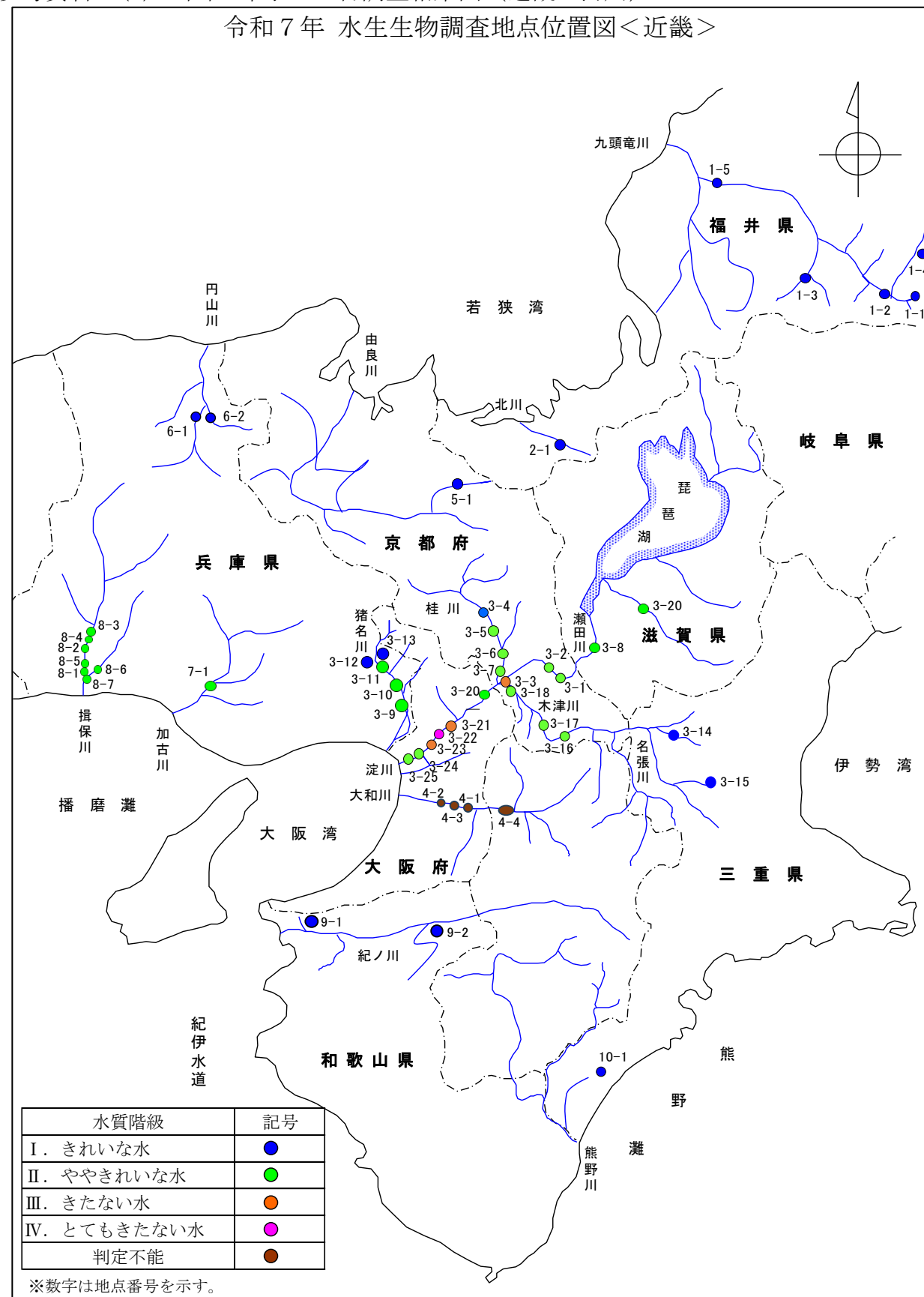
水系名	河川名	地点番号	地点名
荒川	荒川	1-1	荒川橋
阿賀野川	阿賀川	2-1	宮古橋
阿賀野川	閤川	2-2	閤川
阿賀野川	湯川	2-3	天神橋
阿賀野川	早出川	2-4	善願橋
信濃川	五十嵐川	3-1	下田大橋
信濃川	信濃川	3-2	長生橋
信濃川	信濃川	3-3	旭橋
信濃川	信濃川	3-4	十日町橋（妻有大橋）
信濃川	魚野川	3-5	小出橋
信濃川	千曲川	3-6	屋島橋
信濃川	千曲川	3-7	大正橋
信濃川	犀川	3-8	光橋
関川	関川	4-1	今池橋
黒部川	黒部川	5-1	下黒部橋
黒部川	黒部川	5-2	黒部市宇奈月町内山地先
常願寺川	常願寺川	6-1	常願寺橋
常願寺川	常願寺川	6-2	立山橋
神通川	神通川	7-1	神通大橋
神通川	熊野川	7-2	興南大橋
庄川	庄川	8-1	大門大橋
小矢部川	小矢部川	9-1	国条橋
小矢部川	小矢部川	9-2	土屋橋
小矢部川	小矢部川	9-3	五位橋
手取川	手取川	10-1	手取川橋梁下流右岸
梯川	梯川	11-1	中海大橋

参考資料 8 (5) 令和7年水生生物調査結果図（中部・河川）



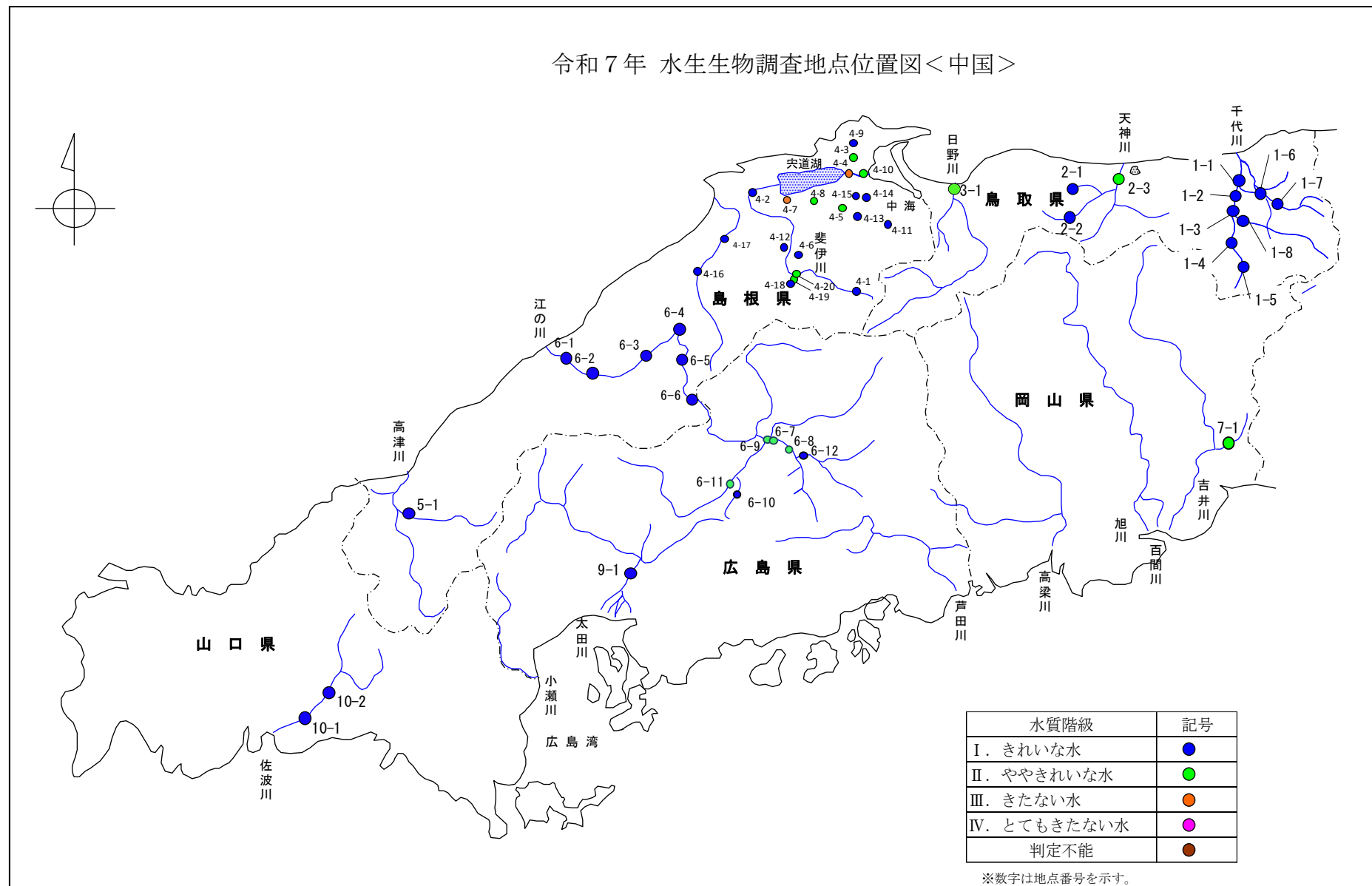
水系名	河川名	地点番号	地点名
安倍川	安倍川	1-1	山崎地先
大井川	大井川	2-1	金谷東地先
天竜川	天竜川	3-1	天龍橋
天竜川	松川	3-2	上溝橋
天竜川	天竜川	3-3	明神橋
天竜川	虻川	3-4	新虻川橋
天竜川	天竜川	3-5	天の中川橋
天竜川	前沢川	3-6	新前沢橋
天竜川	天竜川	3-7	天竜大橋
天竜川	太田切川	3-8	大田原橋
天竜川	天竜川	3-9	平成大橋
天竜川	天竜川	3-10	伊那路橋
天竜川	横川川	3-11	伊那富橋
天竜川	三峰川	3-12	竜東橋
鈴鹿川	鈴鹿川	6-1	庄野橋
鈴鹿川	鈴鹿川	6-2	亀山橋
鈴鹿川	内部川	6-3	河原田橋
鈴鹿川	内部川	6-4	新矢矧橋
鈴鹿川	安楽川	6-5	和泉橋
雲出川	雲出川	7-1	小戸木橋
雲出川	雲出川	7-2	小野江頭首工
雲出川	中村川	7-3	中村川桜つつみ公園
櫛田川	櫛田川	8-1	新屋敷取水堰
櫛田川	櫛田川	8-2	櫛田橋
櫛田川	櫛田川	8-3	両郡橋
櫛田川	櫛田川	8-4	佐伯中
櫛田川	佐奈川	8-5	JR佐奈川橋梁
櫛田川	佐奈川	8-6	大峯橋
櫛田川	佐奈川	8-7	槇尾橋
宮川	宮川	9-1	度会橋
宮川	宮川	9-2	昼田水辺の楽校
宮川	五十鈴川	9-3	御側橋
狩野川	狩野川	10-1	狩野川大仁橋上流
狩野川	狩野川	10-2	狩野川千歳橋下流
庄内川	庄内川	11-1	大留

参考資料 8 (6) 令和7年水生生物調査結果図 (近畿・河川)



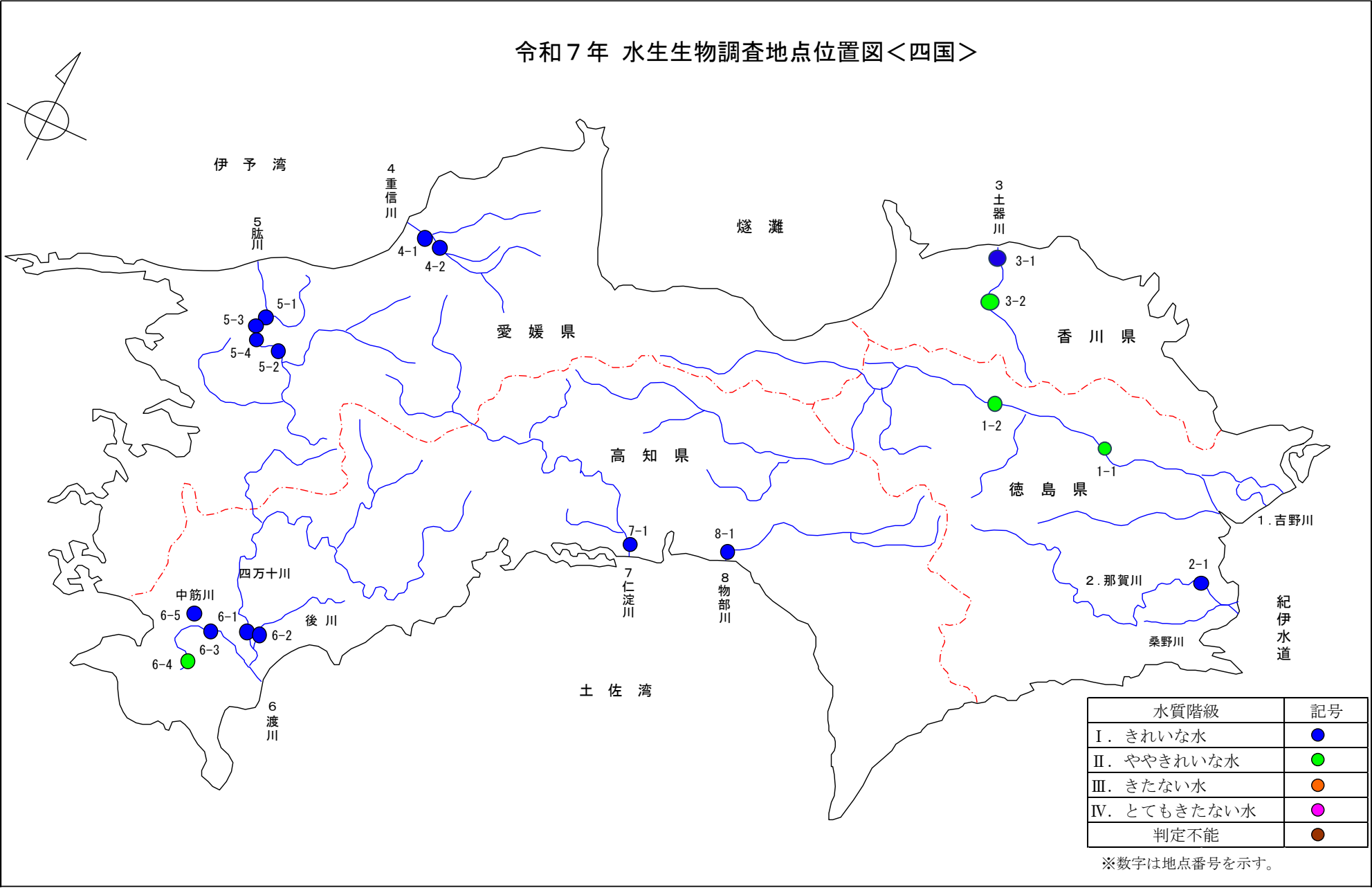
水系名	河川名	地点番号	地点名
九頭竜川	九頭竜川	1-1	田茂谷合流点の上流
九頭竜川	九頭竜川	1-2	旧和泉支所前
九頭竜川	雲川	1-3	麻那姫湖青少年旅行村
九頭竜川	石徹白川	1-4	前坂キャンプ場
九頭竜川	九頭竜川	1-5	舟橋地区
北川	北川	2-1	三宅地区
淀川	宇治川	3-1	宇治橋下流
淀川	宇治川	3-2	隠元橋
淀川	宇治川	3-3	宇治川御幸橋
淀川	桂川	3-4	渡月橋
淀川	桂川	3-5	西大橋
淀川	桂川	3-6	羽束師橋
淀川	桂川	3-7	宮前橋
淀川	瀬田川	3-8	信楽川・瀬田川合流点
淀川	猪名川	3-9	桑津橋
淀川	猪名川	3-10	池田床固下流
淀川	猪名川	3-11	こんにゃく橋
淀川	猪名川	3-12	芋生川
淀川	猪名川	3-13	初谷川
淀川	服部川	3-14	服部橋
淀川	木津川	3-15	稲広橋
淀川	木津川	3-16	恭仁大橋
淀川	木津川	3-17	玉水橋
淀川	木津川	3-18	木津川御幸橋
淀川	野洲川	3-19	名神高速野洲川橋
淀川	淀川	3-20	楠葉砂州
淀川	淀川	3-21	鳥飼大橋
淀川	淀川	3-22	城北
淀川	淀川	3-23	柴島水管橋
淀川	淀川	3-24	十三干潟
淀川	淀川	3-25	伝法大橋
大和川	大和川	4-1	河内橋
大和川	大和川	4-2	瓜破大橋
大和川	大和川	4-3	若林
大和川	大和川	4-4	御幸大橋
由良川	上林川	5-1	有安橋
円山川	円山川	6-1	上ノ郷橋下流
円山川	出石川	6-2	寺内橋下流
加古川	加古川	7-1	粟田橋西詰下流
揖保川	揖保川	8-1	山陽新幹線高架下付近
揖保川	揖保川	8-2	千鳥ヶ浜公園駐車場付近
揖保川	栗栖川	8-3	越部小学校西方
揖保川	揖保川	8-4	さつき大橋下流
揖保川	揖保川	8-5	せせらぎ公園（水辺の楽校）
揖保川	林田川	8-6	井上第二排水樋門
揖保川	林田川	8-7	JR山陽本線鉄橋下流東側
紀の川	千手川	9-1	出世不動明王橋付近
紀の川	丹生川	9-2	丹生橋付近
新宮川	相野谷川	10-1	相野谷川

参考資料 8 (7) 令和7年水生生物調査結果図 (中国・河川)



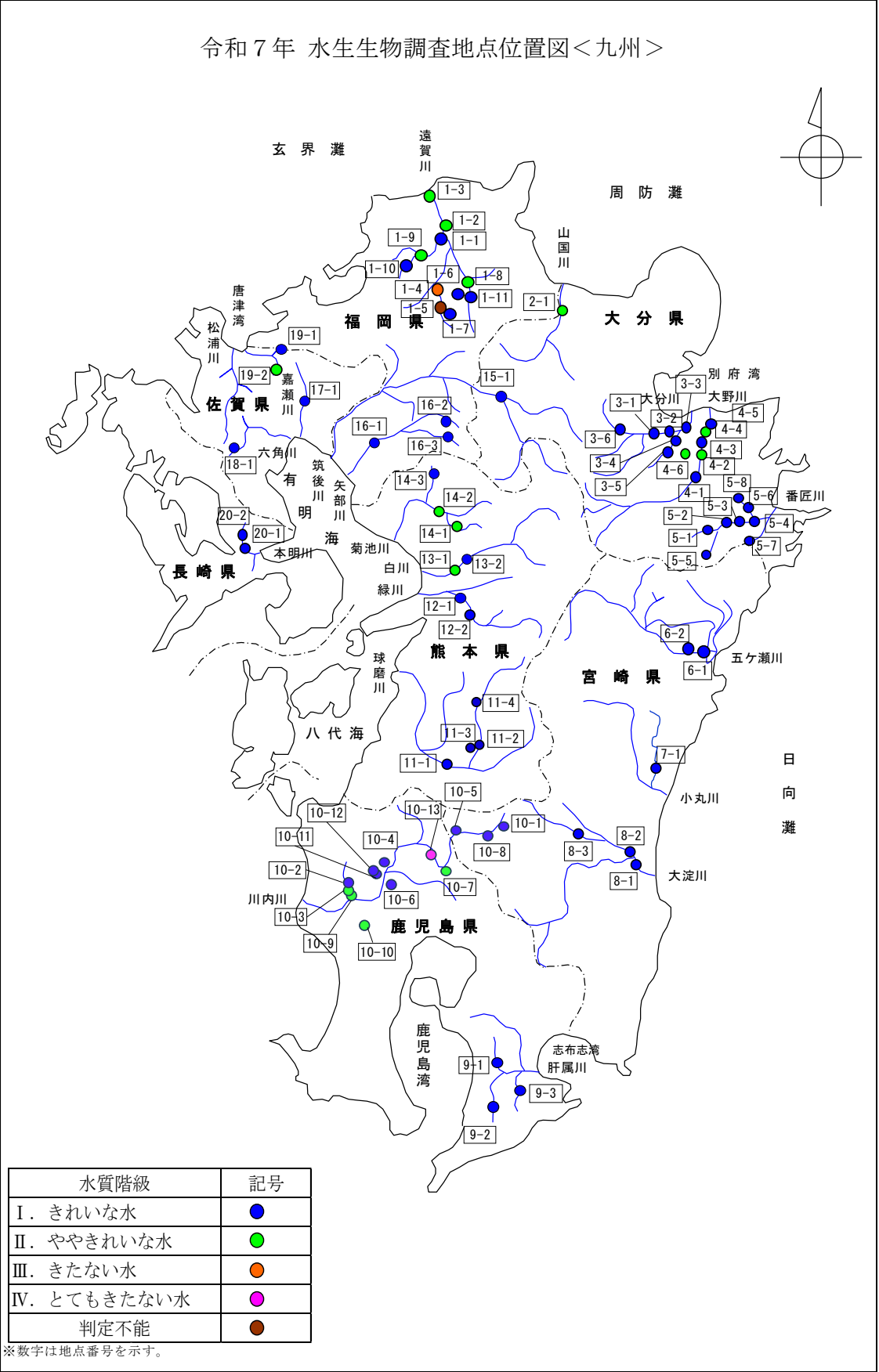
水系名	河川名	地点番号	地点名
千代川	千代川	1-1	古市
千代川	千代川	1-2	源太
千代川	千代川	1-3	袋河原
千代川	千代川	1-4	佐貫
千代川	千代川	1-5	用瀬
千代川	袋川	1-6	大杣
千代川	袋川	1-7	宮ノ下
千代川	八東川	1-8	片山
天神川	国府川	2-1	高城水辺の楽校
天神川	小鴨川	2-2	関金水辺の楽校
天神川	天神川	2-3	河北水辺の楽校
日野川	日野川	3-1	車尾堰下流
斐伊川	斐伊川	4-1	横田大橋付近
斐伊川	斐伊川	4-2	井上橋
斐伊川	北田川	4-3	白鹿ホテルの里
斐伊川	城山西堀川	4-4	千鳥橋
斐伊川	忌部川	4-5	忌部公民館付近
斐伊川	久野川	4-6	久野川親水公園
斐伊川	佐々布川	4-7	宍道小学校 校地
斐伊川	来待川	4-8	来待小学校正門前
斐伊川	講武川	4-9	いやしの森入り口付近
斐伊川	大出手川	4-10	朝酌小学校付近
斐伊川	飯梨川	4-11	新宮橋
斐伊川	三刀屋川	4-12	三刀屋橋付近
斐伊川	意宇川	4-13	熊野大社前
斐伊川	意宇川	4-14	日吉親水公園
斐伊川	馬橋川	4-15	二又橋
斐伊川	神戸川	4-16	仁江橋付近
斐伊川	神戸川	4-17	わかあゆの里
斐伊川	深野川	4-18	吉田町曾木(上流)
斐伊川	深野川	4-19	おたまの滝付近(中流)
斐伊川	深野川	4-20	ケアポートよしだ付近
高津川	匹見川	5-1	横田
江の川	江の川	6-1	市村
江の川	江の川	6-2	川戸
江の川	江の川	6-3	上三島
江の川	江の川	6-4	粕淵
江の川	江の川	6-5	長藤
江の川	出羽川	6-6	下口羽
江の川	馬洗川	6-7	八次水辺の楽校
江の川	馬洗川	6-8	久松橋直下
江の川	馬洗川	6-9	稲荷町河川敷グラウンド
江の川	小似川	6-10	原田大橋下流(県管理区間)
江の川	江の川	6-11	江の川152.5k付近
江の川	国兼川	6-12	下組橋下流(県管理区間)
吉井川	金剛川	7-1	金剛川水辺の楽校
太田川	太田川	9-1	安佐大橋
佐波川	佐波川	10-1	本橋
佐波川	佐波川	10-2	奈美堰

参考資料 8 (8) 令和7年水生生物調査結果図（四国・河川）



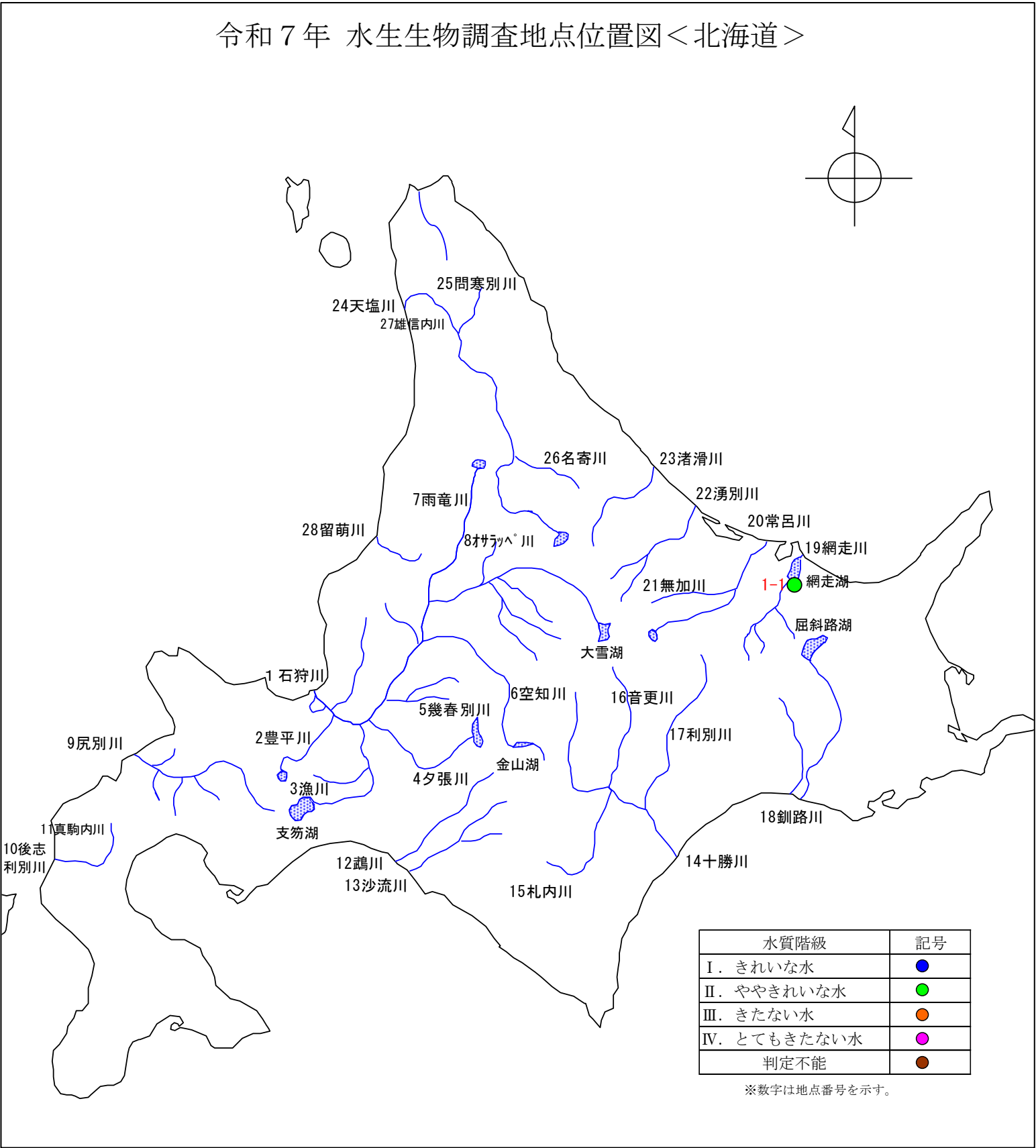
水系名	河川名	地点番号	地点名
吉野川	吉野川	1-1	瀬詰大橋下流
吉野川	黒川原谷川	1-2	東みよし地先
那賀川	那賀川	2-1	羽ノ浦町明見地先
土器川	土器川	3-1	平成大橋
土器川	土器川	3-2	祓川大橋上流
重信川	重信川	4-1	出合橋
重信川	重信川	4-2	中川原橋
肱川	肱川	5-1	畑の前橋上流
肱川	肱川	5-2	逆ナゲ橋上流
肱川	肱川	5-3	五郎大橋上流
肱川	肱川	5-4	肱川橋下流
渡川	四万十川	6-1	具同
渡川	後川	6-2	後川橋
渡川	中筋川	6-3	九樹橋
渡川	中筋川	6-4	梅ノ木公園内
渡川	横瀬川	6-5	大物川橋
仁淀川	仁淀川	7-1	弘岡
物部川	物部川	8-1	吉原

参考資料 8 (9) 令和7年水生生物調査結果図（九州・河川）



水系名	河川名	地点番号	地点名
遠賀川	遠賀川	1-1	溝堀
遠賀川	笹尾川	1-2	笹尾川水辺の楽校
遠賀川	遠賀川	1-3	遠賀川魚道公園
遠賀川	遠賀川	1-4	嘉麻川橋
遠賀川	遠賀川	1-5	新宮ノ前橋
遠賀川	中元寺川	1-6	春日橋
遠賀川	山田川	1-7	日吉橋
遠賀川	彦山川	1-8	糰橋
遠賀川	犬鳴川	1-9	犬鳴川河川公園
遠賀川	犬鳴川	1-10	西鞍の丘総合運動公園
遠賀川	彦山川	1-11	番田橋
山国川	山国川	2-1	下宮永
大分川	大分川	3-1	天神橋
大分川	大分川	3-2	明礪橋
大分川	大分川	3-3	府内大橋
大分川	七瀬川	3-4	露橋
大分川	七瀬川	3-5	七瀬川自然公園
大分川	賀来川	3-6	小畑橋
大野川	大野川	4-1	竹中
大野川	大野川	4-2	白滝橋
大野川	大野川	4-3	舟本大橋
大野川	大野川	4-4	川添橋
大野川	乙津川	4-5	乙津川水辺の楽校
大野川	判田川	4-6	昆布刈橋
番匠川	番匠川	5-1	森下橋
番匠川	番匠川	5-2	常盤堰
番匠川	番匠川	5-3	白尾橋
番匠川	番匠川	5-4	番匠橋
番匠川	久留須川	5-5	中津留橋
番匠川	井崎川	5-6	小股橋
番匠川	堅田川	5-7	青山河川公園
番匠川	井崎川	5-8	蕨野橋
五ヶ瀬川	大瀬川	6-1	大瀬橋
五ヶ瀬川	五ヶ瀬川	6-2	三輪
小丸川	切原川	7-1	木城温泉館 湯らら
大淀川	本庄川	8-1	森永橋
大淀川	本庄川	8-2	柳瀬橋
大淀川	本庄川	8-3	松原河川公園
肝属川	肝属川	9-1	鹿屋小学校前
肝属川	始良川	9-2	鶴峰橋
肝属川	高山川	9-3	屋治橋上流
川内川	川内川	10-1	麓橋上流
川内川	高城川	10-2	稚児ヶ淵
川内川	高城川	10-3	妹背橋下流
川内川	夜星川	10-4	夜星川橋付近
川内川	川内川	10-5	真幸堰右岸下流
川内川	小久留主川	10-6	藍屋公民館前
川内川	幸田川	10-7	轟橋付近
川内川	川内川	10-8	加久藤橋上流
川内川	高城川	10-9	川祭り会場
川内川	木場谷川	10-10	米盛橋上流
川内川	豌豆川	10-11	紫陽館付近
川内川	泊野川	10-12	白男川橋付近
川内川	川内川	10-13	下目樋門付近(せせらぎ水路)
球磨川	球磨川	11-1	中川原公園
球磨川	川辺川	11-2	廻り
球磨川	川辺川支川白木谷川	11-3	廻り(白木谷川)
球磨川	川辺川支川五木小川	11-4	五木源パーク
緑川	緑川	12-1	津志田
緑川	緑川	12-2	中甲橋
白川	白川	13-1	代継橋
白川	白川	13-2	子飼橋
菊池川	鴨川	14-1	鴨川河畔公園
菊池川	菊池川	14-2	中富
菊池川	岩野川	14-3	椎持
筑後川	筑後川	15-1	台霧の瀬
矢部川	矢部川	16-1	船小屋
矢部川	星野川	16-2	千々谷河川公園
矢部川	矢部川	16-3	矢部川源流公園
嘉瀬川	嘉瀬川	17-1	石井樋
六角川	武雄川	18-1	武雄川(旧武雄市役所前)
松浦川	厳木川	19-1	町切堰
松浦川	松浦川	19-2	桃川親水公園
本明川	本明川	20-1	公園橋
本明川	本明川	20-2	琴川橋

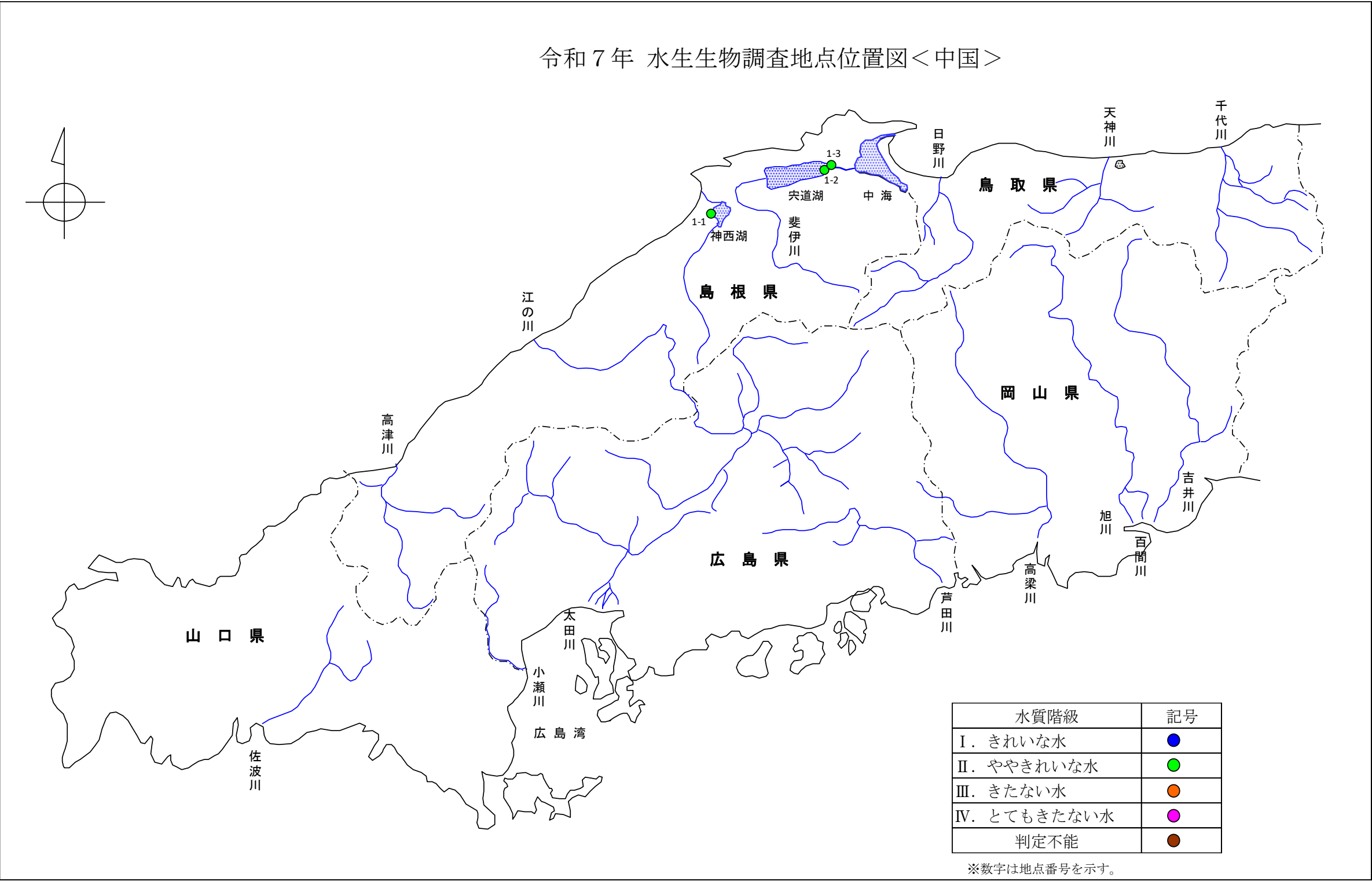
参考資料 8 (10) 令和7年水生生物調査結果図（北海道・湖沼）



水系名	湖沼名	地点番号	地点名
網走川	網走湖	1-1	女満別キャンプ場

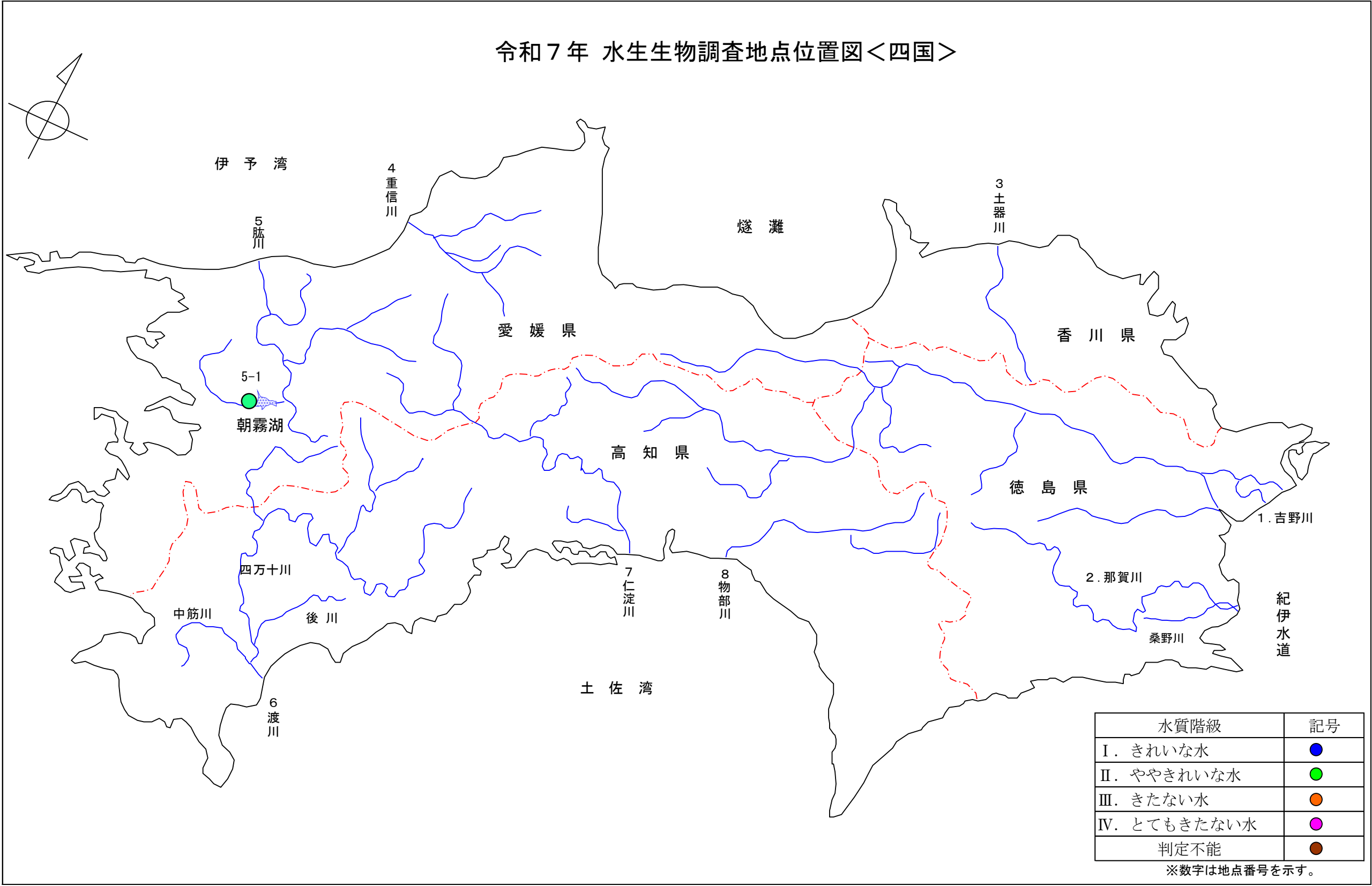
参考資料 8 (11) 令和7年水生生物調査結果図（中国・湖沼）

水系名	湖沼名	地点番号	地点名
斐伊川	神西湖	1-1	神西湖湖畔広場
斐伊川	宍道湖	1-2	嫁が島付近
斐伊川	宍道湖	1-3	宍道湖大橋北詰



参考資料 8 (12) 令和7年水生生物調査結果図（四国・湖沼）

水系名	湖沼名	地点番号	地点名
肱川	朝霧湖	5-1	明間流入部



参考資料9（1） 生活環境項目の各水質項目の性質

項目	説明
pH (水素イオン濃度)	水中の水素イオン濃度を示す尺度で、7が中性を表し、これより高いとアルカリ性、低いと酸性である。強酸、強アルカリでは魚類、植物、動物に良くない。
BOD (生物化学的酸素要求量)	溶存酸素存在のもとで水中の有機物を栄養源として好気性微生物が増殖・呼吸するときに消費される酸素量で、20℃5日間で消費される溶存酸素量(mg/ℓ)を標準とする。値が高いと、その水中には腐敗性物質が多いことを意味し、溶存酸素を異常に消費して、魚介類に影響を及ぼすなど、危害の原因となる。 BODは河川の水質汚濁の一般的な指標として採用されている。
COD (化学的酸素要求量)	水中の有機物等を過マンガン酸カリウム(KMnO ₄)で化学的に酸化するとき消費される酸化剤の量を、対応する酸素量であらわしたものである。 CODは湖沼及び海域の水質汚濁の一般的な指標として採用されている。
SS (浮遊物質)	水中に分散している固形物で、ろ過した時に分離される粒径2mm以下のものをいう。河川の底質が悪くなる要因になる。また懸濁物質が有機物である場合には腐敗して水中の溶存酸素を消費する。光の透過を妨害し植物の光合成に障害を与える。
DO (溶存酸素量)	水中に溶解している酸素の量を示しており、溶解量は水温や圧力に左右される。通常は7mg/ℓ(水温30℃の時)～14mg/ℓ(水温0℃の時)程度溶解している。水中のDOが低いと、魚類等水中生物は酸素が少ないため生息できない。
大腸菌数	人及び動物の腸内に寄生する細菌を大腸菌と総称する。主に衛生上の問題を引き起こす要因となる。令和4年4月よりそれまでの大腸菌群数に替わってより精度の高い大腸菌数が環境基準項目となった。
n-ヘキサン抽出物質	有機溶媒であるノルマルヘキサンによって抽出される不揮発性の物質の総称で、水中の油分の指標のひとつである。水中の油分は魚介類に対して悪影響を与える。
総窒素	窒素を含む化合物の総称。植物に対する栄養源となるが、窒素が過多になると悪影響を及ぼす。
総リン	リンを含む化合物の総称。これが大きくなると植物プランクトンが増殖し富栄養化現象の原因となる。

参考資料9（2） 健康項目の各水質項目の性質

項目	説明
カドミウム	自然界において亜鉛や鉛に伴って産出される。銀白色の柔らかい重金属で、合金の成分として、電池やメッキの材料、染料となるなど用途が広い。
全シアン	有毒な無色の気体で特異な臭気を持つ。シアン化カリウム（青酸カリ）やシアン化ソーダは、毒物として有名である。主な発生源は金属加工工場やガス工場である。
鉛	青みを帯びた灰色の金属。重く、かつ柔らかく有毒。鉱山排水、工場排水や上水道の鉛管から溶出することがある。慢性中毒として脳障害や精神障害を引き起こす。
六価クロム	酸化力が強く、3価クロムの100倍も有害と言われている。慢性中毒、急性中毒ともに知られている。汚染源は、メッキ、皮なめし、精錬工場などである。
砒素	昔から知られた毒物であり、水中の砒素の汚染源は鉱山、銅精錬所、農薬医薬品工場などである。また、天然にも温泉水や地表水に高濃度で含まれていることがある。
総水銀	昔から知られた毒物であり、常温では唯一液状の金属で、銀白色の重い液体である。自然水中には含まれず、工場排水や農薬に由来する。また、食物連鎖により濃縮される危険なものである。
アルキル水銀	有機水銀の一つであり、神経をおかすことで知られる。水俣病の原因物質であった。各種のアルキル水銀のうちメチル水銀の慢性毒性が最も強く、エチル水銀はそれより1～3割毒性が弱いとされている。食物連鎖により濃縮されるため危険。通常の浄化処理では除去分解は困難である。主な発生源は、化学工場、乾電池製造業などである。
P C B	天然には全く存在しない合成有機塩素系化合物。化学的に不活性なために、分解が困難だが、耐熱、耐酸、耐アルカリ性で、電気絶縁性が高いなど、工業的には理想的なものとして、多くのものに使用されてきた。広範囲な環境汚染が注目され、生物濃縮を受ける性質を持っていることも加わって深刻な社会問題となった。汚濁源としては、感圧紙再生工場、ゴミ処理場、下水処理場がある。
ジクロロメタン	有機塩素系化合物の一種。エーテル様の臭気がある無色透明の液体で水に2%程度溶ける。揮発性が高いことから大部分は大気に揮散する。ジクロロメタンの水中での分解は遅い。麻酔作用及び中枢神経障害を起こす。発ガン性が懸念される。主に、塗料の剥離剤、プリント基盤洗浄剤等に使用されている。

項目	説明
四塩化炭素	有機塩素系化合物の一種。無色透明の液体で不燃性。蒸気圧が高く、大気に移行する割合が高い。水中での分解はゆっくりである。肝臓、腎臓障害や中枢神経障害を起こす。発ガン性が懸念される。
1, 2-ジクロロエタン	有機塩素系化合物の一種。無色透明の液体。環境への放出先は、大部分が大気であり、表層水及び地下水への直接的な流出は比較的小さい。肝臓、腎臓に障害を起こす。発ガン性が懸念される。主に、塩化ビニル等樹脂の原料、フィルム洗浄剤等に使用されている。地下水汚染が懸念される。
1, 1-ジクロロエチレン	有機塩素系化合物の一種。無色透明の液体。環境への侵入は、その製造過程及びポリマー製造の原料として使用される際に起こるものと考えられる。麻酔作用がある。主に、塩化ビニル等樹脂の原料、フィルム洗浄剤として使用される。
シス-1, 2-ジクロロエチレン	有機塩素系化合物の一種。無色透明の液体。生産や使用の過程に大気中に揮散し、また、排水とともに環境中に放出される。麻酔作用がある。トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等の有機塩素化合物から脱塩素化により生成する。
1, 1, 1-トリクロロエタン	有機塩素系化合物の一種。甘い臭いを持つ無色透明の液体で不燃性。揮発性が高く、水中へ放出されても表面から大気中へ揮散する。中枢神経への影響がある。
1, 1, 2-トリクロロエタン	有機塩素系化合物の一種。甘い臭いを持つ無色透明の液体で不燃性。使用の場から排水として環境へ放出される。揮発性が高く、水中から揮散して大気へ移行する。また、生物濃縮性、土壌吸着性、生分解性も低いいため一部は地下水に浸透し、地下水を汚染する。中枢神経への影響があり、1, 1, 1-トリクロロエタンより数倍作用が強いと言われる。発ガン性が懸念される。主に、塩化ビニリデン（1, 1-ジクロロエチレン）の原料として使用される。
トリクロロエチレン	有機塩素系化合物の一種。合成物質で天然には存在しない。無色透明の液体で不燃性。環境への侵入は、蒸気圧の高さのために、主に揮散して大気へ移行する。一方、比重が重く土壌吸着能が低いために地下水汚染を引き起こす。体内に蓄積して肝臓、腎臓障害や中枢神経障害を起こす。発ガン性が懸念される。主に金属洗浄に用いられる他、生ゴム、染料の溶剤等に使用され、工場排水などに含まれる。

項目	説明
テトラクロロエチレン	有機塩素系化合物の一種。合成物質で天然には存在しない。エーテル様の臭気がある無色透明の液体。蒸気圧が高いために環境中では、主に大気に移行し、また一部は地下浸透して地下水に達する。地表水に放出されたテトラクロロエチレンは、主に揮発によって水中から除かれる。肝臓、腎臓障害や中枢神経障害を起こす。発ガン性が懸念される。主にドライクリーニング剤として用いられる他、医薬品、香料、溶剤に使用される。地下水汚染の進行が懸念される。
1, 3 -ジクロロプロペン	農薬・有機塩素系化合物の一種。無色の刺激臭のある液体。土壌線虫専用の殺虫剤D-D剤有効成分である。環境への主な放出は、土壌くん蒸剤等の使用による。そのため土壌中に存在している。土壌中の生分解を受けるため、地下水から検出にくい。また、揮発性が高いため水中から速やかに揮発し、大気中に移行される。発ガン性が懸念される。地下水汚染の進行が懸念されている。
チウラム	農薬。無色の結晶の殺菌剤。種子消毒、茎葉散布剤として単用のほか他剤と混合し使用される。分解が速いため環境中での寿命は短いと考えられる。
シマジン	農薬。白色の結晶の畑地土壌処理剤。野菜、果樹、芝生に除草剤として用いられる。春秋の雑草発生前に散布。安定性が高い分、残留性が高い。
チオベンカルブ	農薬。無色の液体の土壌処理剤。水田除草剤として、用いられる雑草の発芽期ないし生育初期に散布する。
ベンゼン	揮発性有機化合物の一種。無色の液体で特有の臭いがある。水中でのベンゼンは、主として大気への蒸発によって除かれる。大気中では、太陽光下で光化学反応を受け消失する。発ガン性が懸念されている。また、白血病及び再生不良性貧血の要因となる。化学合成原料、溶剤等に用いられる他、ガソリン中に多く含まれる。
セレン	灰色の光沢のある固体で、自然界に広く存在するが、その濃度は地域的変動が大きい。用途としては、セラミックス、半導体、光電池、整流器等広く使用されている。また、セレンは生体必須元素であるが、過剰摂取による中毒症状を示す。
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	硝酸態窒素は多量に人体に摂取された場合、体内で亜硝酸態に還元されてメトヘモグロビン血症などの障害を起こすことも知られている。また亜硝酸態窒素は多量に人体に摂取された場合、血色素と反応して血液の酸素運搬能力を低下させるといわれている。

項目	説明
ふっ素	特異臭のある黄緑色気体で、通常フッ化水素酸またはその塩の形で使用されている。用途としては、ガラスの侵食作用を利用したガラスのつや消し、金属洗淨剤防腐剤等がある。飲料水からの長期的摂取による影響として、はん状歯の発生がある。
ほう素	黒色のかたい固体で、通常ほう砂やほう酸の形で使用されている。主な用途としては、金属精錬時の脱酸剤、中性子吸収剤、防腐消毒剤、ガラス、陶磁器、皮なめし等広く使用されている。ほう素による中毒症状は、胃腸障害、皮膚紅疹、抑うつ病を伴う中枢神経症等が一般にみられる。
1, 4 - ジオキサン	常圧常温において無色透明の液体で、抽出・精製・反応用溶剤として広く用いられている有機化合物である。弱いエーテル臭を有する。毒性については、国際がん研究機関（IARC）が「ヒトに対する発がん性の可能性あり（グループ2B）」としている。

参考資料9（3） 人の健康の保護に係る要監視項目の各水質項目の性質

項目	説明
イソキサチオン	主として柑橘類の農薬として使用されている。
ダイアジノン	主として稲、野菜、果樹の農薬として使用されている。人体に入ると、縮瞳・唾液分泌過多・頭痛・嘔吐・痙攣などの有機リン化合物共通の中毒症状が現れる。
フェニトロチオン（MEP）	主として農薬として使用され、淡黄色の液体である。有機リン系の殺虫剤で、人畜への毒性は低い農薬とされている。広範囲の害虫防除に使用されている。
イソプロチオラン	主として農薬として使用され、白色の固体である。稲のいもち病専用の殺菌剤として、水面施用、地上散布、空中散布で使用されている。
オキシ銅（有機銅）	主として農薬として使用され、黄緑色の固体である。殺菌剤で、果樹、野菜、花卉、芝草などの糸状菌病、及び細菌防除に広く使用されている。
クロロタロニル（TPN）	主として農薬として使用され、白色の固体である。殺菌剤で、広範囲の抗菌作用があり、園芸作物や、芝草の防除に使用されている。
プロピザミド	主として農薬として使用され、白色の固体である。芝やレタス用の除草剤で、イネ科及び広葉の一年生雑草に高い除草効果がある。
EPN	主として農薬として使用され、淡黄色の固体である。有機リン系殺虫剤として、広範囲の害虫に使用されている。以前は人の健康の保護に関する基準に定められていた項目の有機リン化合物の一つであったが、基準値の見直しにより要監視項目に移された。
ジクロルボス（DDVP）	主として農薬として使用され、淡黄色の液体である。有機リン系の殺虫剤として、広範囲の害虫に使用されている。地上散布、くん煙、くん蒸、エアゾル散布等の方法で使用されている。
フェノブカルブ（BPMC）	主として農薬として使用され、白色の固体である。カーバメイト系殺虫剤で、ウンカ、ヨコバイ類に有効である。主に稲や果実、野菜等に使用されている。
イプロベンホス（IBP）	主として農薬として使用され、淡黄色の液体である。有機リン系の殺菌剤で、稲のいもち病専用剤として使用されている。
クロルニトロフェン（CNP）	主として農薬として使用され、白色の固体である。低魚毒性の水田用除草剤として使用されている。

項目	説明
クロロホルム	揮発性有機塩素化合物の1つで、無色透明の液体である。フッ素樹脂の原料、溶剤、抽出剤等広い用途に使用されている。また、水道の浄水処理過程で消毒用の塩素と有機物質が反応し生成するトリハロメタンの成分の一つでもある。人体への影響としては、肝障害、腎障害、中枢神経障害がある。かつては麻酔剤として用いられていたが、その毒性のため現在は用いられていない。
トランス-1,2-ジクロロエチレン	化学式 $C_2H_2Cl_2$ で表される有機塩素化合物。1,2-DCEとも表記される。引火性と刺激臭のある無色の液体で、幾何異性体としてトランス型の他にシス型がある。
1,2-ジクロロプロパン	化学式 $C_3H_6Cl_2$ で表される有機塩素化合物。可燃性のある無色の液体で、クロロホルムのような匂いを持つ。土壌燻蒸剤や塗料剥離剤、溶剤、農薬などにも使用されたが、現在ではこれらの用途での使用はされていない。発がん性が指摘されている物質である。
p-ジクロロベンゼン	揮発性有機塩素化合物の1つで、無色透明の液体である。主な用途としては、防臭剤、衣服の防虫剤、化成品の原料等がある。人体への影響としては、粘膜刺激作用、中枢神経障害があると言われている。
トルエン	揮発性有機化合物の1つで、無色透明の液体である。様々な化成品の原料、塗料溶剤等に広く使用されている。人体への影響としては、中枢神経障害があり、頭痛、吐き気、錯乱等種々の症状が現れる。
キシレン	揮発性有機化合物の1つで、無色透明の液体である。様々な化成品の原料、塗料溶剤等に広く使用されている。人体への影響としては、中枢神経障害があり、頭痛、吐き気、錯乱等種々の症状が現れる。
フタル酸ジエチルヘキシル	無色の液体で、塩化ビニルの可塑剤として多用されている。
ニッケル	銀白色に輝く金属で、展延性に富んでいる。用途としては、ステンレス鋼等の合金、電気メッキ、バッテリー等に使用されている。生体必須元素であるが、暴露により接触性皮膚炎の原因にもなる。また、ニッケル工場での鼻腔がん、肺がんの発生率が高いことが確認されている。なお、植物にとってニッケルは有害元素で、銅とともに毒性の強い元素と言われている。
モリブデン	銀白色の金属で、自然界に比較的広く存在している。合金の製造原料、耐熱材、顔料、触媒等広い用途に使用されている。生体必須元素であるが、中毒症状として吸入によるじん肺症、慢性暴露による過尿酸血症や痛風が知られている。

項目	説明
アンチモン	銀白色の金属光沢を有する結晶で、自然界には金属、酸化物、硫化物として存在し、主な鉱石は輝安鉱（Sb ₂ S ₃ ）である。合金、半導体、塗料、ガラス工業等広い用途がある。人体への影響としては、皮膚炎、結膜炎、気管支炎、肺炎、心臓障害等が知られている。
塩化ビニルモノマー	別名クロロエチレン（CH ₂ =CHCl）とも呼ばれ、ポリ塩化ビニル樹脂の合成原料である。常温で、無色の気体。これを重合させたポリ塩化ビニル（ポリマー）またはその樹脂を塩化ビニル（塩ビ）と呼ぶ慣習があることから、混乱を避けるためにモノマーである塩化ビニルは塩化ビニルモノマーという名称で呼ばれることが多い。IARC（国際がん研究機関）は、「ヒトに対して発癌性がある（クラス1）」に評価している。
エピクロロヒドリン	分子式 C ₃ H ₅ Cl ₂ であらわされる有機化合物。酸化プロピレンのメチル基の水素原子1つを塩素に置換した構造をもつ。エポキシドとハロゲン化アルキルの両方の性質を示し、高い反応性をもつことから、様々な化学物質の原料とされる。毒物及び劇物取締法により劇物に指定されている
全マンガン	生物には必須元素の一種であるが、マンガンの製造、粉碎、マンガン塩類を製錬する時、マンガン鉱（褐石、MnO ₂ ）により中毒をおこすことがあり、慢性神経症（マンガン病）になることが知られている。
ウラン	天然放射性元素の1つで、同位体には質量数が234、235、238のものがある。天然ウランではこのうち約99%がウラン238、約1%がウラン235です。ウラン235は核分裂の際に生じるエネルギーが非常に大きく、存在比を3%程度に高めたものは原子炉の核燃料として用いられる。放射線障害とともに化学毒性も強く、粘膜の刺激による結膜炎、肺炎、胃炎、腎障害などが認められている。
ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS） 及びペルフルオロオクタン酸（PFOA）	PFOS及びPFOAは、独特の性質（水や油をはじく、熱に強い、薬品に強い、光を吸収しない等）を持ち、撥水剤、表面処理剤、乳化剤、消火剤、コーティング剤等に用いられてきた化学物質である。近年有害性や環境中で分解されにくく、高い蓄積性があることが明らかとなってきた。